

在外事業に必要な経費

支部

1. 京都支部

海外拠点

1. ローマ日本文化会館
2. ケルン日本文化会館
3. パリ日本文化会館
4. ソウル日本文化センター
5. 北京日本文化センター
6. ジャカルタ日本文化センター
7. バンコク日本文化センター
8. マニラ日本文化センター
9. クアラルンプール日本文化センター
10. ニューデリー日本文化センター
11. シドニー日本文化センター
12. トロント日本文化センター
13. ニューヨーク日本文化センター
14. ロサンゼルス日本文化センター
15. メキシコ日本文化センター
16. サンパウロ日本文化センター
17. ロンドン日本文化センター
18. マドリード日本文化センター
19. ブダペスト日本文化センター
20. モスクワ日本文化センター
21. カイロ日本文化センター
22. ベトナム日本文化交流センター

京都支部

京都支部

合計額 13,177,048 円

(1) 主催・共催事業

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	トラディショナル・シアター・トレーニング 2010	京都市	大江能楽堂	京都芸術センター	2010.08.10	日本の伝統芸能を象徴する能、狂言、日本舞踊の習得を志して京都を訪れる海外の演劇専門家、日本研究者や学生を対象に、京都芸術センターが毎年夏に行う日本の伝統芸能集中講座。3週間の集中的な稽古・指導を受けた参加者たちが成果を市民に披露する発表会を、国際交流基金京都支部が同センターと共催
2	国際交流のタベ — 能と狂言の会	京都市	京都観世会館	国際交流基金 関西国際センター	2010.12.14	京都を始めとする関西地域に滞在中の外国人（国際交流基金フェロー、関西国際センター研修生、海外からの留学生、各国総領事館員等）に日本の伝統文化にふれる機会を提供し、日本研究と日本文化理解の深化を図ることを目的として毎年開催。1974年から実施し、平成22年度で37回目。演目は、狂言／茂山千五郎（大蔵流）『素袍落』、能／片山清司（観世流：2011.01.01片山九郎右衛門襲名）『船弁慶』。財団法人片山家能楽・京舞保存財団、社団法人京都観世会の協力を得た

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
3	国際交流基金フェローによる講演会（第1回）	京都市	立命館大学明学館	立命館大学 国際関係学部	2010.06.15	関西地域に在住し、国際交流基金京都支部が受入れを担当する日本研究・知的交流フェローによる講演会を開催。立命館大学との連携事業。同大学国際関係学部の授業に組み込む形でフェローのマリーナ・コバルチューク (KOVALCHUK, Marina Konstantinovna：ロシア／平成21年度フェロー／極東総合国立大学東洋学大学日本学部准教授)の研究成果を発表。講演テーマ「日清戦争期のロシアの新聞における日本観の特徴」
4	国際交流基金フェローによる講演会（第2回）	京都市	立命館大学 心館	立命館大学 国際平和ミュージアム	2010.06.16	立命館大学国際平和ミュージアム主催、立命館大学法学部及び国際交流基金京都支部共催で、国際交流基金京都支部が受入れを担当する日本研究・知的交流フェローのラン・ツウィゲンバーグ (ZWIGENBERG, Ran：イスラエル／平成21年度フェロー／ニューヨーク市立大学大学院博士課程)の公開講座を開催。講演テーマ「記憶と戦争：イスラエルと日本における戦後史比較」

京都支部

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
5	国際交流基金フェローによる講演会 (第3回)	京都市	立命館大学明 学館	立命館大学国 際関係学部	2010. 06. 22	主に関西地域に在住し、国際交流基金京都支部が受入れを担当する日本研究・知的交流フェローによる講演会を開催。立命館大学との連携事業。立命館大学国際関係学部の授業に組込む形でフェローの C. アンドリュウ・ガーストル(GERSTLE, C. Andrew : 英国/平成21年度フェロー/ロンドン大学教授)の研究成果を発表。講演テーマ「海外で『日本文化』を研究すること」

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
6	日本映画上映会	京都市	京都市国際交 流会館イベン トホール	財団法人京都 市国際交流協 会	2010. 08. 26 ~ 2010. 11. 12	国際交流基金フェロー等外国人の研究者や留学生を対象に、日本文化紹介映画、日本劇映画、アニメを計9回にわたって上映。参加者の日本文化理解を深め、ひいては、彼らの自国における日本研究、日本語教育等の振興に寄与することを目的として実施。京都国際マンガミュージアムの広報協力を得た 文化映画： 『利休の茶』『和菓子：その美と心』（10. 08. 26） 『京都御所』『桂離宮』『修学院離宮』（10. 10. 21） 『絵巻』『鳥獣戯画』（10. 11. 10） 劇映画： 『日本の黒い夏－冤罪－』（10. 08. 27） 『東京物語』（10. 10. 22） アニメ： 『おこんじょうるり』（10. 08. 28） 『太陽の王子ホルスの大冒険』（10. 10. 23） 『おんぼろフィルム』『ジャンピング』『展覧会の絵』（10. 11. 11） 『火の鳥2772・愛のコスモゾーン』（10. 11. 12）
7	英語字幕付き日本劇映画上映会	京都市	京都府国際セ ンター会議室	財団法人京都 府国際セン ター	2010. 09. 11 ~ 2010. 11. 26	国際交流基金フェロー及び京都在住の外国人留学生を対象に英語字幕付きの日本映画の上映会を開催。日本文化理解の深化を図ることを目的に、『羅生門』（10. 09. 11）、『宗方姉妹』（10. 10. 08）、『古都』（10. 11. 26）の計3回実施
8	外国語字幕付き日本劇映画上映会	大阪市	大阪国際交流 センター	財団法人大阪 国際交流セン ター	2011. 01. 01 ~ 2011. 03. 31	大阪市との連携事業。大阪在住の外国人留学生や在大阪各国総領事館の外交官、外国籍市民等を対象に、日本文化理解の促進を目的に日本の劇映画を外国語字幕付きで上映。『菊次郎の夏』（11. 01. 21）、『ピリケン』（11. 02. 18）、『めがね』（11. 03. 18）を上映

京都支部

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
9	『国際交流基金（ジャパンファウンデーション）京都支部ニュースレター』の発行	2010.04.01 ～ 2011.03.31	京都支部の主要事業を紹介することを目的に、年4回発行。第4号（春）、第5号（夏）、第6号（秋）、第7号（冬）の各号を刊行

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
10	日本文化体験プログラム	京都市	龍村織物工房、京都市国際交流会館、有職菓子御調進所老松、月桂冠大倉記念館		2010.06.24 ～ 2010.10.27	国際交流基金フェロー等日本研究に取り組んでいる外国人が、日本文化を肌で感じることができる体験型プログラム。錦織物の工房訪問（龍村織物工房 8名：10.06.24）、和太鼓のレクチャーデモンストレーション（京都市国際交流会館イベントホール 27名：10.07.16）、和菓子の手作り体験（有職菓子御調進所老松 12名：10.10.14）や酒造りの工程見学（月桂冠大倉記念館 13名：10.10.27）など、京都ならではの伝統文化を実体験する機会を提供。龍村織物工房、株式会社太鼓センター、財団法人京都市国際交流協会、有職菓子御調進所老松、月桂冠大倉記念館の協力を得て実施
11	フェローの集い	京都市	京都市国際交流会館特別会議室	財団法人京都市国際交流協会	2011.03.04	京都をはじめ、関西、西日本地域で研究を行っている国際交流基金フェローが家族も含めて交流し、ネットワークを築く場を提供するための茶話会形式の懇談会を開催。フェローに限定せず、指導教官、フェロー受入れ機関等の関係者の参加も得て、交流の輪を広げることもめざした事業

（2）助成・協力事業

【後援事業】

	事業名	主催機関	期間	事業内容
12	国際児童版画交流展2010・ポーランドと日本	版画京都展実行委員会	2010.06.08 ～ 2010.06.13	2000年発足の版画京都展実行委員会主催による、ポーランドと日本の児童の版画交流展に対して国際交流基金京都支部の後援名義を付与して支援。版画芸術への社会的理解をさらに広げると共に、作家のみならず、児童をも加えた国際親善を目的に実施。両国の児童（4～18才）の版画作品100点を京都市国際交流会館2階展示室にて展示
13	リン・デリック「パラレル・パースペクティヴ」	特定非営利活動法人京都藝際交流協会	2010.07.16 ～ 2010.07.31	「神戸ビエンナーレ2009」の参加作家であるリン・デリック（DERRICK, Lyn：アーティスト／オーストラリア）日本初の個展。立体作品及び平面作品20点を展示。オーストラリア東海岸の環境と作家の現地での生活を表現した作品を紹介する展覧会に対して国際交流基金京都支部の後援名義を付与して支援

京都支部

	事業名	主催機関	期間	事業内容
14	Younger Artist 10th	特定非営利活動法人京都藝文化交流協会	2010. 08. 03 ～ 2010. 08. 29	関西に在る芸術系及び芸術コースを有する大学に在籍する、芸術創作活動を自己の生きる志にしようと望む学生たち9名（ヤンガーアーティスト）が自主的に企画実行する連合展に対して国際交流基金京都支部の後援名義を付与して支援。参加大学は京都市立芸術大学等4大学。2010年が第10回目の開催
15	第62回毎日書道展関西展「国際交流デー」	財団法人毎日書道会関西支部	2010. 08. 07	日本を代表する書家の作品や関西の入賞・入選作品2,200点を展示する第62回毎日書道展関西展（10. 08. 04～08. 08京都市美術館で開催）において、8月7日に外国人を対象に、日本の伝統文化の一つである「書」を理解してもらうことを目的に作品解説及びワークショップを実施。同事業に対して国際交流基金京都支部の後援名義を付与して支援
16	平成22年度NPO等との協働事業「クロアチア理解講座」	財団法人京都府国際センター	2010. 10. 10	近年旅行先として注目され始めたクロアチアについて、現状同国について日本では情報が少ないことから、文化人類学的視点から日本社会を調査研究しているイザ・カヴェジヤ（KAVEDZIJA, Iza：クロアチア／平成21年度国際交流基金フェロー／大阪大学博士課程）を講師に招き、クロアチアの現状を知り、より国際理解を深めるための講演会（講演テーマ「クロアチアの暮らし・日本の印象」）に対して、国際交流基金京都支部の後援名義を付与して支援
17	舞鶴国際芸術祭2011プレイベント	舞鶴国際芸術祭実行委員会	2010. 10. 10 ～ 2010. 10. 24	舞鶴北吸地区の国の重要文化財、赤煉瓦倉庫郡一帯、市内各地の景勝地などにアート展示会場を設置して、日本の作家に加え北東アジアの沿岸諸国出身作家等が参加する世界的芸術祭、舞鶴国際芸術祭2011のプレイベント。国際親善交流の促進と芸術文化の振興発展に寄与することを目的に実施する事業に対し国際交流基金京都支部の後援名義を付与して支援
18	平成22年度京都国際文化協会エッセーコンテスト 《私の見た日本》	財団法人京都国際文化協会	2010. 11. 06	日本在住の日本語を母語としない人々から、日本やその文化、社会、習慣、人々との交流などについて、自らの文化との対比、あるいは経験に基づいたエッセーを、国際交流団体や大学、専門学校を通じて全国より募集。日本語の部18人、英語の部25人の応募あり。優秀作品の作者6名を京都に招き登壇発表とフォーラムを行って表彰し、一般参加者との交流を深めることを目的に実施。同事業に対し、国際交流基金京都支部の後援名義を付与して支援。入賞者は、ANTONELLI, Paola(イタリア)、LEE, Suji(韓国)、WANG, Jing(中国)
19	国際情勢講演会「日本の外交政策におけるロシアの意義」	財団法人京都府国際センター	2010. 11. 20	地域の国際化を巡る諸課題や海外事情、海外文化を知る機会が十分でない京都府北部において、世界情勢や国際関係についての講演会を開催することで、地域の国際化の促進と次代の国際社会を担う人材の育成を図ることを目的に実施する事業に対し国際交流基金京都支部の後援名義を付与して支援 講師：谷内正太郎（元外務事務次官） 対談：木村汎（北海道大学名誉教授／国際日本文化センター名誉教授） コーディネーター：須藤真志（京都産業大学名誉教授）

京都支部

	事業名	主催機関	期間	事業内容
20	第26回毎日現代書関西代表作家展「国際交流デー」	財団法人毎日書道会関西支部	2011.01.13 ～ 2011.01.18	1986年創設、今回で第26回目の展示会。関西における書芸術の創造の場として、また新春を飾る書道展として発展。国内で最大規模を誇る「毎日書道展」で活躍する関西の代表的な書作家の力作294点と、毎日書道会顧問等の賛助作品24点を展示、書道振興に資する。開催期間中の1月15日を「国際交流デー」とし、外国人を対象に作品の解説を行い、また書道体験を通して国際交流を図ることを目的に実施する事業に対し国際交流基金京都支部の後援名義を付与して支援
21	書と非書の際展 Part : 8	特定非営利活動法人京都藝際交流協会	2011.02.04 ～ 2011.02.13	現代の書芸術を「書とは何なのか」「書と文字はどう関わるのか」「書家と画家の線・点はどう違うのか」等々、展覧会・シンポジウムを通して検証することを目的に2003年から企画開催。「書」と「非書」の際を探る中に新しい芸術誕生のヒントがひそんでいるのではないかと趣旨のもと、日本、中国、アイルランド、英国、フランスと東洋、西洋の視点から作家による検証・ワークショップを実施する事業に対し国際交流基金京都支部の後援名義を付与して支援 11.01.15から01.30にまいづる知恵蔵（舞鶴市）にて開催された展覧会の巡回展
22	国際理解講座「魅惑のフランス」	財団法人京都府国際センター	2011.02.12 ～ 2011.03.05	国際化に関する分野の第一線で活躍している研究者や専門家などを招き、最新の世界情勢や地域の国際化等に関わる問題について分かり易く解説することを目的に実施する講演会に対し、国際交流基金京都支部の後援名義を付与して支援 ①「＜外交と文化＞日本の将来をになうソフトパワー」 (11.02.12) 講師：渡邊啓貴（東京外国語大学大学院教授） ②「フランスにおける日本・京都の魅力」(11.02.19) 講師：ジャン＝マリ・ブイソー（BOUISSOU, Jean-Marie : パリ政治学院国際関係研究センター研究ディレクター） ③「京都の伝統産業はフランスに受け入れられるのか？」 (11.02.26) 講師：村山裕三（同志社大学大学院教授） ④「ミシュランガイドの目指すもの」(11.03.05) 講師：森田哲史（日本ミシュランタイヤ社長室長） ⑤「フランスにおける日本料理の普及」(11.03.05) 講師：高橋拓児（日本料理アカデミー海外事業委員会副委員長）

海外拠点

ローマ日本文化会館

合計額 93,419,059 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	陶器・ガラス展	ローマ	ローマ日本文化会館	伊日財団	2010.03.15 ~ 2010.04.17	イタリア在住の日本人アーティスト2人展。ローマにて絵付け教室を運営する齋イコ (ITSUKI, Iko) の陶器作品と、ミラノを基点に数々の展覧会を開催している大木泉 (ガラス作家) の作品を展示
2	杭谷一東展	ローマ	ローマ日本文化会館	ローマ市	2010.05.25 ~ 2010.05.29	ローマ市が主催するイベント <i>Roma - The Road to Contemporary Art</i> にて、同時開催される、各国アカデミー・文化機関によるローマ現代美術展 <i>Accademie in Festa</i> への参加。フェスティバルの一会場として、ローマ日本文化会館で杭谷一東の大理石彫刻2作品を展示
3	ヴェネチア・ビエンナーレ建築関連展 <i>Uno Sguardo al Padiglione Giapponese</i>	ローマ	ローマ日本文化会館		2010.11.22 ~ 2010.12.28	第12回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展日本館の展示を、主に展示風景を写した写真パネル及び展示の際に用いた映像等により再現した展覧会を開催
4	GIAPPONE900 第一部(版画)	ローマ	ローマ日本文化会館		2011.01.21 ~ 2011.02.23	ローマ日本文化会館所蔵作品展を2部に分けて実施。第一部では棟方志功や草間弥生、李禹煥 (Lee U-Fan) などの版画作品26点を展示し、日本美術史において重要な役割を演じてきた作家の作品を紹介
	GIAPPONE900 第二部(陶器・絵画・その他)	ローマ	ローマ日本文化会館		2011.03.14 ~ 2011.05.02	ローマ日本文化会館所蔵作品展を2部に分けて実施。第二部では前田青邨や山口蓬春の日本画の大作から、加藤土師萌の陶芸の小品に至るまで、洋画、日本画、工芸の別を問わず日本美術史において重要な役割を演じてきた作家の作品を紹介

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
5	上妻宏光・塩谷哲AGA-SHIOコンサート	ローマ	ローマ日本文化会館		2010.05.31	日本を代表する若手三味線奏者の上妻宏光と実力派のピアニスト塩谷哲によるユニットAGA-SHIOのコンサートを開催。国際交流基金本部「公演(助成・海外公演[舞台芸術])」プログラムによる欧州巡回公演の一環として実施
6	牧野由依コンサート	ローマ	ライブハウス スタツィオーネ・ビッラ (Stazione Birra)	ROMICS	2010.06.19	アニメ界で声優、歌手として活躍する牧野由依のコンサートを開催。国際交流基金本部「公演(助成・海外公演[舞台芸術])」プログラムによりパリ日本文化会館と共同でアーティストを招へい。ローマでのコンサートはローマのアニメ・マンガイベント団体であるROMICSと共同で開催

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
7	サルガヴォ (Salle Gaveau) 公演	ローマ	カーザ・デル・ジャズ (Casa del Jazz)	ローマ音楽財団 ローマ市	2010. 10. 05	プログレやジャズ、タンゴなど幅広い音楽を紡ぎ出すサルガヴォ (Salle Gaveau) は、リーダーである鬼怒無月 (ギター) を筆頭に、喜多直毅 (ヴァイオリン)、林正樹 (ピアノ)、佐藤芳明 (アコーディオン)、鳥越啓介 (ベース) で構成されるクインテット。2008年夏にCasa del Jazzにて公演を行なった彼らが、ヨーロッパツアーで再びローマで公演 (国際交流基金本部「公演 (助成・海外公演 [舞台芸術])」プログラムによる事業)
8	琵琶公演	ローマ	ローマ日本文化会館		2010. 10. 12	中村鶴城 (琵琶演奏家) による公演。古典のみならず作詞・作曲も積極的に行い、悲劇語りに偏向してきた弾き語りの世界に新しい題材を求める同氏の今回の公演では、古典曲『壇の浦』及び自らが作詞・作曲した『アッシジの聖フランチェスコ』を演奏。また会場で琵琶の解説と質疑応答を実施

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
9	アドリアーナ・ボスカロ教授退官記念出版シンポジウム	ヴェネチア ローマ	ヴェネチア大学「カ・フォスカリ」 Università “Ca’ Foscari” di Venezia ローマ大学「サピエンツァ」 “Sapienza” Università di Roma	ヴェネチア大学「カ・フォスカリ」 Università “Ca’ Foscari” di Venezia ローマ大学「サピエンツァ」 “Sapienza” Università di Roma	2010. 05. 13 2010. 06. 17	イタリアにおける日本研究の第一人者、アドリアーナ・ボスカロ (BOSCARO, Adriana: 元ヴェネチア大学教授) の退官記念として出版された2冊の本の記念シンポジウム。 『日出る国、日本に関する論文 (Un’isola in levante. Saggi sul Giappone in onore di Adriana Boscaro)』 『偉大なる老人と偉大なる伝統—谷崎潤一郎に関するエッセイ (The Grand Old Man and the Great Tradition. Essays on Tanizaki Jun’ichiro in Honor of Adriana Boscaro)』 ヴェネチアとローマの2都市で実施
10	歌舞伎レクチャー・デモンストレーション	ローマ	ローマ日本文化会館	松竹株式会社	2010. 06. 17	松竹大歌舞伎ローマ公演 (10. 06. 21~22) で女形を演じる中村芝雀による歌舞伎に関する講演を、公演に先立ち実施。歌舞伎全般の解説に加え、鳴物・長唄の実演、同氏の門人による腰元への変化過程のデモンストレーション (化粧・着付け・髪付け) を披露
11	近代日本工芸 1900~1930	ローマ	ローマ日本文化会館		2010. 11. 19	松原龍一 (京都国立近代美術館主任研究員) を講師に迎え、欧州美術界の潮流の影響を大きく受けつつ発展した20世紀初頭の日本工芸の諸相を紹介する講演会を実施。パリ日本文化会館の展示並びにシンポジウムの関連事業
12	妹島和世建築講演会	ローマ	ローマ日本文化会館		2010. 11. 22	第12回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展に日本人として、また女性初の総合ディレクターに就任した妹島和世 (SANAA) を講師に迎え、同氏のプロジェクトを豊富な写真を交えながら紹介

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
13	ビデオアート講演会	ローマ	ローマ日本文化会館	現代美術国際センター “Sala 1”	2010. 12. 06	ローマの現代美術国際センターSala 1が開催するビデオアート展VIDEOZOOM: JAPANの関連講演会。展覧会キュレーターである近藤健一（森美術館アシエイト・キュレーター）が、日本のビデオアートシーンを解説

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
14	新着映画上映会	ローマ	ローマ日本文化会館		2010. 04. 13 ~ 2010. 05. 11	ローマ・フィルムライブラリーに平成21年度購入分として購送された3作品『ALWAYS 続・三丁目の夕日』『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』『河童のクゥと夏休み』及び既存の所蔵作品『ALWAYS 三丁目の夕日』の計4作品を上映
15	「イゾラ・デル・ジャッポーネ」映画上映会	ローマ	ローマ市内ティベリーナ島特設会場	イゾラ・デル・チネマ ローマ市 在イタリア大使館 日本食レストラン海外普及推進機構（JRO）	2010. 07. 06 ~ 2010. 07. 07	在イタリア大使館、イゾラ・デル・チネマ、ローマ市、ローマ日本文化会館ほかの共催により、ローマ市内中心部のティベリーナ島で日本紹介イベント「イゾラ・デル・ジャッポーネ」を実施。2日間にわたり、夏木マリ率いるバンド「ジビエ・ドゥ・マリ」コンサート、鹿児島伝統舞踊、オペラ『夕鶴』コンサート、映画上映等を実施。ローマ日本文化会館は映画を担当し、『ディア・ドクター』、『サマーウォーズ』の2作品を上映
16	「Nihon Eiga - 日本映画史 1970～2010」開幕映会上映会	ローマ	ローマ日本文化会館	国境なき映画（Cinema Senza Frontiere）	2010. 10. 14	映画愛好者団体「国境なき映画」（Cinema Senza Frontiere）による日本映画回顧企画の開幕映会上映会をローマ日本文化会館で実施。今村昌平（映画監督）の2作品を上映。『につぼん戦後史 マダムおんぼろの生活』（イタリア国営テレビ提供）、『ええじゃないか』（ローマ日本文化会館フィルムライブラリー所蔵）。全体の上映企画は2010年10月から2011年6月まで、24作品をローマ市内シネクラブにて上映
17	シネマ歌舞伎映会上映会	ローマ	ローマ日本文化会館	ローマ国際映画祭 一般社団法人 ジャパン・イメージ・カウンセシル	2010. 11. 03 ~ 2010. 11. 04	ローマ国際映画祭の一環として、松竹株式会社製作のシネマ歌舞伎作品より、『京鹿子娘二人道成寺』『連獅子』の2作品をローマ日本文化会館にて上映。上映前には、ボナヴェントゥーラ・ルペルティ（RUPERTI, Bonaventura: ヴェネチア大学教授）による作品解説も実施
18	『おくりびと』映会上映会	ローマ	ローマ日本文化会館	トーキョーエヴィチーナ（Tokyoèvicina）	2011. 02. 15	2009年アカデミー賞外国映画部門賞、同年ウディネ・フェアーイースト映画祭観客賞受賞の『おくりびと』（滝田洋二郎）を上映。ローマを拠点に日伊文化交流促進を目的として発足した文化団体「トーキョーエヴィチーナ（Tokyoèvicina）」の創設記念プロジェクト

海外拠点

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
19	図書館運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	<p>イタリアの日本研究図書館及びインフォメーション・センターとしての役割を担う。日本文学、演劇、社会科学、歴史などの分野を中心とした、大学講座関係の洋書の収集に重点を置き、一般和書については、最新の日本文学の潮流や社会事情を知ることのできる書籍の充実を目指した。インフォメーション・センターとしては、辞書・事典・辞典・人名録・各種年鑑や団体便覧等の参考資料の収集と同時に、有料データベースやCD-ROM、インターネットなどの検索ツールの積極的な活用を目指した</p> <p>①蔵書資料合計： 35,767点 (内訳：日本語20,534冊、外国語13,498冊、視聴覚資料1,735点)</p> <p>②利用者数(年間)： 4,546名 ③貸出点数(年間)： 2,673点 ④レファレンス件数(年間)： 717件</p>

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
20	ウェブサイト運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	<p>ローマ日本文化会館のウェブサイトを運営</p> <p>URL: http://www.jfroma.it/ アクセス件数(年間)：92,470件</p>
21	事業案内	2010.04.01 ~ 2011.03.31	<p>ローマ日本文化会館の事業紹介リーフレット(事業案内)を年3回発行 発行部数：約3,800部</p>
22	年報出版	2010.04.01 ~ 2011.03.31	<p>平成21年度のローマ日本文化会館事業を総括する年報 <i>Notiziario 2010</i> を作成 発行部数：800部</p>

【本部事業受入】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
23	くまもとアートポリス展	ローマ	ローマ日本文化会館		2010.05.18 ~ 2010.07.02	<p>1988年から現在に至るまで、新しい建築のコンセプトによる街づくり「くまもとアートポリス」事業を行ってきた熊本県。本展ではその代表作品を紹介すると共に、文化・建築による地域活性化、地域開発等の観点からも事業を紹介。 (国際交流基金本部「海外展(巡回展)」プログラムによる事業)</p>

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
24	キャラクター大国、ニッポン展	ローマ	ローマ日本文化会館		2010. 09. 27 ~ 2010. 11. 06	近年、世界規模で注目を集めている日本のアニメやマンガを中心としたサブカルチャーをとりあげ、「日本人とキャラクター」をテーマに、これまで日本社会でブームを引き起こした国民的キャラクターを画像やパネルで展示。それらキャラクターが日本社会に与えた影響を検証するとともに、キャラクターの世界を幅広く紹介。(国際交流基金本部「海外展(巡回展)」プログラムによる事業)
25	木村威夫関連映画特集	ローマ	ローマ日本文化会館		2010. 10. 19 ~ 2010. 12. 07	2010年3月に逝去した木村威夫(映画監督/美術監督)が携わった映画のうち、『雁』、『ツイゴイネルワイゼン』など8作品を回顧上映し、日本の映画美術を支えた第一人者の業績を紹介。(国際交流基金本部「海外日本映画祭(主催)」プログラムによる事業)
26	増村保造監督特集	ローマ	ローマ日本文化会館		2011. 01. 18 ~ 2011. 03. 10	ユニークな作風により戦後日本映画に独自の軌跡を残した増村保造(映画監督)の作品を計14作品上映。当初18作品上映予定のところ、東日本大震災の発生を受け切上げて終了。(国際交流基金本部「海外日本映画祭(主催)」プログラムによる事業)

(2) 助成・協力事業

【後援事業】

	事業名	主催機関	期間	事業内容
27	写真展「瑞巖寺 禅僧の生活」	ローマ国立東洋美術館 (Museo Nazionale d'Arte Orientale "G. Tucci" di Roma)	2010. 04. 11 ~ 2010. 05. 09	ファビオ・マッシモ・フィオラヴァンティ (FIORAVANTI, Fabio Massimo: 写真家) による国宝瑞巖寺(宮城松島)の写真展をローマ国立東洋美術館で開催する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
28	コンサート「春の調べ」	文化協会「御飯」(Gohan)	2010. 04. 16 ~ 2010. 04. 17	日本とイタリアの合唱団によるジョイントコンサートを北部2都市(ティエーネ、ヴィチエンツァ)で開催する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
29	小寺真知子作品展	ヴェナンツォ・クロチェッティ財団 (Fondazione Venanzo Crocetti)	2010. 04. 22 ~ 2010. 05. 23	小寺真知子(彫刻家)の作品展をローマで開催する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
30	味覚の美学 和の芸術	伊日財団 (Fondazione Italia-Giappone)	2010. 04. 24 ~ 2010. 05. 02	写真や見本展示等を通じて日本の食文化を紹介する展覧会に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
31	山中千尋トリオ公演	MBマネージメント、フリーフロムジャズ・プロダクション (MB Management, FreefromJazz Production)	2010. 04. 29	山中千尋(ジャズピアニスト)率いるトリオのローマ公演に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
32	東海メールクワイアー公演	東海メールクワイアー (Tokai Male Choir)	2010. 05. 02	東海メールクワイアーによる合唱公演を聖チェチリア音楽院ホール (Conservatorio di Santa Cecilia) で実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与

海外拠点

	事業名	主催機関	期間	事業内容
33	日本のアーティスト3日間	チマミュージック・アルテドゥ カツィオーネ (CIMAMUSIC ARTEUCAZIONE)	2010.05.14 ~ 2010.05.16	日本のアーティストによる展示、公演のほか、盆栽、折り紙、居合等のデモンストレーションをカステルヌオーヴォ・ディ・ポルトにて実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
34	野点	文化協会 Ars Sculptoris、 文化協会「泉」	2010.05.23	カッラーラにおいて野点を実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
35	『AOI』公演	演劇学校「ペルミ・ドゥ・コン デュイール (Permis de Conduire)」	2010.05.25 ~ 2010.05.30	川村毅 (劇作家、演出家) による戯曲『AOI』の公演をローマで実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
36	『海辺のカフカ』公演	アルセナーレ劇場 (Teatro Arsenale)	2010.06.15 ~ 2010.06.27	村上春樹の小説『海辺のカフカ』の舞台化公演 (井田邦明演出) を文化協会アルセナーレ劇場 (Teatro Arsenale) がミラノの同名劇場で実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
37	第14回「生きている彫刻」国際シンポジウム	文化芸術協会アルトラルテ (altrArte)	2010.06.19 ~ 2010.06.26	サン・ベネデット・デル・トロントで開催される国際彫刻シンポジウムに秋山信茂など日本の彫刻家5名が参加する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
38	松竹大歌舞伎ローマ公演	松竹株式会社	2010.06.21 ~ 2010.06.22	十一代目市川海老蔵主演の『義経千本桜』公演をローマで実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
39	写真展「瑞巖寺 禅僧の生活」	キオッソーネ東洋美術館 (Museo d'Arte Orientale "Edoardo Chiossone")	2010.06.23 ~ 2010.10.31	ファビオ・マッシモ・フィオラヴァンティ (FIORAVANTI, Fabio Massio: 写真家) による瑞巖寺の写真展をジェノヴァで開催する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
40	吾妻兼治郎展	文化団体「ラ・スカレッタ」 (La Scaletta)	2010.06.26 ~ 2010.10.02	イタリアを拠点に長年活動を続ける吾妻兼治郎 (彫刻家) の作品展をマテーラで開催する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
41	ジャパン・フェスティバル	サン・ベネデット・デル・トロ ント市 (Comune di San Benedetto del Tronto)	2010.07.07	サン・ベネデット・デル・トロント市において日本祭りを実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
42	第3回国際盆栽会議	ゲンメ市 (Comune di Ghemme)	2010.09.03 ~ 2010.09.05	ゲンメ市において「第3回国際盆栽会議」を開催する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
43	第9回盆栽・水石国際大会	クレスピ・ボンサイ (Crespi Bonsai)	2010.09.10 ~ 2010.09.19	パラビアゴ市において、椎野健太郎 (盆栽作家) など日本からの専門家も招へいし盆栽及び水石の国際会合を開催する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与

海外拠点

	事業名	主催機関	期間	事業内容
44	森山大道 世界のヴィジョン	モデナ貯蓄銀行財団 (Fondazione Cassa di Risparmio di Modena)	2010. 09. 17 ~ 2010. 11. 14	森山大道 (写真家) の作品展をモデナにて開催する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
45	邦楽合奏団「華組」公演	文化協会「御飯」 (Gohan)	2010. 09. 18	ヴィチェンツァの市立劇場において、箏や尺八、三味線等で編成される邦楽合奏団が日本の伝統音楽を紹介するコンサートを開催する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
46	<i>Aetas Aurea</i> — 神話と舞踊	ナポリ国立考古学博物館 (Museo Archeologico Nazionale di Napoli)	2010. 09. 25 ~ 2010. 09. 26	笠井叡 (舞踏家) によるダンスパフォーマンスをナポリ国立考古学博物館にて実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
47	十月日本祭	イタリア・アフリカ東洋研究所 エミリア・ロマーニャ支部 (Istituto Italiano per l'Africa e l'Oriente - Sezione Emilia Romagna)	2010. 09. 25 ~ 2010. 11. 05	ラヴェンナ及びサンマリノにおいて、映画上映、展示、日本食紹介、武道デモンストレーション等の日本祭りを実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
48	<i>Nihon Eiga</i> — 日本映画史 1970~2010	文化協会「国境なき映画」 (Cinema Senza Frontiere)	2010. 10. 14 ~ 2011. 06. 22	70年代から近年までの日本映画25本を特集上映。オープニング上映会をローマ日本文化会館にて実施したほか、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
49	三遊亭竜楽 落語口演	ミラノ国立大学言語文化センター (Polo di mediazione linguistica e culturale dell'Università di Milano) 文化協会「いろは」 (Iroha)	2010. 10. 25 ~ 2010. 10. 27	三遊亭竜楽による落語口演をミラノ及びフィレンツェで開催する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
50	日本映画への招待	ローマ大学「サピエンツァ」東 洋学部 (Facoltà di Studi Orientali della "Sapienza" Università di Roma)	2010. 10. 29 ~ 2010. 10. 30	ローマ国際映画祭の関連事業として、「日本映画への招待」と題した会議を開催する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
51	「 <i>Ningyo</i> 日本人形」展	楊心流	2010. 11. 13 ~ 2010. 12. 19	トリノにおいて伝統日本人形展を実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
52	奈良時代研究会議	ミラノ・ピッコカ大学 (Università degli Studi di Milano - Bicocca)	2010. 11. 26	奈良遷都1300年を記念し、奈良時代をテーマとした学術会議を開催する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
53	第4回シチリア日本祭	シチリア・ジャッポーネ文化協会 (Associazione Culturale Sicilia Giappone)	2010. 11. 26 ~ 2010. 11. 28	生け花、書道、茶道、着付け等のデモンストレーションを含む日本祭りを開催する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与

海外拠点

	事業名	主催機関	期間	事業内容
54	合気道の教育プロセス：メカニズムと可能性	イタリア合気会 (Aikikai d' Italia)	2010. 11. 27 ~ 2010. 11. 28	児童を対象とする合気道指導者の養成に関する会議をローマにて開催する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
55	精神と記号：宗教と倫理の極東書道	文化協会「書道プリント」 (Shodo. it)	2010. 11. 30 ~ 2010. 12. 06	書道に関する展示、デモンストレーション、講演等をランプニャーノにて実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
56	レヴィ=ストロース日本講演集(Lezioni giapponesi) 出版発表	モリーゼ大学 (Università degli Studi di Molise)	2010. 12. 14	クロード・レヴィ=ストロース(社会人類学者、民族学者)が日本で行った講演集のイタリア語版出版発表会をカンボパツにて実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
57	クリスマス 歌の魔法	文化協会「イル・コッレ・イン・カンタート」 (Il colle incantato)	2010. 12. 18	日本とイタリアの伝統的な唱歌の公演に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
58	レヴィ=ストロース日本講演集(Lezioni giapponesi) 出版発表	モリーゼ大学 (Università degli Studi di Molise)	2011. 02. 25	クロード・レヴィ=ストロース(社会人類学者、民俗学者)が日本で行った講演集のイタリア語版出版発表会をローマにて実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
59	君こそ日本 雛祭り2011	文化協会「いろは」 (Iroha)	2011. 03. 03 ~ 2011. 03. 06	日本舞踊等のデモンストレーション、ワークショップ、日本の伝統家屋に関する講演などを雛祭りにちなみフィレンツェで開催する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
60	春の風 ヴィチェンツァの日本	文化協会「御飯」 (Gohan)	2011. 03. 18 ~ 2011. 03. 27	展示、公演、日本食紹介などの日本祭りをヴィチェンツァで実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
61	イタリアー日本 友情のコンサート	エムセック・インターナショナル (MCEC International)	2011. 03. 21	全日本選抜吹奏楽団「水のいのち」合唱団の公演をローマで実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与
62	日本とメディア報道	ミラノ国立大学現代言語文化学部 (Dipartimento di Lingue e Culture Contemporanee dell' Università degli Studi di Milano)	2011. 03. 31	東日本大震災に見舞われた日本の状況について、コラード・モルテーニ (MOLTENI, Corrado: ミラノ大学教授) など日伊計8名の研究者らによる講演・発表を実施する事業に対し、ローマ日本文化会館の後援名義を付与

【会場提供】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
63	俳句賞授賞式	イタリア俳句友の会 (Associazione Amici dell' Haiku) エンピリア出版 (Edizioni Empiria)	2010. 05. 28	イタリア俳句友の会 (Associazione Italiana Amici dell' Haiku) による第24回俳句賞授賞式に会場提供して協力。小・中学校からの団体表彰と個人表彰の2部構成。株式会社日本航空 (JAL) 協賛

海外拠点

【文化備品・視聴覚資料貸出】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
64	フィルムフェスティバル <i>Identità</i>	非営利団体Learn To Be Free	2010. 07. 08	ベルチエート、パルマ、ローマで開催されるフィルムフェスティバル <i>Identità</i> において、ローマ日本文化会館所蔵の歌舞伎ドキュメンタリー作品を上映
65	第3千年紀の舞踊	アルテミス・ダンス (Artemis Danza)	2010. 12. 03 ~ 2010. 12. 11	「ありがとう！日本」と題し、ダンスパフォーマンスを中心に写真展、ビデオ上映などをパルマで開催。ローマ日本文化会館所蔵写真セット「大和の大仏」を展示

【その他】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
66	伊日研究学会 (AISTUGIA) 年次総会への協力	伊日研究学会 (Associazione Italiana per gli Studi Giapponesi : AISTUGIA)	2010. 09. 16 ~ 2010. 09. 18	イタリア唯一の日本研究学会である伊日研究学会 (AISTUGIA) の年次総会に対して、ローマ日本文化会館は学会開催経費の一部を負担して協力。真銅政宏 (近代日本文学：同志社大学文学部教授) が基調講演を、イタリアの主要日本研究者が発表を行った

海外拠点

ケルン日本文化会館

合計額 96,252,602 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	細江英公写真展「記憶の劇場」	ケルン	ケルン日本文化会館	エプソン・ドイツ (Epson Deutschland) エプソン・ヨーロッパ (Epson Europe) スタジオ・エキス (Studio Equis)	2010.03.19 ~ 2010.05.22	戦後の日本写真界を代表する写真家、細江英公の作品のうち「舞踏」に焦点を当てた3つのシリーズ、「鎌鼬 (かまいたち)」「胡蝶の夢」「春本・浮世絵うつし」をドイツで初めてまとめて紹介。日系企業との連携事業として、エプソン社のデジタル技術を活用したニュープリントを制作
2	水野克比古写真展「京都の庭園 — 四季のうつろい」1	パート・デュルクハイム	カトワール文化センター (Kulturzentrum Haus Catoir)	パート・デュルクハイム市 (Stadt Bad Duerkheim) ライン・ネッカー独日協会 (Deutsch-Japanische Gesellschaft Rhein-Neckar)	2010.04.11 ~ 2010.04.30	ケルン日本文化会館所蔵写真パネル『京都の庭園』の展覧会を開催。ラインラント・プファルツ州の小都市において開かれた「日本週間」事業の中心的事業のひとつとして実施
3	水野克比古写真展「京都の庭園 — 四季のうつろい」2	ザンクト・アウグスティン	ボン・ライン・ジーク高等専門学校 (Fachhochschule Bonn-Rhein-Sieg)	ジークブルク独日協会 (Deutsch-Japanische Gesellschaft Siegburg)	2010.05.18 ~ 2010.06.19	ケルン日本文化会館所蔵写真パネル『京都の庭園』の展覧会を開催。日本文化が紹介される機会が少ないラインラントの小都市において、日本の魅力を紹介
4	日独美術対話展「アンドレア・ヴェーバーと斉藤麗 — Somewhere déjà in Ponutschland」	ケルン	ケルン日本文化会館		2010.06.18 ~ 2010.07.30	日独の対話の促進を目指し、公募によって選ばれた両国の若手アーティストが共通のテーマで二人展を年2回開催。第1回目として、アンドレア・ヴェーバー (WEBER, Andrea: フランス在住ドイツ人作家) と斉藤麗 (オランダ在住日本人作家) の写真とインスタレーションを展示。どこかにありそうで存在しない不思議な場所を表現
5	水野克比古写真展「京都の庭園 — 四季のうつろい」3	ノルデン	ノルデン茶博物館 (TeeMuseum Norden)		2010.07.06 ~ 2010.10.15	ケルン日本文化会館所蔵写真パネル『京都の庭園』の展覧会を開催。四季折々の伝統的な日本の美を紹介する写真が多く、観客に好評を得た

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
6	水野克比古写真展「京都の庭園 — 四季のうつろい」4	バート・ゼツキンゲン	ヴィラ・ベルベリッヒ文化館 (Kulturhaus Villa Berberich)	長井バートゼツキンゲン友人協会 (Deutsch-Japanische Gesellschaft Freundeskreis Nagai-Bad Saeckingen)	2010. 10. 22 ~ 2010. 11. 14	ケルン日本文化会館所蔵写真パネル『京都の庭園』の展覧会を開催。開催期間中に桑野由紀(ヴァイオリン)、吉川久子(ピアノ)のコンサート、ペーター・アミ・ケメラー (KAEMMERER, Peter Ami : バーデン・ヴュルテンベルク州名誉日本総領事) による日独交流についての講演会、ウルリヒ・ハース (HAAS, Ulrich : 裏千家) による茶の湯レクチャーなども実施
7	日独美術対話展「range — 安藤由佳子とヴォルフガング・リュトゲンス」	ケルン	ケルン日本文化会館	ケルン市文化局 (Kulturamt der Stadt Koeln)	2010. 12. 03 ~ 2011. 01. 28	日独の対話の促進を目指し、公募によって選ばれた両国の若手アーティストが共通のテーマで二人展を年2回開催。第2回目として、安藤由佳子(デュッセルドルフ在住日本人作家) とヴォルフガング・リュトゲンス (LUETTGENS, Wolfgang : ケルン在住ドイツ人作家) の作品を展示。日独交流150周年事業として実施
8	現代日本ブックデザイン展	ライプツィヒ	ライプツィヒ印刷美術博物館 (Museum fuer Druckkunst Leipzig)	ライプツィヒ印刷美術博物館 (Museum fuer Druckkunst Leipzig)	2011. 02. 03 ~ 2011. 04. 03	様々な出版分野から厳選された110冊の本を展示し、過去20年の日本のブックデザインの歩みと印刷・製本技術を紹介する特別展。寺本美奈子(印刷博物館) 監修。会期中は仮名書道レクチャー・デモンストレーション等の関連企画も実施。エディトリアル財団 (Stiftung Buchkunst)、ライプツィヒ日独協会 (Deutsch-Japanische Gesellschaft Leipzig in Sachsen)、印刷博物館(東京)、在ドイツ大使館が協力。日独交流150周年事業として実施

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
9	上妻宏光・塩谷哲 AGA-SHIOコンサート	ケルン	ケルン日本文化会館	株式会社日本航空 (JAL) トヨタ (Toyota Deutschland GmbH)	2010. 05. 28 ~ 2010. 05. 29	上妻宏光(三味線奏者)と塩谷哲(ピアニスト)によるユニットAGA-SHIOのヨーロッパツアー最初のコンサートを実施。日本の伝統楽器である津軽三味線と洋楽器ピアノの融合をテーマとしたこのユニットは共演をきっかけにスタート、新しい現代的なスタイルによる演奏を披露。デュッセルドルフの「日本デー」(10. 05. 29) にも出演
10	菊池奈緒子とカリン・レヴァインのコンサート	ケルン	ケルン日本文化会館	ケルン現代音楽協会 (Koelner Gesellschaft fuer Neue Musik)	2010. 12. 10	フランクフルト在住の現代箏演奏家で、アンサンブル・モデルンで研修を受講中の菊池奈緒子と北ドイツ在住のカリン・レヴァイン (LEVINE, Carin : フルート奏者) のデュオによるコンサートを実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
11	佐藤卓史ピアノコンサート	ダマスカス (シリア)	ダール・アル・アサド文化芸術劇場内ドラマ・シアター (Dar al-Assad for Culture and Arts, Drama Theater)	在シリア大使館 シリア文化省 (The Ministry of Culture, Syrian Arab Republic) ダール・アル・アサド文化芸術劇場 (Dar al-Assad for Culture and Arts)	2011. 3. 17	若手日本人ピアニスト、佐藤卓史をシリアへ派遣し、ピアノコンサートを開催。ピアノ用に編曲したアラブ人歌手フェイルーズ、日本人作曲家の楽曲等を演奏
12	日本のクラリネット—現代音楽作曲家の新作	ケルン	ケルン日本文化会館	ケルン現代音楽協会 (Koelner Gesellschaft fuer Neue Musik) ドイツ放送 (Deutschlandfunk)	2011. 01. 21	ベアテ・ツェリンスキー (ZELINSKY, Beate) とデイヴィッド・スマイヤース (SMEYERS, David) のクラリネット・デュオによるコンサートを実施。エリオット・カーター (CARTER, Elliott)、湯浅譲二他、日米の現代音楽作曲家の新作を中心に紹介。日独交流150周年事業として実施
13	溝口健二『瀧の白糸』と望月京の現代音楽	ケルン ベルリン	ケルン日本文化会館 キノ・バビロン (Kino Babylon)	メルツムジーク (MaerzMusik) 在ドイツ・オランダ大使館 在ドイツ大使館 東京国立近代美術館フィルムセンター	2011. 03. 19 ~ 2011. 03. 22	無声映画『瀧の白糸』(溝口健二)と望月京(パリ在住作曲家)の現代音楽を組み合わせたコンサートをベルリンとケルンで実施。演奏はアムステルダムに本拠を置くニュー・アンサンブル。作曲家自身もコンサートに出席し、岡部真一郎(音楽評論家/明治学院大学教授)との対談を実施。日独交流150周年事業として実施

海外拠点

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
14	シンポジウム「日本の産業デザインの新展開」	ケルン	ケルン日本文化会館	ヴィトラ・デザイン美術館 (Vitra Design Museum) ベルリン日独センター (Japanisches-Deutsches Zentrum Berlin)	2010. 05. 20	柏木博 (武蔵野美術大学教授)、小泉誠 (デザイナー)、佐藤卓 (デザイナー)、フィリップ・ハイデカンブ (HEIDKAMP, Philipp: ケルン国際デザイン大学教授) が日本の産業デザインにおける伝統技術、地場産業とデザインの結びつきによる新しい潮流を紹介するシンポジウムを開催
15	フロレンティーネ・ザック建築講演会「オープン・ハウス」	ケルン	ケルン日本文化会館		2010. 09. 24	海外巡回展『くまもとアートポリス』のオープニングに際し、フロレンティーネ・ザック (SACK, Florentine: 建築家) による講演会を開催
16	日独比較パネルディスカッション「大学教育と学生の就職 — 日独比較」	ケルン	ケルン日本文化会館	ケルン大学職業教育国際比較研究所 (German Research Center for Comparative Vocational Education and Training)	2010. 09. 28	ケルン大学職業教育国際比較研究所の設立を記念して、同研究所との共催によりパネルディスカッションを開催。登壇者は、エスヴァイン三貴子 (ESWEIN, Mikiko: カイザースラウテルン大学教授)、伊藤敏子 (三重大大学教授) 及びマティアス・ピルツ (PILZ, Matthias: ケルン大学経済・社会教育学科)。ケルン日本文化会館が平成20年度以来実施している日独共通の社会問題に関するシンポジウムの第3弾
17	都築響一巡回講演会	ケルン デュッセルドルフ フランクフルト ベルリン	ケルン日本文化会館 デュッセルドルフ芸術家協会 (Kuenstlerverein Malkasten) フランクフルト大学日本学科 (Japanologie der Universitaet Frankfurt am Main) ベルリンpro qm書店 (Buchhandlung pro qm)	在デュッセルドルフ総領事館 在フランクフルト総領事館 在ドイツ大使館	2010. 10. 19 ~ 2010. 10. 25	都築響一は編集者、写真家、ライター、さらにはアーティストとして活動を展開、日本の中でも存在が忘れられ、あるいはその存在価値を否定されているモノや現象を一貫して追い続けてきた。それらの存在を通じて日本の現代社会を見つめてきた同氏が、「デコトラ」「ラブホテル」「秘宝館」「暴走族」など日本固有のサブカルチャー的表象を取り上げ、日本社会の「今」を紹介

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
18	エーファ・マリア・マイヤー講演会 「京都の四季探訪」	ケルン	ケルン日本文化 会館	ケルン市 (Stadt Koeln) ケルン独日協会 (Deutsch- Japanische Gesellschaft e. V. Koeln)	2011. 01. 17	ケルン市及びケルン独日協会との共催により、ケルンと姉妹都市関係にある京都の歴史と文化を紹介するプログラム。エーファ・マリア・マイヤー(MEYER, Eva-Maria: テュービンゲン大学日本研究学科上級学術顧問)を講演者に迎え、ティル・シェール(SCHEEL, Till: 写真家)の作品とともに京都の魅力を紹介。日独交流150周年事業として実施
19	1860/61年オイレンブルク日本遠征隊：講演と遠征隊収集資料特別展示会	ベルリン	在ドイツ大使館	ベルリン国立図書館 プロシヤ文化財財団国立図書館 (Staatsbibliothek Berlin, Preussischer Kulturbesitz) 在ドイツ大使館	2011. 02. 03	ベルリン国立図書館東アジア部門の企画により実施。ゲアハルト・クレプス (KREBS, Gerhard: ベルリン自由大学教授) によるオイレンブルク遠征隊に関する講演の後、ウルズラ・フラッヘ (FLACHE, Ursula: ベルリン国立図書館東アジア部副部長) により、会場に展示された遠征隊の日本収集資料を解題。日独交流150周年事業として実施
20	羽根光講演会	ケルン	ケルン日本文化 会館		2011. 02. 15	海外巡回展 <i>Struggling Cities</i> のオープニングに際し、日本の現代建築をテーマとして、羽根光 (建築家) による講演会を開催

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
21	新着映画上映会	ケルン	ケルン日本文化 会館		2010. 04. 01 ~ 2010. 04. 26	藤原智子 (映画監督) よりケルン日本文化会館へ寄贈された『シロタ家の20世紀 (The Shirota Family and the 20th Century)』(2008) を含む『河童のクゥと夏休み』(原恵一、2007)、『サッドヴァケーション』(青山真治、2007)、『めがね』(荻上直子、2007) の4作品を各2回上映
22	大野一雄追悼ドキュメンタリー映 上映会	ケルン	ケルン日本文化 会館		2010. 07. 07 ~ 2010. 07. 09	2010年6月に逝去した日本を代表する舞踏家、大野一雄を追悼し、大野をフィーチャーしたドキュメンタリー映画 <i>Just Visiting This Planet</i> の上映とペーター・ゼンペル (SEMPEL, Peter: 映画監督) によるトークを開催。また、大野が自身の活動を1960年代から2000年まで記録した映像集『美と力』を上映
23	小津安二郎監督特集上映会	ケルン	ケルン日本文化 会館	ウィーン映画博 物館 (Oesterreich- isches Film- museum in Wien)	2011. 01. 10 ~ 2011. 03. 31	日本を代表する映画監督、小津安二郎が1929年から1969年の間に撮った『東京暮色』(1957)、『秋刀魚の味』(1962) 他7作品を回顧上映。日独交流150周年事業として実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
24	デュッセルドルフ日本映画週間『河童のクゥと夏休み』上映会	デュッセルドルフ	デュッセルドルフ映画博物館	デュッセルドルフ映画博物館 (Filmmuseum Duesseldorf) 在デュッセルドルフ総領事館	2011. 02. 05 ～ 2011. 02. 12	日本の新作映画を一挙に紹介する毎年恒例の日本映画週間に於いて、ケルン日本文化会館フィルムライブラリー所蔵作品『河童のクゥと夏休み』（原恵一、2007）を上映。日独交流150周年事業として実施
25	ノルトライン・ヴェストファーレン州学校映画週間『菊次郎の夏』上映会	ケルン	ケルン日本文化会館	ノルトライン・ヴェストファーレン州映画学校 (FILM SCHULE NRW) 映画・メディア・コンペテンシー・ネットワーク (VISION KINO)	2011. 02. 07	ノルトライン・ヴェストファーレン州学校映画週間において北野武（映画監督）『菊次郎の夏』が上映作品の一つとして選ばれ、同州内各地で上映されるに当たり、作品解説冊子の印刷経費を支援。またケルンでの上映に際して会場とフィルムを提供。日独交流150周年事業として実施

【図書館運営】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
26	図書館運営				2010. 04. 01 ～ 2011. 03. 31	ケルン日本文化会館図書館では日本に興味のある人々すべてに日本に関する情報を提供している。その主目的は、ドイツ語圏における日本文化の理解及び日本語学習者や日本学研究者の拡大と支援であり、日本の伝統文化から現代社会事情まで日本全般に亘る資料（主に日本語、ドイツ語、英語）を収集し、利用に供すること ①所蔵資料合計： 28,924点 （内訳：図書資料数21,404冊、視聴覚資料数7,520点） 雑誌タイトル数：239タイトル ②利用者数（年間）： 3,327名 ③貸出点数（年間）： 3,704点 ④レファレンス件数（年間）： 391件
27	NACSIS目録講習会及びベルリン国立図書館稀観書展示会	ベルリン	ベルリン国立図書館	ベルリン国立図書館 プロシヤ文化財財団 (Staatsbibliothek Berlin, Preussischer Kulturbesitz) 国立情報学研究所 (NII)	2011. 02. 03 ～ 2011. 02. 04	在欧日本関係図書館のうち、NACSIS-CATで書誌データを共有している図書館担当者に対し、日本から講師3名を招き、講習会を開催。講習会のレベルは初級から上級まで。ドイツ・スイスの他、イタリア・英国・フランスからも参加があった。2日目には、日本関係資料に対する見識を深めるために、ウルズラ・フラッヘ (FLACHE, Ulsura:ベルリン国立図書館東アジア部副部長) による所蔵稀観書の紹介と展示・見学を実施。日独交流150周年事業として実施

海外拠点

【出版・広報】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
28	ウェブサイト運営				2010.04.01 ~ 2011.03.31	ケルン日本文化会館の概要、事業内容を対外的に広報するとともに、広く日本文化・芸術に関する情報発信のため、公式ウェブサイトを運営 URL: http://www.jki.de/ アクセス件数(年間) : 415,248件 メールマガジン配信数(年間) : 62,217件
29	北杜夫『楡家の人びと』ドイツ語訳紹介	ケルン	ケルン日本文化会館	be. bra 出版社 (be. bra Verlag GmbH) ケルン市文化局 (Kulturamt der Stadt Koeln) ケルン独日協会 (Deutsch-Japanische Gesellschaft e. V. Koeln)	2010.05.18	北杜夫の長編小説『楡家の人びと』の初めてのドイツ語訳が、平成21年度国際交流基金日本理解促進出版・翻訳プログラムによる助成を受けてbe. bra 出版社から出版されるのを機に、この新刊を紹介。刊行を企画したエドゥアルド・クロプフェンシュタイン (KLOPFENSTEIN, Eduard : チューリッヒ大学名誉教授) が北杜夫(作家)と同書の内容を紹介、続いてプロの朗読者が独訳を朗読。ケルン市、ケルン独日協会との共催事業

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
30	日独翻訳者賞				2010.04.01 ~ 2011.03.31	ケルン日本文化会館では、1999年からドイツ語圏で翻訳出版された優れた日本の図書、特に文学作品や人文・社会科学分野の著作の中から、優れた翻訳を行った人物に対し「日独翻訳者賞」を授賞。今回は、日独両国の審査委員により、2007年から2009年末までにドイツ語で翻訳出版された日本の図書の中から、吉本ばなな『ハゴロモ』と青野聡『母よ』を翻訳したトーマス・エッゲンベルグ (EGGENBERG, Thomas : 静岡大学国際交流センター准教授) に授賞
31	ケルン子供大学		ケルン日本文化会館	ケルン大学 (Universitaet zu Koeln)	2010.04.23	ケルン大学が主催する「ケルン子供大学」の一環として、同大学日本研究学科と協力し、8歳から12歳の児童・生徒を対象に「日本まるごと体験講座」を提供。日独交流150周年事業として実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
32	ケルン市美術館の長い夜	ケルン	ケルン日本文化会館	無声映画 dj (stummfilm:dj) アミヨリ (Amiyori) ケルン市 (Stadt Koeln) シュタットレビュー誌 (StadtRevue) チョーヤ梅酒株式会社	2010. 11. 06 ~ 2010. 11. 07	ケルン市の美術館・博物館を中心とする文化施設が19時から深夜3時まで開館し、一般市民に特別プログラムを提供する一夜かぎりのフェスティバル。ケルン日本文化会館では、ドイツ人DJ、ミヒャエル・ヤノヴィッツ (JANOWICZ, Michael M.) の音楽に乗せ、無声映画『逆流』(二川文太郎、1924)を3回上演したほか、国際交流基金本部巡回展「くまもとアートポリス」を展示

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
33	「手のひらの中の世界」展	ドレスデン市立現代美術館 (Kunsthau Dresden)	2010. 03. 20 ~ 2010. 05. 23	携帯電話の普及により情報伝達の方法が急速に変わった現代において、これらの情報を取り入れたアート、影響を受けているアートを紹介する展覧会。吉田美弥によるキュレーション。ケルン日本文化会館は展覧会に係る謝金を助成
34	光を投げる女 (<i>Die Scheinwerferin</i>)	パクト・ツォルフエアアイン (PACT Zollverein)	2010. 04. 10	ドイツ西部のコンテンポラリーダンスの拠点のひとつであるPACT (エッセン) が毎年実施している、 <i>Atelier Special</i> において、PACTのスタジオ助成を受けた田中奈緒子の初の単独作品 <i>Die Scheinwerferin</i> の制作・発表に対して、ケルン日本文化会館は旅費、謝金、印刷費を助成
35	「日の出る国日本の浮世絵—ブレーメン美術館コレクション」展	ビーティヒハイム・ビッシンゲン市立美術館 (Staedtische Galerie Bietigheim-Bissingen)	2010. 04. 24 ~ 2010. 07. 11	ブレーメン美術館 (Kunsthalle Bremen) 所蔵浮世絵コレクションを紹介する展覧会。約150点の版画作品をはじめ、北斎、広重による「東海道五十三次」を展示。ケルン日本文化会館は旅費、謝金、印刷費を助成
36	「イリュージョン／リアリティ」展	エマーソン・ギャラリー (Emerson Gallery Berlin)	2010. 07. 31 ~ 2010. 09. 04	日独の若手アーティストによる交流展。日本から市原研太郎 (美術評論家) が来独し、現代美術についての講演会を開催したほか、様々なパフォーマンスやコンサートも実施。ケルン日本文化会館は講演謝金、広報・印刷費を助成
37	「岩崎貴宏—ノン・ロカリティー」展	ナッサウ美術協会 (Nassauischer Kunstverein Wiesbaden)	2011. 01. 23 ~ 2011. 03. 06	日本の若手現代美術作家、岩崎貴宏がヴィースバーデンのナッサウ美術協会を拠点にレジデンシーを行い、個展を開催。地元の学生や美術作家、美術愛好家と交流を行った。ケルン日本文化会館は広報・印刷費を助成

海外拠点

【その他】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
38	ケルン国際童話フェスティバル	IGNISヨーロッパ文化センター (Kulturzentrum IGNIS e.V.) ケルン国際文化週間 (Interkulturelle Woche Koeln)	2010. 09. 25	様々な国の童話を紹介するフェスティバル。日本の童話の朗読に参加
39	国際会議「異文化交流と文化横断的な流れ：マンガ／コミック」	ケルン大学超域文化研究センター (The Center for Intercultural and Trans-cultural Studies, University of Cologne) 京都精華大学国際マンガ研究センター	2010. 09. 30 ～ 2010. 10. 02	ジャクリーヌ・ベルント (BERNDT, Jaqueline : 京都精華大学教授)、フランツィスカ・エームケ (EHMCKE, Franziska : ケルン大学教授) などドイツ人研究者が中心となり、3日間にわたる講演や『NARUTO』をはじめ実際の作品を例にとったワークショップなどが行われ、文学論、メディア論及び文化論の観点から、日本のマンガが各方面に与えた影響についてディスカッションを実施
40	日独学術文化関係促進財団賞 (JaDe賞) 授賞式	日独学術文化関係促進財団 (Stiftung zur Foerderung japanisch-deutscher Wissenschafts- und Kulturbeziehungen [JaDe-Stiftung])	2011. 02. 12	田中角栄首相が1973年10月西ドイツ (当時) を訪問した際に日独交流発展のために寄贈した基金 (通称「田中基金」) をもとに、1974年ケルンに設置された日独学術文化関係促進財団 (JaDe-Stiftung) が毎年提供するJaDe賞の授賞式を開催。本年は、北杜夫『楡家の人々』を翻訳したオットー・プッツ (PUTZ, Otto : テュービンゲン大学日本研究学科) とケルン大学音楽学部でケルン雅楽会 (Koelner Gagaku Ensemble) を主宰する志水美郎が受賞。日独交流150周年事業として実施

海外拠点

パリ日本文化会館

合計額 437,641,034 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	「ドゥブル・リュミエール (Doubles Lumières) : 宮永愛子 & 関根直子」展	パリ	パリ日本文化会館		2010.04.14 ~ 2010.06.26	現代美術作家の宮永愛子と関根直子を招へいし、約2カ月のレジデンス期間中に制作された作品を中心に、計19作品を展示。宮永は、滞在中に集めた小物や家具をナフタリンでかたどったインスタレーション作品を展示。関根は滞在中の心象を鉛筆と消しゴムだけで作品制作。両氏にとって本展がフランスにおける初めての本格的な展覧会となった
2	全国高等学校版画選手権大会 (はなが甲子園) 作品展	パリ	パリ日本文化会館	全国高等学校版画選手権大会実行委員会	2010.05.18 ~ 2010.05.29	2001年に佐渡でスタートした「全国高等学校版画選手権大会 (はなが甲子園)」の10年目を記念して、同地にゆかりの版画作品、過去の受賞作品及び第10回展の応募作品等の中から選ばれた版画作品等、計30点を展示
3	近代日本工芸 1900~1930 — 伝統と変革のはざまに	パリ	パリ日本文化会館		2010.10.13 ~ 2010.12.23	京都国立近代美術館の協力により、1900年から1930年の間に制作された、陶芸、染織、漆工を中心とした工芸作品75点を紹介。これまでまとまって紹介されることのなかった時代の優れた工芸品が、欧州で初めて本格的に紹介される貴重な機会となった
4	染めの世界 時をこえて — 万葉花を染める	パリ	パリ日本文化会館	染色運営実行委員会	2010.11.16 ~ 2010.11.27	『万葉集』に歌われた花々をテーマに、日本古来の伝統技術 (花押・ろうけつ) を駆使しながら独自の作風を展開する山本喜代子の作品を展示
5	大野初子 芸術人形展	パリ	パリ日本文化会館	大野初子創作人形展実行委員会	2011.01.25 ~ 2011.01.29	大野初子 (1915~1982) は、創作人形の制作を通してその時代の人形の美と芸術性を表現。作品の多くは、主に大正時代の子供の思い出にインスピレーションを得たもの。海外では稀な現代創作人形紹介の機会となった

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
6	ミニコンサート taca	パリ	パリ日本文化会館		2010.04.28	taca (タカ:在仏アコーディオン奏者) を中心とした、カルテットによるジャズを中心としたコンサート。日仏のミュージシャンによる共演
7	レ・フレール コンサート	パリ	パリ日本文化会館		2010.05.05 ~ 2010.05.07	斎藤守也と斎藤圭土兄弟によるピアノ・デュオ「レ・フレール」によるコンサート。独自のキャトルマンスタイルという演奏法で、ブギウギ、バラード、ジャズなど幅広いジャンルの曲を披露。ヤマハ(Yamaha Music Europe - France)が協力

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
8	ミニコンサート 谷辺昌央	パリ	パリ日本文化会館		2010. 05. 19	数々のコンクールに入賞してきた谷辺昌央（たにべ・まさお：クラシック・ギタリスト）が、ピアソラ、ヒナステラなどの曲と、日本の武満徹の作品を演奏し、西洋と和の要素を対比させたコンサートを実施
9	演劇『病気』	パリ	パリ日本文化会館		2010. 05. 28 ～ 2010. 05. 29	「健康」をめぐるの珍妙無類のやりとりに始まり、自己責任を巧妙に回避する人々の姿を、乾いた喜劇として描いた別役実の作品を三谷昇、吉野悠我らが演じた
10	AGA-SHIO（上妻宏光×塩谷哲）コンサート	パリ	パリ日本文化会館		2010. 06. 10 ～ 2010. 06. 11	AGA-SHIOは、民謡というジャンルを飛び越え津軽三味線の可能性を開拓する上妻宏光、ジャズ、ポップス、クラシックと多様なジャンルにおいて卓越した演奏、プロデュースを行う塩谷哲によるユニット。既存のジャンルにとらわれない独自の楽曲を演奏
11	コンサート 牧野由依	パリ	パリ日本文化会館		2010. 06. 21	声優としても活躍するマルチ・アーティスト牧野由依による「音楽の日」の無料コンサート。街中のあらゆる場所で無料コンサートを開催する「音楽の日フェスティバル（Fête de la musique）」が運営に協力
12	ミニコンサート 吉田誠	パリ	パリ日本文化会館		2010. 06. 30	パリ国立高等音楽院に留学中のクラリネット奏者、吉田誠によるコンサート
13	コンサート 天地人	パリ	パリ日本文化会館	パリ外国文化施設フォーラム(FICEP)	2010. 10. 02	天地人は、和太鼓、津軽三味線、ドラムという異色の組み合わせによる音楽ユニット。ジャズ、ロック、民謡を融合させた独自の躍動感あふれる演奏。パリ外国文化施設フォーラム(Forum des Instituts Culturels Étrangers à Paris: FICEP)主催の外国文化週間の催しのひとつとして実施。ヤマハ(Yamaha Music Europe - France)が協賛
14	水曜日のミニコンサート 長谷川きよし	パリ	パリ日本文化会館		2010. 10. 20	「別れのサンバ」で一世を風靡した長谷川きよし（シンガーソングライター）によるコンサート。シャンソン歌手として日本でも有名であり、自身のオリジナル曲の他、フランス語シャンソンも披露。東芝国際交流財団が協賛
15	コンサート 山中千尋	パリ	パリ日本文化会館		2010. 10. 23	ニューヨークを拠点に、日本及び欧州で演奏活動を行っている山中千尋によるコンサート。同氏は内外で様々なジャズの賞を受賞している気鋭のピアニスト。ヤマハ(Yamaha Music Europe - France)が協力
16	コンサート 戸室玄とベルギー国立 オーケストラ・アンサンブル	パリ	パリ日本文化会館	ベルギー国立 オーケストラ	2010. 10. 29	戸室玄は、パリ日本文化会館の「日本の若き才能」コンサートにも出演したことがある若手ピアニスト。今回はベルギー国立オーケストラ・アンサンブルとの共演で、シュニトケやブラームスを演奏。ヤマハ(Yamaha Music Europe-France)、Loterie Nationaleが協力

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
17	水曜日のミニコンサート 福本しのぶ&安島瑤山	パリ	パリ日本文化 会館		2010. 11. 03	福本しのぶと安島瑤山は、「和と洋の融合」をテーマにハーブと尺八という西洋と東洋の楽器のコラボレーション活動を続けている。今回、福本の生まれ故郷のフランスで、恩師のハーブ奏者フランシス・ピエール (PIERRE, Francis) もゲストに迎えてコンサートを実施。東芝国際交流財団が協賛
18	コンテンポラリーダンス 梅田宏明	パリ	パリ日本文化 会館		2010. 11. 12 ~ 2010. 11. 13	振付家・ダンサーとして欧州でも非常に人気の高い梅田宏明の公演。前半は振付家として、日本人ダンサーとフィンランド人ダンサーに振り付けた作品 <i>L. centrifugal</i> 、後半は自身のソロ作品 <i>Haptic</i> を披露。EU JAPAN FEST、在仏フィンランド大使館が協力
19	コンサート <i>Jazzycolors 2010</i>	パリ	パリ日本文化 会館 オランダ文化 センター	Association Jazzy Colors	2010. 11. 17 ~ 2010. 11. 24	パリ所在の各国文化機関との共同開催により、それぞれ自国のアーティストを別の機関に派遣する企画。パリ日本文化会館はハンガリーの女性シンガー・グループを受入れる一方、日本人ピアニストをオランダ文化センターに派遣
20	コンテンポラリーダンス <i>Noism 1</i>	パリ	パリ日本文化 会館		2010. 12. 02 ~ 2010. 12. 04	新潟市民芸術文化会館「りゅーとびあ」の芸術監督を務める金森穰が率いる <i>Noism</i> による『 <i>Nina</i> —物質化する生け贅』公演。同氏は振付家として芸術選奨文部科学大臣賞を受賞するなど、現在、日本のコンテンポラリーダンス界で最も注目されている振付家の一人。東京倶楽部が協賛
21	ミニコンサート 千田悦子	パリ	パリ日本文化 会館		2010. 12. 08	千田悦子（山田流箏奏者）による唄と箏のコンサート
22	日本舞踊 — 花柳寿美「曙会」	パリ	パリ日本文化 会館	曙会実行委員 会	2011. 01. 21 ~ 2011. 01. 22	前半後半の2部構成で、前半は伝統的な日本舞踊『保名』、後半はテネシー・ウィリアムス原作のミュージカル『欲望という名の電車』仕立ての創作舞踊を披露。ピアノ伴奏は宮川彬良（作曲家）が行った
23	ミニコンサート 宮田まゆみ	パリ	パリ日本文化 会館		2011. 02. 23	宮田まゆみは国際的に著名な笙の奏者。ジョン・ケージなど現代音楽の作曲家などが同氏のために楽曲を提供している。古典曲からジョン・ケージまで幅広いジャンルの曲を演奏。パリ日本文化会館としては初の笙による単独コンサート
24	ジャズ・イン・ジャパン2011	パリ	パリ日本文化 会館		2011. 03. 03 ~ 2011. 03. 05	日本のジャズを紹介する、3夜連続のコンサート。初日は、前年好評を博した寺井尚子（ヴァイオリン）とリシャール・ガリアーノ（GALLIANO, Richard: アコーデオンの組み合わせ。2日目は日本人としては唯一、マイルス・デイビスのグループに所属したケイ赤城トリオ（ピアノ）。3日目は18歳という若さながら既に山下洋輔、渡辺貞夫などと共演し、また東京JAZZのような大舞台に立つ寺久保エレナ（サクソフォン）のカルテット。寺井尚子のオリジナル曲 <i>Bella Notte</i> などを演奏

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
25	コンサート 日本の若き才能	パリ	パリ日本文化会館	ヤマハ(Yamaha Music Europe - France)	2011.02.04 ~ 2011.02.05	将来有望な若手日本人クラシック演奏家に活躍の機会を与えることを目的に、ヤマハとの共催により実施したコンサート企画。本田早美花(ヴァイオリン)、福間洸太郎(ピアノ)、森岡有裕子(フルート)、赤坂智子(ヴィオラ)が出演

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
26	ワークショップ「鉛筆で探る隠れた形と線」	パリ	パリ日本文化会館		2010.04.07 ~ 2010.04.14	展覧会「ドゥーブル・リュミエール(Doubles Lumières)」展の参加作家、関根直子(現代美術作家)を講師に、10歳以上の青少年を対象に「鉛筆で探る隠れた形と線」をテーマとしたワークショップを計2回実施
27	食文化デモンストレーション・シリーズ「四季の味わい」	パリ	パリ日本文化会館	味の素ヨーロッパ株式会社(Ajinomoto Europe, Ltd.)	2010.04.03 ~ 2011.01.29	「四季の味わい」をテーマに、年間計4回(第1回10.04.03、第2回10.06.26、第3回10.10.23、第4回11.01.29)、春夏秋冬の献立をめぐるセミナー・デモンストレーションを毎回各2回実施。春季は筍をつかった料理など、季節感あふれる料理を紹介
28	講演会「テレビが日本料理を変えた! ? -メディアの食文化への影響力」	パリ	パリ日本文化会館	日本料理アカデミー	2010.04.08	エンターテイメントとしての食に焦点を当て、大森いさみ(日本料理アカデミー・アドバイザー)が、食とメディアの関係について講演
29	郷土料理セミナー「秋田の伝統食・きりたんぼ」	パリ	パリ日本文化会館		2010.04.10	日本の伝統料理の中から秋田の伝統食を紹介。秋田に関する紹介、きりたんぼの説明及び講師によるきりたんぼづくりのデモンストレーション、きりたんぼ鍋の試食。地方産の日本酒試飲も実施
30	親子うま味ワークショップ	パリ	パリ日本文化会館		2010.04.17 ~ 2010.06.12	大森いさみ(日本料理アカデミー・アドバイザー)とパリ在住の食文化ジャーナリスト相原由美子が、親子を対象にしたうま味発見ワークショップを開催。4・5・6月の毎月1回土曜日、1日2セッション実施。出汁をベースに、素材のうまみを学習し、ホットプレート等を用いた参加者全員で楽しめる日本の料理を体験・試食。第1回お好み焼き(10.04.17)、第2回焼きうどん(10.05.15)、第3回茶碗蒸し(10.06.12)
31	講演会「2つの地域統合と日本 - EU・東アジア共同体」	パリ	パリ日本文化会館	パリ政治学院	2010.05.11	2010年1月にリスボン条約が発効し、EUは新たに「EU大統領」と「EU外相」を迎え、世界でのプレゼンスを確立しようとしており、日本では2009年9月に誕生した鳩山由紀夫政権が「東アジア共同体」構想を提唱し、新たな外交政策を模索している。ヨーロッパとアジアで、二つの異なる地域統合が進みつつある中で、今後日本がたどるべき道を国際政治学的な視座から細谷雄一(国際政治学)らが講演

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
32	講演会「中国、日本、アジアのリーダーは誰か？」	パリ	パリ日本文化会館		2010. 05. 26	実業界での経験を持ち、日本経済専門家として研究を行っているクロード・メイユ (MEYER, Claude) による講演会。 2010年2月に出版された同氏の著書 “Chine ou Japon: quel leader pour l’Asie?” Presses de Science Po の内容を中心に、アジアのリーダーシップについて討議。アジア覇権を獲得するために各国が講じている策を評価し、今後20年にわたる地勢図の発展のシナリオを議論。コメンテーターは、クリスティアン・ソテー (SAUTTER, Christian: パリ市助役)
33	講演会「1980年代以降の日本現代演劇について」	パリ	パリ日本文化会館		2010. 05. 29	扇田明彦 (演劇評論家) による日本の現代演劇に関する講演会。平田オリザの登場による新たな演劇のムーブメントなどを解説
34	講演会「コペンハーゲン以後の状況と日本の対応」	パリ	パリ日本文化会館		2010. 06. 02	山口光恒 (東京大学先端科学技術センター特任教授) が日欧の環境問題をめぐる現状及び今後日本のとるべき環境政策について解説
35	講演会「日本人、20歳、その生活、望み、将来とは？」	パリ	パリ日本文化会館	読売新聞社 日仏会館 財団法人渋沢栄一記念財団	2010. 06. 18	日仏各々相手国の文化に関する優れた研究成果に対して贈られる渋沢クロード賞のフランス側受賞者講演会。2009年受賞者カリン・プペー (POUPEE, Karyn: AFP通信記者) が、受賞作品『日本人』に基づき、不安定な社会経済状況に置かれている日本の若者像を描く。同氏の観察を通して得られた日本の若者の生態、夢、自国のイメージや若者のもつ日本の将来像について発表。Editions Tallandierが実施に協力
36	食文化デモンストレーション「体験！和のおやつ」	パリ	パリ日本文化会館		2010. 06. 19 ~ 2011. 03. 12	相原由美子 (食文化ジャーナリスト) が中心となり「和のおやつ」をめぐり、デモンストレーションとワークショップを年間5回実施 第1回「葛粉と寒天」 (10. 06. 19) 第2回「胡麻を使ったおやつ」 (10. 10. 16) 第3回「地方のおやつ」 (10. 11. 19) 第4回「ゆずを使ったおやつ」 (10. 11. 20) 第5回「どら焼き」 (11. 03. 12) 各回2セッション実施
37	日本酒セミナー	パリ	パリ日本文化会館		2010. 06. 23	日本の蔵元が集い、日本酒を紹介・試飲する毎年恒例のセミナー
38	武術レクチャー・デモンストレーション	パリ	パリ日本文化会館	レオ・タマキ	2010. 05. 12	黒田鉄山 (振武館宗家) による「伝統文化としての武術一型と理論」をタイトルとして、武術的身体、伝統武術における身体の操作法などをレクチャー及びデモンストレーションにて解説

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
39	武術レクチャー・ワークショップ	パリ	パリ日本文化会館	レオ・タマキ	2010.06.24 ~ 2010.06.25	前年度に続き著名な武術家である甲野善紀がパリに来訪する折に「近代化によって変化した武道家の身体操作」について平易に解説。またワークショップにより実際に甲野流の身体操法を学ぶ機会を提供
40	講演会「日本に政党政治は根付くのか？」	パリ	パリ日本文化会館		2010.09.22	御厨貴（日本近・現代政治：東京大学先端科学技術研究センター教授）による講演会。エリック・セズレ（SEIZELET, Eric：パリ第7大学教授）がコメンテーターとして参加
41	剣の道ワークショップ	パリ	パリ日本文化会館		2010.09.29 ~ 2010.12.10	パリ在住の松浦真人による剣術ワークショップ。約3カ月の間に、各月1回ずつ実施
42	講演会「日本発 化粧品技術の最前線」	パリ	パリ日本文化会館	Shiseido Europe	2010.09.30 ~ 2011.02.10	「日本の化粧品技術の最前線」と題し、レクチャー及び実際のメーキャップ・デモンストレーションを行う。秋季2回実施（「バカンスあとのお肌の手入れ 紫外線と美しい肌の関係」「美しいメーキャップを支えるもの」）及び冬季1回実施（「日本人と化粧水」）
43	夢枕獏講演会	パリ	パリ日本文化会館		2010.10.01	夢枕獏（作家）が、平安時代に遡る「陰陽師」の世界をレクチャー
44	講演会「源氏物語とその背景 — 伊勢物語から源氏物語へ」	パリ	パリ日本文化会館		2010.10.09	今西祐一郎（国文学研究資料館館長）の、仮名による文学作品誕生の経緯、源氏物語成立前の日本の文学・社会状況を基に、史料及び注釈の分析を通じて『源氏物語』を解釈
45	「近代日本工芸 1900～1930 展」関連講演会	パリ	パリ日本文化会館		2010.10.13	松原龍一（「近代日本工芸 1900～1930 — 伝統と変革のはざまに」展コミッショナー）による、展覧会の解題及び展示作品の解説
46	はじめての尺八講座	パリ	パリ日本文化会館		2010.11.04	水曜日のミニコンサート（10.11.03）にも登場した安島遥山が、尺八の奏法を教授
47	食文化体験シリーズ「誰でも絶対作れる！ 調理体験ワークショップ」	パリ	パリ日本文化会館		2010.11.13 ~ 2011.02.17	相原由美子（食文化ジャーナリスト）が中心となり、調理体験ワークショップを開催 第1回「巻き寿司」（10.11.13） 第2回「お好み焼き」（11.02.17） 各回2セッション実施
48	講演会「日本人の食事における米と麺類」	パリ	パリ日本文化会館		2010.11.16	日本人の食物の柱となる米と麺類の受容と変遷の歴史について、石毛直道（元・国立民族学博物館館長）が講演。食生活の未来への展望についても解説

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
49	「近代日本工芸 1900～1930 展」 関連シンポジウム	パリ	パリ日本文化 会館		2010. 11. 18	山野英嗣（京都国立近代美術館学芸課長）が司会を務め、尾崎正明（京都国立近代美術館長）、稲賀繁美（国際日本文化研究センター研究部教授）、加藤哲弘（関西学院大学文学部教授）、出川哲朗（大阪市立東洋陶磁美術館館長）、松原龍一（京都国立近代美術館主任研究員）、クリストフ・マルケ（MARQUET, Christoph：フランス国立東洋言語文化研究所（INALCO）教授）が「東西文化の磁場」を総合テーマに討論
50	京菓子への誘い	パリ	パリ日本文化 会館		2010. 12. 02	裏千家の行事に合わせて渡仏する京都の老舗・末富による伝統菓子のデモンストレーションを実施。厨房で実演を行い、レセプションホールで参加者自身も簡単な和菓子作りを体験
51	俳句ときもの講演会	パリ	パリ日本文化 会館		2010. 12. 04	原間久美子（源氏物語千年紀委員会）と、文化庁文化交流使としてフランスに滞在中の黛まどか（俳人）による、季節と型を共通テーマとした俳句ときものをめぐる対談
52	講演会「心をつなぐー心がつながる、日本における他者との関係構築」	パリ	パリ日本文化 会館	フランス日本 学研究学会	2010. 12. 16	フランス日本学研究学会主催のシンポジウム「心をつなぐー心がつながる、日本における他者との関係構築」の実施
53	シンポジウム「世界遺産を目指す縄文」	パリ	パリ日本文化 会館		2011. 01. 18	ユネスコ世界遺産暫定リストに登録されている「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の研究者が集い、同地の紹介や関連研究の成果を発表
54	池田理代子講演会	パリ	パリ日本文化 会館		2011. 02. 02	『ベルサイユのばら』で著名な少女漫画家の池田理代子が、自身の創作や半生について語る。パスカル・オリ（ORY, Pascal：パリ第1大学教授／歴史学者）が聞き手として登壇
55	和菓子の世界 ― 作る楽しさ	パリ	パリ日本文化 会館		2011. 02. 03 ～ 2011. 02. 04	2010年の和菓子技術コンクール優勝者が講師として来仏。厨房でデモンストレーションの後、レセプションホールで参加者が体験、試食を行う
56	シンポジウム「新幹線とTGVが存在しなかったら…高速鉄道がもたらす経済効果と社会的影響」	パリ	パリ日本文化 会館	フランス国鉄、 JR東日本	2011. 02. 09	ギョーム・ペピ（PEPY, Guillaume：フランス国鉄（SNCF）総裁）、石田義雄（JR東日本副社長）、高階秀爾（大原美術館館長）、アラン・ブロー（BULLOT, Alain：SNCFマテリアル・ディレクター）、イブ・クロゼ（CROZET, Yves：リヨン大学教授）をパネリストに、高速鉄道がもたらす経済効果と社会的影響について討論
57	能・俳句 ― 省略の極みに生まれるもの	パリ	パリ日本文化 会館		2011. 02. 12	能と俳句の共通点について、安田登（下掛宝生流ワキ方能楽師）、槻宅聡（能楽森田流笛方）、黛まどか（俳人）が鼎談。能楽と俳句が舞台上で共演
58	食文化講演会「ピエール・トロワグロが語る日仏のフランス料理」	パリ	パリ日本文化 会館		2011. 02. 19	日仏のフランス料理を知り尽くしているピエール・トロワグロ（TROIGROS, Pierre）が、日本滞在経験を踏まえ日仏のフランス料理の現状と未来を語る。司会をマリアンヌ・コモッリ（COMOLLI, Marianne：料理研究家）が務める

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
59	シンポジウムおよび講演会シリーズ「こころー日本文化の力」	パリ	パリ日本文化会館		2011.02.22～2011.02.25	シンポジウム(11.02.22)及び連続講演会(11.02.24～25)により構成。シンポジウムでは、黛まどか(俳人)のほか、田中陽子(株式会社ゆずりは代表)が東北地方の手仕事を紹介、徳山誠(勇心酒造取締役)が酒造の観点から東北文化を解説、挾土秀平(左官職人)が左官の魅力を発表。連続講演会の司会は田中陽子が務め、工芸、織物と分野別に解説。講演会の際、東北地方の工芸品の小展示も実施
60	フランス俳諧における歴史と今	パリ	パリ日本文化会館		2011.02.26	ドミニク・シポー(CHIPOT, Dominique: フランス俳句振興協会代表)と黛まどか(俳人)の対談。日仏両言語の観点から、俳句という形式や作法などの文化比較を展開
61	郷土料理セミナー「金沢ー加賀料理」	パリ	パリ日本文化会館	料亭・つば甚	2011.03.05	国際交流基金「日本文化紹介派遣(主催)」プログラムにより来仏した派遣専門家による、日本の郷土料理を紹介するシリーズ企画。今回は、創業1752年という由緒ある料亭「つば甚」の料理長・川村浩司が、金沢の郷土料理を実際に調理しながら解説
62	講演会「現代に生きる狂言ー古典の技術を現代に生かすー」	パリ	パリ日本文化会館		2011.03.10	野村萬斎が狂言に関し日々考えていることについて講演

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
63	ドキュメンタリー映画上映会 <i>Cinéma-rencontre</i>	パリ	パリ日本文化会館		2010.04.10～2010.07.10	『ご縁玉』『日本についての思考 心的イメージの詩』『選挙』『北海道から沖縄まで』『美輪明宏』(ドキュメンタリー制作助成対象事業)『チーズとうじ虫』『空とコムローイ』『刺青師 初代彫俊』『精神』『田名網敬一の肖像』『北辰斜めにさすところ(劇映画)』の11作品を上映。監督・プロデューサー等関係者が出演してトークショー等を計15回実施
64	映画試写会『アジアの漆』	パリ	パリ日本文化会館		2010.05.27	ドキュメンタリー映画『アジアの漆』(瀬戸桃子, 2010)の上映
65	助成映画試写会『レディ・サラシナ (Lady Sarashina)』	パリ	パリ日本文化会館		2010.06.01	日本の古典文学『更級日記』と、それを前衛的なタッチでオペラ風に劇作化したペーテル・エトヴェシュ(EÖTVÖS, Peter: 作曲家、指揮者)を追ったドキュメンタリー映画 <i>Lady Sarashina-PAYSAGE D'UNE FEMME</i> を試写会上映(本年度「日本理解促進映像制作(助成)」対象事業)
66	パリ・シネマ共催 山中貞雄作品 小特集	パリ	パリ日本文化会館	パリ・シネマ (Paris Cinéma)	2010.07.07～2010.07.09	パリ・シネマは、パリ市役所文化部直轄のパリ国際映画祭。2010年は日本をゲスト国とし、若い日本映画監督を一堂に集めて紹介した。パリ日本文化会館では連携企画として、山中貞雄(映画監督)の現存3作品、『丹下左膳余話 百万両の壺』(1935)、『河内山宗俊』(1936)、『人情紙風船』(1937)を小特集上映

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
67	小栗康平監督特集	パリ	パリ日本文化会館		2010.09.09 ~ 2010.09.18	小栗康平(映画監督)は、フランスにおいて『泥の河』(1980)及び『死の棘』(1990)の両作品により高く評価されたが、その後の同監督の活動についてはあまり知られていない状況に鑑み、パリ日本文化会館で全7作品を上映すると共に同監督を招へいし、各上映会の際、監督自身によるトーク・セッションを設けて彼の作風と芸術性をより広く紹介。またアントワーズ・パロー(BARRAUD, Antoine:映画監督)が撮った、小栗康平に関するインタビュー・ドキュメンタリー『夢の森(The Forest In Between)』(本年度「日本理解促進映像制作(助成)」対象事業)を併せて上映し、9月11日には両監督の対談を実施
68	FICEP外国文化週間上映会	パリ	パリ日本文化会館	パリ外国文化施設フォーラム(FICEP)	2010.09.24 ~ 2010.10.02	パリ外国文化施設フォーラム(Forum des Instituts Culturels Étrangers à Paris: FICEP)主催の外国文化週間を機会に、「日本の伝統文化・芸能」をテーマに、『宮古上布』『文楽への誘い』『狂言・野村萬蔵一技』など、パリ日本文化会館が所蔵する文化映画の中から30本を選定して上映
69	島津保次郎監督特集(知られざる監督シリーズ10)	パリ	パリ日本文化会館		2010.10.06 ~ 2010.10.16	「知られざる監督シリーズ」の第10弾として、フランスでは初めてとなる島津保次郎(映画監督)の7作品を特集上映
70	国際交流基金助成映画『島々が出会うとき』試写会	パリ	パリ日本文化会館		2010.10.22	国際交流基金の助成により完成した、日本とコルシカの音楽の出会いを描いたドキュメンタリー映画『島々が出会うとき(Quand les îles se rencontrent)』の試写上映を実施
71	現代映画特集 2000~2010	パリ	パリ日本文化会館		2010.10.27 ~ 2011.02.05	上映作品は、『北辰斜めにさすところ』『ブルー』『神童』『GO』『害虫』『カフカ 田舎医者』『めがね』『サッドヴァケーション』『ウォーターボーイズ』『マインド・ゲーム』『リンダ リンダ リンダ』『死者の書』『空中庭園』『明日の記憶』『14歳』『松ヶ根乱射事件』『運命じゃない人』『バッテリー』『カナリア』『ジャーマン+雨』『それでもボクはやってない』『ガラスのうさぎ』『21世紀の王さま』『蕨野行』『夢のままに』『東京タワー』
72	第5回KINOTAYO映画祭	パリ	パリ日本文化会館	KINOTAYO映画祭事務局	2010.11.20 ~ 2010.12.10	直近の1~2年のうちに制作された、最新の日本映画を紹介する映画祭。『BOX袴田事件 命とは』『谷中暮色』など20作品を上映
73	美術監督木村威夫追悼特集	パリ	パリ日本文化会館		2011.01.06 ~ 2011.01.20	『雁』(豊田四郎)『自分の穴の中で』(内田吐夢)『悪太郎』(鈴木清順)『花と怒涛』(鈴木清順)『春婦伝』(鈴木清順)『東京流れ者』(鈴木清順)『ツイゴイネルワイゼン』(鈴木清順)『夢のままに』(木村威夫)等、計16作品を上映

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
74	日本映画史を創った大手会社シリーズ 4：東宝の歴史	パリ	パリ日本文化会館		2011.02.08 ～ 2011.03.10	東宝作品計47本を上映。『人情紙風船』及び『怪談』の上映時には、専門家等によるプレゼンテーションを実施。『人情紙風船』については、藤田(龍谷大学助教授：11.02.08)が、『怪談』についてはブランドー(国立東洋言語文化研究所助教授：Institut national des langues et civilisations orientales：INALCO)がプレゼンテーション(11.02.11)を実施。 東日本大震災の発生(11.03.11)により、実施期間を短縮

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
75	図書館運営	2010.04.01 ～ 2011.03.31	現代日本の様相を知ると同時にその形成過程等を理解するために不可欠な資料(主に人文・社会科学及び芸術分野)を収集し、提供する図書館を運営 ①所蔵資料合計： 27,244点(視聴覚資料数を含む) ②利用者数(年間)： 14,716名 ③貸出点数(年間)： 3,727点 ④レファレンス件数(年間)： 3,351件 ⑤「図書館便り」作成部数： 4,500部(第33号から35号までの3号を発行)

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
76	ウェブサイト運営	2010.04.01 ～ 2011.03.31	パリ日本文化会館の施設案内、事業紹介、イベント告知、実施報告等を掲載 URL： http://www.mc.jp.fr/ アクセス件数(年間)： 208,777件 メールマガジン配信数(年間)： 6,934件

【教室事業】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
77	書道教室	パリ	パリ日本文化会館		2010.04.01 ～ 2011.03.10	漢字を基本とした指導を行い、書を通して日本文化に触れる機会を提供。毎週木曜日に実施
78	茶道デモンストレーション	パリ	パリ日本文化会館	裏千家本部、裏千家パリ駐在所	2010.04.07 ～ 2011.03.09	日本文化の代表の一つである茶道・お茶席の一部を見学した後、参加者に、抹茶とお茶菓子を実際に味わう機会を提供。毎週水曜日に実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
79	囲碁教室	パリ	パリ日本文化会館	フランス囲碁連盟、イル・ド・フランス囲碁リーグ、財団法人日本棋院	2010.04.10 ~ 2011.03.12	フランス囲碁連盟、イル・ド・フランス囲碁リーグ、日本棋院の協力のもとに継続している囲碁教室。子供・青少年が中心。毎週土曜日に実施
80	折り紙教室	パリ	パリ日本文化会館		2010.04.21 ~ 2011.02.23	子供を対象とした折り紙教室を実施
81	生花教室	パリ	パリ日本文化会館	イケバナ・インターナショナル	2010.05.04 ~ 2011.03.09	小原・草月・池坊の各流派から講師を迎え、生花を通じた日本文化を体験する。毎期始めに館内で展示会・デモンストレーションを開催。展示会では広く一般に生花を鑑賞して貰い、デモンストレーションではそれぞれの流派の特徴を理解し、流派選択の一助とする。毎週火・木曜日開講。各流派とも各期6回実施
82	俳句入門講座	パリ	パリ日本文化会館		2010.05.04 ~ 2011.03.23	文化庁・文化交流使としてフランスに滞在中の黛まどか（俳人）による俳句の入門講座。春季は講座8回（日本語）、秋季は句会4回（日本語）及びレクチャー7回（仏語逐次通訳付）、冬季は句会3回（日本語）及びレクチャー3回（仏語逐次通訳付）をそれぞれ実施
83	茶道教室	パリ	パリ日本文化会館	裏千家パリ駐在所	2010.05.05 ~ 2011.03.09	茶道の基本となる立ち居振る舞い、道具の扱いを学びつつ、茶道の精神に触れ、実際にお点前を学ぶ。毎期2カ月、2コース開講
84	漫画入門集中講座	パリ	パリ日本文化会館		2010.07.06 ~ 2010.07.10	漫画入門講座。14歳から受講可。本年度から夏季休校期間を利用した1週間集中講座のみ提供。2時間の授業を全5回。講師は、JMケン・ニイムラ（日系スペイン人アーティスト）他。イラストの描き方やストーリーボードの作り方など、漫画の基礎を学習する講座。対象者の若年化を図る事業のひとつ

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
85	JAPAN EXPO への参加	パリ	パリ・ノール・ヴィルパント見本市会場	在フランス大使館	2010.07.01 ~ 2010.07.04	JAPAN EXPO は、1999年にフランス人青年達が始めた漫画や伝統及び現代の日本文化を紹介するイベント。ヨーロッパ最大級の日本文化とエンターテインメントの祭典。パリ日本文化会館は、会場内にブースを出展。日本語学習サイト紹介、日本語学習・文化事業全般の情報提供等を行った。また在フランス大使館による「日本総合紹介ステージ」の一環としてステージにも参加。和太鼓演奏、日本語学習奨励プレゼンテーションを実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
86	「トリオ・ミヤザキ」箏・アコーディオン・ヴァイオリンコンサート <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	チャナッカレ (トルコ) アンカラ (トルコ)	チャナッカレ 大学 アンカラ芸術 高校	在イスタン ブール総領事 館 在トルコ大使 館	2010. 09. 27 ～ 2010. 09. 29	箏曲演奏家でボルドーを拠点に活動するミヤザキ・エミコが、1990年代から協演しているモリス・ブルーノ (BRUNO, Maurice: アコーディオン)、マニュエル・ソラン (SOLANS, Manuel: ヴァイオリン) と共に、日・仏・トルコ民謡やオリジナル曲によるコンサートを実施。アンカラ芸術高校では、ワークショップも行う。2010年トルコにおける日本年関連事業のひとつとして実施
87	谷口光代・箏コンサート <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	アルジェ (アルジェリ ア)	アルジェ・フ ランス文化セ ンター	在アルジェリ ア大使館	2010. 11. 13 ～ 2010. 11. 16	フランス在住の箏演奏家・谷口光代をアルジェリアに派遣して、コンサート (10. 11. 14) を実施
88	居合道レクチャー・デモンストレーション <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	バーレーン (バーレーン) クウェート (クウェート) アブダビ (アラブ首長国 連邦)	文化ホール ガルフ大学 講堂 アブダビ・レ スリング・柔 道・柔術連盟 道場	在バーレーン 大使館 在クウェート 大使館 在アラブ首長 国連邦大使館	2011. 02. 11 ～ 2011. 02. 17	居合道の専門家、松浦真人、ブルーモ・マラン (MARIN, Brumo) の2名を中東3カ国に派遣し、デモンストレーション (11. 02. 12バーレーン、11. 02. 13クウェート、11. 02. 16アブダビ) 及びワークショップ (11. 02. 13～14クウェート) を実施。日本・クウェート国交樹立50周年記念事業のひとつとして実施

(2) 助成・協力事業

【会場提供】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
89	講演会「日本文学のフランス語訳における現状と未来」	JETプログラム同窓会(JETAA)	2010. 05. 21	JETプログラム参加者の同窓会 (JET Alumni Association: JETAA) が企画した講演会「日本文学のフランス語訳における現状と未来」に対し、パリ日本文化会館小ホールの施設を提供
90	HEC日本酒セミナー	HEC経営大学院 (Ecole des hautes études du commerciales)	2010. 06. 22	HEC経営大学院から要望のあった日本酒セミナー開催のため、パリ日本文化会館施設を提供
91	JETプログラム オリエンテーション・壮行会	在フランス大使館	2010. 07. 06	平成22年度語学指導等を行う外国青年招致事業 (JETプログラム) で日本に派遣される参加者に対するオリエンテーション及び過去の参加者・関係者との壮行会を実施するに際し、パリ日本文化会館レセプションホール施設を提供
92	講演会「ル・コルビュジェの屋上庭園—その影響を受けた日本の現代建築」	Réseau JAPARCHI	2010. 10. 05 ～ 2010. 10. 06	Japarchiが主催する千代章一郎 (広島大学准教授) の講演会 (10. 10. 05) 及び勉強会 (10. 10. 06) に対し、パリ日本文化会館レセプションホール施設を提供

海外拠点

	事業名	対象機関	期間	事業内容
93	シンポジウム「京都 ― 二つの顔」	京都工芸繊維大学	2010. 11. 02	京都工芸繊維大学主催「京都 ― 二つの顔」シンポジウムに対し、パリ日本文化会館小ホール施設を提供
94	野村生涯教育国際フォーラム・レセプション	野村生涯教育センター	2010. 11. 09	ユネスコ（UNESCO）本部で行われる生涯教育国際フォーラム2日目のレセプション部分をパリ日本文化会館にて実施
95	留学生説明会	在フランス大使館	2011. 03. 09	大使館主催の文部科学省国費留学希望者のための説明会に、パリ日本文化会館大ホールを施設提供

海外拠点

ソウル日本文化センター

合計額 145,646,144 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	ソンパ子ども図書館 いわさきちひろ展	ソウル	ソンパ子ども 図書館	ソンパ子ども 図書館 いわさきちひろ 記念事業団	2010.03.17 ~ 2010.04.07	いわさきちひろ記念事業団及びソンパ子ども図書館との共催により、いわさきちひろの作品を展示し、日本の絵本の芸術性・魅力を紹介する機会を提供。いわさきちひろが残した、子供や少女を描いた作品、絵本に使われた作品など代表作30点を、最先端のデジタル技術で複製されたピエゾグラフで紹介
2	霊岩（ヨンアム）王仁文化祝祭 — 世界文化遺産写真展	霊岩（ヨンアム）郡	王仁博士遺跡 地内ヨンウォ ル館	霊岩（ヨンアム）郡庁	2010.04.03 ~ 2010.04.06	1600年前に日本に渡り、日本に初めて『論語』と漢字を伝えたとされる王仁博士に関する霊岩（ヨンアム）郡庁主催の祭典にて、韓国と日本の世界文化遺産写真パネルを展示
3	インターナショナル・フェスティバル — 浮世絵展	水原	京畿水原外国人学校図書館	京畿水原外国人学校	2010.05.11 ~ 2010.05.21	ソウル日本文化センターの所蔵作品である浮世絵を展示し、京畿水原外国人学校に通う韓国人師弟を含む小・中・高校生に日本文化を紹介
4	安養いわさきちひろ展	安養	安養ロッテデパート・ギャラリー	安養ロッテデパート・ギャラリー いわさきちひろ記念事業団	2010.07.15 ~ 2010.08.02	いわさきちひろ記念事業団及び安養ロッテデパート・ギャラリーとの共催により、いわさきちひろの作品を展示し、日本の絵本の芸術性・魅力を紹介する機会を提供。いわさきちひろが残した、子供や少女を描いた作品、絵本に使われた作品など代表作40点を、最先端のデジタル技術で複製されたピエゾグラフで紹介
5	大田いわさきちひろ展	大田	大田ロッテデパート・ギャラリー	いわさきちひろ記念事業団 大田ロッテデパート・ギャラリー	2010.08.05 ~ 2010.08.18	いわさきちひろ記念事業団及び大田ロッテデパート・ギャラリーとの共催により、いわさきちひろの作品を展示し、日本の絵本の芸術性・魅力を紹介する機会を提供。いわさきちひろが残した、子供や少女を描いた作品、絵本に使われた作品など代表作40点を、最先端のデジタル技術で複製されたピエゾグラフで紹介
6	安養ロッテギャラリー永井一正展	安養	安養ロッテデパート・ギャラリー	安養ロッテデパート・ギャラリー	2010.09.10 ~ 2010.09.27	生命尊重の思想に基づいた、永井一正（グラフィックデザイナー）の作品100点を安養で紹介。平成20年度にソウル日本文化センターが企画展示した「永井一正展」を、韓国国内に巡回
7	昌原 JAPAN WEEK — いわさきちひろ展	昌原	ソンサンアートホール	在釜山総領事館 いわさきちひろ記念事業団	2010.10.01 ~ 2010.10.09	昌原 JAPAN WEEK の一環として、「世界中の子供みんなに平和と幸せを」という言葉を残した、いわさきちひろの代表作40点を、最先端のデジタル技術で複製したピエゾグラフで紹介
8	昌原 JAPAN WEEK — 浮世絵展	昌原	ソンサンアートホール	在釜山総領事館	2010.10.01 ~ 2010.10.09	昌原 JAPAN WEEK の一環として、ソウル日本文化センター所蔵の複製版浮世絵を展示。浮世絵を通じて日本の風景を韓国市民に紹介

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
9	ART EDITION 2010 ― 浮世絵展	釜山	BEXCO	韓国版画写真振興協会 釜山日報	2010. 10. 06 ～ 2010. 10. 10	15年の歴史を持つ韓国版画写真振興協会が実施するアートフェアに、ソウル日本文化センター所蔵の浮世絵複製版を展示。同フェアには、13カ国、58の関連機関（国内44・海外14）、350名の作家が参加
10	清涼里ロッテギャラリーいわさきちひろ展	ソウル	清涼里ロッテデパート・ギャラリー	いわさきちひろ記念事業団 清涼里ロッテデパート・ギャラリー	2010. 10. 19 ～ 2010. 11. 01	いわさきちひろ記念事業団及び清涼里ロッテデパート・ギャラリーとの共催により、いわさきちひろの作品を展示し、日本の絵本の芸術性・魅力を紹介する機会を提供。いわさきちひろが残した、子供や少女を描いた作品、絵本に使われた作品など代表作40点を、最先端のデジタル技術で複製されたピエゾグラフで紹介
11	「ソウル・北京・東京：3都市の原形と保存」展 ― 浮世絵展	ソウル	ソウル歴史博物館	ソウル歴史博物館 東京都江戸東京博物館 北京首都博物館	2010. 11. 03 ～ 2010. 12. 10	ソウル・北京・東京の3都市について、形成と構造、都市の原形、歴史的な変遷過程、破壊の過程、最近の歴史文化保存のための政策と主要事例などを相互比較する展示会。ソウル日本文化センター所蔵の複製版浮世絵も併せて展示
12	いわさきちひろ美術館コレクション展	大邱	慶北大学校美術館	慶北大学校美術館 いわさきちひろ記念事業団	2010. 11. 08 ～ 2010. 12. 10	いわさきちひろ記念事業団及び慶北大学校美術館との共催により、いわさきちひろの作品を展示し、日本の絵本の芸術性・魅力を紹介する機会を提供。いわさきちひろが残した、子供や少女を描いた作品、絵本に使われた作品など代表作40点を、最先端のデジタル技術で複製されたピエゾグラフで紹介。「日本の絵本の歴史」展も同時開催
13	ソウルスクウェア・メディアキャンバス・J-Kコラボレーション・プロジェクト	ソウル	ソウルスクウェア	ガナアートセンター 在韓国大使館	2011. 02. 08 ～ 2011. 03. 31	日韓のメディア・アーティスト、赤松正行とヤン・ミナ、真鍋大度とミウン（MIOON）が2つのグループに分かれ、それぞれが共同制作したメディアアート作品をソウル駅前のビル「ソウルスクウェア」の壁面に掲出。高さ78m、幅99mの巨大キャンバスに42,000個のLEDを使用して放映される作品をソウル市民に披露。「主要都市向け戦略的文化集中発信プロジェクト（日韓新時代：未来へのコラボレーション）」事業のひとつとして実施
14	水原JAPAN DAY ― 日韓世界遺産写真展	水原	水原華城博物館	在韓国大使館 水原華城博物館	2011. 03. 10 ～ 2011. 04. 03	水原JAPAN DAYの一環としてソウル日本文化センター所蔵の日韓世界遺産写真パネルを用い、日本文化に接する機会の少ない地方都市である水原で展示会を開催。「主要都市向け戦略的文化集中発信プロジェクト（日韓新時代：未来へのコラボレーション）」事業のひとつとして実施

海外拠点

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
15	第3回日韓若手音楽家交流コンサート <i>From SWITZERLAND</i>	ソウル	セラミック・パレスホール	若手音楽家育成アヤメ基金 日韓若手音楽家交流演奏会委員会	2010. 09. 02	スイスで学ぶ日韓の才能溢れる若手演奏者たちの交流演奏会をそれぞれの母国である韓国と日本で開催。音楽を通じた日韓の若い世代の交流を促進。ソウル日本文化センターは韓国での公演を共催
16	日韓伝統音楽交流演奏会「和」	ソウル	在韓国大使館	在韓国大使館	2011. 01. 25	「日韓新時代：未来へのコラボレーション」事業の一環として、日本側から富元清英（琴）、吉岡龍見（尺八）、韓国側からイ・セファン（カヤグム）、ソ・チョンゴン（チャング）らが参加し、それぞれの特徴を活かして日韓の伝統楽器で協演
17	ティコボ (<i>Ticobo</i>) 韓国巡回 <i>Eco</i> コンサート	ソウル 大邱 釜山 光州 済州	ソウル松田小学校、九老アートバレー 大邱教育大学校付属小学校 釜山新世界センタムシティ ノンソン小学校、光州障害者総合福祉館 ソルムンデ女性文化センター	ノリダン、九老文化財団、在韓国大使館 在釜山総領事館 在釜山総領事館、釜山新世界センタムシティ 光州障害者総連合会、在韓国大使館 在済州総領事館	2011. 02. 05 ～ 2011. 02. 17	「日韓新時代：未来へのコラボレーション」事業の一環として、日本で廃品打楽器集団として活躍するティコボを韓国に招へいし、同じく韓国で廃品打楽器集団として活動しているノリダンとソウルで協演。小学校訪問を中心として、大邱、釜山、光州、済州にも巡回公演を行うことで、韓国市民、子供たちに日本の廃品リサイクル文化活動を紹介し、日本理解を促進
18	『焼肉ドラゴン』公演	ソウル	芸術の殿堂 土月劇場	芸術の殿堂 財団法人新国立劇場運営財団	2011. 03. 09 ～ 2011. 03. 20	「日韓新時代：未来へのコラボレーション」事業の一環として、財団法人新国立劇場運営財団、芸術の殿堂との共催で、鄭義信脚本・演出の『焼肉ドラゴン』を再演。在日コリアンの家族愛をテーマとした日韓の共同制作作品を、日本と韓国で上演することにより両国の交流を強化

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
19	三橋貴風尺八ワークショップ 1	ソウル	ソウル日本文化センター		2010. 05. 26	元・文化庁文化交流使の三橋貴風（尺八）がソウル日本文化センターの日本語講座受講生を対象として、尺八の吹き方を日本語で教えるワークショップを開催

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
20	三橋貴風尺八ワークショップ 2	ソウル	ソウル日本文化センター		2010. 09. 15	元・文化庁文化交流使の三橋貴風（尺八）がソウル日本文化センターの日本語講座受講生を対象として、尺八の吹き方を日本語で教えるワークショップを開催
21	2010国立現代美術館国際企画展 Made in Popland 国際学術シンポジウム	果川	国立現代美術館	国立現代美術館	2011. 01. 27	国際企画展 <i>Made in Popland</i> は、日中韓の代表的作家によるポップアート展（会期：2010. 11. 08～2011. 02. 20）。ソウル日本文化センターは、1月開催の国際シンポジウムを共催し、建昌哲（京都市立芸術大学学長）を招へい
22	2011日本音楽情報センター（JMIC）シンポジウム	ソウル	在韓国大使館 公報文化院	在韓国大使館 音楽産業・文化振興財団	2011. 02. 24	「日韓新時代：未来へのコラボレーション」事業の一環として、「日韓アイドル・グループの成功戦略の診断と展望」と題して、石原真（NHKプロデューサー）やシン・ジョンス（MBC文化放送プロデューサー）、チョン・チャンファン（SMエンターテインメント理事）などが参加するシンポジウムを開催

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
23	『折り梅』無料上映会	ソウル、水原、城南、木浦、光州など全国11都市	松坡老人総合福祉館、城南市ホスピスセンター、光州楓岩洞聖堂など全国33カ所	韓国痴呆家族協会	2010. 04. 01 ～ 2011. 03. 31	高齢化社会に対する認知度や映像による日本文化への理解の深化をはかるため、韓国痴呆家族協会の全国ネットワークと連携し、認知症をテーマとしたソウル日本文化センター所蔵の映画『折り梅』を上映
24	ソウルアートシネマ日本映画傑作定期無料上映会	ソウル	ソウルアートシネマ	韓国シネマテーク協議会	2010. 04. 12 ～ 2011. 03. 11	韓国シネマテーク協議会との共催でソウル日本文化センター所蔵フィルムライブラリーを活用し、ソウルアートシネマにて無料上映会を開催。事業実施3年目を迎え、1960年代から80年代の日本映画黄金期の作品を中心に月1回上映
25	日本映画の黄金期への旅	坡洲（パジュ）	芸術専用映画館シーナスイチェ	シーナスAT9	2010. 04. 26 ～ 2011. 03. 07	シーナスAT9との共催でソウル日本文化センター所蔵フィルムライブラリーを活用し、坡洲（パジュ）にて無料上映会を開催。『檀山節考』『コミック雑誌なんかいない』『ゆきゆきて、神軍』『伝説の舞姫 崔承喜』『ALWAYS 三丁目の夕日』などの作品を上映
26	訪ねていく日本映画無料上映会 1	済州	済州島内各地	済州特別自治道海女博物館	2010. 05. 01 ～ 2010. 05. 24	済州道出身の在日コリアン海女の姿を描いたドキュメンタリー映画『海女のリャンさん』を済州道内各地で上映
27	黒澤明生誕100周年特別映画祭	ソウル ソウル 釜山	韓国映像資料院 フィルム・フォーラム シネマテーク釜山	韓国映像資料院 フィルム・フォーラム シネマテーク釜山	2010. 07. 01 ～ 2010. 08. 29	国際交流基金が所蔵する黒澤明（映画監督）の20作品を韓国映像資料院、フィルム・フォーラム、シネマテーク釜山と共催で巡回上映（ソウルでは共催機関が用意した3作品を追加上映）。仲代達矢、野上照代、林海象など、同監督と縁の深い映画人を招へいし、韓国の映画人や観客との対話事業を実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
28	第11回障害者映画祭	ソウル	放送会馆2階ブロードホール	韓国聾啞人協会	2010. 10. 18 ~ 2010. 10. 22	身体の不自由な人をテーマに、韓国映画を主に紹介する映画祭。2010年からは海外映画の紹介を始めたため、ソウル日本文化センター所蔵の『アイ・ラブ・ユー』『アイ・ラブ・フレンズ』を上映
29	訪ねていく日本映画無料上映会 2	済州	済州島内各地	済州特別自治道海女博物館	2010. 11. 04 ~ 2010. 12. 08	済州道出身の在日コリアン海女の姿を描いたドキュメンタリー映画『海女のリャンさん』を済州道内各地で上映
30	我らの時代のアジア映画特別展	ソウル	ソウルアートシネマ	韓国シネマテーク協議会	2010. 11. 10 ~ 2010. 11. 28	1990年以降に制作されたアジア映画（日本、中国、タイ、カンボジア、マレーシアなど）のうち、韓国国内であまり知られていない優れた映画20本を紹介。ソウル日本文化センター所蔵フィルムライブラリーから河瀬直美（映画監督）の『につつまれて』（1992）『かたつもり』（1997）を上映
31	第7回メガボックス日本映画祭	ソウル	メガボックス新村	メガボックス ジャパン・イメージ・カウ ンシル 文化庁	2010. 11. 17 ~ 2010. 11. 21	メガボックス、ジャパン・イメージカウンスル、文化庁との共催により日本映画特集上映会を実施。日本のアニメーションの多様性を紹介する長短編16プログラム、全75作品の上映に加え、日韓アニメーション専門家による「日本アニメーション-多様性の秘密」と題したシンポジウムを開催
32	ジャパンファウンデーション映画祭	ソウル	アートハウスMOMO		2010. 12. 16 ~ 2010. 12. 23	映画社白頭大幹とシネカノン・コリアの協力を得て、国際交流基金本部フィルムライブラリー、ソウル日本文化センター所蔵フィルム、シネカノン・コリアが上映権を持つフィルム計47本を上映。黒澤明監督特集、阪本順治監督特集のほか、オープニング作品として『歓喜の歌』（松岡錠司、2007）を韓国初上映
33	韓国国際交流財団日本映画特別上映会	ソウル	韓国国際交流財団文化センター映像室	韓国国際交流財団	2011. 02. 07 ~ 2011. 03. 30	「WA：現代日本のデザインと調和の精神」展と併せて、ソウル日本文化センター所蔵フィルムライブラリーの中から、『選挙』『森の学校』などDVD作品23本を2カ月間、週3回無料で上映。本上映会も「主要都市向け戦略的文化集中発信プロジェクト（日韓新時代：未来へのコラボレーション）」事業の一環として実施
34	ジャパニメーション無料上映会	富川（プチョン）	韓国漫画映像振興院ミュージアム奎章閣デジタル劇場	韓国漫画映像振興院	2011. 02. 13 ~ 2011. 02. 20	ソウル日本文化センターが所蔵するアニメーション映画『NITABOH』『ピアノの森』『雲のむこう、約束の場所』『秒速5センチメートル』の上映を通じて日本のアニメーション文化を富川市民に紹介

海外拠点

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
35	図書館（文化情報室）運営	2010.04.01 ～ 2011.03.31	<p>ソウル日本文化センターの文化情報室は、日本文化紹介のための図書館として、日本の社会・歴史、文化芸術、日本語教育、日韓交流を中心とした書籍や雑誌、新聞、視聴覚資料（ビデオ/DVD/CD等）を収集・提供。ソウル日本文化センターが2009年11月にソウル市内の官庁街から若者で賑わう新村（シンチョン）へ移転したことに伴い、若者向け資料の充実など、機能拡充を開始</p> <p>①所蔵資料合計： 21,920点 （内訳：書籍15,578冊、雑誌62種1,733冊、その他751点、視聴覚資料3,858点）</p> <p>②利用者数（年間）： 15,671名 ③貸出点数（年間）： 16,283点 ④レファレンス件数（年間）： 1,242件 ⑤図書館用リーフレット作成： 韓国語版1万部、日本語版5千部を作成</p>

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
36	ウェブサイトの運営・ニューズレターの発行	2011.04.01 ～ 2012.03.31	<p>ソウル日本文化センター及び国際交流基金事業を紹介するウェブサイトの管理やメールマガジンを毎月配信。メールマガジン配信時には日本語学習者向けの『カチの声』も同時に発行</p> <p>URL: http://www.jpff.or.kr/ アクセス件数(年間)：2,393,863件 メールマガジン配信数(年間)：204,611件 ニューズレター発行部数(年間)：204,611部(年12回)</p>

【その他】

	事業名	期間	事業内容
37	国際交流基金日本研究フェロー・フォローアップ事業「JFとともに」（フェロー追跡調査）を連載	2010.10.01 ～ 2011.03.31	<p>国際交流基金の日本研究フェローに対するフォローアップとその後の研究状況の追跡調査を兼ねて、ソウル日本文化センターのウェブサイト連載企画である「JFとともに」の執筆を韓国人元フェローに依頼し年間5回掲載</p>

海外拠点

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
38	人人人シリーズフォーラム	トゥサンアートセンター	2010. 04. 20	日中韓の演劇をシリーズで上演し、それぞれの原作者を招へい、日中韓3カ国の現代演劇の変化と社会との関係を考察するフォーラムを開催。日本からは平田オリザ（劇作家）が招へいされ、『眠れない夜なんてない』を上演。ソウル日本文化センターは同氏の招へい費を助成
39	第26回檀国大学校日本研究所学術シンポジウム 「韓日大衆文化と戦争表象」	檀国大学校日本研究所	2010. 04. 23	世界共通の課題である戦争問題に焦点を当て、日韓の両国民は戦争をどう把握していたかを、近代戦争を中心に大衆の視点から検討する学術会議。ソウル日本文化センターは上野元（筑波大学教授）の招へい費を助成
40	第11回全州国際映画祭	全州国際映画祭組織委員会	2010. 04. 29 ～ 2010. 05. 07	2010年で11回目を迎える全州映画祭において、モントリオール国際映画祭の最優秀監督賞を受賞した『ヴィヨンの妻』や国内外で高い評価を集める『イエローキッド』など長編12本、短編1本を上映。根岸吉太郎（映画監督）など8名の映画関係者が訪韓。ソウル日本文化センターは根岸吉太郎ほか計4名の招へい費を助成
41	劇団態変 体験ワークショップ	劇団態変	2010. 05. 03 ～ 2010. 05. 06	身体障害者自身による演劇発表を目指したワークショップ。劇団態変のメンバーが訪韓、韓国側スタッフと協力しながら身体障害者に対する4日間のワークショップを開催、最終日には小作品を発表。ソウル日本文化センターは劇団員6名の招へい費を助成
42	歌の旅人 故・呉鉉明1周忌追悼音楽会 ― 再び歌いたい歌	故・呉鉉明1周忌追悼音楽会運営委員会	2010. 06. 13	韓国の声楽に大きな発展をもたらした故・呉鉉明の1周忌を迎えて、日韓の声楽界の弟子たちによる追悼音楽会を開催。ソウル日本文化センターは戸田志香ほか日本人参加者5名の招へい費を助成
43	2010国際家具デザインワークショップ	弘益大学校美術大学木造形家具学科	2010. 06. 15 ～ 2010. 06. 19	家具デザイン分野で有名な弘益大学校美術大学木造形家具学科が毎年実施しているワークショップ。2010年には欧州で活躍する細江勲（プロダクトデザイナー）を招へい。ソウル日本文化センターは同氏の招へい費を助成
44	韓国日語日文学会2010年度夏期国際学術大会	韓国日語日文学会	2010. 06. 19	小峰和明（立教大学教授）による「竜宮と冥界：『志度寺縁起』を中心に」と題する基調講演と、日本語、日本語教育、日本文学、日本学の各分科会での個別学術発表からなる学会を開催。ソウル日本文化センターは同氏の招へい費を助成
45	韓国パッケージデザイン協会サマーキャンプ	韓国パッケージデザイン協会	2010. 06. 26 ～ 2010. 06. 28	韓国パッケージデザイン協会主催で毎年実施されるデザイン関連学科の学生を対象としたサマーキャンプで、キム・サンユル（ブランド開発会社代表）の講義やワークショップを開催。ソウル日本文化センターは、施設利用料を助成し、キャンプ参加者に対し日韓パッケージデザインコンテストの案内及び広報を実施

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
46	国際交流セミナー 2「劇作家ワークショップ」	釜山市立劇団	2010.07.05 ～ 2010.07.06	日本を代表する劇作家である坂手洋二、畑澤聖悟を招き、創作活動と劇作家の育成、釜山での創作活動についてのワークショップを開催。ソウル日本文化センターは畑澤の招へい費及び通訳費を助成
47	第12回ソウル国際青少年映画祭	ソウル国際青少年映画祭組織委員会	2010.07.08 ～ 2010.07.14	世界39カ国の134作品を上映。日本からは諏訪敦彦、けんもち聡の2名の映画監督が来韓。ソウル日本文化センターは2名の招へい費を助成
48	全国地域児童センター青少年連合トンアリ・フェスティバル	ブスロギサランナム会	2010.08.17 ～ 2010.08.19	韓国全土の地域児童センターや日本児童健全育成推進財団から実務者及び青少年が参加し、両国の児童センターブース運営、ワークショップなどを通して、青少年事業への理解の深化を図るプロジェクトを開催。ソウル日本文化センターは依田秀任（児童健全育成推進財団事務局長）ほか3名の招へい費を助成
49	第4回シネマデジタルソウル映画祭	シネマデジタルソウル組織委員会	2010.08.18 ～ 2010.08.24	アジア新人監督のデジタル映画中心のコンペ映画祭。日本からは9作品が出品され、稲葉祐介、坪田義史の2名の映画監督、勝田友巳（『毎日新聞』記者）が審査委員として訪韓。ソウル日本文化センターは稲葉と勝田の招へい費を助成
50	第25回韓日経済経営国際学術大会	韓日経商学会	2010.08.18 ～ 2011.08.20	日韓両国にとって課題となっている、日韓経済協力のあり方について学術的また実務的側面から討議する学術大会を開催。ソウル日本文化センターは小玉敏彦（千葉商科大学教授）、笠井信幸（アジア経済文化研究所理事）、伊東和久（県立広島大学教授）ほか計7名の招へい費を助成
51	The Birth of a Tale展	Gallery FACTORY	2010.09.07 ～ 2010.10.03	日本と韓国の現代美術ギャラリーの共同企画。日本で注目を集める3名のアーティスト、さとうりさ、梶井照陰、青木陵子が参加。自然環境に対する敬意を作品化する日本人の作品制作姿勢を韓国に紹介。ソウル日本文化センターは3名分の招へい費を助成
52	ONODERA Yuki 写真展	ハンミ写真美術館	2010.09.11 ～ 2010.12.04	世界的に有名な写真作家オノデラ・ユキの作品展とアーティスト・トークを実施。青田由美（美術評論家）による講演会「日本現代写真の理解」も同時開催。ソウル日本文化センターは2名の招へい費を助成
53	第13回富川国際マンガフェスティバル&第11回国際漫画家大会	韓国マンガ映像振興院	2010.09.15 ～ 2010.09.19	日中韓3カ国の『三国志』の漫画家と、富川マンガ賞、海外作家賞を受賞した3カ国の漫画家を紹介。ソウル日本文化センターは日本から参加した里中満智子（漫画家）、樹林伸（漫画原作者）ほか漫画家、編集者計4名の招へい費を助成
54	延世日本学プロジェクト	延世大学校国際学大学院	2010.09.16 ～ 2011.03.29	延世大学校の日本学専攻学生を主たる対象にした特別講演シリーズを開催。日本及びアメリカから、宮島喬（法政大学教授）、竹沢泰子（京都大学教授）、エドワード・マック（ワシントン大学教授）ほかの日本研究者を招へいし、特別講演を実施。ソウル日本文化センターは3名の招へい費を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
55	ローカルフード料理ワークショップ — 2010ソウル青少年創意サミット	オーガニゼーション料理	2010. 10. 06 ~ 2010. 10. 09	ハジャセンター（ソウル市立青少年職業体験センター）主催の2010青少年創意サミットのプログラムのひとつとして社会的企業「オーガニゼーション料理」が日本から中原一歩（東京ローカルレストラン・プロジェクトリーダー／ノンフィクションライター）を招へいし、ワークショップを開催。ソウル日本文化センターは同氏の招へい費を助成
56	<i>Swift Sweets</i> 滞在制作&公演	LIG文化財団	2010. 10. 07 ~ 2010. 10. 08	劇団パパ・タラフマラが、日本、インドネシア、韓国で共同制作を行うスウィフト・プロジェクトの第3弾として日韓の俳優による共同制作を行い、ソウル国際ダンスフェスティバルの招へい作品として上演。ソウル日本文化センターは小池博史などパパ・タラフマラの劇団員3名の招へい費を助成
57	「バロックと20世紀のハーブシコード音楽」公演	漢陽大学音楽研究所	2010. 10. 12	バロック音楽と20世紀のチェンバロ音楽を中心とした公演。ソウル日本文化センターは、桐山建志（ヴァイオリン）、前田りり子（フルート）、櫻井茂（ヴィオラ）の招へい費を助成
58	国連統一売買法施行30周年記念学術学会	全南大学校法学研究所	2010. 10. 26 ~ 2010. 10. 27	グローバル経済が拡大する中で、東アジア域内における経済活動の活性化に重要な意義を持つ「東アジア契約法」を巡り、国連統一売買法（CISG）に関し、韓国、日本、中国、台湾、オランダから研究者が参加し討論。ソウル日本文化センターは松岡久和（慶應義塾大学教授）、北居功（慶應義塾大学教授）、鹿野菜穂子（慶應義塾大学教授）、中田邦博（龍谷大学教授）の招へい費を助成
59	第5回国際大学生平和映画祭	江原文化財団	2010. 10. 27 ~ 2010. 10. 31	江原道唯一の映画祭として韓国内外の学生が制作した優れた作品を紹介。ソウル日本文化センターは、地方における日韓交流を促進するため、松永大司（映画監督）と在日コリアン、パク・ヨンイ（映画監督）の招へい費を助成
60	第4回ソウル国際家族映像祭	ソウル国際家族映像祭組織委員会	2010. 10. 27 ~ 2010. 11. 02	「愛すれば家族です」をキャッチフレーズに、世界30カ国120本の優れた家族向け映画を紹介。ソウル日本文化センターは『8月のシンフォニー』の西澤昭男、『カラフル』の原恵一、『食堂かたつむり』の富永まい、3名の映画監督の招へい費を助成
61	G20映画祭	韓国多様性映画発展協議会	2010. 10. 28 ~ 2010. 11. 03	G20首脳会合が、韓国で開催されるのを記念して行なわれた映画祭。ソウル日本文化センターは『パーマメント野ばら』の吉田大八（映画監督）の招へい費を助成し、広報に協力
62	第12回富川国際学生アニメーションフェスティバル	富川国際学生アニメーションフェスティバル組織委員会	2010. 11. 05 ~ 2010. 11. 09	韓国内のアニメーション関係学科が中心となる学生専門のアニメーション映画祭。ソウル日本文化センターは、開幕作品REDLINEの木村大輔プロデューサー、コンペ審査委員の赤井孝美プロデューサー、水江未来（映画監督）の招へい費を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
63	2010 秋季学術シンポジウム	韓国日本近代文学会	2010. 11. 06	「大江健三郎と日本近代文学」を主題として日本から招へいた柴田勝二（東京外国語大学教授）の基調講演「大江健三郎と民主主義」及び韓国の専門家の研究発表、日韓の研究者間の総合討論を実施。ソウル日本文化センターは同氏の招へい費を助成
64	第216次外交通商政策研究イベント「最近の東北亜情勢と韓日関係展望」	亜太政策研究院	2010. 11. 18	武藤正敏（在韓国大使）及び政界、官界、学界、財界、マスコミ、在韓外交団など14カ国から専門家が参加し、日韓協力関係の増進と北東アジアの平和のための討論を実施。ソウル日本文化センターは資料作成費、通訳費を助成
65	キム・ソヨン帰国リサイタル	聖潔大学校	2011. 01. 13	第1回日韓若手音楽家交流コンサートに出演したキム・ソヨン（パイプオルガン奏者）がスイスから帰国したことを記念するリサイタル。2名の日本人コルネット奏者、濱田芳道と細川大輔との共演でバロック音楽を演奏。ソウル日本文化センターは2名の招へい費を助成
66	第4回『雪国』文化紀行	大山文化財団	2011. 01. 19 ～ 2011. 01. 29	教保文庫会員など日本文学に関心を持つ韓国人25名が川端康成の『雪国』ゆかりの地を訪問し、日本の作家との対話を通して日本理解を深める機会を提供。ソウル日本文化センターは講演者である片山恭一（作家）の日本国内旅費を助成
67	B-boyスクリーニング及びB-boyパフォーマンス	オバン色プロジェクト	2011. 01. 25	B-boy文化へのオマージュとして作られたドキュメンタリー映画『プラネットB-boy』（監督：ベンソン・リー）の上映後、実際に出演した日本、韓国、フランス、アメリカのB-boyチームによるバトル公演を開催。ソウル日本文化センターは土屋祐輔を始めとする日本チーム2名分の招へい費を助成
68	日韓文化交流講演会「俳句ライブ」	ソウル俳句会	2011. 03. 05	夏井いつき（俳人）が講演を行い、日本語を学ぶ学生、社会人と共に日韓合同「俳句ライブ」を実施。ソウル日本文化センターは同氏の招へい費を助成
69	Takagi Masakatsu YMENE Tour in Seoul	ギャラリーPost Poetics	2011. 03. 08 ～ 2011. 03. 20	美術と音楽の両方から人間の感性に訴える高木正勝の「YMENEツアー」。ピアノ独奏とともに映像を上映し、メディアアートの新しい試みを韓国市民に紹介。ソウル日本文化センターは同氏の招へい費を助成
70	チェルフィッチュ Hot Pepper, Air Conditioner and the Farewell Speech 公演	フェスティバルBOM	2011. 03. 24 ～ 2011. 03. 26	演劇カンパニー、チェルフィッチュを主宰する岡田利規がフェスティバルBOMと国立劇団の招へいを受け、新しく開館したペクソンヒ・ジャンミンホ劇場にて海外劇団として初めてフェスティバル開幕作を上演。ソウル日本文化センターは同氏ほか劇団員の招へい費を助成

海外拠点

【後援事業】

	事業名	主催機関	期間	事業内容
71	Sweet Bossanova Naomi & Goro 公演	ストップミュージック、麻浦文化財団	2010. 04. 30	ボサノヴァ・デュオ・ユニットNaomi & Goroの韓国初単独コンサート。ソウル日本文化センターは、同事業に対して後援名義を付与
72	日本渋谷系ミュージシャン・キャプテンファンク 来韓公演	JMCエンタテインメント	2010. 06. 05	日本渋谷系音楽の革命児である、キャプテンファンクの初アルバムリリースに伴う公演。ソウル日本文化センターは、同事業に対して後援名義を付与
73	紀尾井シンフォニエッタ東京来韓公演	新日鐵文化財団	2010. 07. 15	日本の代表的な室内オーケストラ、紀尾井シンフォニエッタの韓国初公演。日韓クラシック音楽界の若手ホープである川瀬賢太郎とキム・テヒョンが共演。ソウル日本文化センターは、同事業に対して後援名義を付与
74	アジアトップギャラリー・ホテルアートフェア	アジアトップギャラリー・ホテルアートフェア委員会	2010. 08. 27 ~ 2010. 08. 29	アジアの優秀なギャラリーが70余り集まり、アジアの主要コレクターを招へいして開く展示会。ソウル日本文化センターは、同事業に対して後援名義を付与
75	Long Live Drawing! II — Exploring the Spatiality	大田広域市立美術館	2010. 09. 01 ~ 2010. 11. 21	2008年の「Long Live Drawing! I — デジタル時代のドローイング」に続き、2次元平面から離れ、3次元の空間に拡張していくドローイングの一傾向を紹介することで、進化・発展するドローイングの将来を提示。日本からは、丹羽陽太郎が参加。ソウル日本文化センターは、同事業に対して後援名義を付与
76	空中キャンプ presents 「すばらしくてNICE CHOICE vol.10 in Korea - Fishmans and More Feelings Festival」	空中キャンプ	2010. 10. 13 ~ 2010. 10. 14	日韓のインディーズバンドの交流を目的に毎年開催されているインディーズコンサート。日本からは、フィッシュマンズ、OTOUTA、ヒックスヴィルが来韓。ソウル日本文化センターは、同事業に対して後援名義を付与

【その他】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
77	アジア・パシフィック・インターナショナルスクール 学生ソウル日本文化センター訪問	アジア・パシフィック・インターナショナルスクール	2010. 04. 13	アジア・パシフィック・インターナショナルスクールの学生20名がソウル日本文化センターを訪問。文化情報室(図書館)や国際交流基金の活動を紹介
78	群山大学校日本語科学生向け講演会	群山大学校日本語科	2010. 04. 27	群山大学校日本語科の学生100余名に対しソウル日本文化センター所長が講演
79	延世大学校カントリーフェア	延世大学校 国際観光振興機構 (JNTO) ソウル事務所	2010. 05. 11 ~ 2010. 05. 12	延世大学校が主催する学園祭の一部であるカントリーフェアの中で、国際観光振興機構と共同で日本文化紹介ブースを設置し、浴衣着付け体験、風呂敷包み方体験講座を運営するとともに、ソウル日本文化センターの広報を実施
80	聖公会大学校日本語科学生ソウル日本文化センター訪問	聖公会大学校	2010. 06. 10	聖公会大学校日本語科の学生及び教養日本語を履修している学生26名がソウル日本文化センターを訪問。文化情報室(図書館)や国際交流基金の活動を紹介

海外拠点

	事業名	対象機関	期間	事業内容
81	春川農工高等学校学生ソウル日本文化センター訪問	春川農工高等学校	2010. 07. 30	春川農工高等学校の学生16名がソウル日本文化センターを訪問。文化情報室（図書館）や国際交流基金の活動を紹介
82	武庫川女子大学学生ソウル日本文化センター訪問	武庫川女子大学	2010. 08. 20	武庫川女子大学の学生8名がソウル日本文化センターを訪問。所長が講演
83	慶応大学スタディツアー	慶応大学	2010. 09. 07	慶応大学スタディツアーに参加する学生33名がソウル日本文化センターを訪問。所長が講演
84	山陽学園大学学生ソウル日本文化センター訪問	山陽学園大学	2010. 09. 07	山陽学園大学の学生12名がソウル日本文化センターを訪問。ソウル日本文化センター職員が講演
85	祥明大学校日語教育学科学生向け講演会	祥明大学校日語教育学科	2010. 11. 01	祥明大学校日語教育学科の学生を対象に、国際交流基金の日本語事業についてソウル日本文化センター職員が講演
86	円光大学校日本語科学生向け講演会	円光大学校	2010. 11. 05	円光大学校の学生40余名に対しソウル日本文化センター所長が講演
87	日本大学生代表団ソウル日本文化センター訪問	韓国国際交流財団 日韓文化交流基金	2010. 11. 10	韓国国際交流財団大学生招へいプログラムにより来韓した、日本の大学生30名がソウル日本文化センターを訪問。所長が講演
88	又石大学校学生向け講演会	又石大学校	2010. 11. 15	又石大学校の学生400余名に対しソウル日本文化センター所長が講演
89	2010ソウル芸術支援博覧会	ソウル文化財団	2010. 11. 19 ~ 2010. 11. 20	ソウル市主催で2009年から開催されている芸術支援博覧会。2010年は43団体が参加し多様な支援情報を芸術団体や芸術家に提供。ソウル日本文化センターも国際交流基金事業を紹介
90	高麗大学校学生向け講演会	高麗大学校	2010. 11. 25	高麗大学校の学生40余名に対しソウル日本文化センター所長が講演
91	全北大学校特別講座	全北大学校	2010. 11. 30	全北大学校の特別講座受講生30名及び日本関連学科学生40余名を対象とした講演会。「日韓文化交流」をテーマにソウル日本文化センター所長が講演

海外拠点

北京日本文化センター

合計額 85,780,718 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	いわさきちひろと日本の絵本展	北京	北京日本文化センター 多目的ホール	財団法人いわさきちひろ記念事業団	2010.10.29 ~ 2010.11.20	財団法人いわさきちひろ記念事業団との共催により、日本の絵本の歴史を紹介する展示と、画家いわさきちひろの作品から成る展覧会を実施。開幕イベントとして、日本の絵本に関する講演会と、絵本の読み聞かせ、いわさきちひろの滲み絵画法の体験ワークショップも実施

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
2	J-pop in China 2011	北京	星光現場 (スターライブ)	在中国大使館 日本音楽情報センター (JAMIC)	2011.01.22	JAY' ED(J-popアーティスト)及び彩音(アニメソング歌手)によるライブと、観客とアーティストの交流会を実施
3	ふれあいの場「心連心」巡回コンサート	南京	南京大学	南京市政府 外事弁公室 金陵図書館 在上海総領事館	2011.03.13	日・中の歌手、巫慧敏(amin)、河口恭吾、城南海によるジョイントコンサートを実施。当初は、南京、重慶、長春、青島、北京に巡回を計画。しかし直前に発生した東日本大震災の影響で、南京以外の巡回は中止

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
4	小林三郎講演会「挑戦・独創・革新の企業文化～本質的熟慮のススメ」	北京	SK大厦40階 SUPEX Hall		2010.04.18	小林三郎(中央大学大学院経営戦略研究科客員教授/元本田技術研究所首席研究員、元本田技研工業(株)経営企画部長)による講演会。経験を通して学び取ったイノベーションの本質と、それを生み出すために必要な企業文化や個々人の仕事の取り組み方について、実践的かつ理論的な分析を提供
5	「アジアのポートレート」北野謙講演会	北京	北京日本文化センター 多目的ホール		2010.07.12	北野謙(写真家)作品の制作背景やポートレート文化に関する講演会を実施。写真の制作技術及びその技術による表現の相違点、また写真に対する探求心や創作への道を語り、石田留美子(東京都写真美術館学芸員)が北野作品の芸術界における意義などについてコメント

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
6	都道府県紹介シリーズ（第1回） 日本神話の郷—島根	北京	北京日本文化センター 多目的ホール	財団法人自治体国際化協会（CLAIR） 独立行政法人 日本政府観光局（JNTO）	2010. 07. 22	中司弓彦（自治体国際化協会北京事務所職員／松江市職員）による出雲大社や宍道湖の夕日、地元の人しか知らない温泉、恋占いでも有名な八重垣神社など、魅力的な観光スポットの紹介。島根の伝統芸能、安来節を披露し、会場の希望者にも踊りを指導
7	都道府県紹介シリーズ（第2回） 日本美人の郷—新潟	北京	北京日本文化センター 多目的ホール	財団法人新潟インダストリアルプロモーションセンター北京事務所 独立行政法人 日本政府観光局（JNTO）	2010. 07. 29	佐藤清隆（新潟市北京事務所副所長／新潟市職員）が新潟の四季折々の風景や食文化、新潟出身の漫画家や俳優、モデルを紹介。佐渡島出身で、世界で活躍する和太鼓チーム「鼓童」の映像を上映
8	都道府県紹介シリーズ（第3回） 美食王国北海道～おいしい北海道 おしゃれな札幌市	北京	北京日本文化センター 多目的ホール	財団法人日中経済協会北京事務所札幌経済交流室 独立行政法人 日本政府観光局（JNTO） 北海道庁	2010. 08. 18	早田武志（北海道庁経済部商業経済交流課職員）、角田貴美、中島康成（財団法人日中経済協会北京事務所札幌経済交流室職員）が、「北海道遺産」「スープカレー」「ラベンダー」などキーワードによる北海道の特色、更に札幌発の洗練されたデザインブランド「札幌スタイル」や、「札幌シティJAZZ」、「北大（北海道大学）」など札幌の多彩な魅力を紹介
9	毛丹青講演会	長春 瀋陽	長春市図書館 瀋陽総領事館	在瀋陽総領事館	2010. 12. 25 ～ 2010. 12. 28	毛丹青（作家／神戸国際大学教授）を招き、日本の写真を使い「中国人から見た日本」について講演会を実施。また長春在住の田原洋之（写真家）が撮影した長春の町並みと自然風景43点の写真も併せて展示
10	都道府県紹介シリーズ（第4回） 美酒とおもてなしの高知！	北京	北京日本文化センター 多目的ホール	高知県上海事務所 独立行政法人 日本政府観光局（JNTO）	2011. 01. 13	西川恭史（高知県上海事務所首席代表／高知県職員）による講演会。ビデオ上映、独特の文化や歴史に関する解説や、来場者も参加して高知県の座興杯である「べく杯」での酒宴風景の実演、クイズなどにより、高知県の魅力を紹介
11	都道府県紹介シリーズ（第5回） 福島に来ると福が来る！	北京	北京日本文化センター 多目的ホール	福島県上海事務所 独立行政法人 日本政府観光局（JNTO）	2011. 01. 26	渡部憲夫（福島県上海事務所副所長／福島県職員）による講演会。福島県は歴史的な施設・文化が数多く残っていることから、県の概要と観光地を紹介。また戊辰戦争の歴史や常磐炭鉱閉山後の温泉利用による産業振興についても紹介

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
12	日本映画講演会「日本映画通史」	北京	北京日本文化センター 多目的ホール		2011. 02. 19	王衆一(『人民中国』総編集長)が、100年以上の歴史をもつ日本映画について、その歴史を顧みながら、海外、特にアジア・中国での受容、その影響について解説
13	日本音楽講演会「J-POP in China」	北京	北京日本文化センター 多目的ホール		2011. 02. 21	長年中国で日本の流行音楽普及活動を行ってきた朱根全(日本音楽情報センター長)による、映画・ドラマ・アニメ・ゲームのテーマソングやカラオケ音楽、中国で開催された日本人歌手のコンサート、中国における日本音楽の普及とその将来、著作権問題等に関する講演を実施
14	日本アニメ講演会 「日本アニメー宮崎駿を中心に」	北京	北京日本文化センター 多目的ホール		2011. 02. 22	秦剛(北京日本学研究中心助教授)による宮崎駿論。『崖の上のポニョ』(宮崎駿、2008)を中心に、彼がこの作品で描こうとした文化的深層について分析して解説することにより、日本アニメの表現手法と、それによって表現される世界観を紹介
15	茶道レクチャー・デモンストレーション <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	ウランバートル(モンゴル)	モンゴル国立大学 モンゴル日本センター	在モンゴル大使館	2011. 03. 08 ~ 2011. 03. 10	坂井晴美(裏千家天津出張所講師)ほか計4名をウランバートル(モンゴル)に派遣し、日本語を学ぶ学生や一般市民を対象に、茶道のデモンストレーションを実施

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
16	日本映画上映会	北京	北京日本文化センター		2010. 04. 01 ~ 2010. 08. 07	四半期に1回を目安に、「春の上映会」(10. 04. 23~24)、「夏の上映会」(10. 08. 06~07)を実施。「山田洋次特集」は2011年3月に実施予定であったが、東日本大震災の発生により中止
17	巡回展「手仕事のかたち」開幕イベント 映画『めぐる』の上映会とトークセッション	北京	SKビルSUPEXホール		2010. 12. 11	国際交流基金本部「海外展(巡回展)」プログラムによる「手仕事のかたち-伝統と手わざ」展(10. 12. 11~11. 01. 08)の北京日本文化センターでの開催に際し、日本最古の染色技法「木版染め」の職人を追ったドキュメンタリー映画『めぐる』の上映及び石井かほり(映画監督)のトークセッションを実施

海外拠点

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
18	図書館運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本文化、日本語教育関係書籍・資料、視聴覚資料を備えた図書館の運営 ①所蔵資料合計： 16,370点 （内訳：日本語図書 12,014冊、 中国語、英語図書 3,251冊、 DVD 133点、CD 604点、ビデオ 368本） ②利用者数（年間）： 14,410名 ③貸出点数（年間）： 11,748点 ④レファレンス件数（年間）： 4件 ⑤図書館用リーフレット作成： 4,000部

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
19	ウェブサイト運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	北京日本文化センターの事業紹介、イベント告知、実施報告等を画像と共に掲載 URL: http://www.jpfbj.cn/ アクセス件数（年間）：268,605件
20	ニューズレター『てふてふ』発行	2010.04.01 ~ 2011.03.31	北京日本文化センター事業の広報や報告、日本語教育情報等を掲載するニューズレターを年3回（8月、11月、3月）各3,000部作成・配布

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
21	留華ネット第17回ミーティング	北京	北京日本文化センター会議室		2010.05.22 ~ 2010.05.23	中国各地の日本人留学生のネットワークである留華ネットの各都市代表メンバーたちが、それぞれの地方での日中交流事業に関する情報を報告しあい、意見交換を行った後、次回のミーティング企画等について話し合いを実施
22	折り紙教室	北京	北京日本文化センター多目的ホール		2010.07.17	北京在住の折り紙愛好家三瓶つやこを講師に招き、2部構成で実施。参加者は合計80名。第一部はコマ、第二部はバラを制作
23	第19回留華ネットミーティング	北京	北京日本文化センター会議室		2010.12.18 ~ 2010.12.19	中国各地の日本人留学生のネットワークである留華ネットの各都市代表メンバーたちが、それぞれの地方での日中交流事業に関する情報を報告しあい、意見交換を行った後、次回のミーティング企画等について話し合いを実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
24	折り紙教室	北京	北京日本文化センター会議室		2010. 12. 22 ～ 2010. 12. 23	北京在住の折り紙愛好家三瓶つやこを講師に招き、2日間に分け、クリスマスツリーとサンタクロースを制作。参加者合計40名
25	日本研究・知的交流フェロー等懇談会	北京	北京市亮馬河大廈3階紫金ホールB		2011. 03. 12	国際交流基金の日本研究フェローや北京日本学術センター、北京大学現代日本研究コース、知的交流事業被招へい者、21世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS Programme: Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths）による被招へい者等北京日本文化センター経由の招へいプログラム経験者を集め、意見交換やネットワーク拡大の機会を提供

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
26	草場地 春の写真祭 2010	三影堂撮影芸術中心	2010. 04. 15 ～ 2010. 06. 30	アルル国際写真フェスティバル(フランス)に縁のある写真家の個展、日中仏等の写真評論家による「写真芸術の方向性」シンポジウム、ポートフォリオ・レビュー（若手写真家と国際的な評論家の交流の場を提供）等、草場地芸術区と798芸術区のアート・エリアで計32の展覧会と8つのイベントを実施。北京日本文化センターは、飯沢耕太郎(写真評論家)、笠原美智子(東京写真美術館学芸員)など専門家がシンポジウムに参加し講演を行うための旅費の一部を助成
27	原一男映画回顧展	草場地工作駅	2010. 04. 27 ～ 2010. 05. 05	原一男(映画監督)を北京に招へいし、北京2カ所(草場地工作駅、イベリア現代芸術センター)で計4本の作品上映と観客との交流会、日本のドキュメンタリー映画研究者を交えたフォーラム、中国の映画関係者との交流会を実施。また、上海でも3つの大学(復旦大学、上海戯劇学院、同済大学)にて上映会・交流会を開催。北京日本文化センターは、同監督の招へい旅費、謝金を助成
28	2010年上海和の美日本文化祭	KIM中日文化交流会	2010. 05. 01 ～ 2010. 05. 10	上海の豫城時尚噴水広場にステージを設け、和太鼓、沖縄エイサー、剣道、着物、茶道、華道などのパフォーマンスを実施。また、その周辺に設けられた体験コーナーでは、日本の伝統的ゲーム(カルタ、剣玉、羽子板)や折り紙、浴衣試着などを実施。北京日本文化センターは、出演者に対する謝金を助成
29	Asia 山水 Art Project	Asia山水Art Project実行委員会	2010. 05. 08 ～ 2010. 05. 30	日中韓の若手山水画アーティストによる展覧会を中心に、李零(北京大学教授)による「山水/環境/考古学」、五十嵐太郎(建築史家/東北大学大学院教授)による「景観/設計/建築」と題する講演会、パズルで山水画を学ぶ子供向けワークショップなどから成るプロジェクトを実施。山水画という日中韓の共通文化を機軸に、自然と人間の共生というメッセージを発信。北京日本文化センターは、講師の旅費、滞在費、施設使用料の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
30	MATSURI 2010・大連	大連留学生社団 (Dalian International Students Association: D. I. S. A.)	2010. 06. 26	大連中山区青泥洼橋小学校のグラウンドにて、ステージイベント、縁日、盆踊り、屋台や日本語コーナーを実施。北京日本文化センターは、施設借料、会場設置費、資料印刷費の一部を助成
31	『環境経営の分析』中国語版の翻訳・出版	北京中国政法大学出版社	2010. 08. 01 ~ 2011. 03. 31	金原達夫・金子慎治著『環境経営の分析』（白桃書房、2005年）の翻訳。日本企業の環境保全に関する経営戦略と方針、組織体制構築や強化、生産の推進及び環境マーケティングといった日本の学術研究と実践理念を中国の読者に紹介。北京日本文化センターは、本書中国語版の印刷・出版経費の一部を助成
32	国際学術シンポジウム 「東アジア地方政府改革比較」	山西大学政治与公共管理学院	2010. 08. 24 ~ 2010. 08. 25	北京大学日本研究センターと山西大学政治公共管理学院が、「東アジア地方政府改革比較」をテーマに共催した国際シンポジウム。東アジア国家と地域における地方自治、地方行政の改革、中央政府と地方政府との関係、行政文化が地方行政改革へ与える影響について研究発表。北京日本文化センターは、シンポジウムに出席した専門家の旅費・滞在費及び謝金の一部を助成
33	国際学術会議 「中国30年日本文学研究の成果と方法」	清華大学外国語学部	2010. 08. 28	北京大学出版社と清華大学外国語学部が「中国30年日本文学研究の成果と方法」をテーマに学術会議を共催。川本皓嗣（元国際比較文学協会主席／日本大手前大学元学長）、藤原克己（東京大学文学部教授）、厳安生（北京日本学研究中心センター元中国側主任）、厳紹盪（北京大学比較文学文化研究所教授）による基調講演のほか、外国文学研究や比較文学研究、翻訳研究で著名な楊慧林（中国比較文学学会副会長／中国人民大学副学長）、孟華（北京大学フランス研究センター主任）、謝天振（上海外国語大学高級翻訳学院翻訳研究所所長）による個別セッションを実施。北京日本文化センターは、専門家の旅費、滞在費、施設使用料の一部を助成
34	北京大学・京都大学 異文化学生交流プログラム	北京大学中日交流協会	2010. 09. 03 ~ 2010. 09. 11	伝統文化保護、環境問題、農業の現代化の3つをテーマに、北京大学と京都大学の学生約40名ずつが3チームに分かれて討論、北京市内の関連施設の参観を行い、最終的な成果・提案をプレゼンテーション。北京日本文化センターは、参加学生の宿泊費、会場使用料、資料印刷費の一部を助成
35	第5回渥美国際交流奨学財団関口グローバル研究会 (SGRA) チャイナ・フォーラム in フフホト	内蒙古大学蒙古学研究センター	2010. 09. 13	内モンゴルの環境問題とその解決のための日中協力の可能性について、山西省と内モンゴルに共通する「地下資源開発」をテーマに検討し、環境問題を克服した日本の経験及び地下資源枯渇防止対策について、ネメフジャルガル（内蒙古大学蒙古学研究センター研究員）、高見邦雄（緑の地球ネットワーク事務局長）、ブレンサイン（滋賀県立大学人間文化学部准教授）によるパネルディスカッション形式で討議。北京日本文化センターは、専門家の宿舎費、通訳謝金、会場使用料の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
36	『日本農業150年—1850～2000年』中国語版の翻訳・出版	南京農業大学	2010. 10. 01 ～ 2011. 3. 31	胡浩（南京農業大学教授）、周応恒（南京農業大学教授）、張玉林（南京農業大学教授）が、暉峻衆三著『日本の農業150年』（有斐閣）を中国語に翻訳し2011年4月に出版。本書は明治維新から一世紀半にわたる日本農業の問題を系統的に取り上げ、戦後の日本農業政策の変革を重点に紹介。北京日本文化センターは、印刷・製本経費の一部を助成
37	「海大日本研究」（創刊号）出版	中国海洋大学	2010. 10. 01 ～ 2011. 03. 31	2010年5月に新設された中国海洋大学日本研究所の活動を支援するため、北京日本文化センターは学術紀要（年刊：発行部数1,000部）の出版経費の一部を助成
38	国際学術シンポジウム「神道と日本文化」	中国社会科学院日本研究所	2010. 11. 11 ～ 2010. 11. 12	藪田稔（国際神道学会会長／京都大学名誉教授）、王守華（中国日本哲学会名誉会長／浙江大学教授）など日中の神道と日本文化の専門家約40名が参加し、神道の本質、神道と日本人の宗教心、日本人の自然観、倫理観、死生観、美意識、日本文化の性格、天皇制、日本社会、及び神道思想の現代的意義などについて議論。北京日本文化センターは、専門家の宿泊費、謝金、会場使用料、資料印刷費の一部を助成
39	「孫中山と梅屋庄吉展」及び関連シンポジウム	武漢大学	2010. 12. 11 ～ 2010. 12. 19	孫中山（孫文）と梅屋庄吉の交流に関する史料の展示及び「辛亥革命と日本」をテーマとしたシンポジウムを実施。北京日本文化センターは、西原春夫（特定非営利活動法人アジア平和貢献センター理事長）の旅費、施設使用料の一部を助成
40	国際シンポジウム「日中文化交流2000年：回顧と展望」	北京市中日文化交流史研究会	2010. 12. 17 ～ 2010. 12. 19	奥村哲（首都大学東京教授）、依田熹家（早稲田大学名誉教授）、王敏（法政大学教授）などが参加し、中国の学者と古代から中世・現代にわたる文化思想、政治、経済、社会、文学、芸術、科学技術、教育、宗教など幅広い分野における日中文化交流史を回顧。北京日本文化センターは、専門家の旅費、会場借料、通訳者謝金の一部を助成
41	『日本少年事件相関制度研究』の出版	北京中国政法大学出版社	2011. 01. 01 ～ 2011. 03. 31	呉海航（北京師範大学法学院教授）著書を中国政法大学出版社より2011年4月刊行。日本における少年の権利保護制度の歴史、少年犯罪者の権利保護に関する法律体系の構造、少年事件の処理、少年犯罪の予防と矯正制度、矯正施設の構造、少年事件の社会的影響と総合理論対策について述べる。中国の事情との比較を通して、少年教育への有効な方法を模索。北京日本文化センターは、本書刊行のための印刷・製本経費の一部を助成
42	学術会議「日本マルクス主義研究の成果と現状」	中国社会科学院哲学研究所	2011. 03. 12	中国社会科学院哲学研究所と清華大学が共同で、「日本マルクス主義研究の成果と現状」に関する学術会議を開催。当該分野の研究者である内田弘（専修大学名誉教授）を招へいし、韓立新（清華大学教授）とともに、「『経済学批判要綱』は哲学史上の如何なる問題を解決したか」と題する基調講演を実施。日本のマルクス主義研究の性格、特徴及び日中マルクス主義研究の異同について分析、検討。北京日本文化センターは、基調講演者の旅費、謝金、資料作成費の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
43	アニメ講演会	南京市人民政府対外友好協会	2011. 03. 12	『City Hunter』、『北斗の拳』、『キン肉マン』に出演し中国の青少年の間で人気の高い神谷明（アニメ声優）による現代日本アニメ文化に関する講演会。南京ジャパンウィークの一環として実施。北京日本文化センターは、講演者の旅費、宿泊費、謝金を助成
44	コスプレコンテスト	南京市人民政府対外友好協会	2011. 03. 12	南京師範大学動漫社、南京モンスターハンター、東方プロジェクトなど南京市内のコスプレ同好会メンバーが出演し、コスプレコンテストを実施。南京ジャパンウィークの一環として実施。北京日本文化センターは、日本からの出演者の派遣及びイベント実施に係る経費の一部を助成
45	東京カワイイコレクション	南京市人民政府対外友好協会	2011. 03. 12	日本の若者の間で流行している「ロリータファッション」をファッションショー形式で紹介。ロリータファンの間でも人気の高い青木美沙子（外務省「カワイイ大使」/元モーニング娘）も参加。南京ジャパンウィークの一環として実施。北京日本文化センターは、会場設営費、出演者手配業務委託費の一部を助成

海外拠点

ジャカルタ日本文化センター

合計額 101,512,506 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	いけばなインターナショナル展	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール	いけばなインターナショナル・ジャカルタ支部	2010.04.21 ~ 2010.04.22	いけばなインターナショナル・ジャカルタ支部と共催で、いけばな展を開催。池坊、一葉式、小原流、桂古流、草月、未生流、松風花道会の所属全7派の作品70点を展示。会期中、ふろしきと手毬のワークショップを実施
2	アルベルト・ヨナタン・スティアワン Liminal Being 展	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール		2010.05.05 ~ 2010.05.19	21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS Programme)東アジア・クリエイター招へいプログラム第2期の被招へい者、アルベルト・ヨナタン・スティアワン (Albert Yonathan Setyawan) が「滋賀県立陶芸の森」滞在中に制作した作品を集めた陶芸作品展を開催。オープニング・イベントとして、帰国報告会を兼ねたアーティスト・トークを実施
3	「京都」写真展	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターミニギャラリー		2010.05.17 ~ 2010.06.02	ジャカルタ日本文化センターが所蔵する『京都写真展』展示パネルセットを利用し、「京都」写真展を開催。1993年から始まったJR東海キャンペーン『そうだ 京都、行こう。』の広告で使用された作品を中心に26点を展示したほか、京都に関するDVD上映とともに、国際観光振興機構(JNTO)提供の京都観光資料を配布
4	ふろしき展	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターミニギャラリー及び多目的室		2010.06.07 ~ 2010.06.25	ふろしき(伝統的文様ふろしき6点、国際交流基金JFオリジナルふろしき6点)、ふろしきを用いた包装例(20点程度)、JFオリジナルふろしきポストカードを展示するとともに、展示期間中に、ふろしきの包み方の入門ワークショップを計3回実施。ワークショップの講師はセンター職員が務め、各回1時間。参加者は延べ72名。30名がオブザーバー参加
5	NEOPionシリーズ 芸術系4大学合同展 <i>FOUR PLAY</i>	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センター・ホール及びミニギャラリー	ジャカルタ芸術大学 バンドン工科大学美術学部 インドネシア国立芸術大学ジョグジャカルタ校 インドネシア国立芸術大学ソロ校	2010.07.09 ~ 2010.07.22	インドネシア国内の主要芸術系大学4校(ジャカルタ芸術大学、バンドン工科大学美術学部、インドネシア国立芸術大学ジョグジャカルタ校、同大学ソロ校)の在校生、同窓生、講師約40名の作品60点(絵画、彫刻、陶芸、インスタレーションなど)を展示。ジャカルタ日本文化センターが進めている、将来、インドネシアと日本との芸術交流を担う若い世代のインドネシア人芸術家に、展示・演劇・映画上映会等の開催を支援するプログラム、「ネオ・ピオン(NEOPion)」事業の一環として実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
6	日本の伝統手芸「手毬」展とワークショップ	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターミニギャラリー	インドネシア手毬協会	2010.08.06 ~ 2010.08.26	ジャカルタ在住の日イ手毬愛好家(インドネシアてまり協会会員や主婦)との共催で、日本の伝統手芸「手毬」をインドネシアで初めて紹介。インドネシア人の色彩感覚で作られた色鮮やか且つ斬新なデザインの手毬を展示(手毬を利用したオブジェ作品22点、手毬個別展示31点)したほか、手毬制作ワークショップ(1回2時間、定員30名×2回)を実施
7	写真展「素晴らしきインドネシア・日本」	ジャカルタ	ホテル日航ジャカルタ 独立記念塔前広場	エプソン・インドネシア じゃかるた新聞 ジャカルタ日本祭り実行委員会 パナソニック ホテル日航ジャカルタ	2010.09.25 ~ 2010.10.03	インドネシアの風景・人物を撮影したインドネシア在留邦人の写真、日本の風景・人物を撮影したインドネシア人の写真などを展示する写真展。当地の邦字紙「じゃかるた新聞」が「第2回ジャカルタ日本祭り」事業として主催する事業に、ジャカルタ日本文化センターは共催者として、備品の貸与及び広報を担当
8	「小原流」華道教室修了展	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センター多目的室及びミニギャラリー	小原流インドネシア支部	2010.09.30 ~ 2010.10.02	2010年05月から09月まで、ジャカルタ日本文化センターで行われた「小原流」華道教室の受講生に修了証書を授与するとともに、受講修了展として、講師と受講生25名によるいけばな展を開催。約30点を展示
9	NEOPionシリーズ 写真展 <i>Jepang Hoi-Hoi</i>	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール		2010.10.15 ~ 2010.10.25	ビデオ・アーティストやイラストレーターとして活躍中のレイ・ナヨアン(Ray Nayoan)、ソロモン・シホンビン(Solomon Sihombing)、ユリアン・アルディ(Yulian Ardhi)の若手アーティスト3名が、日本を旅してカメラに収めた「日本」の姿を、写真だけでなく、ビデオやインスタレーションなどマルチメディアを駆使して展示する合同展を開催。ジャカルタ日本文化センターが進めている、将来、インドネシアと日本との芸術交流を担う若い世代のインドネシア人芸術家に、展示・演劇・映画上映会等の開催を支援するプログラム「ネオ・ピオン(NEOPion)」事業の一環として実施
10	アエンドラ・メディタ写真展「フォトグラフィコンー広告ではなく」	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール		2010.11.09 ~ 2010.11.19	インドネシア社会に広く普及している日本製品(特に四輪車、二輪車)のロゴを、日本文化のアイコンとして写真で表現した美術展。アエンドラ・メディタ(Aendra Medita:写真家)が撮影した写真(25作品)を、ウィチャクソノ・アディ(Wicaksono Adi)のキュレーションで展示

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
11	フィルマン・ウィディアスマラ作品展「チリ君の誕生」	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール	MOXIE Indonesia	2010. 11. 15 ～ 2010. 11. 29	21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS Programme)東アジア・クリエーター招へいプログラム第3期の被招へい者、フィルマン・ウィディアスマラ(Firman Widyasmara:アニメーション作家)の帰国報告として、同氏が大阪電気通信大学における研修で制作したキャラクターを紹介する「チリ君の誕生」展、日本のアニメーション事情などについてのアーティスト・トークやストップ・モーション・アニメーションのワークショップを開催
12	池坊インドネシア支部設立30周年記念いけばな展	ジャカルタ	ホテル日航ジャカルタ	池坊インドネシア支部	2010. 11. 26 ～ 2010. 11. 28	池坊インドネシア支部によるいけばな展。池坊専永(池坊家元)のインドネシア訪問記念式典の他、インドネシア支部教諭・生徒らによる作品を展示
13	第15回日本インドネシア児童画展	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール	ジャカルタ・ジャパンクラブ(JJC) ジャカルタ日本人学校(JJS)	2010. 12. 15 ～ 2010. 12. 22	「未来の世界」をテーマに、日本とインドネシア児童画展を開催。各学校より推薦されたインドネシア人児童の絵画405点を審査し、うち110点を展示、各学年別(幼稚園、小学低学年、小学高学年、中学)の優秀作品16点を表彰。日本人学校(JJS)より選抜された日本人児童の作品82点、インドネシアの特別支援学校生の作品31点も同時に展示
14	浮世絵展	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターミニギャラリー		2011. 01. 06 ～ 2011. 03. 25	ジャカルタ日本文化センター所蔵の「浮世絵」展示セットによる浮世絵展。期間中、美人画・歌舞伎画、風景画、花鳥風月など3つのテーマで展示替え
15	NEOPionシリーズ <i>Medium X</i> 展	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール	アーティスト集団ポックジャジャムバトゥ(POKJAJAMBUBATU)	2011. 01. 27 ～ 2011. 02. 11	イスロル・トリオノ(Isrol triono)、アリフ・ヒダヤトゥッラー(Arif Hidayatullah)、アリウォウォン(Ariwowon)等が所属する若手アーティスト集団「POKJAJAMBUBATU」による作品展 <i>Medium X</i> を開催。絵画、ドローイング、インスタレーション、グラフィック、アート・ビデオ、コミック、クレイ・アートなど様々な形態のコンテンポラリー作品を展示し、クレイ・アートのワークショップを開催。ジャカルタ日本文化センターが進めている、将来、インドネシアと日本の芸術交流を担う若い世代のインドネシア人芸術家に、展示・演劇・映画上映会等の開催を支援するプログラム、「ネオ・ピオン(NEOPion)」事業の一環として実施
16	日本人形展	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール		2011. 03. 24 ～ 2011. 04. 08	ジャカルタ在住の日本人形収集家アントン・ノフィアント(Anton Nofianto)の所蔵品から、雛人形と五月人形を中心に40点程を展示

海外拠点

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
17	トワイライト・ユース・オーケストラ公演 <i>Kemenangan</i>	ジャカルタ	ウスマル・イスマイル・ホール	トワイライト・ユース・オーケストラ	2010.05.08 ~ 2010.05.09	インドネシアの青少年オーケストラ「トワイライト・ユース・オーケストラ」が、日本人の若手演奏家3名(群馬ジュニア・オーケストラ所属)を招きコンサートを開催。トリスジ・カマル(Trisuji Kamal:インドネシア人作曲家)による <i>Kemenangan</i> (勝利)、シベリウス『フィンランディア』、ボロディン『交響曲第2番』を協演。日本とインドネシアの若手によるクラシック音楽交流事業。ジャカルタ日本文化センターは、主に事業広報を担当
18	日本・インドネシア共同制作 劇団ハボン・シアター <i>OBASUTE</i> (姥捨)公演	ジャカルタ	ジャカルタ・コミュニケーションクラブ ジャカルタ芸術大学内テアトル・ルウェス	インドネシアふるさと創生財団 ジャカルタ・コミュニケーションクラブ ジャカルタ芸術大学 劇団ハボン・シアター	2010.07.24 ~ 2010.07.26	名古屋を中心に活動する劇団「ハボン・シアター」の演劇作品『姥捨』を元に、ジャカルタ芸術大学舞台芸術学部との共同制作による新作 <i>OBASUTE</i> を上演。計3回の公演に加え、ジャカルタ芸術大学と学生劇団En塾との演劇ワークショップ、音楽を担当した大脇薫、知久寿焼もそれぞれコンサートを実施。ジャカルタ日本文化センターは、日本とインドネシアの関係団体の仲介・調整及び広報に協力
19	インドネシア・ドラマティック・リーディング・フェスティバル	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール	インドネシアドラマティック・リーディング・フェスティバル実行委員会 ロンタール財団	2010.11.24 ~ 2010.11.26	「インドネシアのリアリズム演劇を見直す」をテーマに、3日間で6本の戯曲をインドネシアを代表する劇団の俳優らがリーディング上演。「アジア劇作家会議09」でも上演された坂手洋二『屋根裏』、鄭義信『杏仁豆腐のココロ』、ラエタ・プリゾン・ブコイ(フィリピン)『ドクター・レスレクション:町を治療します』の3作品を初めてインドネシア語で上演したほか、インドネシアの戯曲(古典2本、新作1本)も上演。インドネシアの演劇関係者が一堂に会する機会に、ディスカッションも併せて開催

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
20	JENESYS帰国報告会(グループF)「地域が担う平和構築」	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール	ANBTI(多様性の中の統一国家同盟) ARTI(アクション研究・トレーニング研究所) Kontras(暴力被害者及び行方不明者支援委員会)	2010.06.09	平成21年度「21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS Programme)」東アジア次世代リーダー招へいプログラム・グループF(テーマ:「アジア・オセアニア地域の青年が担う包括的平和構築:文化、教育の可能性」)参加者Harla Sara OCTARRA(アクション研究・トレーニング研究所(ARTI)エグゼクティブ・ディレクター)による帰国報告会を開催。日本で得た知見をインドネシア人関係者に還元するだけでなく、インドネシアで平和構築に取り組んでいる外国人関係者も招いて、当地におけるさまざまな取組みも紹介。平和構築について議論し、理解を深める機会を提供

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
21	稲積君将アニメーション・セミナー	ジャカルタ ジョクジャカルタ バンドン	ジャカルタ日本文化センターホール タマン・ブダヤ・ジョグジャカルタ タマン・ブダヤ・バンドン	セット財団 株式会社ナイ・ス・デー	2010. 07. 25 ～ 2010. 08. 01	ストップ・モーション・アニメーション(静止物体を1コマ毎に少しずつ動かしかメラで撮影し、連続して動いているように見せる撮影技術、いわゆる「コマ撮り」)を専門とする若手アニメーション作家・稲積君将を招き、ジャカルタにてワークショップ、バンドン及びジョグジャカルタでセミナーを実施。地方で開催したセミナーは、ガリン・ヌグロホ(映画監督)が主宰するセット財団と共催。同財団が主催する若手向け映画セミナーINDIE MOVIE 2010の一環として実施
22	JENESYS帰国報告会(ESDグループ) 「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development) と環境教育」	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール		2010. 07. 30	平成22年度「21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS Programme)」東アジア次世代リーダープログラム(市民交流招へい)・ESDグループ(テーマ:「自然と文化による豊かな環境づくり:持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development: ESD)と環境教育」)参加者による帰国報告会を開催。日本における環境問題や環境への取り組み、地元学といった地域振興策について、水俣市の例を取り上げて紹介。日本で得た知見をもとに、インドネシアの環境保全や開発にどのように活かしていけるのかについて意見を交換
23	日本料理セミナー「日本とインドネシアの食文化を探る」	ジャカルタ	日本料理レストランbasara	特定非営利活動法人日本料理文化交流協会 レストランbasara	2010. 09. 28	「ジャカルタ日本祭り2010」の一環として、小山裕久(特定非営利活動法人日本料理文化交流協会理事長)を迎え、日本料理セミナーを開催。焼き鳥とサテ(インドネシア風焼き鳥)を例に取り、それぞれの歴史的背景、調理法の相違点等を講義、デモンストレーションを実施。ジャカルタ日本文化センターは共催者として、広報、参加申込受付、機材貸与などを担当
24	日本映画に関するパブリックレクチャー「最近の日本映画」	ジョクジャカルタ	ガジャマダ大学文学部講堂	ガジャマダ大学文学部日本語学科	2010. 10. 08	ジョグジャカルタのガジャマダ大学文学部日本語学科と共催で、平野共余子(国際日本文化研究センター特別客員教授)による最近の日本映画に関する公開講演会及び映画『百万円と苦虫女』(タナダユキ、2008)上映会を開催。講演では、最近の日本映画の公開本数や興行成績などの基礎データや国内外で話題になった映画を、映像を交えながら紹介
25	JENESYS帰国報告会(グループG) 「伝統文化の多様性の保存」	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール		2010. 11. 30	平成22年度「21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS Programme)」東アジア次世代リーダー招へいプログラム・グループG(テーマ:「文化の多様性の再認識:アジア・オセアニア地域の可能性」)参加者Seputro Muhammad Endy(ガジャマダ大学大学院)による帰国報告会を開催。日本における伝統文化保護の取り組みを紹介し理解を深めると同時に、日本で学んだことがインドネシアにおいて、どのように生かせるのかについても議論

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
26	アートマネジメント及び舞台マネジメントセミナー	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール	クロラ財団	2010. 12. 08 ~ 2010. 12. 09	インドネシアの若手アーティスト、舞台関係者14名を対象にアート・マネジメント(主に舞台芸術分野と舞台マネジメント)に関する2日間の集中講義を実施。講師はサリ・マジッド(Sari Madjid: 劇団「デアトル・コマ」プロデューサー)とジョハン・ディディック(Johan Didik: 舞台監督)が務めた
27	JENESYS帰国報告会 (Community Designグループ) 「文化を通じたまちづくり」	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール		2011. 01. 10	平成22年度「21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS Programme)」東アジア次世代リーダープログラム(市民交流招へい)・まちづくりグループ(テーマ:「自然と文化による豊かな環境づくり:文化による環境を活かしたまちづくり-文化財の創造的継承の取り組み」)参加者による帰国報告会を開催
28	セミナー <i>The State of the Nation and Democracy in Japan</i> (日本の国家と民主主義)	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール		2011. 02. 25	単一民族国家であるといわれてきた日本の国家の実相や、近・現代日本における国家と民主主義の相関関係を検証することにより、近代日本の国家の歴史やそのあり方を考察するセミナーを開催
29	パブリック・レクチャー <i>Nasionalisme dan Demokrasi di Jepang</i> (日本のナショナリズムとデモクラシー)	スラバヤ	アイルランガ大学人文学部講堂	アイルランガ大学人文学部	2011. 02. 28	単一民族国家であるといわれてきた日本の国家の実相や、近・現代日本における国家と民主主義の相関関係を検証することにより、近代日本の国家の歴史やそのあり方を考察するセミナーを開催
30	セミナー「都市化の課題を考えるーアジアのムスリムの視点」			国立イスラーム大学ジャカルタ校大学院	2011. 03. 22	平成21年度から開始した、東南アジア若手ムスリム知識人グループ招へいプログラムのフォローアップ事業として、都市化の課題をテーマに、同事業の参加者が日本での体験を踏まえて発表。また、ムスリム知識人と日本の知識人とのネットワークの強化を図るべく、見市建(岩手県立大学総合政策学部准教授)を基調講演者として招き、日本とインドネシアを比較しながら都市化の課題について講演

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
31	日本映画上映 1 ジャカルタ日本文化センター定期上映会 (第1四半期)	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール		2010. 04. 01 ~ 2010. 06. 30	国際交流基金ジャカルタ・フィルムライブラリー所蔵作品(16mmフィルム)をセンターホールで上映。第1四半期は、『ガメラ 大怪獣空中決戦』(金子修介、1995)や『回路』(黒澤清、2001)等、サムライ、沖縄、特撮・ホラーのテーマで特集上映(計14本を21回上映)を実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
32	日本映画上映 2 「シネマ・キャラバン」 (第1四半期)	ジャカルタ バンドン バンドン ブカシ	M. H. タムリン国立高校 カイゼン・ラブズ・スクール 中等部 セント・アンジェラ高校 セトゥ第1国立高校	M. H. タムリン国立高校 カイゼン・ラブズ・スクール 中等部 セント・アンジェラ高校 セトゥ第1国立高校	2010. 04. 01 ~ 2010. 06. 30	「シネマ・キャラバン」の事業名称で、国際交流基金ジャカルタ・フィルムライブラリー所蔵作品(16mmフィルム)を利用して、年間を通じ映画上映会をジャカルタ日本文化センター外で実施。また上映会の前後に、短い日本文化紹介セッションや折り紙やふろしきなど簡単な日本文化体験ワークショップを加えて総合的な日本文化紹介事業とした。第1四半期は、ジャカルタ首都圏の中学・高校の計4校で『スウィング・ガールズ』(矢口史靖、2004)を上映
33	日本映画上映 3 各種映画祭 (第1四半期)	ジャカルタ	キネフォーラム プラザ・インドネシア	キネフォーラム グラリ児童映画祭事務局	2010. 04. 01 ~ 2010. 06. 30	インドネシアで映画上映を専門に行う非営利団体と共催して日本映画を上映。第1四半期には、キネフォーラムの特集上映会及びグラリ児童映画祭にて、国際交流基金ジャカルタ・フィルムライブラリー所蔵作品(16mmフィルム)『遙かなる甲子園』(大澤豊、1990)『千羽鶴』(吉村公三郎、1953)計3本を、それぞれ7回上映
34	インドネシア国際児童映画祭	ジャカルタ	ブリッツ・メガプレックス	カルヤナ・シラ財団	2010. 04. 16 ~ 2010. 04. 25	聾の少女が健常者のダンス仲間と友情を深めながら踊りに取り組む青春映画『あぜみちジャンピン!』(西川文恵、2009)を2回上映。同監督のポスト・トークも実施。同映画は、本映画祭で審査員特別賞を受賞
35	インドネシア女性映画祭	ジャカルタ	サリハラ劇場	カルヤナ・シラ財団 コミュニタス・サリハラ ジャーナル・プルンプアン誌	2010. 04. 21 ~ 2010. 04. 27	インドネシアの代表的な女性映画祭において、戦後の日本女性の地位向上と男女平等社会の実現のために、様々な活動を行ったベアテ・シロタ・ゴードンの生涯を描いたドキュメンタリー映画『ベアテの贈り物』(藤原智子、2004)を上映。ジャカルタ日本文化センターは共催者としてフィルム提供及び広報を実施
36	ドキュメンタリー映画『マス・エンダン』上映会	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール	ジャカルタ・ジャパン・ネットワーク (J2Net)	2010. 08. 03	宮崎県で日本人中学生2名を救助中に命を落としたインドネシア人漁業研修生、エンダン・アリピンの足跡をたどるドキュメンタリー映画『マス・エンダン』(企画・制作: 井上実由紀・村沢崇宏、2008)の上映会を2回実施。上映は皆さんで、映画制作にあたった井上実由紀によるトークやJ2netの活動説明も実施
37	日本映画上映 1 ジャカルタ日本文化センター定期上映会 (第2四半期)	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール		2010. 08. 18 ~ 2010. 08. 27	国際交流基金ジャカルタ・フィルムライブラリー所蔵作品(16mmフィルム)をセンターホールで上映。第2四半期は、「子供時代」をテーマに特集上映を実施。『少年時代』(篠田正浩、1990)『二十四の瞳』(浅間義隆、1987)『次郎物語』(森川時久、1987)など計7本を7回上映

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
38	日本アニメ映画祭	ジャカルタ	Blitzmegaplex Grand Indonesia	ジャカルタ日本祭り実行委員会 在インドネシア大使館	2010. 09. 25 ～ 2010. 10. 03	第2回「ジャカルタ日本祭り」にあわせ、在インドネシア大使館及びジャカルタ日本文化センター等が共催でアニメ映画を上映。ジャカルタ日本文化センターからは、ジャカルタ・フィルムライブラリー所蔵作品『雲の向こう、約束の場所』（新海誠、2004）『秒速5センチメートル』（新海誠、2007）を提供。また大使館からは『ドラえもん のび太の恐竜2006』（渡辺歩）が提供され、計3本の映画を延べ24回上映。「ジャカルタ日本祭り」は、2008年の日本・インドネシア国交樹立50周年を機に深まった日伊友好交流を継続して促進する目的で2009年に開始された。ジャカルタ日本祭り実行委員会が運営、ジャカルタ州政府の協力も得て開催されている
39	Q! フィルムフェスティバル	ジャカルタ	エラスムス・ハウス キネフォーラム ゲーテ・インスティトゥート フランス文化センター	Q!映画祭実行委員会	2010. 09. 27 ～ 2010. 10. 02	同性愛者等マイノリティの権利向上などを目的とした映画祭。ゲーテ・インスティトゥート、エラスムス・ハウス、フランス文化センター等、欧州の各文化交流機関とともに会場提供及び映画フィルムの出品に協力
40	日本映画上映 2 「シネマ・キャラバン」 （第3四半期）	ジャカルタ	ウスマ・ブキット・インダー	ブキット・インダー文化祭実行委員会	2010. 10. 01 ～ 2010. 12. 31	「シネマ・キャラバン」の事業名称で、国際交流基金ジャカルタ・フィルムライブラリー所蔵作品（16mmフィルム）を利用して、ジャカルタ日本文化センター外での映画上映会を実施。上映会の前後に、短い日本文化紹介セッションや折り紙やふるしきなど簡単な日本文化体験ワークショップを加えて総合的な日本文化紹介事業とした。第3四半期は、ジャカルタ郊外の日系工業団地で、工場勤務者と周辺小学校の児童を対象に『みんなの家』（三谷幸喜、2001）『待ってました転校生』（藤井克彦、1985）などを上映
41	日本映画上映 3 各種映画祭 （第3四半期）	ジャカルタ	キネフォーラム	キネフォーラム	2010. 10. 12 ～ 2010. 10. 31	インドネシアで海外の映画作品の上映を目的とする非営利団体、キネフォーラムと共催して、国際交流基金ジャカルタ・フィルムライブラリー所蔵作品（16mmフィルム）『彼岸花』（小津安二郎、1958）、『まあだだよ』（黒澤明、1993）を各4回、延べ8回上映
42	ドキュメンタリー映画上映討論会 及びワークショップ <i>Documentary Days 2010</i>	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センター ホール	インドネシア大学経済学部 学生団体 Badan Otonom Economica	2010. 12. 01 ～ 2010. 12. 02	IGPウィラヌガラ（IGP Wiranegara：ドキュメンタリー映画監督）、フィトリア・ナピズ（Fitria Napiz：映画監督）を講師に迎え、社会正義、平等、人権等をテーマにしたドキュメンタリー映画の上映及び討論会、映画制作ワークショップを実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
43	日本映画上映 2 「シネマ・キャラバン」 (第4四半期)	バンテン ジャンビ ジャンビ	南タンゲラン国立第3高校 ジャンビ国立第5高校 ジャンビ日本文化祭	南タンゲラン第3高校 ジャンビ州高校日本語教師会 ジャンビ日本文化祭	2011.01.01 ~ 2011.03.31	「シネマ・キャラバン」の事業名称で、国際交流基金ジャカルタ・フィルムライブラリー所蔵作品(16mmフィルム)を利用して、地方での映画上映会を実施。また上映会の前後に、短い日本文化紹介セッションや折り紙やふるしきなど簡単な日本文化体験ワークショップを加えて総合的な日本文化紹介事業としている。第4四半期は、バンテン州及びジャンビ州の高校などで『スウィング・ガールズ』(矢口史靖、2004)『シコふんじゃった。』(周防正行、1992)などを上映
44	映画『火と水 カブールの手品師 Dream for Kabul』上映及びディスカッション	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール	在インドネシア・カナダ大使館	2011.02.17	2001年の同時多発テロによる世界貿易センタービル崩壊の息子を持った白鳥晴弘が、アフガニスタンを訪れ、現地の子どもたちを支援するプロジェクトを立ち上げる姿を描いたカナダ映画 <i>Dream for Kabul</i> の上映及びディスカッション。ディスカッションにはモデレーターにディナ・アフリアンティ(Dina Afrianty: 国立イスラーム大学ジャカルタ校講師)、スピーカーにアリ・ムンハニフ(Ali Muhannif: 国立イスラーム大学ジャカルタ校研究員)を招き、平和構築について議論
45	映画『Mengejar Impian 夢を追いかけて』上映及びポスト・トーク	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール	カルヤナ・シラ財団 プトラ・サンプルナ財団	2011.02.18	ドキュメンタリー映画『夢を追いかけて』の上映。同映画は経済的理由により教育機会を奪われた青少年に対して支援を行う、プトラ・サンプルナ財団が運営するサンプルナ・アカデミーへの入学試験プロセスを追ったドキュメンタリー。インドネシアを代表する女性映画監督で本作品の監督でもあるニア・ディナタ(Nia Dinata)によるポストトークも実施
46	日本映画上映 1 ジャカルタ日本文化センター定期上映会 (第4四半期)	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール		2011.02.21 ~ 2011.03.08	国際交流基金ジャカルタ・フィルムライブラリー所蔵作品(16mmフィルム)をセンターホールで上映。第4四半期は、『百万円と苦虫女』(タナダユキ、2008)や『母べえ』(山田洋二、2008)等を計6本を18回上映

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
47	図書館運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本語学習者や日本の文化や社会に関心を持つ市民に対して日本語教育(日本語・インドネシア語)・日本研究(日本語・英語・インドネシア語)図書を中心にした図書・資料を提供する専門図書館。日本関連の蔵書を一定数所蔵し、且つ一般利用が可能な図書館としては、インドネシア国内で最大規模 ①所蔵資料合計: 26,905点(視聴覚資料数を含む) ②利用者数(年間): 12,904名 ③貸出点数(年間): 10,292点 ④レファレンス件数(年間): 100件

海外拠点

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
48	ウェブサイト運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ジャカルタ日本文化センターの事業広報のためウェブサイト を運営。事業案内及び報告を中心に掲載。使用言語はインド ネシア語及び英語 URL: http://www.jpfr.or.id/ アクセス件数(年間) : 390,776件 メールマガジン配信数(年間) : 778,800件
49	ニューズレター <i>NUANSA</i>	2010.04.01 ~ 2011.03.31	一般広報及び各事業広報のため、ジャカルタ日本文化セン ターの広報誌 <i>NUANSA</i> (インドネシア語)を発行(年4回発行、 カラー/28ページ) 発行部数: 6500部、うちインドネシアの文化機関・要人等へ 4,000部を送付
50	ニューズレター <i>EGAO</i>	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本語教育関係者向けに、日本語教育関連催事の広報及び教 材情報等を掲載したニューズレター <i>EGAO</i> (インドネシア語、 一部日本語併記)を発行(年4回発行、2色刷り/12ページ) 発行部数: 2,600部、すべて日本語教育機関へ送付

【教室事業】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
51	学校訪問受入(第1四半期)	ジャカルタ	ジャカルタ日本 文化センター		2010.04.01 ~ 2010.06.30	教育機関より教師引率による訪問グループを受け入れ、職員 による説明、日本紹介ビデオ視聴、折紙やふろしき体験など で半日程度のプログラム内容にて、国際交流基金事業及び日 本文化紹介・体験を行った。第1四半期の受入実績は、中学 校、高校、専門学校、大学、警察学校や財務省研修所など計 9校から延べ652名
52	囲碁教室	ジャカルタ	ジャカルタ日本 文化センター多 目的教室	インドネシア囲 碁協会	2010.04.01 ~ 2011.03.31	インドネシア人を対象とした囲碁教室を実施。毎週金曜日・ 18:30~20:30(2時間)、インドネシア囲碁協会のメンバーが 常駐し、自由対局にて、技能向上を目指した
53	茶道教室	ジャカルタ	ジャカルタ日本 文化センター多 目的教室	裏千家淡交会 ジャカルタ支部	2010.04.27 ~ 2010.08.03	裏千家淡交会ジャカルタ支部より教諭5名を招き、インドネ シア人を対象に茶道教室を実施(平成20年度から開始、今回 で3年目。毎週火曜日・13:30~15:30(2時間)、全15回)
54	華道教室	ジャカルタ	ジャカルタ日本 文化センター多 目的教室	小原流ジャカル タ支部	2010.05.21 ~ 2010.09.30	華道・小原流ジャカルタ支部より、教諭 W. トニ・スロノ(W. Toni Surono: 小原流ジャカルタ支部長)を招き、インドネシ ア人を対象に華道教室を実施(毎週金曜日・14:00~16:00 (2時間)、全16回)

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
55	学校訪問受入（第2四半期）	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センター多目的教室		2010.07.01～2010.09.30	教育機関より教師引率による訪問グループを受け入れ、職員による説明、日本紹介ビデオ視聴、折紙やふろしき体験などで半日程度のプログラム内容にて、国際交流基金事業及び日本文化紹介・体験を行った。第2四半期の受入実績は、高校1校から50名)
56	茶道修了生による月例稽古会	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センター多目的教室	裏千家淡交会 ジャカルタ支部	2010.09.21～2011.03.22	既存の茶道教室の修了生を対象に、受講内容維持のための月1回の定例稽古会を実施。裏千家淡交会ジャカルタ支部より教諭5名を招き、第2または第3火曜日・13:30～15:30(2時間)に実施。本事業は本年度初めて試みたもので、期間中に全7回実施、参加者は18名
57	学校訪問受入（第4四半期）	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センター多目的教室		2011.01.01～2011.03.31	教育機関より教師引率による訪問グループを受け入れ、職員による説明、日本紹介ビデオ視聴、折紙やふろしき体験などで半日程度のプログラム内容にて、国際交流基金事業及び日本文化紹介・体験を行った。第4四半期の受入実績は、小学校、高校、日本語学校など計5校から延べ295名

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
58	文化による平和構築の案件発掘調査				2010.04.01～2011.03.31	文化による平和構築の案件発掘調査のため、カウンターパートとなる可能性のあるNGOや教育機関等にコンサルテーションを行い、インドネシアにおける紛争や対立の現状やニーズを把握するための調査と可能な案件形成を検討
59	第7回フレンドシップカップ囲碁大会	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センターホール	ジャカルタ囲碁将棋クラブ	2010.08.08	ジャカルタ囲碁将棋クラブと共催で、フレンドシップ囲碁大会を開催。級と段のレベルを基準に、3つのクラスに分けて個人トーナメントを行う。自由対局コーナーも設けるとともに、観戦自由として、参加者の裾野を広げた。69名が参加
60	第8回国際親善囲碁大会	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センター	インドネシア囲碁協会 ジャカルタ囲碁将棋クラブ じゃかるた新聞 デンソーインドネシア社 韓国囲碁協会 日本棋院	2010.11.28	インドネシア人、在留邦人・韓国人・中国人の囲碁愛好家が一堂に集まり、囲碁の国別対抗団体戦、個人トーナメント戦を実施。67名が参加。インドネシア人参加者が上位に食い込んだ

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
61	インドネシア日本研究学会 (ASJI) シンポジウム及び年次総会 (サイトビジット)			インドネシア日本研究学会 (ASJI)	2011.03.24 ~ 2011.03.25	本部事業助成案件であるインドネシア日本研究学会 (ASJI) の日本研究シンポジウム『カリキュラムから見たインドネシアにおける日本研究の発展』と年次総会を視察し、同学会の活動状況や日本研究の発展状況を視察すると共に、日本研究者とのネットワーク強化を図った。シンポジウムには約200名が参加

【本部事業受入】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
62	黒澤明生誕100周年記念上映	ジャカルタ ジャカルタ デポック バンドン バンドン バンドン	ジャカルタ芸術大学 ダルマプルサダ大学 インドネシア大学 インドネシア芸術大学バンドン校 ウィディアタマ大学 バンドン工科大学	ジャカルタ芸術大学 ダルマプルサダ大学 インドネシア大学 インドネシア芸術大学バンドン校 ウィディアタマ大学 バンドン工科大学	2010.10.28 ~ 2010.11.12	平成22年度「海外日本映画祭 (主催)」事業：黒澤明 (映画監督) の生誕100周年に当たり、国際交流基金本部が購入した35mmプリント21作品のうち、『酔いどれ天使』(1948)や『生きる』(1952)等10作品をジャカルタ、デポック、バンドンの3都市・6会場にて延べ27回上映し、延べ2,091名が来場
63	現代日本デザイン100選	ジャカルタ	インドネシア・ナショナル・ギャラリー	インドネシア・ナショナル・ギャラリー	2011.01.18 ~ 2011.02.06	平成22年度「海外展 (巡回展)」事業：当地では、日本のデザインへの関心は高く、2,390名が来場

(2) 助成・協力事業

【文化備品・視聴覚資料貸出】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
64	文化備品貸出 (第1四半期)	在メダン総領事館	2010.04.01 ~ 2010.06.30	インドネシア国内の総領事館や日本語教育機関等が実施する日本文化紹介事業のために、『時をかける少女』(細田守、2006)等ジャカルタ・フィルムライブラリーの所蔵映画、『京都』等の写真パネル等を貸出し
65	文化備品貸出 (第2四半期)	在スラバヤ総領事館	2010.07.01 ~ 2010.09.30	インドネシア国内の総領事館や日本語教育機関等が実施する日本文化紹介事業のために、ジャカルタ・フィルムライブラリーの所蔵映画『シコふんじゃった。』(周防正幸、1992)、『京都』等の写真パネル等を貸出し

海外拠点

	事業名	対象機関	期間	事業内容
66	文化備品貸出（第3四半期）	国立北スマトラ大学 在メダン総領事館	2010. 10. 01 ～ 2010. 12. 31	インドネシア国内の総領事館や日本語教育機関等が実施する日本文化紹介事業のために、『シコふんじゃった。』（周防正幸、1992）等ジャカルタ・フィルムライブラリーの所蔵映画、『京都』等の写真パネル等を貸出し
67	文化備品貸出（第4四半期）	在スラバヤ総領事館 在メダン総領事館	2011. 01. 01 ～ 2011. 03. 31	インドネシア国内の総領事館や日本語教育機関等が実施する日本文化紹介事業のために、『リンダ・リンダ・リンダ』（山下敦弘、2005）ジャカルタ・フィルムライブラリーの所蔵映画、『世界遺産』等の写真パネル等を貸出し

海外拠点

バンコク日本文化センター

合計額 74,919,647 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	現代日本文化発信スペース展示	バンコク	バンコク日本文化センター		2010.04.01 ~ 2011.03.31	バンコク日本文化センター現代日本文化発信スペース(*)において、効果的に日本文化を発信していくことを目的とした展示(定期的入替え)を年に4回程度実施。若手アーティストなどに作品発表の場を提供。平成22年度は桜や夏の日本の家の中の風景を作り出して、ふろしきなどの「JFオリジナルグッズ」を展示したほか、在タイアーティストの発表の場としても活用 (*)平成21年度のバンコク日本文化センターのオフィス改装に際し、図書館入り口の一角に設置された、小さな展示スペース
2	チェンマイ日本図書展	チェンマイ	スリウォン書店 チェンマイ大学中央図書館	スリウォン書店 チェンマイ大学日本研究センター	2010.11.17 ~ 2010.11.28 2010.11.29 ~ 2010.12.03	平成21年度「国際図書展参加」プログラムの一環として、第8回バンコク国際図書展(10.03.26~10.04.06)に出展された展示図書を活用し、チェンマイ市内の書店及びチェンマイ大学中央図書館において、日本関係の書籍や雑誌等の展示会を開催
3	サクラ・イベント	バンコク	伊勢丹バンコク店	伊勢丹バンコク店	2011.03.24 ~ 2011.04.03	日本の桜開花の時期に合わせ、タイ人向けに広く「日本人のお花見文化」を紹介。阿部恭子(バンコク在住画家)を中心とするアーティストによるお花見シーンの演出(インスタレーション)、パネル展示、クイズラリー、ワークショップ(11日間、計18回)を実施。東日本大震災発生後のチャリティ・イベントとして実施

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
4	いちご座人形劇公演	バンコク	バンコク日本文化センター	いちご座人形劇団	2010.09.18	神奈川県を拠点に活動するアマチュア人形劇団「いちご座」の子供向け公演をバンコク日本文化センターで実施。演目は『ぐりとぐら』『金のオノ、銀のオノ』『はらぺこ あおむし』。公演は日本語、司会進行はタイ語。同劇団は、パタヤでも孤児院の子供向けに公演を実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
5	日本パントマイム公演	ヤンゴン (ミャンマー)	チャトリアムホテル内ボールルーム	在ミャンマー大使館	2010. 10. 07 ~ 2010. 10. 10	在ミャンマー大使館との共催により、矢野かずき（バンコク在住パントマイム俳優）による公演を、同国首都ヤンゴンにて実施。日本語学習者及び一般向けに1回、子供向けに3回の計4回、日本のストーリーを含む作品を上演し、（子供を舞台上げて体験させるなど）観客との交流も実施
6	高嶺格 <i>MeLody♡Cup</i> 公演	バンコク	パトラワディー・シアター・ガーデン	パトラワディーシアター 高嶺格公演団	2010. 10. 26 ~ 2010. 11. 08	高嶺格（現代美術作家）が、2009年にタイと日本の若手アーティストと製作した作品 <i>MeLody♡Cup</i> （兵庫県、アイホール）のタイ公演。タイ・バンコクでのレジデンス（10. 26から10日間）、再クリエーションを行い、11月05日及び06日に計2回上演。アーティスト・トークも実施
7	チェルフィッチュ「三月の5日間」公演	バンコク	パトラワディー・シアター	チェルフィッチュ チュラロンコン大学演劇学科 パトラワディーシアター	2010. 11. 11 ~ 2010. 11. 12	世界20カ国以上で上演され好評を博したチェルフィッチュの『三月の5日間』のタイ公演。パトラワディーシアターにて2公演を実施。またチュラロンコン大学にて、タイの演劇・舞台関係者11名を対象に、岡田利規によるワークショップ（11. 12）を実施。タイ側コーディネーターはパーウィット・マハサリナンド(MAHASARINAND, Pawit : チュラロンコン大学演劇学科教授)
8	生け花デモンストレーション <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	ビエンチャン (ラオス)	ラオス日本人材開発センター	在ラオス大使館	2011. 02. 03 ~ 2011. 02. 06	在タイ華道家(池坊)徳江由紀子、川端佳代子をラオスの首都ビエンチャンに派遣し、在ラオス大使館との共催で生け花紹介事業を実施。ラオスの政府高官を招いてのデモンストレーション及び日本語学習者や教育者を対象とした参加型ワークショップを実施。在ラオス大使館主催の茶道・染色ワークショップと同時開催
9	生け花デモンストレーション <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	プノンペン (カンボジア)	カンボジア日本人材開発センター(CJCC)	在カンボジア大使館	2011. 02. 18 ~ 2011. 02. 23	在タイ華道家(草月流)円谷みつよ、吉田直美をカンボジアの首都プノンペンに派遣し、在カンボジア大使館との共催で生け花紹介事業を実施。カンボジア日本人材開発センター(CJCC)が実施する「CJCC祭り」での一般人を対象としたレクチャーデモンストレーションと、生け花愛好家や国会議員・政府高官婦人などを対象とした日本大使館でのレクチャー・デモンストレーション及び参加型ワークショップを実施

海外拠点

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
10	日本文化紹介キャラバン	バンコク バンコク ハジャイ ナコンパトム ウボンラチャターニー ナコンシータマラート	インターナショナル・スクール (Lycee Francaise) 国立行政開発研究所 (NIDA) プリンスオブソクラー大学 マヒドン大学 ウボンラチャターニー大学 ナコンシータマラート県庁	インターナショナル・スクール (Lycee Francaise) 国立行政開発研究所 (NIDA) プリンスオブソクラー大学 日本学生支援機構 (JASSO) 在タイ大使館 マヒドン大学 ウボンラチャターニー大学 ナコンシータマラート県庁	2010.04.01 ~ 2011.03.31	バンコク及び地方都市において、各地の受入機関と協議の上、現地のニーズに合った日本文化紹介事業を実施（折り紙・浴衣着付・風呂敷包みなどのワークショップ等）。平成22年度中に計6回実施し、うちハジャイとナコンパトムでは在タイ大使館や日本学生支援機構 (JASSO) 主催の留学説明会と同時に共催して実施
11	ウティット・ヘーمامーン帰国講演会	バンコク	シリキット国際会議場	The Publishers & Booksellers Association of Thailand (PUBAT)	2010.04.03	平成21年度の「開高健記念アジア作家招へい」プログラムにより訪日 (10.03.16~03.29) した、2009年東南アジア文学賞受賞者、ウティット・ヘーمامーン (HAEMAMOON, Uthis) による帰国講演会。「ミステリアスな日本」をテーマに「バンコク国際図書展2010」の会場で関連イベントとして実施
12	日本文化紹介ワークショップ・シリーズ <i>Japanese Arts and Culture Workshop Series</i>	バンコク	バンコク日本文化センター		2010.07.01 ~ 2010.09.30	一般のタイ人・タイ在住の外国人向けに、バンコク日本文化センター内で、2010年07月~09月の第1・3木曜日に計5回のワークショップを実施。内容は以下 「七夕祭と折り紙」 (10.07.01) 「浴衣着付と夏祭り (盆踊り)」 (10.07.15) 「合気道デモンストレーション」 (10.08.05) 「風呂敷の包み方」 (10.08.19) 「日本の歌」 (10.09.02)

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
13	文化交流使事業「いけばなデモン ストレーション&ワークショップ」	バンコク チェンマイ バンコク バンコク	在タイ大使館多 目的ホール チェンマイ大学 伊勢丹バンコク 店 バンコク日本文 化センター	在タイ大使館 在チェンマイ総 領事館 伊勢丹バンコク 店 池坊華道会 ノックユン池坊 生け花バンコク 支部	2010.09.23 ~ 2010.10.02	日本の文化庁から文化交流使として任命を受けた華道家、佐々木康人(池坊家元特派講師)による生け花文化紹介事業。バンコク日本文化センターにて一般向け参加型ワークショップ(10.09.23)、チェンマイ大学にてワークショップ(10.09.26)、在タイ大使館にて要人・文化人向け実演・講演会(10.09.30)、伊勢丹バンコク店にて実演及び展示(10.10.02)の計4回実施
14	バンコク国際タイポグラフィ・シ ンポジウム	バンコク	アリアンス・フ ランセーズ内 オーディトリア ム	カドソン・デン マク(Cadson Demac) アリアンス・フ ランセーズ ゲーテ・インス ティトゥート	2010.10.30 ~ 2010.10.31	タイで初めて行われた、文字のフォントデザイン・タイボグラフィに関する2日間の国際シンポジウム。タイの文字デザイン団体、カドソン・デンマク主催、アリアンス・フランセーズ、ゲーテ・インスティトゥート、バンコク日本文化センター共催。日本からは古平正義(商業デザイナー)が参加。各国の招へいデザイナーによる、タイ人専門家向けのワークショップも実施
15	地元学セミナー	バンコク チェンマイ チェンマイ	タイ天然資源環 境省 カンラヤーニ・ ワタナ郡集会所 チェンマイ大学	タイ天然資源環 境省 カンラヤーニ・ ワタナ郡ワット ジャン村 チェンマイ大学	2011.01.17 2011.1.19 2011.01.20	バンコクではタイ天然資源環境省と共催でセミナーを開催。さらにチェンマイ県の地方コミュニティを訪問し、地元民との交流プログラムも実施。さらにチェンマイ大学において、コミュニティ活性化を目的としたタイでの具体的な取り組みに関しタイ側専門家と討議・意見交換を実施

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
16	JFシアター	バンコク	バンコク日本文 化センターホー ル		2010.04.01 ~ 2011.03.31	毎月テーマを定め、毎週金曜日及び第1・第3土曜日の夕方、定期的に行われる日本映画の上映会。原則としてタイ語字幕付きで上映

海外拠点

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
17	図書館運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	<p>日本に興味関心を有する一般タイ人のためのライブラリー。日本文化全般に関する資料を広く収集提供。特に日本語教材や日本語教育に関する図書資料のコレクションが充実</p> <p>①所蔵資料合計： 24,979点 (内訳：和書13,579冊、英語5,020冊、タイ語3,680冊、視聴覚資料数2,700点)</p> <p>②利用者数(年間)： 70,471名 ③貸出点数(年間)： 13,399点 ④レファレンス件数(年間)： 92件</p>

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
18	ウェブサイト運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	<p>バンコク日本文化センターの事業広報のため、各事業の内容詳細を掲載するオフィシャルサイト</p> <p>URL: http://www.jfbkk.or.th/index.php アクセス件数(年間)：31,556件</p>
19	季刊広報誌 <i>Japan Letter</i> 発行	2010.04.01 ~ 2011.03.31	<p>バンコク日本文化センターの文化芸術交流事業の告知、活動報告及び日・タイ文化交流に関する寄稿記事を掲載する季刊の広報誌。英語・タイ語。平成22年度は年4回(4月、7月、10月、1月)計4,800部を発行</p>

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
20	タイ子供俳句絵画コンテスト	バンコク		日本航空(JAL)	2010.04.01 ~ 2011.03.31	<p>株式会社日本航空(JAL)との共催による、子供の俳句コンテスト。本年度のテーマは「学校」。全国62の中等学校から延べ429点の応募があったが、厳正な審査によって選ばれた入賞作品50点を、本人が描いた絵と共にバンコク日本文化センター季刊広報紙<i>Japan Letter</i>に掲載。入賞者には賞金と賞状を授与</p>

【本部事業受入】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
21	現代日本の工芸展	チェンマイ バンコク	チェンマイ大学 アートセンター バンコク芸術文化センター	チェンマイ大学 アートセンター バンコク芸術文化センター	2010.11.16 ~ 2011.02.13	<p>国際交流基金本部所蔵の巡回展コレクションのひとつ。陶器、竹細工、漆、ガラス、石など幅広い素材を用いて製作された日本の工芸作品を、「華」「侘び」「鋭」「歪み」「精緻」「花鳥」の6つのテーマに分類し、人間国宝の故・江里佐代子の作品を含む64点で構成</p>

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
22	日本映画祭2011「黒澤明生誕100周年記念映画祭」	バンコク	SF World Cinema	SF World Cinema	2011.01.06 ~ 2011.01.19	黒澤明生誕100周年の機会に、『羅生門』(1950)『生きる』(1952)『七人の侍』(1954)を含む計25本のフィルムを上映。タイ、韓国、フィリピン、インドネシア、マレーシアにも巡回

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
23	Sa Ta Nee SHIBUYA - Sri Pra Ya STATION (渋谷駅-スリプラヤ駅)	i-Thaiporary Crew	2010.06.01 ~ 2010.09.12	助成対象機関のi-THAIPORARY CREWは、「フェスティバル・トーキョー」(2009.03)で(井手茂太振付作品)KOKASHITAに参加した6名のタイ人若手ダンサーが、日本での経験を元にタイの演劇界に新たな視点を持ち込みたいと考えて立ち上げた演劇グループ。『ハチ公』などの日本の5つのストーリーをもとに、大都市東京の喧騒と、そのなかで感じる孤独感を表現したコンテンポラリー・パフォーマンス。2010年08月01日~18日の間に計16回公演。バンコク日本文化センターは、会場費及び広報費を助成
24	アコ画廊20周年記念展「20/20 (Twenty/Twenty)」	アコ画廊 (Akko Art Gallery)	2010.08.01 ~ 2010.12.31	日本、タイ、ベトナムのアーティストによる共同展示を行い、日本とアジアの芸術家間のより深いネットワーク作りのきっかけを作るとともに、広くタイ国民に現代日本のアートを紹介。バンコク日本文化センターは、アーティストの旅費の一部を助成
25	マヒドン大学主催「第1回東南アジア人権会議」	マヒドン大学人権社会開発センター (Center for Human Rights Studies and Social Development, Mahidol University)	2010.10.14 ~ 2010.10.15	東南アジアにおける人権研究についての学術交流や研究促進さらには人権関係機関のネットワーク形成を目的に開催。バンコク日本文化センターは、日本から講師として参加した新垣修 (関西外国語大学外国語学部教授) の旅費の一部を助成
26	Welcome to Haunted House	Welcome to Haunted Houseプロジェクト・チーム	2010.10.30 ~ 2010.10.31	タイで活躍する阿部恭子等日本人アーティストと、アピチャイ・リアムートン (LEAMTONG, Apichai) 等タイ人アーティストのコラボレーションによる、ハロウィーンにちなんだ「お化け屋敷」をテーマにした音楽・絵画・ダンスのライブ・パフォーマンス。バンコク日本文化センターは、会場費とピアノ賃料を助成
27	競技かるた2011年アジア大会出場者選考会	クルンテープかるた会	2010.12.06	2011年福岡で行われた競技カルタ・アジア大会への出場者を決定するためのタイ国内選考会。バンコク日本文化センターは、実技のデモ及び指導のため参加した競技かるた専門家渡辺令恵 (永世クイーン/横浜集會)、廣本幸紀 (読手/広島県かるた協会)、富田多紀雄 (読手/東京東會) の旅費の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
28	ASEAN・東アジア研究促進プロジェクト	タマサート大学政治科学部	2010.12.10 ～ 2010.12.13	タマサート大学はASEAN+日中韓の13カ国のアジア学専門家の協力を得て(各国2大学)、ASEAN及び東アジア学の専攻コースのカリキュラムを策定。バンコク日本文化センターは、講師として参加した勝間靖(早稲田大学大学院アジア太平洋研究学科教授)及び須藤季夫(南山大学総合政策学部総合政策学科教授)の旅費の一部を助成
29	<i>The Sound Language of Alukomarai</i>	Alukomarai	2010.12.18 ～ 2010.12.19	北部タイの聾啞学校や難民保護施設の障害を持った子供達を対象とした音楽ワークショップ及びデモンストレーション。申請者は、日本人の木村宏基をリーダーとして、タイ人のパラドン・ポナムヌアイ(PHONAMNUAI, Pharadon)ほか国際色豊かな5名から成るジャズバンド。文化芸術に触れる機会の少ない子どもたちに、音楽を通じた「会話」やゲームを通じて自己を表現する機会を与えること、日本・タイを中心とする草の根の国際交流を促進することを目的とする。バンコク日本文化センターは、機材リース代、謝金、車両手配費を助成
30	<i>A Ripe Volcano</i>	A Kassagi Krinckle Collective	2011.02.24 ～ 2011.04.01	タイキ・サップシット(SAKPISIT, Taiki:日系タイ人アーティスト)と森永ヤスヒロ(日本人サウンドアーティスト)のコラボレーションにより、「葛飾北斎」の作品を元にしたビデオ・インスタレーションを制作、展示。日本文化専門家チャイヨッシュ・イサボラパン(ISABORAPANT, Chaiyosh:ランシット大学教授)による北斎・日本絵画についてのセミナーを同時開催。北斎の作品の奥に流れる日本の精神・自然と、タイ文化との共通点を見出し、それらをビデオインスタレーションにより再現・展示する試み。バンコク日本文化センターは、森永ヤスヒロの謝金を助成
31	社会科教員ワークショップ講義録の作成	チュラロンコン大学アジア研究所	2011.02.01 ～ 2011.03.06	社会科教員を対象とした本ワークショップは日本研究者を講師に招いて毎年開催(但し本年度はタイ中南部を襲った洪水のためワークショップ自体は中止となった)。主催機関のチュラロンコン大学アジア研究所は政治・経済・社会など日本事情を簡潔にまとめた講義録(<i>Books on Japanese Studies</i>)を500部作成し、日本研究の基礎文献としてタイ各地の日本語教育・日本研究機関等に広く配布。バンコク日本文化センターは同研究所に対し、執筆謝金及び印刷経費を助成
32	<i>Wanto-Space 0 Dizzy</i>	B-Floor	2011.02.07 ～ 2011.02.11	タイの代表的なコンテンポラリー演劇団「B-Floor」と日本の劇団「妄人文明」のコラボレーションによる舞台 <i>Wanto-Space 0 Dizzy</i> 。バンコク及びホアヒンのパトラワディー・シアターにおいて、約1週間のレジデンスと共同制作を経てバンコクで2回(11.02.16～2.17)、ホアヒンで1回(11.02.19)上演。ホアヒンでは「フリンジ・フェスティバル2011」の一環として上演された。バンコク日本文化センターは、舞台制作費、広報費、アーティストの謝金の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
33	Tanuki Kabuki	Kabukimonotachi	2011.03.01 ~ 2011.03.31	舞台・絵画・アニメなど、様々な分野における日本とタイのアーティストが参加して、インスタレーション及びワークショップを実施。ワークショップには学生・アーティストを含む一般のタイ人が参加。バンコク日本文化センターは機材レンタル費、広報費、アーティストの謝金等の一部を助成
34	SPRITUTAINMENT	100トンソン・ギャラリー	2011.03.24 ~ 2011.05.15	100トンソン・ギャラリーが主催し、プラーブダー・ユン(YOON, Prabda)がキュレーターを務める日本、タイのアーティストによる展示・トーク。「宗教の中に見られるエンターテインメント性」という斬新なテーマを扱い、アートと宗教の観点から、日・タイの社会・文化に対する洞察を深める。日本からは、名和晃平とミヤケマイが参加。タイからはウィット・ピムカーンチャナポン(PIMKANCHANAPON, Wit)、クリット・ガーンソム(NGAMSON, Krit)などが参加。バンコク日本文化センターは日本人アーティストの旅費、制作費の一部を助成

【文化備品・視聴覚資料貸出】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
35	文化備品貸出	バンコク市内の高校等(34校)	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本文化紹介や日・タイ交流促進を目的とした非営利の事業に対し、事業主催者からの要望に基づき、バンコク日本文化センター所蔵の文化備品(浴衣など)の貸出事業を実施

海外拠点

マニラ日本文化センター

合計額 35,310,376 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	海外巡回展 <i>Out of ordinary/ extraordinary</i>	マニラ	メトロポリタン美術館	メトロポリタン美術館 Manila Bulletin 在フィリピン大使館	2010.06.30 ~ 2010.10.16	7月の日比友好月間事業の一環として、在フィリピン大使館等と共催で、メトロポリタン美術館にて海外巡回展 <i>out of ordinary/extraordinary</i> を展示し、8,171名が来場。また、当地の写真家グループを招いたワークショップ <i>Reaction Shots</i> を計3回実施
2	移動マンガ図書館	マニラ	SMXコンベンションセンター	プライム・トレード・アジア	2010.09.19	アニメ・マンガ愛好団体が主催するイベントに、マニラ日本文化センター図書館で所蔵するアニメ、マンガ関連図書及び什器を持ち込み、移動式のマンガ図書館を出展。21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS Programme) 若手日本語教師等の協力を得て、折り紙ワークショップやカタカナで名前を書くコーナーなども設置

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
3	ヴァージン・ラブフェスト 6	マニラ	フィリピン文化センター	ライターズ・ブロック フィリピン文化センター 在フィリピン大使館	2010.06.24 ~ 2010.07.04	未発表、未上演の作品を集めた演劇祭において、日・比経済連携協定 (EPA) によって日本に渡ったフィリピン人看護師・介護士の生活を描く、内田春菊の新作『エバーさんにつづけ! (<i>Sandan natin ni Ever-san!</i>)』を吉田智久の演出で上演し、1,000名が来場。日比の演劇関係者が共同で創作した作品であり、創作・上演の過程を通じ、両国演劇関係者の相互理解促進に貢献

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
4	和太鼓「倭 (Yamato)」フィリピン公演	マニラ	SMモール・オブ・アジア ミュージックホール SMシティ・ノースエドサ スカイドーム SMモール・オブ・アジア センター ステージ	SMスーパー モールズ SMシティ・ ノースエドサ SMモール・オ ブ・アジア ClickTheCity. com Manila Bulletin セブ・パシ フィック航空 吉野家フィリ ピン 在フィリピン 大使館	2010. 07. 08 ～ 2010. 07. 10	7月の日比友好月間の記念事業として、和太鼓グループ「倭 (YAMATO)」がマニラ首都圏の3会場において公演し、特に若者層を中心に3,900名が来場。対日関心の向上に寄与
5	ガレオン船貿易フェスティバル「ディア・デル・ガレオン」	マニラ	フィリピン教育演劇協会劇場 ナショナル・ミュージアム フィリピン国家芸術委員会 オーデトリウム		2010. 09. 22 ～ 2010. 09. 27	フィリピン国家文化芸術委員会が主催するガレオン船貿易を記念した国際文化芸術祭「ディア・デル・ガレオン」に、西尾純（ダンサー）を派遣。身体表現に関するワークショップや公演を実施。計3回の公演とワークショップには、470名が参加

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
6	桂歌蔵・英語落語公演	マニラ ダバオ	アサンプシ ョン大学ブ ラックボク クス デ・ラ・サ ール大学ウ ィリアム・ ショーシ アター ミンダナオ 国際大学	キャノン・ フィリピン デ・ラ・サ ール大学 在フィリ ピン大 使館 ミンダナ オ国際 大学 ダバオ出 張駐在 官事務 所	2010. 10. 11 ～ 2010. 10. 13	桂歌蔵(落語家)による英語落語公演で、『頭山』『時そば』を上演。学生や文化人などを対象に、マニラ2公演、ダバオ1公演の計3公演を実施し、830名が参加
7	第2回フィリピン国際カートゥーン・コミック・アニメーション (PICCA) フェスティバル参加	マニラ	SMシティ・ ノースエド サ アテネオ・ デ・マニラ 大学	フィリピン 国際カ ートウ ーン・ コミッ ク・ア ニメー ション ・フェ スティ バル SMシティ ・ノー ース エド サ アテネ オ・ デ・ マニ ラ大 学	2010. 10. 22 ～ 2010. 10. 25	フィリピンにおけるカートゥーン、コミック、アニメーションに関する総合イベントの一環として、アニメーション制作集団「ROBOT CAGE」の野村辰寿と松本絵美による、日本のアニメーション制作をテーマにした講演を実施。350名が参加し、日本・フィリピンのアニメーター交流促進に寄与
8	チェルフィッチュ・マニラ公演	マニラ	フィリピン 教育演 劇協会 劇場	フィリピン 教育演 劇協会 劇場 文化庁(日本)	2010. 11. 05 ～ 2010. 11. 06	現代日本を代表する演劇カンパニー・チェルフィッチュの東南アジア公演。岸田国士戯曲賞を受賞した『三月の5日間』をフィリピン教育演劇協会劇場で上演し、600名が参加。文化庁助成案件
9	上原ひろみジャズコンサート「ギフト・オブ・ジャズ：ヒロミ」	マニラ	ソフィ テル・ フィリ ピン・ プラ ザ ハ ーバ ーガ ーデ ン	フィリ ピン 国際 ジャ ズ・ アート フェ ス ティ バル 財団 デル タ航 空	2010. 12. 17	上原ひろみ(ジャズ・ピアニスト)を招へいし、フィリピン国際ジャズ・アートフェスティバル財団等と共催で、クリスマス・コンサートを実施。800名が来場

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
10	セ三味ストリート・マニラ公演	マニラ	シャングリラ プラザモール	シャングリラ プラザモール デルタ航空 在フィリピン 大使館	2011. 02. 26	日本語スピーチコンテストを目玉とする複合的の日本文化紹介事業「日本語フィエスタ2011」の一環として、日本から津軽三味線デュオのセ三味ストリートを招いて公演を実施。400名が来場し、エンターテインメント性に富んだパフォーマンスに、観客から高い評価を得た
11	フィリピン国際ジャズフェスティバル	マニラ	アヤラ美術館	株式会社 ヤマハ アヤラ美術館 フィリピン 国際ジャズ・ アートフェス ティバル財団 デルタ航空	2011. 02. 28	津軽三味線を使った大道芸デュオの、セ三味ストリートを招へいし、フィリピン国際ジャズフェスティバルのインターナショナル・ナイトにおいて公演を実施。500名が来場。日本のほか、フィリピン、韓国、米国のミュージシャンが参加。各国大使や協賛企業の関係者などのVIPが多数来場し、世論形成力のある層に対する対日理解の促進に貢献

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
12	若手キュレーター育成ワークショップ	マニラ	フィリピン大学 ヴァルガス ミュージアム	フィリピン大学 ヴァルガス ミュージアム	2011. 01. 27 ~ 2011. 01. 28	フィリピンにおける若手キュレーターの育成を目的に、フィリピン大学ヴァルガス・ミュージアムと共催でワークショップを実施。また展示事業に関する企画コンペを実施し、優秀者(CALUBAYAN, Buen: フィリピン国立博物館学芸員)を第4期東アジアクリエイター招へい事業の候補者として推薦
13	折り紙飛行機ワークショップ	マニラ	シャングリラ プラザモール	シャングリラ プラザモール 在フィリピン 大使館	2011. 02. 24 ~ 2011. 02. 27	「日本語フィエスタ2011」の一環として、西原良典(折り紙ヒコーキ協会会員)による、折り紙飛行機のワークショップを子供や学生等を対象に計2回実施。また日本語フィエスタの前々日にはマニラ日本文化センター図書館にて、日本語学習者を対象にしたワークショップも1回実施。計2回のワークショップに124名が参加

海外拠点

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
14	日本映画祭 <i>Eigasai 2010</i> (在外事業費支出分)	マニラ セブ ダバオ	シャングリラ プラザモール フィリピン大 学フィルムセ ンター	シャングリラ プラザモール フィリピン大 学フィルムセ ンター Manila Bulletin 在フィリピン 大使館 在セブ出張駐 在官事務所 ダバオ出張駐 在官事務所	2010. 07. 01 ~ 2010. 08. 21	日比友好の日(07.23)を記念する一連の文化行事である日比友好月間のオープニング事業として、日本映画祭をマニラ首都圏、ダバオ、セブの3都市4会場で開催。『ALWAYS 続・三丁目の夕日』など国際交流基金本部フィルムライブラリー所蔵作品10作品を上映
15	第4回国際サイレント映画祭	マニラ	シャングリラ プラザモール	在フィリピン・イタリア大使館 インスティテュート・セルバンテス ゲーテ・インスティトゥート 在フィリピン大使館 シャングリラ・プラザモール	2010. 08. 28 ~ 2010. 08. 29	日本、イタリア、スペイン、ドイツの文化交流機関4団体等との共催による国際サイレント映画祭。各国のサイレント映画に、フィリピンのバンドによる生演奏をつけて上映。日本は『子宝騒動』（斎藤寅次郎、1935）をラディオ・アクティブ・サゴ・プロジェクトの演奏とともに上映

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
16	黒澤明生誕100周年記念映画祭	マニラ	フィリピン大学フィルム・インスティテュート フィリピン文化センター	フィリピン大学フィルム・インスティテュート フィリピン文化センター 在フィリピン大使館	2010.09.14 ~ 2010.09.30	黒澤明（映画監督）の生誕100周年を記念し、『蜘蛛巣城』（1957）、『隠し砦の三悪人』（1958）等、同監督の21作品を上映。また、黒澤映画のポスター展も実施

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
17	図書館運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	フィリピン最大の日本語教育及び日本文化に関するリソースセンターとしての役割を果たすため、日本語教材に加え、特に昨今関心の高いアニメ関連の雑誌・書籍や漫画といった日本の現代文化に関する蔵書を拡充 ①所蔵資料合計： 4,145点 ②利用者数（年間）：3,925名 ③貸出点数（年間）： 840点 ④レファレンス件数（年間）： 3,161件

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
18	ウェブサイト運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	マニラ日本文化センターのイベント、公募事業等を紹介するサイトを運営 URL: http://www.jfmo.org.ph/index.php アクセス件数(年間) : 34,070件
19	ニューズレター SUKI 発行	2010.04.01 ~ 2011.03.31	マニラ日本文化センターの文化・芸術交流、日本研究・知的交流に関するニューズレター。平成22年度は7月、11月、2月の3回発行 発行部数（年間）：9,000部（各3,000部×3回）

海外拠点

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
20	Wifi Body 5 コンテンポラリーダンスフェスティバル	マニラ	グリーンベルト5 フィリピン文化センター	フィリピン国家芸術委員会 フィリピン文化センター 世界ダンス連盟マニラ支部	2010.06.25 ~ 2010.07.04	世界ダンス連盟マニラ支部、フィリピン文化センターが主催するフィリピン最大のコンテンポラリーダンス・フェスティバルに協力。若手コンテンポラリー・ダンサーを対象としたコンペティションにマニラ日本文化センター所長が審査員として参加。広報費等の事業経費の一部も支援
21	Jポップ・アニメ歌唱コンテスト	マニラ	SMシティ・ノースエドサイバーゾーン	ヒーロー・チャンネル 在フィリピン大使館 SMシティ・ノースエドサ	2010.07.24	日本のアニメソングやJポップ歌曲を日本語で歌うコンテストを実施。マニラ、セブ、ダバオから予選を勝ち抜いた10組のアマチュアバンドが出場。約1,000名の観客が来場し、マニラ出身のHimitsuが優勝

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
22	第3回バガスバスビーチ国際エコアートフェスティバル	Our Lady of Lourdes College Foundation	2010.05.30 ~ 2010.06.06	ビコール地方カマリネス・ノルテ州都のダエト市で開催される国際アートフェスティバル。フィリピンの他、フランス、香港、ノルウェー、イスラエル、クロアチアのアーティストが滞在制作するインスタレーション部門と、日本の飯村隆彦やフィリピン他海外作家によるビデオ部門からなる。アーティストの滞在費等の一部を助成
23	コスプレ・スナップ写真コンテスト	Cosplay.ph	2010.10.02 ~ 2010.10.03	Cosplay.phという、フィリピンのコスプレ愛好者団体が主催するコスプレイベント <i>Cosplay Mania X</i> 中のコスプレ写真コンテストの開催経費の一部を助成
24	シンポジウム <i>Building and Upholding Indigenous Knowledge</i>	Heritage and Arts Academies of the Philippines, Inc.	2010.11.12 ~ 2010.11.14	フィリピンの伝統文化の継承者を集め継承者間のネットワークの構築・強化や伝統文化の若者への伝承を目的に、3日間にわたりシンポジウムやワークショップを実施。2008年にはイロイロにおいて伝統文化の保護に関する国際会議を実施(日本からは姫田忠義が参加)しており、本事業はそのフォローアップの位置づけにある
25	2010年フィリピン・ペンクラブ国際文学会議	フィリピン・ペン・クラブ	2010.12.04 ~ 2010.12.05	フィリピン・ペン・クラブが主催する「国境を越えた文学の結束」をテーマとした国際会議。中上紀(作家)の招へい旅費を助成

海外拠点

【文化備品・視聴覚資料貸出】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
26	照明機材の貸出	シナーグ・アーツ財団	2010.04.01 ～ 2011.03.31	日本人の照明家が中心となってフィリピンの照明技術者の育成を行うシナーグ・アーツ財団に舞台芸術用照明機材を貸出

海外拠点

クアラルンプール日本文化センター

合計額 60,714,947 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	シャロン・チン個展 <i>All Together Now</i>	クアラルンプール	Bangsar Village	Bangsar Village	2010.05.14 ~ 2010.05.30	平成21年度東アジアクリエイター招へいプログラム(第2期)で、札幌にあるアーティスト・イン・レジデンス、S-AIR(エスエア)にてレジデンス活動を行ったシャロン・チン(CHIN, Sharon)の個展を開催。コミュニケーションをテーマにしたインタラクティブな内容となったため、ショッピングモールにて実施
2	こけし展(ジャパン・フェスティバル・ペナン)	ジトウラ(クダ州)	マレーシア北大学	マレーシア北大学 在ペナン総領事館	2010.10.05	マレーシア北大学(クダ州)で開催された「ジャパン・フェスティバル」の会場において、クアラルンプール日本文化センターが所蔵する巡回展セット「こけしの世界」から、27作品を展示
3	時広真吾舞台衣装展 <i>Dream of Time</i>	クアラルンプール	Kuala Lumpur Performing Arts Centre	The Actors Studio	2011.02.19 ~ 2011.03.13	「和」の美しさを前面に打ち出した衣装を制作しつつ、シェイクスピア劇、室内楽、コンテンポラリー・ダンスなど幅広いジャンルで活躍する時広真吾(衣装デザイナー)の舞台衣装展覧会、ワークショップ及びパフォーマンスを実施。株式会社日本航空(JAL)、マレーシア博物館局(国立博物館)から協賛・協力を得た

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
4	日本・マレーシアジャズ交流公演・教育ワークショップ	クアラルンプール	マレーシア国立芸術文化遺産大学(ASWARA) No Black Tie	No Black Tie	2010.05.11 ~ 2010.05.16	日本より布川俊樹(ジャズギタリスト)を招へいし、マレーシアジャズ界を代表するピアニスト、マイケル・ヴィーラバン(VEERAPEN, Michael)、その他シンガポール、インドネシアのミュージシャンとの公演を実施(3回公演)。マレーシア国立芸術文化遺産大学(ASWARA)でワークショップも実施
5	和太鼓「倭(Yamato)」公演	クアラルンプール	One Utama クアラルンプール市営ホール(DBKLホール)	One Utama 在マレーシア大使館	2010.07.12 ~ 2010.07.15	和太鼓「倭」による初のマレーシア公演(2回公演)。12日はOne Utamaショッピングモール・コンコース・エリア、13日はDBKLホールにて、マレーシア政府主催 <i>Kuala Lumpur Festival 2010</i> 認定事業の一つとして実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
6	落語 by 桂歌蔵 (クアラルンプール & ペナン)	クアラルンプール クアラルンプール ペナン ペナン	クアラルンプール日本文化センター マレーシア・ツーリズム・センター ペナン日本人学校 マレーシア科学大学	在ペナン総領事館 在マレーシア大使館 ペナン日本人学校 マレーシア科学大学	2010. 10. 14 ~ 2010. 10. 18	桂歌蔵 (落語家) による日本語古典落語・英語落語のマレーシア公演。ペナンではペナン日本人学校及びマレーシア科学大学にて、クアラルンプールではクアラルンプール日本文化センター及びマレーシア・ツーリズム・センターにて公演を実施
7	吉田兄弟ライブ in クアラルンプール	クアラルンプール	The Actors Studio @ Lot 10	The Actors Studio	2011. 01. 21 ~ 2011. 01. 23	日本だけでなく欧米各国で人気を博する三味線デュオ・吉田兄弟による東南アジア初公演。The Actors Studioとの共催により、3公演を実施。全公演完売となり、メディア掲載は49件。伊勢丹クアラルンプール、Vistana Hotel、JT International Berhadから協賛。在マレーシア大使館が協力

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
8	<i>The Strategy of the Zero Generation—After the Impact of Superflat by Takashi Ishizaki</i>	クアラルンプール	The Annexe Gallery	Rumah Air Panas	2010. 09. 08	平成20年度東アジアクリエイター招へい (第1期) フォローアップ事業。2008年に訪日したアーティスト、ヤップ・ソービン (YAP, Sau Bin) が来日時に会った、石崎尚 (目黒区美術館学芸員) を招待する形で講演を実施。Super flat以降の東京現代アートシーンを、注目すべきアーティストの作品画像や映像と合わせて紹介

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
9	定期日本映画上映会	クアラルンプール	マレーシアフィルム開発公社 (FINAS)	マレーシアフィルム開発公社 (FINAS) 在マレーシア大使館	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	東アジア・フィルムライブラリーの16mmフィルム上映。平成22年度上半期は4回上映 (『仁太坊—津軽三味線始祖外聞』 (西澤昭男、2004)、『虹をつかむ男』 (山田洋次、1996)、『東京物語』 (小津安二郎、1953)、『嵐を呼ぶ男』 (井上梅次、1983))。平成22年度下半期は2回上映 (『二人日和』 (野村恵一、2005)、『犬猫』 (井口奈己、2004))

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
10	日本映画祭 2010	クアラルン プール クアラルン プール ペナン	Golden Screen Cinema Mid- Valley Golden Screen Cinema One Utama Golden Screen Cinema Gurney Plaza	Golden Screen Cinema (GSC)	2010.06.15 ~ 2010.06.27	日本で近年公開された比較的新しい作品の特集上映。会場であるGolden Screen Cinema (GSC)との共催で、以下の8本の映画を上映。『ディア・ドクター』（西川美和、2009）、『劔岳 点の記』（木村大作、2009）、『のんちゃんのみりやん』（緒方明、2009）、『サイドカーに犬』（根岸吉太郎、2007）、『山桜』（篠原哲雄、2007）、『100万円と苦虫女』（タナダユキ、2008）、『秒速5センチメートル』（新海誠、2007）、『風が強く吹いている』（大森寿美男、2009）

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
11	図書館運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本文化・日本語に関する情報提供を目的とした図書館を運営 ①所蔵資料合計： 18,636点 （内訳：日本語書籍9,885冊、外国語書籍6,150冊 映像・音声資料2,601点） ②利用者数（年間）： 7,641名 ③貸出点数（年間）： 18,775点

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
12	ウェブサイト運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	クアラルンプール日本文化センター事業を紹介するサイト URL: http://www.jfkl.org.my/ アクセス件数（年間）：98,132件 メールマガジン配信数（年間）：135,772件
13	広報誌 <i>TEMAN BARU</i> 発行	2010.04.01 ~ 2011.03.31	クアラルンプール日本文化センターのニュースレターを隔月で発行 発行部数：12,500部

【教室事業】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
14	学校訪問受け入れ	クアラルン プール	クアラルン プール日本 文化センター		2010.04.01 ~ 2011.03.31	通年にわたり、主に学校等教育機関を受け入れ、クアラルンプール日本文化センタースタッフによる各種ワークショップなどの日本文化紹介プログラムを実施。年間実施件数：6件

海外拠点

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
15	和の小物作りワークショップ（4月）	クアラルンプール	クアラルンプール日本文化センター		2010.04.10	和風の生地を使用した小物作り手芸ワークショップ。2010年3月実施の際、定員を超えた申込者があったことから、4月にアンコール実施。今回は、置物にもなる香袋を作成
16	端午の節句お茶会	クアラルンプール	クアラルンプール日本文化センター		2010.05.08	日本の季節の行事に合わせて開催しているクアラルンプール日本文化センターの裏千家のお茶会。今回は端午の節句に合わせて開催
17	日本・マレーシアビデオアート交流事業（MALAYSIA-JAPAN VIDEO ART EXCHANGE : MJVAX）	イポー クアラルンプール ペナン	マラ工科大学ペラ校 マレーシア国立美術館 マレーシア科学大学	マレーシア科学大学 マレーシア国立美術館	2010.07.21 ~ 2010.08.09	平成21年度に「市民青少年交流（助成）[生活文化]」プログラムによる助成を受けマレーシア人アーティスト5名が来日した「日馬ビデオ交流展2009」のフォローアップ事業。日本人アーティスト7名が2週間強に亘りマレーシアに滞在。滞在期間を含め、20日間以上に渡って展覧会、ビデオスクリーニング、ワークショップ、トークなど様々なイベントを開催。日本からは、佐藤博昭、服部かつゆき、田中廣太郎、中村明子、中沢あき、瀧健太郎、大江直哉が、マレーシアからはマスヌール・ラムリー・マフムード(Masnoor Ramli Mahmud)、シャロン・チン(CHIN, Sharon)、シュウワイ・コク(KOK, Siew-wai)、ヌル・ハニム・カイルディン(Nurhanim Khairuddin)、カマル・サブラン(Kamal Sabran)が参加
18	和の小物作りワークショップ（12月）	クアラルンプール	クアラルンプール日本文化センター		2010.12.18	和風の生地を使用した小物作り手芸ワークショップ。今回は、携帯電話入れを作成

【本部事業受入】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
19	「現代日本デザイン100選」展	ペナン	マレーシア科学大学	マレーシア科学大学 在ペナン総領事館	2010.04.19 ~ 2010.05.14	国際交流基金本部「海外展（巡回展）」プログラムによる巡回展セットの展示。日本の製品がデザインの美しさと機能の両方を兼ね備えているという点をより強調するべく、コクヨからカドケシ（消しゴム）の提供を受け、来場者が触って試せるコーナーを設置。また、フィギュア・ファンの動員を促すべく、マジンガーZの最新版の大型バージョンを、バンダイ及びそのマレーシア代理店パッションマーケティングより借用の上、展示。株式会社バンダイ、パッションマーケティング、コクヨ株式会社から協賛、協力を得た

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
20	「現代日本の工芸展」	コタ・キナバル	Sabah Art Gallery	Sabah Art Gallery Sabah Cultural Board 在コタ・キナバル総領事館	2010.07.12 ～ 2010.07.30	国際交流基金本部「海外展（巡回展）」プログラムによる巡回展セット「現代日本の工芸」展の展示。陶器、竹細工、漆、ガラス、石など幅広い素材を用いて制作された工芸作品を、華、侘び、鋭、歪み、精緻、花鳥のテーマに分類し、人間国宝の故・江里佐代子の作品を含む64点の構成で紹介
21	折り紙ワークショップ	イポー クアラルンプール	ペラ州立図書館 クアラルンプール日本文化センター	ペラ州立図書館	2010.10.07 ～ 2010.10.09	国際交流基金本部「日本文化紹介派遣（主催）」プログラムにより日本から派遣された山口真（日本折紙学会事務局長）ら折り紙作家3名による折り紙ワークショップ。イポーでは子供から大人まで幅広い層を対象に、直接体験してもらう参加型プログラムを実施
22	西川箕乃助日本舞踊レクチャーデモンストレーション <i>Nihon Buyo--Traditional Japanese Dance, Lecture and Demonstration by Minosuke Nishikawa</i>	クアラルンプール	Malaysia Tourism Centre	在マレーシア大使館	2010.11.01 ～ 2010.11.03	西川箕乃助（日本舞踊）、花柳せいら（日本舞踊）、松永忠一郎（長唄）、堅田新十郎（囃子方）による日本舞踊レクチャー・デモンストレーション。シンガポールJapan Creative Centre (JCC)との連携事業として実施。Concorde Hotel、株式会社日本航空（JAL）、伊勢丹クアラルンプールの協賛・協力を得た
23	「未来への回路－日本の新世代アーティスト」展	シャー・アラム ペナン	Galeri Shah Alam Bangunan No. 57, Macalister Road	Galeri Shah Alam Penang State Gallery 在マレーシア大使館 在ペナン総領事館	2010.12.08 ～ 2011.01.23	国際交流基金本部「海外展（巡回展）」プログラムによる巡回展セットの展示。1990年代中盤以降、大きな注目を集めている11名の日本人若手作家の現代美術展。モノづくりへの丹念な取り組みという視点から、福井篤、廣瀬智央、明和電機等11名の作家の絵画、彫刻、インスタレーション、写真、ビデオ作品を紹介。視覚的インパクトに富み、モノづくりへの強いこだわりの感じられる作品を中心に、合計42点の作品を紹介。Muzium & Galeri Tuanku Fauziah, USMの協力を得た
24	「現代日本デザイン100選」展	クアラルンプール	マレーシア国立美術館	マレーシア国立美術館	2011.03.08 ～ 2011.04.11	国際交流基金本部「海外展（巡回展）」プログラムによる巡回展セットの展示。 日本の製品がデザインの美しさと機能の両方を兼ね備えているという点をより強調するべく、コクヨからカドケシ（消しゴム）の提供を受け来場者が触って試せるコーナーを設置。また、フィギュア・ファンの動員を促すべく、マジンガーZの最新版の大型バージョンを、バンダイ及びそのマレーシア代理店パッションマーケティングより借用の上、展示。株式会社バンダイ、パッションマーケティング、コクヨ株式会社の協賛・協力を得た

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
25	黒澤明映画祭 (Akira Kurosawa Film Festival - Centennial Retrospective)	クアラルンプール	マレーシア国立芸術文化遺産大学 (ASWARA)	マレーシア国立芸術文化遺産大学 (ASWARA)	2011.03.10 ~ 2011.03.20	黒澤明生誕100周年を記念した特別上映会。マレーシア一般人及び映画関係者を対象とし、フィルムは国際交流基金本部フィルムライブラリー所蔵の35mm作品を使用。11日間の会期中に、計25本、全28回上映。入場者は1,400名以上。マレーシアフィルム開発公社 (FINAS)、SONYの協力・協賛を得た
26	日本研究巡回セミナー	クアラルンプール コタ・キナバル ペナン	マラヤ大学 (University of Malaya) マレーシア・サバ大学 (University of Malaysia, Sabah) マレーシア科学大学 (Universiti Sains Malaysia)	University of Malaya University of Malaysia, Sabah Universiti Sains Malaysia Malaysia Association of Japan Studies (MAJAS)	2011.03.14 ~ 2011.03.18	渡邊頼純 (慶応大学教授) による巡回セミナー。テーマは、 <i>The Possibility of FTA in North East Asia and Implications for ASEAN</i> 。クアラルンプール、コタ・キナバル、ペナンで開催

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
27	Johor Bahru Arts Festival	The Johor Society for the Performing Arts	2010.07.13 ~ 2010.07.14	シンガポール在住の上野宏秀山 (尺八) 一団をジョホールバル・アーツ・フェスティバルに派遣し公演を実施。クアラルンプール日本文化センターは同氏らの渡航費・謝金・宿泊費を助成
28	nyoba Kan Butoh Festival 2010	nyoba Kan Dance Theatre	2010.08.05 ~ 2010.08.15	マレーシアで唯一の舞踏グループnyoba Kanによる舞踏フェスティバル。日本、ブラジルの舞踏家によるワークショップ、公演、展示会等により構成。日本からは和栗由起夫が招へいされ、ワークショップ及びnyoba Kanとの共同制作作品 <i>Rashomon</i> 公演を実施。クアラルンプール日本文化センターは同氏の国際航空賃、宿泊費、謝金を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
29	<i>International Conference on International Studies (ICIS) 2010, Media & Culture: Global Homogeneity vs. Local Identity</i>	マレーシア科学大学 (Universiti Sains Malaysia :USM)	2010. 10. 28 ~ 2010. 10. 30	マレーシア科学大学(USM)における日本研究・知的交流会議。日本よりローランド・ケルツ(KELTS, Roland:東京大学教授)を招へい。クアラルンプール日本文化センターは同教授の渡航費・謝金・宿泊費を助成
30	<i>ムラカ・アートフェスティバル 2010 (Melaka Art Performance Festival (MAP Fest) 2010)</i>	E-plus Entertainment Productions Sdn. Bhd.	2010. 11. 26 ~ 2010. 11. 28	世界遺産都市マラッカで開催されるアートフェスティバル。日本からは、コンテンポラリーダンサーの鈴木一虎とYumi Umimareが招へいされ、ワークショップ及びパフォーマンスを実施。クアラルンプール日本文化センターは、2名の国際航空賃、謝金を助成
31	<i>Switch On Mini Fest: Damo Suzuki's Network Live in Kuala Lumpur</i>	Herbal Project	2010. 11. 27	日本からダモ鈴木(実験音楽家)が招へいされ、公演(2セッション)を実施。クアラルンプール日本文化センターは、同氏の国際航空賃、宿泊費、謝金、会場借料(一部)、広報費(一部)を助成
32	<i>International Conference on International Studies (ICIS) 2010, A new Asian Country: Dynamics & Implications</i>	Universiti Utara Malaysia (UUM)	2010. 12. 01 ~ 2010. 12. 02	マレーシア北大学(Universiti Utara Malaysia)における日本研究・知的交流会議。日本より添谷芳秀(慶応大学教授)を招へい。クアラルンプール日本文化センターは同教授の渡航費・謝金・宿泊費を助成
33	<i>M1 Singapore Fringe Festival 2011</i>	The Necessary Stage Ltd	2011. 01. 05 ~ 2011. 01. 16	「M1(エムワン)」は、シンガポールで開催されるアートフェスティバル。日本からは上田麻希(美術家)、佐々木香奈子(美術家)が招へいされ、展覧会及びパフォーマンスを実施。クアラルンプール日本文化センターは2名の国際航空賃、謝金、機材借料、作品材料費を助成
34	<i>National Sudoku Seminar & Workshop</i>	Malaysia Sudoku Society	2011. 03. 19	既に世界的に有名・人気となった数独の開発者、鍛冶真起を日本より招へいし、セミナー及びワークショップを実施。クアラルンプール日本文化センターは同氏の渡航費・謝金・宿泊費を助成

【後援事業】

	事業名	主催機関	期間	事業内容
35	生け花デモンストレーションとワークショップ	池坊クアラルンプール・スタ ディ・グループ (Ikenobo Kuala Lumpur Study Group)	2010. 10. 26 ~ 2010. 10. 27	平成22年度文化庁・文化交流使としてマレーシアに滞在中の佐々木康人(華道家)による生け花デモンストレーション及びワークショップの実施に対し、後援名義を付与して支援

【会場提供】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
36	茶道練習のための和室提供	裏千家茶道同好会	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	「端午の節句お茶会(2010. 05)」等、クアラルンプール日本文化センター事業実施時に講師・運営協力を依頼している裏千家茶道講師・生徒による茶道練習会。平成22年度は、年間を通して計24回、クアラルンプール日本文化センターの和室を提供

海外拠点

【文化備品・視聴覚資料貸出】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
37	文化備品貸出	Multimedia University, Cyberjaya, Selangor	2010.03.19 ~ 2010.04.09	<i>Carnival of Japan 2010</i> への浴衣等の貸出
38	文化備品貸出	Yayasan Ilmuwan, Kuala Lumpur	2010.04.06 ~ 2010.05.07	<i>Japanese Education Fair</i> への浴衣等の貸出
39	文化備品貸出	Institute of Teacher Education Malaysia, Kuala Lumpur	2010.04.12 ~ 2010.04.23	<i>International Languages Week</i> への浴衣等の貸出
40	文化備品貸出	Kuala Lumpur Infrastructure University College (KLIUC)	2010.05.12 ~ 2010.05.26	<i>Japanese Culture</i> イベントへの浴衣等の貸出
41	文化備品貸出	Genting Inti International College, Pahang	2010.06.03 ~ 2010.06.16	<i>Memoirs of a Geisha-Japanese Secret 2010</i> への浴衣等の貸出
42	文化備品貸出	Cyberjaya University College of Medical Sciences, Selangor	2010.06.11 ~ 2010.06.18	<i>Cultural Night Presentation</i> への浴衣等の貸出
43	文化備品貸出	日本貿易振興機構 (JETRO) クアラルンプール事務所	2010.06.21 ~ 2010.06.27	JETROイベントへの和食サンプルの貸出
44	文化備品貸出	Institut Bahasa Teikyo, Kuala Lumpur	2010.07.15 ~ 2010.07.27	<i>Japanese Education Fair</i> への浴衣等の貸出
45	文化備品貸出	The Japanese Language Society of Malaysia	2010.07.22 ~ 2010.08.09	<i>The 3rd Japanese Language Festival</i> への浴衣等の貸出
46	文化備品貸出	Sekolah Seri Puteri, Kuala Lumpur	2010.07.26 ~ 2010.08.06	<i>Japanese Algorithm Dance</i> への浴衣等の貸出
47	文化備品貸出	Cancerlink Foundation, Kuala Lumpur	2010.07.28 ~ 2010.09.01	<i>Japanese Cultural Delight</i> への浴衣等の貸出
48	文化備品貸出	Evershine Dance & Creative Academy, Melaka	2010.08.13 ~ 2010.09.06	<i>Japan Cultural Festival</i> への浴衣等の貸出
49	文化備品貸出	テイラーズ・ユニバーシティ・カレッジ、レイクサイドキャンパス (Taylor's University College, Lake side Campus, Selangor)	2010.08.26 ~ 2010.09.15	<i>Taylor's Asaban Festival 2010</i> への浴衣等の貸出

海外拠点

	事業名	対象機関	期間	事業内容
50	文化備品貸出	マレーシア国民大学 (Universiti Kebangsaan Malaysia(UKM), Kuala Lumpur)	2010. 09. 15 ~ 2010. 10. 06	<i>Pesta Tanglung UKM</i> への浴衣等の貸出
51	文化備品貸出	在マレーシア大使館	2010. 09. 21 ~ 2010. 09. 23	裏千家茶会への茶道具等の貸出
52	文化備品貸出	サンウェイ・ユニバーシティ・ カレッジ (Sunway University College, Selangor)	2010. 09. 21 ~ 2010. 10. 11	<i>Internation Fashion Show</i> への浴衣等の貸出
53	文化備品貸出	サンウェイ・ユニバーシティ・ カレッジ (Sunway University College, Selangor)	2010. 10. 12 ~ 2010. 10. 26	<i>Class Project on Japanese Studies</i> への浴衣等の貸出
54	文化備品貸出	伊勢丹クアラルンプール	2010. 10. 12 ~ 2010. 12. 20	歌舞伎衣装展への浴衣等の貸出
55	文化備品貸出	Success Together Group, Kuala Lumpur	2010. 10. 13 ~ 2010. 10. 28	<i>National Costume Convention 2010</i> への浴衣等の貸出
56	文化備品貸出	Universiti Teknologi Petonas (UTP), Perak	2010. 10. 13 ~ 2010. 11. 12	<i>Convofair 2010</i> への浴衣等の貸出
57	文化備品貸出	Universiti Pendidikan Sultan Idris (UPSI), Perak	2010. 10. 20 ~ 2010. 10. 25	<i>Japanese Fiesta 2010</i> への浴衣等の貸出
58	文化備品貸出	Confucian Private Secondary School, Kuala Lumpur	2010. 10. 27 ~ 2010. 11. 15	<i>Japanese Culture Exhibition 2010</i> への浴衣等の貸出
59	文化備品貸出	Dusun Tropika Sdn. Bhd., Selangor	2010. 10. 29 ~ 2010. 12. 09	<i>Japanese Culture at D'Paradise Malacca</i> への浴衣等の 貸出
60	文化備品貸出	MultiMedia University, Cyberjaya, Selangor	2010. 11. 02 ~ 2010. 11. 11	<i>Yukata Workshop</i> への浴衣等の貸出
61	文化備品貸出	May Bank	2010. 11. 15 ~ 2010. 11. 22	<i>Japanese Culture Day</i> への浴衣等の貸出
62	文化備品貸出	在マレーシア大使館	2010. 11. 19 ~ 2010. 11. 22	<i>Japanese Furoshiki Event</i> への風呂敷等の貸出
63	文化備品貸出	MultiMedia University, Cyberjaya, Selangor	2010. 11. 24 ~ 2010. 12. 13	<i>Carnival of Japan</i> への浴衣等の貸出
64	文化備品貸出	Tunku Abdul Rahman College (TARC), Kuala Lumpur	2010. 11. 29 ~ 2011. 01. 12	<i>Japan Booth at TARC Cultural Fair</i> への浴衣等の貸出
65	文化備品貸出	Universiti Putra Malaysia (UPM), Selangor	2010. 12. 13 ~ 2010. 12. 28	<i>Global Village Presentation</i> への浴衣等の貸出

海外拠点

	事業名	対象機関	期間	事業内容
66	文化備品貸出	在マレーシア大使館	2011.02.25 ~ 2011.03.01	裏千家茶会への茶道具等の貸出
67	文化備品貸出	Universiti Tunku Abdul Rahman (UTAR), Kuala Lumpur	2011.02.25 ~ 2011.03.09	UTAR Festival 2011 "Colours of Culture"への浴衣等の貸出
68	文化備品貸出	Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM), Kuala Lumpur	2011.03.04 ~ 2011.03.16	International Language Festival 2011への浴衣等の貸出
69	文化備品貸出	MultiMedia University, Melaka Campus, Melaka	2011.03.10 ~ 2011.03.24	8th Japanese Cultural Weekへの浴衣等の貸出
70	文化備品貸出	TAR College, Penang	2011.03.11 ~ 2011.03.18	School Visitへの浴衣等の貸出
71	文化備品貸出	The University of Nottingham Malaysia Campus, Selangor	2011.03.17 ~ 2011.04.01	Bunkasai Eventへの浴衣等の貸出

【その他】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
72	コタ・キナバル国際映画祭	コタ・キナバル国際映画祭	2010.06.04 ~ 2010.06.09	本部フィルムライブラリー所蔵映画『かもめ食堂』と『時をかける少女』の各1回上映。上映作品の検閲手続きなどの手続きノウハウ等について協力
73	Short Short Film Festival & Asia in Malaysia	マレーシアフィルム開発公社 (FINAS) Short Short Film Festival & Asia (SSFF)	2010.10.01 ~ 2010.10.03	2010年に東京で開催されたShort Shorts Film Festival & Asiaにおける優秀作品とマレーシアの短編作品の特集上映。開催期間中は、作品上映のみならず、セミナーやトークも開催。広報などに協力
74	歌舞伎衣装展(Kabuki's Kimono Exhibition)への協力	伊勢丹クアラルンプール	2010.10.27 ~ 2010.11.04	伊勢丹クアラルンプールが開業20周年を記念し、三越が所蔵する明治～昭和時代の貴重な歌舞伎衣装20数点による展覧会を実施。クアラルンプール日本文化センターは浴衣を貸与した(文化備品貸出し)ほか、クアラルンプール日本文化センターが同時期に開催する主催事業「日本舞踊レクチャーデモンストレーション(西川箕乃助)」との相互広報を行う形で協力

海外拠点

ニューデリー日本文化センター

合計額 105,869,390 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	「原爆の日」 <i>Quest for Peace</i> ポスターコンテスト	デリー	ニューデリー日本文化センター	National Integrated Forum of Artists & Activists	2010.08.09	デリーの中学・高校生による、平和をテーマとしたポスター制作及びコンテスト。長崎に原爆が落とされた8月9日にちなみ実施。200名が参加
2	折り紙展覧会	ニューデリー	ニューデリー日本文化センター	Origami Oritai, India	2010.11.11 ~ 2011.11.23	毎年1回開催される当地の折り紙クラブによる作品展を開催
3	第7回エコプロダクツ国際展へのブース出展	デリー	プラガティマ イダン	アジア生産性機構 (Asian Productivity Organization: APO)	2011.02.10 ~ 2011.02.12	アジア生産性機構 (APO) が中心となって毎年アジア各国を巡回して実施しているエコプロダクツをテーマにした展示会。今年は初めてインドで開催され、日本企業を中心に、100社以上の企業や団体が参加。商品プロモーションが中心の展示会であったが、ニューデリー日本文化センターからは折り紙のワークショップ、国際交流基金オリジナル風呂敷や手ぬぐいの展示を実施

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
4	ソプラノ・テノール歌曲コンサート	デリー	トリベニ・カラ・サンガム劇場	ヤマハ・インド	2010.05.08	在留邦人、菊池貴代 (ソプラノ歌手) と、本邦から訪印した湯川晃 (テノール歌手) の2名による歌曲コンサート。日本歌曲メドレーのほか、プッチーニ等の西洋歌曲、アリアを紹介
5	ちんどん喜助公演	デリー	ニューデリー日本文化センター	在インド大使館	2010.11.20 ~ 2010.11.23	在インド大使館が主催する、ちんどん喜助によるちんどん屋公演を共催。ニューデリー日本文化センターや日本人学校等を巡回
6	沖縄舞踊公演	カルナル デリー	シュリフオート・オーディトリウム、 Kamani Auditorium	National Integrated Forum of Artists & Activists Delhi International Arts Festival (DIAF)	2010.12.06 2010.12.09	特定非営利活動法人沖縄文化民間交流協会による沖縄舞踊公演をカルナル及びデリーにて実施。総勢20名の公演団が、伝統舞踊から現在でも親しまれている民謡まで幅広い演目を上演。デリーでは <i>Delhi International Arts Festival (DIAF: デリー州政府及びプリティヴィ財団主宰)</i> の中のプログラムとして実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
7	青柳晋 ピアノコンサート	デリー	Teen Murti Bhawan	ヤマハ・インディア	2010. 12. 30	ヤマハとの共催で青柳晋のピアノコンサートを開催
8	劇団「花傳」による「雨月物語」公演・ワークショップ	デリー	ニューデリー日本文化センター	国立演劇大学 (National School of Drama)	2011. 01. 02 ~ 2011. 01. 12	国立演劇大学が毎年開催するフェスティバル <i>Bharat Rang Mahotsav</i> のコンペティション部門を通過した劇団「花傳」の来印にあわせ、ニューデリー日本文化センターで演劇ワークショップを開催(11. 01. 08)。当日は岡田圓(演出家/俳優)を中心に、日本文化の伝統的な美意識を取り込んださまざまな動きや演出効果を説明し、その後観客が実際に動きを体験
9	高橋アキ+田中泯 公演	デリー	ニューデリー日本文化センター	国立演劇大学 (National School of Drama)	2011. 01. 21 ~ 2011. 01. 24	国立演劇大学が毎年開催するフェスティバル <i>Bharat Rang Mahotsav</i> に田中泯(舞踏家)と高橋アキ(ピアニスト)が招へいされたことを受け、同大学及びニューデリー日本文化センターでのパフォーマンスを実施
10	徳丸十盟 (邦楽) インド公演	デリー	ニューデリー日本文化センター		2011. 02. 16	徳丸十盟 (尺八演奏家) 及び4名の邦楽器奏者 (尺八、琴) による、デリー、ハイデラバード、バンガロール、コルカタ、チェンナイのインド国内5都市巡回公演を実施。バンガロールではジャパン・ハッパ (日本祭) で上演し、現地音楽家と共演した
	ハイデラバード	英語外国語大学講堂	国立英語外国語大学	2011. 02. 16		
	バンガロール	ヤヴァニカホール	IJCCI (Indo-Japanese Chamber of Commerce & Industry, Karnataka)	2011. 02. 19		
	バンガロール	バンガロール大学講堂	ジャパンハッパ実行委員会	2011. 02. 20		
	コルカタ	印日福祉文化協会ホール	印日福祉文化協会	2011. 02. 23		
	チェンナイ	アジア文化会館AOTS同窓会	アジア文化会館AOTS同窓会	2011. 03. 02		

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
11	折り紙ワークショップ	デリー	ニューデリー日本文化センター	Origami Oritai, India	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	当地折り紙クラブの講師による定期ワークショップの実施。毎週水曜日及び土曜日に開催
12	日本文学講演会	デリー	ニューデリー日本文化センター	インド日本文学文化協会	2010. 09. 23	芳賀明夫 (遠藤周作『深い河』編集者) による講演会。『深い河』執筆当時の裏話や、遠藤作品全般に関する解説、また編集者として作家遠藤周作との交流を語る

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
13	伊勢崎賢治 講演会	デリー	ニューデリー 日本文化センター	開発協力ひろば	2010. 09. 26	国際交流基金日本研究機関支援[アジア・大洋州]プログラムにてデリー大学へ派遣中の伊勢崎賢治（東京外国語大学大学院総合国際学研究科教授）による講演会。タイトルは、「対テロ戦の展望：アフガニスタンからパキスタン、インドを見る」。アフガニスタンにおける国連活動（武装解除、復員、民主的選挙の実施等）で著名な同教授がアフガニスタン及びパキスタンの政治状況について説明し、インドに対する紛争の可能性またはテロリズムの脅威について講演
14	詩集出版記念会	デリー	ニューデリー 日本文化センター	インド日本文学文化協会	2010. 11. 12	ウニタ・サチダナンダ（SACHIDANAND, Unita：デリー大学助教授）により編集出版された詩集『ウルドゥー詩の花束』（ウルドゥー原文、ヒンディー翻字、日本語訳の3言語併記）の披露
15	日本文学シンポジウム	デリー	ニューデリー 日本文化センター	インド日本文学文化協会	2010. 11. 26 ～ 2010. 11. 27	松尾芭蕉、石垣りんをテーマに、濱川勝彦（元・奈良女子大学教授）、ウニタ・サチダナンダ（SACHIDANAND, Unita：デリー大学助教授）をはじめ日印の5名の研究者による発表
16	第6回日本文学の会	デリー	ニューデリー 日本文化センター	国文学研究資料館	2011. 02. 20	日本側研究者として今西祐一郎（国文学研究資料館長）、伊藤鉄也（同資料館教授）、インド側研究者として日本文学研究に携わるウニタ・サチダナンダ（SACHIDANAND, Unita：デリー大学助教授）、アニタ・カンナ（KANNA, Anita：ジャワハルラル・ネルー大学教授）が、『源氏物語』の翻訳について研究成果を発表。参加者はデリー大学、ジャワハルラル・ネルー大学の教授、学生約50名
17	ジャパン・ハッパ	バンガロール		ジャパン・ハッパ実行委員会	2011. 02. 20	南インドの中心都市であるバンガロールにおける日本祭り「ジャパン・ハッパ」を共催
18	Wall Art Festival 2011	デリー	ニューデリー 日本文化センター	Wall Art Festival事務局	2011. 02. 24	インド最貧州の1つであるビハール州ブッダガヤのスジャータ村を舞台に2010年より開催されている現代美術フェスティバルの報告会を、ニューデリー日本文化センターで開催。世界で活躍する現代美術作家が参加した貧困地域の社会開発プログラムという側面もあり、報告会では、現代美術フェスティバルとしての側面のみならず、社会開発へのアプローチ手法としての側面も紹介
19	サヴィトリ・元デリー大学教授 国際交流基金賞受賞記念講演会	デリー	ニューデリー 日本文化センター		2011. 02. 25	平成22年度国際交流基金賞（日本語部門）を受賞したサヴィトリ・ビシュワナタン（Dr. VISHWANATHAN, Savitri）の受賞記念講演「インドー日本：変化する認識」を実施
20	俳句レクチャー・ワークショップ	デリー	ニューデリー 日本文化センター	インド日本文学文化協会	2011. 03. 03	宮下恵美子（俳人）による俳句の作り方の紹介。日本の俳句とインドの詩の競演朗読会も実施
21	日印口承文学セミナー	デリー	ジャワハルラル・ネルー大学	ジャワハルラル・ネルー大学	2011. 03. 25	インド側研究者6名及び日本側3名の発表。インド側のテーマは、インド古典文学、日本文学に見るインドの影響やアイヌ文学について研究発表。日本側は、酒井京子、中平順子、永瀬比奈による紙芝居の紹介を実施

海外拠点

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
22	日本映画上映会	デリー	ニューデリー 日本文化センター		2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	日本映画の定期映画上映会をニューデリー日本文化センター内オーディトリウムで月2回程度実施
23	第二次世界大戦映画祭	デリー	Shri Fort Auditorium	インド情報放送省	2010. 09. 05	米国、英国、ドイツ、フランス、ロシア、日本の6カ国の戦争に関する映画祭。国際交流基金からは『ビルマの堅琴』（市川崑、1956）を提供し、上映
24	ノイダ映画祭 <i>Global Film Festival</i>	ノイダ	マルワスタジオ	Global Film Festival事務局	2010. 11. 12	ノイダ市で開催された映画祭 <i>Global Film Festival</i> に、ニューデリー日本文化センター所蔵のアニメーションDVD <i>Nitabo</i> を貸出し上映
25	<i>DENKIKAN</i> 屋外フィルム上映会	デリー	ニューデリー 日本文化センター	シネ・ダバー (Cine Darbaar)	2011. 02. 26	タイトルのDENKIKANは日本で最初にできた映画専門の劇場「電気館」から引用し、ニューデリー日本文化センター前のスペースに特設のテント小屋を設置、内部で16mm映写機による上映会を実施。外の光がうっすらと漏れ入る半屋外空間のレトロな雰囲気の中で16時から22時まで日本映画を6時間ノンストップ上映。フィルムは在インド大使館所蔵の西アジアフィルム・ライブラリーより『たそがれ清兵衛』『リンダ リンダ リンダ』『回路』の3作品を借用して上映

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
26	図書館運営	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	日本語学習者向けの教材や日本研究者向けの和英資料の充実を図りつつ、同時に現代日本を紹介するための関連資料（図書、参考書籍、視聴覚資料）を配架する専門図書館を運営 ①所蔵資料合計： 約11,000点 （内訳：日本語6,500冊、英語及びヒンディー語3,500冊 視聴覚資料数約1,000点） ③利用者数（年間）： 6,729名 ④貸出点数（年間）： 2,618点 ⑤レファレンス件数（年間）： 649件 ⑥図書館用リーフレット作成： 有り

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
27	ウェブサイト運営	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	ニューデリー日本文化センターの紹介、主催・共催事業等の案内、公募事業の案内、日本文化に関する情報発信を実施 URL: http://www.jfindia.org.in/ アクセス件数（年間）： 22,642件 メールマガジン配信数（年間）： 808件

海外拠点

【教室事業】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
28	中等教育現職日本語教師研修	デリー	ニューデリー 日本文化センター	中央政府中等 教育委員会 (CBSE)	2010. 07. 01 ~ 2011. 01. 31	日本語運用能力及び教授能力の向上を目的に、デリー近郊の初・中等教育機関に属する現職日本語教師を対象に、教科書による指導方法や文化紹介の手法等の講義を実施（毎月第1・3金曜日のコース、または第2・4金曜日のコース）。研修修了者18名に対し、ニューデリー日本文化センター並びに中等教育委員会の連名による修了証書を授与
29	中等教育現職日本語教師研修 (11年生教師向け)	デリー	ニューデリー 日本文化センター		2011. 03. 01 ~ 2011. 03. 31	11年生を教える教師向けに、インド政府指定教材『みんなの日本語』の使い方について研修。週2回×4週間

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
30	ハミルプル日本文化祭	ハミルプル	ヒム・アカデ ミースクール	ヒム・アカデ ミースクール	2010. 11. 15	平成21年度中学高校教員交流(招へい)プログラムに副校長が参加したことをきっかけに日本に関心を持ち、日本に関する展示、日本語での挨拶の仕方、ラジオ体操の体験等を含む日本文化祭を実施
31	自治体国際化協会 デリー交流	デリー	ニューデリー 日本文化センター	自治体国際化 協会 (CLAIR)	2010. 11. 30	自治体国際化協会 (CLAIR) との共催で、日本人の地方公共団体職員と日本語を学ぶインド人との交流会を実施
32	デリー福岡フェア	デリー	オパロイホテル	福岡県	2011. 03. 15	福岡県の実施する国際フェアに対し、主に広報面で協力。内容は福岡の文化紹介及び留学相談コーナーの設置等

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
33	日本映画上映会	シネ・ダバー (Cine Darbaar)	2010. 04. 23 ~ 2010. 08. 06	映画テレビ・アジアスクール(04. 23~24)及びアミティ・コミュニケーションスクール(08. 05~06)の2つのカレッジで、各2日間の日本映画上映会及びワークショップを実施する事業に対して助成
34	アニメ映画祭 <i>Anime Cinema Experience, 2010</i>	シネ・ダバー (Cine Darbaar)	2010. 08. 20 ~ 2010. 08. 22	西アジア・フィルムライブラリー所蔵作品『時をかける少女』や共催団体が上映権を持つアニメーション作品（『ほしのこえ』『秒速5センチメートル』『雲のむこう・約束の場所』）の上映、ニューデリー日本文化センター所蔵の漫画本の貸出提供、インド人のアニメ専門家キーティズ・アナンド (ANAND, Khitiz) による日本アニメ・ワークショップを実施する事業に対して助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
35	折り紙セミナー	Origami Oritai, India	2010.10.17 ~ 2010.10.24	ニューデリー日本文化センターを拠点に活動をしている Origami Oritai, India と共催で、日本より鈴木恵美子（折り紙専門家）を招へいし、ワークショップを実施する事業に対して助成
36	剣道ワークショップ	バハーラッタ・シアター (Bharatha Theatre)	2010.10.25 ~ 2010.10.31	日本から剣道の専門家を招へいし、日印のマーシャルアーツに関するワークショップ及びデモンストレーションを実施する事業に対して助成
37	博士論文執筆調査	ニヴェディタ・クマリ (KUMARI, Nivedita)	2010.11.07 ~ 2010.12.12	日本語とヒンディー語の比較言語研究に関する調査。ニューデリー日本文化センターは、日本・インド間の渡航費の一部を助成
38	学校巡回日本アニメーション・ワークショップ	シネ・ダバー (Cine Darbaar)	2010.12.01 ~ 2011.03.31	日本のアニメーション及び漫画を題材に、ニューデリー市内及び近郊の中等教育機関を巡回し、ワークショップを実施する事業に対して助成
39	バンガロール・カラオケ・コンテスト	バンガロール日本語教師会 (Bangalore Nihongo Kyoshikai)	2010.12.12	バンガロール市内及び周辺地域の日本語学習者による日本語カラオケ・コンテストに対しニューデリー日本文化センターは、賞品購入費を助成
40	折り紙ワークショップ	バル・バワン (Bal Bhawan)	2010.12.19 ~ 2010.12.23	当地在住の折り紙専門家による中等教育機関向け折り紙ワークショップを開催する事業に対して助成
41	いけばなインターナショナル定期大会（グルガオン）	いけばなインターナショナル・グルガオン	2011.01.29	いけばなインターナショナル・グルガオン支部による定期大会。ニューデリー日本文化センターは会場借料を助成
42	ジャワハルラル・ネルー大学セミナー報告書作成	ジャワハルラル・ネルー大学	2011.03.01 ~ 2011.03.31	2010年3月ジャワハルラル・ネルー大学主催セミナー「言語教育は言語と文化を結ぶ」の報告書を作成。ニューデリー日本文化センターは、編集費の一部を助成

海外拠点

シドニー日本文化センター

合計額 189,808,577 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	展覧会 <i>Akira Automne/ Hiver 2010</i>	シドニー	シドニー日本文化センター		2010.06.03 ~ 2010.06.25	日本出身でオーストラリアを代表するファッション・デザイナーとなった五十川明を招き、最新コレクション(2010 秋・冬)及び、その元となったデッサン画など50点を展示。関連行事として、展示作品の制作過程等についてのアーティスト・トークを6月3日に実施
2	展覧会 <i>facetnate!</i>	シドニー	シドニー日本文化センター		2010.07.08 ~ 2010.09.30	シドニー日本文化センターが平成20年度に開始した、若手新人アーティスト育成のための企画展 <i>Facetnate!</i> の第3年度。「日本」に影響を受けているアーティストを公募し、17件の応募者の中から入選者3名を選定。それぞれがシドニー日本文化センターギャラリーで、以下の展覧会を実施。 1) <i>AMA</i> サビーナ・マセリ (MASELLI, Sabina) 2) <i>days end</i> エイミー・クレイグ (CRAIG, Amy) 3) <i>Grove</i> キャス・フリース (FRIES, Kath) 最優秀のキャス・フリースに <i>Japan Foundation New Artist</i> 賞 (副賞日本往復航空券) を授与。本展覧会は、第17回シドニー・ビエンナーレの関連事業としても位置付けられ、入選作家はビエンナーレの公式イベント「ペチャクチャ・ナイト (<i>PechaKucha nights at SuperDeluxe@Artspace</i>)」にも出演

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
3	<i>In Repose</i> 展	シドニー	シドニー日本文化センター		2010.04.01 ~ 2010.05.14	日本とオーストラリアのアーティスト4名による、写真、映像、音楽、ダンスを組み合わせた複合アートプロジェクト。参加アーティストは、金森マユ (写真家)、小田村さつき (箏)、浅野和歌子 (ダンサー)、ビック・マキューアン (MCEWAN, Vic: 作曲家)。豪州北部の各地に残る日本人墓地进行を訪ね、現地の人々と交流しながら追悼のためのセレモニーを行った記録を、展示とパフォーマンスにより再現。来場者数は663名
4	和太鼓・尺八公演・ワークショップ <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	スバ (フィジー)	南太平洋大学 Holiday Inn	在フィジー大使館	2010.07.11 ~ 2010.07.15	ROYCE-HAMPTON, Tom (和太鼓) と JOBST, David Joseph (尺八) をフィジーに派遣し、コンサート及び南太平洋大学の学生を対象としたワークショップを開催
5	琴・フルート・コンサート <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	ウェリントン (ニュージーランド)	Massey University, Concert Hall Wellington Town Hall	在ニュージーランド大使館	2010.09.03 ~ 2010.09.06	小田村さつき (箏) と DRAEGER, Christine (フルート/尺八) をウェリントンに派遣。コンサート及びウェリントン・ジャパンフェスティバル (<i>Japan Festival of Wellington</i> : 隔年開催) にて演奏を実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
6	キャンベラ・奈良・キャンドル・フェスティバル	キャンベラ	キャンベラ・奈良平和公園		2010. 09. 18	奈良市とキャンベラの姉妹都市交流を記念してオーストラリア首都特別地域政府主催で行われるキャンベラ・ナラ・キャンドル・フェスティバルに、シドニー在住の、れん(書家)を派遣して2回の書道パフォーマンスを行うと共に、大使館ブースの中で国際交流基金事業を紹介
7	日本舞踊公演 <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	オークランド (ニュージーランド)	Logan Cambell Center	オークランド・ニュージーランド日本協会、在オークランド総領事館	2010. 09. 24 ~ 2010. 09. 26	オークランド・ニュージーランド日本協会が主催する <i>Taste of Japan</i> ・フェスティバルに、日本舞踊専門家 YOKE, Chin Khamを派遣
8	箏・三味線公演 <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	ヌクアロファ (トンガ)	クィーンサロテメモリアルホール 迎賓館	在トンガ大使館	2010. 11. 01 ~ 2011. 11. 04	日本・トンガ外交関係樹立40周年を記念する事業として、小田村さつき(箏)、黒澤仁美(箏)及び蔭山智美(三味線)をトンガに派遣して公演を実施。国王トゥポウ5世と王族・政府関係者、音楽関係者を招待した公演及び一般向けコンサートの計2回を実施

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
9	レクチャーシリーズ <i>Living Histories</i>	シドニー	シドニー日本文化センター		2010. 05. 07 ~ 2010. 07. 02	日豪交流の歴史において、これまであまり知られていないが草の根のレベルで重要な役割を果たしてきた人々を取り上げ、19世紀後半から現在までの交流を振り返る6回シリーズの講演会。 講演者及びテーマは、MCARTHUR, Ian (シドニー大学名誉研究員)による「日豪交流概観」、HAMILTON, Walter (元ABCテレビ東京特派員)による「呉の子供達」、ECCLES, Graham (元 <i>The Herald and Weekly Times</i> 紙編集長)による「羊毛貿易」、OLIVER, Palm (モナシュ大学研究員)による「オーストラリア襲撃」、PULVERS, Roger (作家/劇作家/演出家)による「日本とオーストラリアの間で」、山内由里子(シドニー工科大学研究員)による「日本人移民とアボリジニ」。来場者数は380名
10	アーティスト・トーク・シリーズ <i>Wherefore ART thou?</i>	シドニー	シドニー日本文化センター		2010. 05. 26 ~ 2010. 08. 25	日本とオーストラリアの若手現代アーティストを毎回1名ずつ招き、初心者・一般にもわかりやすく、自身の作品内容を紹介・解説する現代アートへの入門トークシリーズを全4回開講。参加アーティストは、進藤詩子、ROBINSON, Kiron, CARR, Hamish, BAKKER, Jermy。一部作品展示も実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
11	レクチャー&映画上映シリーズ <i>Glimpses of Japan</i>	シドニー	シドニー日本文化センター		2010. 10. 06 ~ 2010. 10. 27	大洋州フィルムライブラリーに所蔵されている約30年前の日本文化・社会を紹介するためのドキュメンタリー映画を上映し、専門家がその時代背景やその後の変化、現代に与えた影響について解説を行う4回シリーズの講演会。 上映映画及び解説者は、第1回：Salary Man (1975) KARLSSON, Mats (シドニー大学講師)、第2回：Voices of Young Japan (1979) HAYES, Carol (オーストラリア国立大学上級講師)、第3回：The Hanawa Family (1980) MACKIE, Vera (ウーロンゴン大学教授)、第4回：Manga: The Cartoon in Contemporary Japanese Life (1982) SUTER, Rebecca (シドニー大学講師)
12	日本伝統工芸講座	シドニー	シドニー日本文化センター		2011. 03. 21 ~ 2011. 03. 31	日本の伝統工芸の技術・技法を継承する講座の第1弾として「筒描き友禅染め」の第一人者である、小林秀明を講師として迎え、デザイン・美術の専門家17名を対象に、実質9日間に亘る友禅染めの一連の工程を伝授するワークショップを開講（引続き2011年4月にはオーストラリア・デザイン・アカデミーとの共催でメルボルンで実施）

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
13	大洋州フィルムライブラリー運営			在オーストラリア大使館 在メルボルン総領事館 在ニュージーランド大使館 在オークランド総領事館	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	大洋州各地において、在外公館との共催により日本映画上映会を開催。平成22年度は計32回の上映会を実施
14	水曜映画会 (<i>Japanese Cinema</i>)	シドニー	シドニー日本文化センター		2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	大洋州フィルムライブラリーの映画を使って、シドニー日本文化センター多目的ルームで上映会を開催。平成22年度は、計11回実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
15	第14回日本映画祭	パース ブリスベン キャンベラ シドニー メルボルン ホバート	State Library of Western Australia Tribal Theatre National Film and Sound Archive Event Cinemas Australian Centre for Moving Images Village Cinema	在パース総領事館 在ブリスベン総領事館 在オーストラリア大使館 National Film and Sound Archive 在メルボルン総領事館 ホバート豪日協会 スマッシュ (SMASH!)	2010. 10. 18 ~ 2010. 12. 07	本年度は6都市で日本映画祭を開催。シドニー(22作品上映)とメルボルン(15作品上映)で約12,000名を動員したほか、パース、ブリスベン、キャンベラ、ホバートでも実施し、全6都市合計で過去最大の約14,000名を動員。シドニーでは『京都太秦物語』の阿部勉(監督)、佐藤忠男(映画評論家)を招へいし、11月23日にフォーラムを開催するとともに、塩谷直義(監督)を招へい。上映映画は、『おとうと』『告白』など。シドニー及びメルボルンでは、同映画祭の一部として、アニメ祭組織・スマッシュ (SMASH!) との共催で4本のアニメ作品を上映する「アニメ祭」を実施。株式会社日本航空 (JAL)、CUBE IT、SBS等、計25機関から協賛・協力を得た

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
16	図書館運営	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	一般市民、日本語教師、日本研究者を対象に、英語による日本についての図書、劇映画・アニメDVD、日本語教材を多く備え、月曜から金曜まで毎日開館。3週に1度、土曜日も開館。図書貸出、レファレンスサービス、Web-OPACなどのサービスを提供 ①所蔵資料合計： 18,856点 (内訳：蔵書16,384冊、視聴覚資料：2,472点) ②利用者数(年間)： 16,114名 ③貸出点数(年間)： 11,468点 ④レファレンス件数(年間)： 97件

海外拠点

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
17	ウェブサイト運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	シドニー日本文化センターを紹介するウェブサイトを運営。組織紹介、事業案内、特集記事、事業アーカイブ等から成る URL: http://www.jpfc.org.au/ アクセス件数(年間) : 419,373件 メールマガジン配信数(年間) : 99,000件
18	メールマガジンの発行	2010.04.01 ~ 2011.03.31	Eメールによるニューズレター <i>OMUSUBI</i> を発行。一般向け、日本語教師向けの定期版(月1回発行。HTML版)及び新着情報がある都度、随時発信する臨時版(テキスト版)を組み合わせ、年間計33本を発信。登録者数は約3,000名(2011年3月末現在)
19	学術ジャーナル <i>New Voices</i> の刊行	2010.04.01 ~ 2011.03.31	若手・次世代研究者の育成・支援を目的として2006年に発刊した <i>New Voices</i> 第4号を刊行。オーストラリア、ニュージーランドの優等学士(Honours)及び修士(Masters)の学位論文の中から優れたものを公募し、査読を経て選ばれた論文を印刷媒体で5本、ウェブジャーナルで9本発行。掲載論文は、 <i>Raising subjects: The representation of children and childhood in Meiji Japan</i> 等

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
20	第4回井上靖賞授賞式	シドニー	シドニー日本文化センター	シドニー大学 井上靖記念文化財団	2010.06.07	オーストラリアで発表された日本文学研究に関する優れた業績を顕彰する「井上靖賞」の授賞式を開催すると共に、関連イベントを実施。受賞者マツ・カールソン(KARLSSON, Mats:シドニー大学講師)による記念講演、黒田佳子(井上靖の次女)によるスピーチ及びシドニー日本文化センター・フィルムライブラリーから井上靖の小説が原作の映画『千利休・本覚坊遺文』を上映
21	アニメイベント <i>SMASH!</i> 及び <i>ANIMANIA</i> への参加	シドニー	Sydney Town Hall Australian Technology Park		2010.08.07 ~ 2010.09.12	オーストラリアでも人気の高いアニメやマンガのファン・イベントである <i>SMASH!</i> 及び <i>ANIMANIA</i> にブースを出展し、国際交流基金事業やシドニー日本文化センター日本語講座の紹介を行うとともに、アニメ・マンガ関係者とのネットワークを構築

海外拠点

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
22	文化芸術交流ローカルグラント <i>Silent Film Festival</i>	Silent Film Festival 事務局	2010.09.11 ~ 2010.09.25	日本、オーストラリア、米国、ドイツ、フランス、ロシア各国のサイレント映画12本を上映するサイレント映画祭にて、小津安二郎の『出来心』を尺八のライブ公演付きで上映。シドニー日本文化センターは、広告費及び映画上映費の一部を助成
23	日本研究・知的交流ローカルグラント <i>Australia-Japan Annual Dialogue</i>	グリフィス大学アジア研究所	2010.10.27	グリフィス大学アジア研究所が開催する <i>Australia-Japan Annual Dialogue</i> に対する助成。日本とオーストラリアからそれぞれ1名ずつ著名な人物を招き、日豪関係の現状と将来の展望につき議論を行う公開講演会を実施。3年計画事業の1年目である本年度の講演者は、アレクサンダー・ダウン（DOWNER, Alexander: 元オーストラリア外務大臣）と佐藤重和（在オーストラリア大使）。シドニー日本文化センターは、講演者の旅費及び広報費を助成
24	日本研究・知的交流ローカルグラント <i>International Conference on Human Rights Education</i>	西シドニー大学	2010.11.04 ~ 2010.11.06	西シドニー大学が開催する人権教育に関する国際会議に対する助成。国連が採択した人権教育のための世界プログラムに関する決議に関連して、人権教育の推進施策についてオーストラリア内外から有識者を招き会議を開催。シドニー日本文化センターは、日本から招へいた阿久澤麻理子（兵庫大学准教授）、阿部浩己（横浜市立大学教授）の参加旅費を助成
25	日本研究・知的交流トラベルグラント <i>Metabolism: The City as Space of Destruction and Survival</i>		2010.11.11 ~ 2010.11.20	マルコ・ポンピリ（POMPILI, Marco: 建築家）が日本で研究を行うための旅費の一部を助成。日本で1950年代に黒川紀章（建築家）らによって提唱された建築運動「メタボリズム」を、単なる建築様式としてだけではなく、都市のインフラや都市デザイン全体から位置づけなおす研究
26	文化芸術交流ローカルグラント <i>Ocean White Project</i>	Ocean White Project事務局	2010.11.19 ~ 2011.11.19	メルボルン在住の太田奈緒美（ビジュアルアーティスト）、ティム・ハンフリー（HUMPHREY, Tim: 作曲家）、スー・ユン・ユン（YOU, Soo Yeun: ダンサー）、日本在住の岩村原太（照明家）などの日本とオーストラリアのアーティストによるサウンド、ライティング・インスタレーション及びダンスのコラボ・パフォーマンス。シドニー日本文化センターは、会場費や機材借料等の一部を助成
27	日本研究・知的交流トラベルグラント <i>The Cosmopolitan Impact of Contemporary Japanese Fashion in Australia</i>		2010.12.09 ~ 2010.12.16	KIMURA, Tetsuroh（アデレード大学博士課程）がメディア研究の博士論文執筆のため、日本で資料収集等を行う際の旅費の一部を助成。日本のポップカルチャーのうち、特にストリート・ファッションに焦点を当て、それがオーストラリア国内にどのように受容されているかを研究

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
28	文化芸術交流ローカルグラント Performance Concert for the Shakuhachi Chamber Music Composition Competition 2010	Shakuhachi Flutes	2010. 12. 11	国際コンペで選ばれた尺八奏者及び作曲家がメルボルン大学メルバホールで合同コンサートを開催。参加した音楽家は日本から入江要介(尺八)、オーストラリアからアンドリュウ・マグレガー(MACGREGOR, Andrew: 尺八)など。シドニー日本文化センターは、コンサートの広報費の一部を助成

【後援事業】

	事業名	主催機関	期間	事業内容
29	後援名義の付与	シドニー日本クラブ Language Discovery	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	シドニー日本クラブ主催による日野原重明の日豪健康交流講演会及びLanguage Discovery・プロジェクトに対して後援名義を付与(合計2件)

【会場提供】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
30	会場提供事業	ニューサウスウェールズ州日本語教師会 Peace Boat事務局 JETプログラム同窓会(JETAA) 裏千家淡交会シドニー協会	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	ニューサウスウェールズ州日本語教師会の会議(10. 05. 29及び11. 03. 12)に、Peace Boatのインフォメーションセッション(10. 06. 10)に、(10. 06. 19及び10. 10. 22)JETプログラム同窓会(JET Alumni Association: JETAA)の交流会(10. 06. 26)に裏千家の会合に会場を提供(合計6件)

【文化備品・視聴覚資料貸出】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
31	文化備品貸出	シドニー豪日協会 裏千家	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	主に学校を対象とした、さまざまなグッズの詰まった『日本概要』『学校生活』『伝統的な日本』『日本食』の4つの文化備品キットの貸出しを7件、茶道具等の文化備品の貸出しを9件、計16件の貸出しを実施

トロント日本文化センター

合計額 122,880,954 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	横尾忠則ポスター展	シカゴ (米国)	シカゴ大学 ジョゼフ・ レーゲンシュ タイン図書館	シカゴ大学東 アジア研究セ ンター内日本 研究コミッ ティー	2010.03.29 ~ 2010.06.19	横尾忠則の1997年から2005年までのポスター30点を、シカゴ大学東アジア研究センター内日本研究コミッティーに貸し出し、ジョゼフ・レーゲンシュタイン図書館にて展示
2	藤間流日本舞踊公演における国立劇場ポスター展	バンクーバー	Frederic Wood Theatre (プリ ティッシュ・ コロンビア大 学内)	Frederic Wood Theatre 在バンクー バー総領事館	2010.04.09 ~ 2010.04.10	国際交流基金本部「公演(助成)」を受けバンクーバーで開催された藤間流日本舞踊公演の会場において、国立劇場ポスター展を実施。トロント日本文化センター所蔵の国立劇場ポスターの中から、視覚的にインパクトのある、文楽、歌舞伎、能、狂言など複数の伝統芸能のポスター全15枚を選定して会場の廊下に展示することにより、公演事業を盛り上げ、日本の伝統芸能を広く紹介
3	手ぬぐいデザイン展 (<i>Tenugui Towels: Design Excellence in Japanese Daily Life</i>)	トロント	トロント日本 文化センター	株式会社かま わぬ	2010.05.26 ~ 2010.07.30	日本で古くから愛され、市民の日常生活の中でさまざまな形で用いられてきた手ぬぐいに焦点を当て、210本を越える手ぬぐいを展示したほか、手ぬぐいの染色・製造工程や歌舞伎・浮世絵の中に見る手ぬぐいの用法などを紹介。日本手ぬぐい製造・販売会社「かまわぬ」との共催
4	写真展「日本の庭園：四季の京都の庭」	ケベック	ケベック市庁 舎内ホール ケベック文明 博物館	ケベック市役 所 ケベック文明 博物館 在モントリ オール総領事 館	2010.11.02 ~ 2010.11.21	在モントリオール総領事館開設50周年記念事業として、トロント日本文化センター所蔵の写真展『日本の庭園：四季の京都の庭』をケベック市の2会場(ケベック市庁舎内ホールとケベック文明博物館)において開催。オープニング式典には、国際関係大臣(ケベック州政府代表)、ケベック市長をはじめ市議会議員などケベック州政府及び同市役所の要人が多数参加し写真展を鑑賞
5	浮世絵展 <i>Live Long & Prosper- Images of Longevity in Japanese Ukiyo-e</i>	トロント	トロント日本 文化センター	ステュアート ・ジャクソン ・ギャラリー	2010.11.15 ~ 2011.03.05	トロント市内の民間アートギャラリー「ステュアート・ジャクソン・ギャラリー」との共催により、同ギャラリーのオーナーが個人所蔵する浮世絵約70点を展示。長寿のイメージがコレクションの主軸となり、鶴や亀、寿、七福神など、華やかでおめでたい伝統的なイメージを紹介

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
6	写真展「日本の庭園：四季の京都の庭」	モントリオール	モントリオール市庁舎内ホール	モントリオール市役所 在モントリオール総領事館	2010. 12. 02 ～ 2010. 12. 11	在モントリオール総領事館開設50周年記念事業として、トロント日本文化センター所蔵の写真展『日本の庭園：四季の京都の庭』をモントリオール市役所において開催し、同市関係者や一般市民に対し、広く日本庭園文化の美しさを紹介。市庁舎内ホールにて開催した写真展オープニング式典には、市議会議員をはじめとする政府関係者や文化人が多く参加し写真展を鑑賞
7	写真展「日本の庭園：四季の京都の庭」	レジャイナ	レジャイナ大学リデルセンター	レジャイナ大学国際言語学部日本語学科	2011. 02. 07 ～ 2011. 02. 25	レジャイナ大学国際言語学部日本語学科と共催で、写真展「日本の庭園：四季の京都の庭」を開催
8	中野晴生・伊勢神宮写真展	トロント	トロント日本文化センター	伊勢神宮 滋賀県立琵琶湖博物館 中野フォトスタジオ	2011. 03. 15 ～ 2011. 07. 30	中野晴生(写真家)及び滋賀県立琵琶湖博物館より作品約50点の無償貸与を受け、写真展を開催。また、日本政府観光局(JNTO)トロント事務所の協力により、三重県や日本への観光促進パンフレットをあわせて来館者に配布。写真は伊勢和紙にプリントされ、神宮の宮城林の木材で作られた額で展示。写真作品を中心に、神宮司庁の協力によるDVDも常時上映して、伊勢神宮をめぐる自然や文化を総合的に紹介

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
9	邦楽演奏と俳句朗読会	オタワ	在カナダ大使館講堂	在カナダ大使館	2010. 11. 19	カナダ人奏者による尺八及び三味線の演奏会を行い、併せてオタワ俳句協会と連携して、英語俳句の朗読など、俳句の紹介を実施
10	語りストーリーテリング：英語による昔話と民話	トロント	トロント日本文化センター	語りの会 トロント・ストーリーテリング・フェスティバル	2011. 03. 26	日・加の市民グループ「語りの会」による、日本の昔話、民話、落語、創作物語などを英語で語り聞かせるイベント。トロント・ストーリーテリング・フェスティバルのイベントの一つとして、トロント日本文化センターイベントホールで開催

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
11	講演会「日本手ぬぐいのデザインと利用法」	トロント	トロント日本文化センター	株式会社かまわぬ	2010. 06. 03	トロント日本文化センターで開催中の手ぬぐいデザイン展にあわせ、共催者である手ぬぐい製造・販売会社「かまわぬ」の加藤一宏(同社専務)により、日本手ぬぐいの伝統的デザイン、製造工程、利用法、日本人の生活文化などを紹介する講演会を実施。スライドや映像、実物を利用しつつ、日本手ぬぐいを多様な観点から紹介

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
12	日本語教師情報交換会シリーズ2～5「日本語学習を継続させる」	トロント	トロント日本文化センター 在トロント総領事館広報文化センター	カナダ日本語教育振興会 (CAJLE) オンタリオ部会	2010.06.11 ～ 2011.02.13	カナダ日本語教育振興会との共催で、トロント近郊で中等教育、高等教育、継承語としての日本語教育など、異なる教育段階に携わる日本語教育関係者の連携を目的とした、「日本語教師情報交換会シリーズ」の第2～5回(計4回)を開催。現職日本語教師を対象に、実際の授業で使用しているシラバスと教材をもとに、授業の進め方の発表と質疑(Q&A)
13	<i>Found in Translation Festival</i> への参加と関口涼子講演会	トロント	トロント日本文化センター ハーバーフロントセンター	トロント作家祭事務局 イタリア文化センター スペイン文化センター アリアンス・フランセーズ 在トロントフランス総領事館	2010.06.17 ～ 2010.06.19	フランス語で作品を発表している非フランス人作家によるフェスティバル、 <i>Found in Translation Festival</i> の一環として、パリ在住の日本人作家関口涼子を招へいし、詩の朗読会及びトロント日本文化センターでの講演会(2010.06.18)を実施。母語・国境を越えて作品を発表する作家たち9名がトロントに集まり、講演、朗読、ディスカッションを行うユニークなフェスティバルを、トロント国際作家祭やイタリア・スペイン・フランスなど各国の文化交流機関と協力して企画・開催
14	講演及びビデオ上映「歌舞伎の中の手ぬぐい」	トロント	トロント日本文化センター	株式会社かまわぬ	2010.07.15	トロント日本文化センターで開催中の手ぬぐいデザイン展にあわせ、トロント日本文化センター・プログラムオフィサーによる、歌舞伎の舞台で使われる手ぬぐいに焦点を当てた講演とビデオ上映を実施。歌舞伎舞台上での手ぬぐいの様々な使われ方を紹介することにより、日本手ぬぐいと日本人の生活文化、そして、歌舞伎についての理解を促進
15	有賀ヒトシ講演会	トロント	トロント日本文化センター	ベガーリング(マンガ・アニメ書店) UDONエンターテインメント(UDON Entertainment)	2010.08.26	トロントのマンガ書店他との共催で、トロントで行われるアニメフェア(「ファン・エキスポ・カナダ」)に参加した有賀ヒトシ(ゲームクリエイター)のトーク及びファンとの交流イベントを開催。北米ではメガマン(日本名はロックマン)というゲーム及びマンガで知られ、カナダでも若者に人気の同氏を招き、トロント日本文化センターを会場として、直接ファンが触れ合う場を提供
16	大須賀関雄講演会「チェコにおけるオペラ『夕鶴』公演について」	トロント	トロント日本文化センター	カナダ・ジャパン・ソサエティ(CJS)	2010.10.15	チェコにおいて日本語でオペラ『夕鶴』を演出した大須賀関雄(おおすか・ときお:オペラ演出家/物理学者)の講演会。チェコのオペラ歌手による日本語でのオペラ公演の背景、演出の難しさ、日本のオペラの魅力や芸術を通じた共同作業・文化交流の可能性を紹介

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
17	田中功起 アーティスト・トークと作品映像上映	トロント	トロント日本文化センター		2010. 11. 02	トロント日本文化センターで開催中の「ウィンターガーデン」展（10. 08. 06～11. 06）の参加アーティストの1人である田中功起による、作品上映とアーティスト・トークを実施
18	石山雄三ビデオ上映及びトーク	トロント	トロント日本文化センター		2010. 11. 23	モントリオールで開催される芸術見本市に公式招待され参加する石山雄三（パフォーマンスアーティスト/マルチメディアアーティスト）の作品 <i>QWERTY</i> を映像で紹介。同氏自身が作品の背景や考え方について講演し、聴衆と対話
19	日本研究講演会「リコンストラクティング神戸～阪神淡路大震災後の都市復興から学ぶ」	トロント	トロント日本文化センター	カナディアン・アーバン・インスティテュート (CUI)	2010. 11. 26	デイビッド・エジントン (EDGINGTON, David: プリティッシュ・コロンビア大学地理学教授) による、阪神淡路大震災後の神戸の都市復興に関する研究についての講演会、カナダの一般市民を対象とした
20	山村浩二講演会及び上映会	オタワ	在カナダ大使館講堂	在カナダ大使館	2010. 12. 07	文化庁文化交流使としてモントリオールに滞在中の山村浩二（アニメ作家）をオタワに招き、在カナダ大使館と共催で、アニメに関する講演会及び同氏の作品の上映会を実施
21	河野勝早大教授講演会 <i>East Asia and International Relation's Theory: Current Debate and Beyond</i>	トロント	トロント大学 MUNK スクール	トロント大学 アジアインスティテュート	2011. 03. 02	河野勝（早稲田大学政治経済学部教授：政治学・国際関係論）の講演会をトロント大学と共催し、同大学の日本研究者や大学院生、一般カナダ市民を対象に、日本の政治学者に発信の機会を設け、日本研究の振興と、両国の研究者の対話と交流を図る。Joseph Wong（トロント大学教授）がモデレーターとして参加
22	河野勝早大教授講演会 <i>Don't Think Twice about Japanese Politics, It's Allright</i>	トロント	トロント日本文化センター		2011. 03. 03	一般カナダ市民を対象に、河野勝（早稲田大学政治経済学部教授：政治学・国際関係論）の講演会をトロント日本文化センターで開催。日本の政治学者に発信の機会を設け、日本の現代政治状況について理解の増進を図るとともに、当地において日本研究を行う研究者・若手大学院生との交流を実施
23	村越直子講演会 <i>Introduction to Japanese Contemporary Dance and Dancers</i>	トロント	トロント日本文化センター	グリーンティアー	2011. 03. 09	村越直子（神戸女学院大学音楽学部舞踊専攻非常勤講師/元トロント・ダンス・シアター団員）が、日系ダンサーの公演「ダイドンデン」参加のためトロントを訪問したのを機に、同氏による、日本のコンテンポラリー・ダンスに関する講演を実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
24	トロント大学シンポジウム「少子高齢化時代における介護・移民の再考」	トロント	トロント大学 MUNKスクール	トロント大学 MUNKスクール トロント大学 アジアインス ティテュート トロント大学 公共政策ス クール	2011. 03. 09 ~ 2011. 03. 10	2010年10月にバンクーバーで開催された「少子高齢化時代における介護、移民等についての日韓加社会政策シンポジウム」(主催：トロント大学他)のフォローアップとして、日韓加の研究者をトロントに招き、ワークショップ及び公開シンポジウムを開催。先進国が共通に直面する少子高齢化・介護・移民等の課題について、書籍出版に向けての専門家による対話の促進と、大学院生・市民への発信を行う
25	知的交流シンポジウム「2011東日本大震災―現実と復興への視点」	トロント	トロント日本 文化センター		2011. 03. 22	当初、添谷芳秀、田所昌幸(両氏とも慶應義塾大学教授)、木村昌人(渋沢栄一記念財団)、David Welch (ウオータールー大学教授)の4名による日本の国際関係に関するシンポジウムを計画していたが、東日本大震災の発生により、急遽予定を変更。カナダ市民の震災への関心、被災者支援の気持ちに配慮し、テーマを震災の現実と復興に関するものにして日本・カナダの知識人の対話の機会とした。各氏がそれぞれの立場から震災の体験、今後の課題、復興への視点などに関して発表を行い、フロア参加者とも議論を行った

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
26	トロント国際映画祭 アジアン・フィルム・ナイト	トロント	トロント日本 文化センター	財団法人ユニ ジャパン (UNI JAPAN) 韓国映画振興 委員会 (KOFIC)	2010. 09. 13	トロント国際映画祭の期間中に、日本・韓国を中心とするアジアの映画監督、プロデューサー、配給関係者、俳優等を中心に紹介するイベントをトロント日本文化センターにて開催。日韓などアジアの映画関係者のほか、各国の映画祭関係者、カナダの映画関係者やジャーナリストなど300人が参加
27	映像作品 <i>Sayonara Hashima</i> 上映会 及びアーティストトーク	トロント	トロント日本 文化センター	OCAD大学 ゲーテ・イン スティトゥー ト・トロント	2010. 10. 01	日本の「軍艦島」をテーマにした作品 <i>Sayonara Hashima</i> を制作したドイツ人アーティストニーナ・フィッシャー (FISCHER, Nina) 及びMaroan el Saniを、ゲーテ・インスティトゥート・トロントが招へいするのを機に、同映像作品の上映会とアーティストトークを実施
28	シネマ歌舞伎トロント 2011	トロント	スコシャバン ク・シアター ・トロント	シネプレック ス マーティ・グ ロス・フィル ム 在トロント総 領事館 松竹株式会社	2011. 02. 05 ~ 2011. 02. 06	日本の代表的な伝統的舞台芸術を最新のテクノロジーを使い「劇場の臨場感」で再現し、また英語字幕付で外国人にもわかりやすく紹介するプロジェクト。シネマ歌舞伎上映の3回目。玉三郎主演『鶯娘』を海外初公開(上映2回)したほか、新演目として『らくだ』を追加。また前回好評であった『連獅子』を再上映

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
29	シネマ歌舞伎バンクーバー2011	バンクーバー	シネプレックス・オデオ ン・インター ナショナル・ ビレッジ・シ ネマズ	サイモン・フ レイザー大学 シネプレク ス トモエアーツ マーティ・グ ロス・フィル ム 在バンクー バー総領事館 松竹株式会社	2011. 02. 08 ~ 2011. 02. 09	日本の代表的な伝統的舞台芸術を最新のテクノロジーを使い「劇場の臨場感」で再現し、また英語字幕付で外国人にもわかりやすく紹介するシネマ歌舞伎上映プロジェクト。トロントでの経験をベースに、初めてトロント以外の都市で開催。上映前にサイモン・フレイザー大学で、Cody Poulton（ヴィクトリア大学教授）とColleen Lanki（トモエアーツ主宰者）による歌舞伎についての講演を実施
30	トロント日本短編映画祭2011・監督 トークイベント	トロント	トロント日本 文化センター	トロント日本 短編映画祭事 務局(Toronto Japanese Short Film Festival)	2011. 03. 17	第8回トロント日本短編映画祭(11. 03. 17~03. 20)のため日本から来訪した今泉力哉(映画監督)と、Christopher Donaldson(映画監督)らカナダの短編映画監督3名によるトークイベント。各監督の短編作品を上映後、パネルディスカッション及び観客との質疑応答、交流会を実施

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
31	図書館運営	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	日本語教材、日本文学や日本文化についての英語書籍など、カナダ市民のニーズに合わせた蔵書を収集提供するほか、ポップカルチャー・コーナーを設置しマンガやアニメ、J-POP、映画などの紹介を行う日本関係の専門図書館を運営。また、トロント市のイベント、 <i>Doors Open Toronto</i> や <i>Nuit Blanche</i> などに参加し、新規利用者の開拓を促進。また本年度は、初の試みとして筑波大学情報学部インターン受入れを行い、国際的感覚を有する司書の育成を支援 ①所蔵資料合計： 21,730点 （内訳：和英書籍等14,875冊 視聴覚資料数DVD等3,686点 雑誌3,169点） ②利用者数（年間）： 28,255名 ③貸出点数（年間）： 29,262点 ④レファレンス件数（年間）： 1,186件 ⑤図書館用リーフレット作成： ガイド3,500部(年1回)及びブックマーク 4,500部(年3回)

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
32	トロント日本文化センター ブックツリー プロジェクト	トロント	トロント日本文化センター 図書館	株式会社日本航空 (JAL) 日本政府観光局 (JNTO)	2010. 05. 21 ~ 2010. 09. 07	本やマンガを一定数以上借り出した図書館利用者に抽選券を渡し、読んだ本のタイトル、連絡先を書いてもらい、抽選で民間企業等からの記念品や賞品を贈るイベント。同時に、読んだ本やマンガの感想を葉形の用紙に書き、図書館壁面に貼り付けて「ブックツリー」を作り、図書館利用者への書籍の紹介も実施
33	図書館浴衣デー	トロント	トロント日本文化センター 図書館		2010. 08. 16 ~ 2010. 08. 21	8月16日、19日、21日の3日間、図書館スタッフ3名が浴衣を着てカウンター業務を行い、利用者に浴衣や日本の夏祭りなどのイベントについて適宜説明を実施
34	筑波大学情報学群知識情報・図書館学類学生インターン受入	トロント	トロント日本文化センター 図書館	筑波大学情報学群知識情報・図書館学類	2010. 09. 27 ~ 2010. 10. 08	筑波大学で図書館学を専攻している学生1名をトロント日本文化センター図書館でインターンとして受入れ、図書館現場での研修を行い、またトロントの大学図書館や公共図書館の訪問を通じて、国際的感覚を有する司書の育成を支援

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
35	ウェブサイト運営	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	国際交流基金の事業内容、トロント日本文化センターの事業紹介、イベント告知などの最新情報、助成金申請情報などの情報を、ホームページ上で発信。更新は随時。メールマガジンは発行せず、イベント毎に、メーリングリスト登録者に情報メールを随時発信 URL: http://www.jftor.org/ アクセス件数 (年間) : 110,769件 メールマガジン配信数 (年間) : 171,500件

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
36	マーカム市公共図書館ユニオンビル分館への協力：アジアンヘリテージ月間着物着付けイベント	マーカム	マーカム市公共図書館ユニオンビル分館	マーカム市公共図書館ユニオンビル分館	2010. 05. 08	トロント北東に隣接するマーカム市公共図書館では、5月のアジアンヘリテージ月間のプログラムとして、子供たちを対象に着付けイベントを実施。トロント日本文化センター図書館では、「着付け」を含む日本紹介プログラムを行う団体 Association for Japanese Culture (AJC) への紹介や、図書館所蔵の着物関連DVDや書籍の貸出し、図書館広報のためのパンフレットやしおりを配布

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
37	ビショップ・ホワイト委員会グループ・ツアー	トロント	トロント日本文化センター	ロイヤル・オンタリオ博物館 ビショップ・ホワイト委員会 スチュワート・ジャクソン・ギャラリー	2010.05.13 ～ 2011.02.23	カナダ・ロイヤル・オンタリオ博物館の東洋コレクション収集及び関連学術活動の支援団体であるビショップ・ホワイト委員会の委員をトロント日本文化センターに招き、国際交流基金事業の紹介を行うと共に、スチュワート・ジャクソン・ギャラリーのキュレーターによる浮世絵展ギャラリーツアーを実施(10.05.13)。そのほかにもイベントのツアー(10.11.18、11.02.23)を2回実施
38	「アジア・サウンドスケープ」コンサート会場における和食紹介イベント	オタワ	クライストチャーチ・カテドラル	オタワカンタータ合唱団 在カナダ大使館	2010.05.16	オタワカンタータ合唱団がクライストチャーチ・カテドラル(オタワ)で開催するコンサートにおいて、日本の合唱曲3曲を含むアジア各国の音楽を紹介。コンサート終了後に会場において、在カナダ大使館と協力して、寿司などの和食を紹介するとともに、日本関連ポスターの掲示や広報資料の配布を行い日本文化を紹介
39	ドアーズ・オープン・トロント(Doors Open Toronto)への参加	トロント	トロント市 トロント日本文化センター	トロント市	2010.05.29 ～ 2010.05.30	市内の博物館・美術館など文化施設が、週末の2日間、一般市民に施設を無料で公開するトロント市主催の文化イベントに、トロント日本文化センターも参加。開催中の「手ぬぐい展」と図書館を特別公開し、2日間で695名が来場
40	菅直人首相夫人と日系カナダ人・日本人夫人交流会及び茶道デモンストラーション	トロント	トロント日本文化センター	在トロント総領事館	2010.06.26	20カ国・地域首脳会合(G20首脳会合)参加のためトロントを訪問中の菅直人首相夫人がトロント日本文化センターを訪問。開催中の「手ぬぐい展」や図書館を視察し、茶道普及に努める日系カナダ人の茶道デモンストラーション(立礼)に参加。当地で文化交流に携わる日系カナダ人や在留邦人夫人との交流を実施
41	トロント市現代アート・フェスティバル <i>Nuit Blanche</i> への参加	トロント	トロント日本文化センター	NUIT BLANCHE 実行委員会 トロント市	2010.10.02 ～ 2010.10.03	トロント市役所主催によりトロント市内全域で夜を徹して開催される現代アートの祭典 <i>Nuit Blanche</i> に参加し、トロント日本文化センター・イベントホールにおける展覧会「ウィンターガーデン」や図書館の特別開館を行い、1晩で4,000名以上の一般市民に日本文化を紹介
42	アステラス米国財団「継承語系日本語教育機関助成」への支援事業	カルガリー、レスブリッジ、マニトバ、オタワ、トロント、ロンドン(オンタリオサ)、レジャイナの計7都市		アステラス米国財団	2011.01.01 ～ 2011.03.31	平成21年度に続き、トロント日本文化センターが仲介して、アステラス米国財団(Astellas USA Foundation)より、カナダ各地の継承語系日本語教育機関10機関(カルガリー日本語学校、レスブリッジ日本語学校、マニトバ日系文化会館日本語学校、日加学園、日本語学校日修学院、オタワ日本語学校、トロント日本語学校、トロント国語教室、ロンドン森の町日本語学校、レジャイナ日本語学校)に対して、教材・機材購入経費等の助成を実施。トロント日本文化センターは、各機関との連絡、申請・報告の受付、アステラス米国財団との連絡などを行う

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
43	ジョージ・S・ヘンリー高校グループツアー	トロント	トロント日本文化センター	ジョージ・S・ヘンリー高校	2011. 03. 25	トロント市内の公立高校で日本語コースを設置している、ジョージ・S・ヘンリー高校と共催で、同校で日本語を履修中の高校生及び担当教員をトロント日本文化センターに招いて、国際交流基金、トロント日本文化センター及び図書館の事業を紹介。開催中の「中野晴生伊勢神宮写真展」鑑賞の機会も提供

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
44	クールドラミング 澤井一恵・加藤邦子コンサート	サウンドストリーム (Soundstreams Canada)	2010. 04. 27 ~ 2010. 04. 29	トロント市内で開催される、打楽器を中心とした音楽フェスティバル2010 Cool Drumming Festivalに、澤井一恵(箏)、加藤邦子(マリンバ)が参加。トロント日本文化センターは参加経費の一部を助成。4月27日、28日、各1回のコンサートを開催
45	ヨーク大学難民法国際会議・新垣修教授参加	ヨーク大学(York University)	2010. 05. 17 ~ 2010. 05. 20	ヨーク大学が開催した難民法に関する国際会議Forced Displacement, Protection Standards, and the Supervision of the 1951 Conventionに新垣修(志学館大学教授/元関西外国語大学教授)が参加。トロント日本文化センターは、同氏の参加経費の一部を助成
46	野宮真貴コンサート・イン・ダンドラスクエア	ルミナート (LUMINATO)	2010. 06. 16	トロントの総合芸術祭 LUMINATO (ルミナート) のメインイベントのひとつとして、若者の集まるトロント・ダウンタウンの中心広場ダンドラスクエアで開催される野外コンサートに、日本のポップアーティスト野宮真貴のグループが参加。トロント日本文化センターは、同氏の参加経費の一部を助成
47	トロント大学東アジア研究学部大学院論文集『東亜論壇 East Asian Forum』出版助成	トロント大学東アジア研究学部	2010. 07. 29 ~ 2010. 11. 05	トロント大学東アジア研究学部大学院の論文集『東亜論壇 East Asian Forum』の出版を支援。同論文集は今回で13冊目になる伝統ある論文集で、日本を含むアジア研究の応募論文の中から審査により収録論文を決定。若手研究者の研究業績発表の場として研究者育成機能を有しており、またカナダ社会への発信機能を有することから、トロント日本文化センターは、出版経費の一部を助成
48	トロント国際映画祭	トロント国際映画祭事務局 (Toronto International Film Festival)	2010. 09. 09 ~ 2010. 09. 19	トロント国際映画祭に参加する日本映画関係者、トラン・アン・ユン、園田恵理子、園子温の3監督の渡航経費の一部をトロント日本文化センターが助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
49	トロント国際映画祭 HEAVENHELL インスタレーション	トロント国際映画祭事務局 (Toronto International Film Festival)	2010. 09. 10 ~ 2010. 09. 19	トロント国際映画祭に際して、映像インスタレーション HEAVENHELL に参加する作家の渡航経費の一部をトロント日本文化センターが助成
50	舞踏24時間公演イベント	FADO Performanceart	2010. 11. 12 ~ 2010. 11. 13	トロントを中心に、日本の舞踏をベースとした現代ダンスに取り組む約25名の舞踏家が市内のシアターで一堂に会し、長時間の舞踏公演を実施。トロント日本文化センターは、会場借料の一部を助成
51	「ケベック日本文化の日」における和太鼓グループ「嵐太鼓」演奏	和太鼓グループ「嵐太鼓」	2010. 11. 14	在モンリオール総領事館開設50周年記念事業としてケベック市の文明博物館で開催された「ケベック日本文化の日 LE JAPON AU MUSEE DE LA CIVILISATION」において、モンリオールの和太鼓グループ「嵐太鼓」がオープニング演奏を行うための参加費用をトロント日本文化センターが助成。同イベントでは、茶道、墨絵デモンストレーション等の多種多様な日本文化紹介活動やトロント日本文化センター所蔵の写真展「日本の庭園：四季の京都の庭園」も行われ、約700名のカナダ市民が来場
52	トロント大学東アジア研究大学院生国際会議 SPECTACLE	トロント大学東アジア研究学部	2011. 03. 05	トロント大学の東アジア研究学部が主催し、北米各地から東アジア研究を行う大学院生を招いて行うセミナー。北米各地の主要大学から、日本研究、韓国研究、中国研究などを行う博士課程学生等約100名が集まり、研究発表や討論を実施。トロント日本文化センターは、キーノートスピーカー、Jung-Bong Choi (Tisch School of the Arts助教授)の招へい経費の一部を助成
53	ブリティッシュコロンビア大学ローマン・シプリウスキー テンプル大学教授講演会	ブリティッシュコロンビア大学地理学部 (University of British Columbia, Department of Geography)	2011. 03. 05	ブリティッシュコロンビア大学が米国から日本研究者ローマン・シプリウスキー (CYBRIWSKY, Roman: テンプル大学教授: 都市論、地理学) を招き、東京、特に六本木地区の都市の変容についての講演会を開催。トロント日本文化センターは、同教授が日本研究センター及び地理学部での2回の講演を実施するために必要な参加経費の一部を助成
54	矢野顕子+スコープ・オン・サムバディコンサート	トロント日系文化会館 (Japanese Canadian Cultural Centre [JCCC])	2011. 03. 12	トロント日系文化会館 (JCCC) が開催する「矢野顕子+スコープ・オン・サムバディコンサート」の開催経費の一部をトロント日本文化センターが助成し、トロント市民に日本のポップミュージックを紹介
55	日本研究企画開発型助成・ウォータールー大学日本センター設立準備ミーティング	ウォータールー大学 (University of Waterloo)	2011. 03. 23	ウォータールー大学は、2011年秋に日本センターの開設を計画中。同センターは、現代的な課題について、日・加の専門家が、プロジェクトベースで共同研究を行うセンターとして構想されているが、今回の会議では、David Welch (ウォータールー大学教授) や木村昌人 (渋沢栄一記念財団) ほか日加の研究者や財団関係者等21名が集まり、同センターの方向性について議論を実施。トロント日本文化センターは、同会議関係経費の一部を助成

海外拠点

【会場提供】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
56	トロント折紙ソサエティ月例ワークショップ	トロント折紙ソサエティ	2010.04.05 ~ 2011.03.31	トロント折紙ソサエティに対して、月例ワークショップの会場を提供。毎回テーマの異なる折り紙ワークショップに30名程度のトロント市民が参加し、日本の折り紙に親しみながら交流を促進
57	カナダ・ジャパン・ソサエティ主催セミナー「サバイビング・イン・カナダ」	カナダ・ジャパン・ソサエティ (CJS)	2010.04.28	民間交流団体カナダ・ジャパン・ソサエティ (CJS) が主催する、ワーキングホリデー等でカナダに滞在中の邦人に対して、生活・安全・就職等訪加した邦人が直面する課題などについて、専門家が情報提供を行うセミナー。同セミナーに対し、トロント日本文化センターは会場提供により協力
58	リールエイジアン・フィルムフェスティバル (Reel Asian Film Festival) プレスローンチ	リールエイジアン・フィルムフェスティバル事務局	2010.10.12	アジアの映画作家に焦点を当てた、リールエイジアン・フィルムフェスティバルが、本年度のフェスティバルプログラムを記者発表する会場として、トロント日本文化センターのイベントホールを提供。映画関係者、ジャーナリスト等約200名が参加
59	JETリエントリー・セミナー	JETプログラム同窓会 (JET Alumni Association: JETAA) 及び在トロント総領事館	2010.10.23	トロントJETプログラム同窓会と在トロント総領事館が行うJET帰国者のためのセミナーの開催に、トロント日本文化センターが会場や人員を提供して協力。カナダ社会での就職活動、逆カルチャーショック対応、JET経験の活かし方などのセミナーを実施
60	JETAAセミナー「JET経験をどのようにしてキャリア形成に活かすか」 (JETAA: JET Alumni Association)	JETプログラム同窓会 (JET Alumni Association: JETAA) 及び在トロント総領事館	2011.01.16	JETプログラムに参加し帰国した青年達によるボランティア団体、JETプログラム同窓会 (JET Alumni Association: JETAA) が主催し、国際ボランティア雑誌のジャーナリストによる講演を行うセミナー「JET経験をどのようにしてキャリア形成に活かすか」に対してトロント日本文化センターが会場及び人員を提供。JET帰国者がカナダ社会にスムーズに定着することを支援することを通じて草の根レベルの日加交流人材の育成を図りつつ、トロント日本文化センターの利用者を拡大することを目指す

【その他】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
61	トロント大学生涯学習プログラム：連続ワークショップ「20世紀の日本の小説」への協力	トロント大学	2010.05.15 ~ 2011.01.26	12回に亘るワークショップシリーズ「20世紀の日本の小説」のコースアウトライン作成にあたり、取り上げる作品や作家の選定について、トロント日本文化センター司書がアドバイス。関連の小説、DVDなどの貸し出しも実施。1月26日には、ワークショップの一環としてトロント日本文化センターへのツアーを受け入れ。国際交流基金及びトロント日本文化センターの事業活動を紹介し、「茶道」に関するDVDを上映、略式の茶道デモンストレーションを実施。日本文学セクションの蔵書も紹介

海外拠点

	事業名	対象機関	期間	事業内容
62	キャサリン・ゴヴィエ ブック トーク&スライド 上映への協力	トロント日系文化会館 (Japanese Canadian Cultural Centre : JCCC)	2010. 06. 03	カナダの人気作家キャサリン・ゴヴィエ (GOVIE, Katherine) が、葛飾北斎とその娘を扱った歴史小説を出版し た際、同書及び江戸時代の浮世絵、庶民の生活文化などにつ いての講演を実施。トロント日本文化センターは、これまで 同氏に、北斎関連の資料取り寄せや浮世絵に関する情報提供 など協力を続けてきたことから、同氏が日系文化会館でブック トーク&スライド上映を行なうにあたり、トロント日本文 化センター図書館内での本のディスプレイ、ピラの設定や メールによるイベントの広報などに協力
63	柿右衛門磁器展「プライベート・プレジャーズ」に 関するジャパン・ソサエティ主催の講演・レセプ ションイベントへの協力	ガーディナー博物館	2010. 06. 10	国際交流基金が「海外展(助成)」事業で支援している、ガー ディナー博物館 柿右衛門磁器コレクション展「プライベート プレジャーズ」の開催に際し、同展示の中核をなすマクド ナルド・コレクションの寄贈者であるアンマリー・マクドナ ルドによる講演会・内覧会及びオープニングレセプションを 開催。トロント日本文化センターでは、当地文化人、ジャー ナリストを招待することにより、広報に協力
64	JETプログラム出発前オリエンテーションへの協力	JETプログラム同窓会 (JET Alumni Association : JETAA) 及び在トロント総領事館	2010. 07. 10 ~ 2010. 07. 11	JETプログラム同窓会(JETAA)とトロント総領事館が行うJET プログラム参加者のための出発前オリエンテーションの開催 に、トロント日本文化センターは、会場や人員の提供により 協力。同オリエンテーションでは、日本での生活、カル チャーショックへの対応、JETの業務、メンタルヘルスなど JETプログラム参加者が日本で体験するさまざまな側面につ いてのレクチャー・ワークショップなどが行われた
65	関西学院シンポジウム「変わり行く世界における 日加関係」への協力	トロント大学、関西学院大学、 及び在トロント総領事館	2010. 08. 20	関西学院大学が、海外協定校のひとつであるトロント大学と の提携を記念し、同大学において「変わり行く世界における 日加関係」をテーマに、シンポジウムを開催。トロント日本 文化センターは、カナダ側での広報等に協力。 同シンポジウムでは、ジョセフ・キャロン(CARON, Joseph : 前駐日カナダ大使)による基調講演、日本、カナダ双方のパ ネリストによる対話が行われた。
66	第3回カナダ書道公募展	SHODO CANADA	2010. 11. 14 ~ 2010. 11. 27	カナダでの書道普及団体SHODO CANADAが主催する第3回書道 公募展の実施に協力。カナダ全国から、5歳から90歳代まで 幅広い年齢層、及び多様なバックグラウンドのカナダ人140 名が参加。参加作品は額装され、日系文化会館の現代ギャラ リーにて展示

(1) 主催・共催事業

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	邦楽公演 <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	サンホセ (コスタリカ) テグシガルパ (ホンジュラス) ポートオブス ペイン (トリニダー ド・トバゴ) パナマ(パナ マ)	コスタリカ国 立劇場 National Aca- demy for the Performing Arts Center マヌエル・ボ ニージャ国立 劇場 パナマ国立劇 場	在コスタリカ 大使館 在ホンジュラ ス大使館 在トリニダー ドトバゴ大使 館 在パナマ大使 館	2010.09.07 ~ 2010.09.17	渡辺薫(笛・太鼓奏者)と黒澤有美(二十弦箏奏者)を中米に派遣、邦楽の『さくらさくら』や『武田の子守唄』等からアーティスト自身が作曲した現代的な即興曲まで幅広く演奏するとともに、箏、太鼓、笛のレクチャー・デモンストレーションを行い、日本の音楽と楽器を紹介
2	ピアノコンサート「東洋と西洋の出会い〜ピアノで巡る世界の旅」 <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	ハバナ (キューバ) サンサルバドル (エルサルバ ドル) サンタアナ (エルサルバ ドル) メキシコ・シ ティ (メキシコ) プエブラ (メキシコ)	サンフランシ スコ・デ・ア シス教会 ハバナ・モー ツァルト学校 サンサルバドル 国立劇場 サンタアナ国 立劇場 オリン・ジョ リストゥリ文 化センター ラス・アメリ カス大学プエ ブラ校	在キューバ大 使館 在エルサルバ ドル大使館 メキシコ日本 文化センター	2010.09.19 ~ 2010.10.02	上野淳子・ギャレット(ピアニスト)を中米に派遣、「東洋と西洋の出会い〜ピアノで巡る世界の旅」と題して、山田耕作、中田喜直等の日本の音楽とヘンデル、ラフマニノフ等の西洋の音楽を交えた演奏会を行い、日本の音楽を西洋の音楽と比較しながら紹介

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
3	フュージョン・ジャズ・コンサート <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	キングストン (ジャマイカ)	西インド諸島 大学チャペル Mico University College	在ジャマイカ 大使館	2010. 11. 27 ~ 2010. 12. 01	YUKARI (フルート奏者/作曲家)と山本恵理 (ジャズ・ピアニスト) をジャマイカに派遣し、ジャズにアレンジした日本の音楽からアーティスト自身が作曲した現代的な即興曲まで披露。現地アーティストとの共演、ワークショップを通じて交流を実施

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
4	日系アメリカ人ジャーナリスト講演会 <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	サンパウロ (ブラジル) ベレン (ブラジル) トメアス (ブラジル) ブラジリア (ブラジル)	サンパウロ総 合大学日本文 化研究所 汎アマゾン 日伯協会会議 室 トメアス文化 農業振興協会 講堂 ブラジリア大 学FINATEC講堂	サンパウロ 日本文化セン ター 在ベレン総領 事館 在ベレン総領 事館 在ブラジル大 使館	2010. 08. 18 ~ 2010. 08. 28	日系米国人、ロリ・マツカワ (MATSUKAWA, Lori : シアトル・キングテレビ・アンカー) をブラジルに派遣。在米日系人社会がいかに100年の歴史・経験を後世に伝え、自らのアイデンティティを保持しながら、将来に向かって日系社会を継承しようとしているかをテーマに、在米日系社会の存在と歴史について同氏自らの経験を含め講演。現地の日系社会との交流を実施

海外拠点

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
5	南部大学巡回日本映画上映会	オックスフォード シャーロット ヴィル ノーマン レキシントン ニューヨーク	Oxford Malco Cinemas ヴァージニア 大学 (University of Virginia) オクラホマ大 学 (University of Oklahoma) Kentucky Theater	ミシシッピ大 学 ヴァージニア 大学 (University of Virginia) オクラホマ大 学 (University of Oklahoma) ケンタッキー 大学 (University of Kentucky)	2010.09.16 ~ 2010.12.10	<i>Japanese Films of the 1960's</i> と題し、1960年代を代表する日本映画5作品『乱れる』(成瀬巳喜男、1964)、『怪談』(小林正樹、1964)、『他人の顔』(勅使河原宏、1966)、『殺人狂時代』(岡本喜八、1967)、『五人の賞金稼ぎ』(工藤栄一、1969)を取り上げ、米国南部地域にある4大学で上映会を実施。また、アジア・ソサエティと共催上映会を実施し、『乱れる』『殺人狂時代』『五人の賞金稼ぎ』の3作品を上映
6	SABU レトロスペクティブ <i>Run, Salaryman, Run!</i>	ニューヨーク	ジャパン・ソ サエティ (Japan Socie- ty)	ジャパン・ソ サエティ (Japan Socie- ty)	2011.01.26 ~ 2011.02.05	ジャパン・ソサエティ (ニューヨーク市) と共催でSABU (映画監督) のデビュー作から最新作までの全6作品 (『弾丸ランナー』『ポストマン・ブルース』『MONDAY』『DRIVE』『幸福の鐘』『トラブルマン』) を上映

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
7	ウェブサイト運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	米国向けに国際交流基金及びニューヨーク日本文化センターの活動を紹介するため、ウェブサイトを運営 URL : http://www.jfny.org/ アクセス件数 (年間) : 281,635件 ニューズレター配信数 (年間) : 50,565件 (年13回配信)

海外拠点

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
8	『羅生門』公演	ダンマリ (Danmari Ltd.)	2010. 04. 01	箱島安 (Yass Hakoshima Movement Theater) が芥川龍之介『羅生門』をダンスとマイムを用いて舞台化。公演に先立ちニュージャージー州のMontclair高校にて、歌舞伎や能など日本の舞台芸術に特有の動作についてデモンストレーション。日本と西洋の身体表現の違い、16世紀の日本の衣装の紹介などの教育プログラムも実施
9	日本民謡と『あまんじゃくとうりこ姫』のオペラ公演	ハーモニア・オペラ (Harmonia Opera Company, Inc.)	2010. 04. 10	ケネディーセンター (ワシントンD.C.) にて、桜祭りのジョイントイベントとして行われたハーモニア・オペラ (代表: 飯沼恵美子。平成20年度外務大臣賞受賞) 主催による日本文化紹介のためのオペラ公演。約1,000名の一般の観客で満席の中、日本民謡、子供の遊び歌、『あまんじゃくとうりこ姫』オペラ公演を実施
10	ミシガン大学日本美術コレクション展	ミシガン大学附属美術館 (University of Michigan, Museum of Arts)	2010. 05. 01 ~ 2010. 08. 22	ミシガン大学附属美術館にて、着物と陶芸作品の展示を約4カ月にわたり開催。同大学のコレクションに焦点をあてつつ、着物のファッションショー、着付けのデモンストレーション、神山清子 (信楽陶芸家) の招へい、同氏による陶芸制作デモンストレーション、現地専門家、陶芸家とのトークセッション、濱田庄司 (陶芸家) の半生を描いた映画の上映、石州流茶道の専門家2名を日本から招へいし茶の湯を披露する等、様々な教育プログラムを展開。充実した日本文化の紹介となった
11	『三月の5日間』公演	ラ・ママ実験劇場 (La MaMa Experimental Theater Club)	2010. 05. 06 ~ 2010. 05. 23	岡田利規 (演劇ユニット「チェルフィッチュ」主宰) の戯曲『三月の5日間』の英語版プロダクション。演出・振付は、Dan Safer (Witness Relocation主宰)。3週間にわたり12回の公演が行われ、全公演を通して約700名の観客が足を運んだ。またラ・ママ実験劇場のインターネットを利用した教育プログラム Culturehub 用 にリハール風景及びSaferが『三月の5日間』について語ったインタビューの撮影を実施。ウェブ上に公開後、500人を超えるユーザーが視聴
12	日本語言語学の形式手法に関する会議	カリフォルニア大学サンタクルズ校 (University of California, Santa Cruz: UCSC)	2010. 05. 07 ~ 2010. 05. 09	5回目となる日本語言語学の会議に、日本から21名を始め、北米、シンガポール、欧州の計36大学から合計67名の研究者が参加し、日本語言語学に関する研究発表やパネルセッションを実施
13	アンサンブルN-JPによる日米コラボレーション実験音楽	ニューミュージックコレクティブ (New Music Collective)	2010. 05. 21 ~ 2010. 05. 23	ジーン・コールマン及び中村としまるの楽曲、TOMBO, Namazu等の演奏を、サウス・カロライナ州のコロンビア (701CCA) およびチャールストン (Halsey Institute) 等において実施。レクチャーとワークショップを通じて日本の要素を取り入れた音楽を一般の観客に紹介

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
14	ピース・シャドウ・プロジェクト	ホイットニー美術館 (Whitney Museum of American Arts, Independent Studies Program)	2010. 05. 21 ~ 2010. 05. 23	宮島達男（現代美術家）を中心に長嶋りかこ等日本の若手クリエイター達が行う観客参加型のPeace Shadowプロジェクトを開催。同プロジェクトは、6人の人物の影をプリントしたそれぞれの紙を展示。一般ユーザーも、ワークショップの現場またはオンライン上で自分の影をプリントした写真を公開し、非核への願いを表す企画。会場のザ・キッチンギャラリー（The Kitchen）には3週間にわたり750人以上が来場
15	サムライ・ウィーク	ワシントン日米協会 (The Japan-America Society of Washington, D.C.)	2010. 05. 22 ~ 2010. 05. 28	ワシントンD.C. で遣米使節団150周年記念事業の一環として1週間にわたる「サムライ・ウィーク」を実施。入江昭（ハーバード大学教授）及びロナルド・トビ（TOBY, Ronald P. : イリノイ大学教授）による遣米使節団に関する講演会、1860年当時に遣米使節団が滞在したウィラードホテルでの殺陣のパフォーマンス、黒澤明（映画監督）の『用心棒』、『隠し砦の三悪人』等の映画上映、琴演奏、お茶会等のイベントを実施
16	「日本の長い19世紀」学際的ワークショップと演習	ミシガン大学 (University of Michigan)	2010. 06. 07 ~ 2010. 06. 12	「日本の長い19世紀」をテーマに、ダニエル・ボツマン（ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授）を始めとした5名の教授と19名の学生による6日間に渡るワークショップを開催。ドイツ・メキシコを含む18大学から参加があり、参加者間のネットワークも構築
17	「サムライ in New York 展」に関するレクチャー：「1860年の最初の遣米使節団」	ニューヨーク市立博物館 (Museum of the City of New York)	2010. 06. 15	ニューヨーク市立博物館にて開催する「サムライ in New York 展」のプレイベントとして、阿川尚之（慶応義塾大学教授）による遣米使節団150周年を記念した講演会「ニューヨークを訪問した最初の遣米使節団」を開催。65名が参加
18	メイキング：日本の書芸と陶芸	Woodstock Guild of Craftsmen, Inc.	2010. 06. 19 ~ 2010. 08. 01	ウッドストックにて書芸と陶芸の展示並びにワークショップを開催。地元のジェフ・シャピロ（SHAPIRO, Jeff : 陶芸家）を中心に、日本伝統芸術に焦点を当て、カナダからキュレーターと前田のりこ（書道家）を招へい。開催中には400名以上が展覧会に来場
19	『演歌をする』	ニュー・ヘリテージ・シアター・グループ (New Heritage Theater Group)	2010. 06. 25	ニューヨークを拠点に活動する小田裕一郎（作曲家／ギタリスト）が日本の演歌をジャズやブルースにアレンジし、地元ニューヨークのアーティストらとセッションを実施
20	第9回ダラス・アジア映画祭	ダラス・アジア映画祭 (Asian Film Foundation of Dallas)	2010. 07. 23 ~ 2010. 07. 29	本年で9回目となるダラス・アジア映画祭で、7日間の映画祭期間中に、約35本のアジア映画のうち、日本映画7本を上映。上映作品はすべて最近の作品で『ロボゲイシャ』（井口昇、2009）『しんぼる』（松本人志、2009）『なくもんか』（水田伸生、2009）『カムイ外伝』（崔洋一、2009）『ガマの油』（役所広司、2009）『ウルルの森の物語』（長沼誠、2009）『サマーウォーズ』（細田守、2009）。普段日本文化へ触れる機会の少ない南部地域において、日本の映画を紹介

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
21	サンアントニオ日本映画祭	サンアントニオ美術館 (San Antonio Museum of Art)	2010. 08. 08 ～ 2010. 08. 24	2009年の宮崎駿シリーズに引き続き、サンアントニオ美術館で日本映画祭を開催。本年は徳川時代後期をテーマにした『歌麿をめぐる五人の女』『雄呂血』『暗殺』の3作品を上映。SIEGENTHALER, Peter (テキサス州立大学博士) を招き「Twilight of the Shoguns : 映画に見る幕末」と題し、徳川後期に関する歴史的・文化的な背景を紹介するレクチャーも実施
22	コロキア「日本の文化、産業、ITへの理解を深める」	ミシシッピ州立大学 (Mississippi State University)	2010. 08. 19	松井美樹(横浜国立大学教授)を招へいし、日本の風土、ビジネス慣習から経済・科学技術、社会問題まで幅広く日本を紹介。70名以上の関係者が参加
23	インターナショナル・コンテンポラリー・アンサンブル	シカゴ現代美術館 (Museum of Contemporary Art, Chicago)	2010. 09. 09 ～ 2010. 09. 12	数々の受賞歴を持ち、欧州を中心に各地で演奏され注目を集めている藤倉大(作曲家)が、現代音楽の演奏を専門とするインターナショナル・コンテンポラリー・アンサンブルのために作曲した作品のコンサートをシカゴ現代美術館にて実施。同氏を招へいし、オープン・リハーサルやポスト・パフォーマンス・トークも実施
24	篠田正浩映画特集	リンカーン・センター (Film Society of Lincoln Center)	2010. 09. 25 ～ 2010. 10. 10	毎年リンカーン・センターで開催されるニューヨーク・フィルム・フェスティバルの一環として、本年は篠田正浩(映画監督)を特集。同監督作品12本を上映。同監督も招へいされ、質疑応答やインタビューにも対応
25	書芸精神	ジョージア州立大学 (Georgia State University)	2010. 10. 07 ～ 2010. 11. 19	ジョージア州立大学が、同大学のアジア文化週間の一部として、東アジアの書芸に関するプロジェクト(展示、シンポジウム、デモンストレーション、アーティスト参加授業)を実施。日本、韓国、中国、米国内から書道家だけでなく、伝統音楽家を招いて書と音楽とのコラボレーションを実施。日本からは、平野壮弦(書道家)と浜崎みち子を招へいしデモンストレーションや講演を実施。展覧会期間中7,000人以上もの来場者があり、有意義な日本文化紹介の機会を提供
26	シカゴ国際子供映画祭	シカゴ国際子供映画祭 (Chicago International Children's Film Festival)	2010. 10. 22 ～ 2010. 10. 31	世界40カ国の約250作品が上映される大規模なシカゴ国際子供映画祭で、アニメ『川の光』が上映されるにあたり、平川哲生(映画監督)を招へい。同氏はPeggy Notebaert Nature Museumでの作品上映のディスカッション、ワークショップなどに参加。『川の光』は子供審査部門と大人審査部門の両部門で「長編アニメ作品賞」を受賞
27	切り絵画家・久保修のアーティスト・イン・レジデンス	ドレクセル大学 (Drexel University)	2010. 10. 28 ～ 2010. 11. 05	文化庁文化交流使としてニューヨークに滞在したこともある久保修(切り絵画家)をアーティスト・イン・レジデンスとしてドレクセル大学に招へいし、展示会その他ワークショップや講演を実施。展示期間中、大学関係者のみならず、フィラデルフィア全域から一般の参加もあり、約1,500名が来場

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
28	『着物の形成：日本のアールデコとモダニズム』	テューレーン大学 (Tulane University)	2010. 11. 03 ～ 2011. 01. 10	テューレーン大学内ギャラリーで、20世紀初頭の着物の展覧会を実施。着物がまだ普段着であった大正時代から、次第に礼服となっていた様子を辿った。本展覧会はスイスのモンゴメリー家のコレクションで、その後全米各地を巡回。ニューオーリンズでは、同地の日本祭り <i>Japan Fest 2010</i> の一環として開催された
29	白坂道子朗読会	ニューヨーク日系人会 (Japanese American Association of New York)	2010. 11. 09 ～ 2010. 11. 13	日本から白坂道子（声優／朗読家）を招いて、ニューヨークとフィラデルフィアにおいて計6回、720名の観客に対して朗読会を実施。『源氏物語』、宮沢賢治、谷川俊太郎といった馴染みの深い作品を取り上げ、日本語の美しさを再発見する機会を提供
30	平岡洋子による『平家物語』の琵琶演奏及びレクチャー	フロリダ大学 (University of Florida)	2010. 11. 10	コロラド在住の琵琶奏者で、全米各地の大学で活動を行っている、平岡洋子による『平家物語』の演奏及び平安時代から現在に至るまでの歴史における音楽や琵琶の重要性についてのレクチャーを実施
31	柴田元幸とポール・オースターの対話	アジアソサエティ (Asia Society)	2010. 12. 07	柴田元幸（翻訳家／東京大学教授）を招き、日米における文学の関係性について、同氏が翻訳したベストセラー作家、ポール・オースター（AUSTER, Paul）とともに講演会を実施。ポール・オースターが自作 <i>Oracle Night</i> を朗読後、柴田元幸が自身の同作品の翻訳を朗読。翻訳本が担う役割などについて対話後、Q&Aを実施。観客にとって双方の文学に対し新たな視点を提供
32	『ピーターと狼』公演	グッゲンハイム美術館 (Works & Process at the Guggenheim)	2010. 12. 11 ～ 2010. 12. 19	グッゲンハイム美術館の冬の恒例行事、『ピーターと狼』の公演を、佐藤玲（日本人アーティスト）が制作する、ねぶた祭りにヒントを得た紙と灯りによるインスタレーションと、アイザック・ミズラヒ（MIZRAHI, Isaac：ファッション・デザイナー）によるナレーション、ジュリアード・アンサンブルの演奏にて実施
33	『天の川』公演	Fractured Atlas Productions, Inc.	2010. 12. 17	ビリー・フォックス（作曲家）率いるキツネ・アンサンブルの新作、トミ・ツノダ（TSUNODA, Tomi）演出による『天の川』の公演。公演前に渡辺薫（WATANABE, Kaoru：篠笛、フルート奏者）による篠笛のパフォーマンス等も実施
34	『日本からの5人の友達』展 (<i>Five Friends from Japan</i>)	ヒューストン子供博物館	2011. 01. 29 ～ 2011. 05. 01	ヒューストン子供博物館にて、15週間にわたり日本の家屋の畳部屋、裏庭、また豆腐屋などを再現したモデルを設置し、来場者に日本の文化やライフスタイルを体験してもらう展示会。現地の小学校計173校（生徒・教師22,803名）が参加。低所得コミュニティの学校には入場料1ドルや無料ツアーを提供し、生徒4,914名が参加。展示期間中、計153,974名もの来場者があり、折り紙ワークショップや現地校生徒による太鼓発表会等も実施

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
35	スプライス・ジャパン (SPLICE JAPAN)	ダンス・ニューアムステルダム (Dance New Amsterdam)	2011.02.24 ~ 2011.02.26	新進気鋭の振付家、川村真奈と田村真樹子が、SPLICE JAPANと銘打った公演にてそれぞれ新作 <i>Pandora</i> 、 <i>Order made -6-</i> のプレミア公演を実施。レジデンシー・プログラムを通して企画された、両氏を特別に取り上げたイベント。319名の観客が会場に足を運び、公演の後にはトークセッション・質疑応答のセッションも設けられた。ニューヨークのコンテンポラリー・ダンス・シーンにユニークな機会を提供
36	ドナルド・キーン日本文化センター設立25周年記念事業	コロンビア大学ドナルド・キーン日本文化センター (Donald Keene Center of Japanese Culture, Columbia University)	2011.03.01 ~ 2011.12.21	ドナルド・キーン日本文化センター設立25周年と同教授の退官を記念したシンポジウム「ドナルド・キーンの思い出」を開催。キャロル・グラック (GLUCK, Carol : コロンビア大学教授) を始め6名の教授が登壇。また、キーン教授が所蔵する三島由紀夫を始めとした著名作家との書簡などの日本研究資料をデジタル化し同大学図書館にて公開
37	ニューヨーク国際子供映画祭	ニューヨーク国際子供映画祭 (New York International Children's Film Festival)	2011.03.04 ~ 2011.03.27	北米最大の子供映画祭。ニューヨーク市内の映画館で1か月近くに亘り、大人も子供も楽しめる良質の作品を上映。本年は日本からは長編アニメ『宇宙ショーへようこそ』『イブの時間』と短編映画 <i>The Gold Bug</i> が参加。全上映売り切れとなり、『宇宙ショーへようこそ』は更に2回上映会を追加
38	Elusive Tea Bowl: 現代茶器の芸術について	ボストン・ジャパン・ソサエティ (Japan Society at Boston)	2011.03.11 ~ 2011.03.14	ボストンのジャパン・ソサエティが、ボストン美術館、ハーバード大学、ラコステギャラリー(メイン州)と協力して茶碗に関するイベントを開催。ボストン美術館所蔵の茶碗の展示、茶の湯のプレゼンテーション、日本から辻村史朗(陶芸家)、鈴木五郎(陶芸家)、竹内順一(財団法人永青文庫館長)を招いてボストン美術館にて茶器に関するシンポジウムを開催、アラン・パーマー (PALMER, Allan : 裏千家の茶道家) による茶道のデモンストレーションも実施。シンポジウムには350名以上が参加。ハーバード大学にて陶芸のワークショップも実施
39	花習塾能公演	ジャパン・ソサエティ (Japan Society)	2011.03.24 ~ 2011.03.26	花習塾(観世流能楽師・片山伸吾主催)の能楽公演を、カーネギーホール「JapanNYC」の一環として実施。ニューヨークでは3回公演の後ポートランド、トーソン、フィラデルフィア、アーバナと全米計5都市に巡回。茂山流狂言師もツアーに参加し、演目は舞囃子『屋島』、狂言『棒縛り』、能『葵上』。全公演の前に、講師エリザベス・オイラー (OYLER, Elizabeth : イリノイ大学准教授) に能解説のレクチャーを実施。また所作と楽器に関する能ワークショップも2回開催

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
40	2011 アジア映画祭と会議	ノートルダム大学 (University of Notre Dame)	2011.03.25 ~ 2011.03.26	インディアナ州ノートルダム大学が7回目となるアジア映画祭を実施。本年は「近年の日本アニメの傾向」をテーマに、近年日本で話題になったアニメーション5作品『千年女優』『パプリカ』『スカイ・クロラ』『カムイ外伝』『サマーウォーズ』を上映。コンファレンスではノートルダム大学の教授や学生、外部から招へいた専門家Melek Ortabasi、Jonathan Abel、Margherita Longによる同テーマのパネルディスカッションも開催
41	JapanNYC ネイバーフッドコンサート	カーネギーホール (Carnegie Hall)	2011.03.26 ~ 2011.03.27	小沢征爾が芸術監督を務めるカーネギーホールの日本特集。JapanNYCの一環として行われたネイバーフッドコンサートにて、日本から、三味線デュオ小山豊×新田昌弘と、ニューヨークをベースとする太鼓グループSoh Daikoの無料公演をロウアー・マンハッタンとブルックリンで実施。既存のカーネギーホール観客の枠を超えてニューヨークの一般市民に日本の音楽を提供
42	Yarn: Remembering the Way Home, A Reading and Conversation with Kyoko Mori.	ウィスコンシン大学マディソン校 (University of Wisconsin, Madison)	2011.03.31	ハワイで開催されたアジア学会において、日本人女流作家キョウコ・モリの自伝Yarn: Remembering the Way Homeを取り上げたパネルを実施し、日系アメリカ人としてのアイデンティティーについて考察

【後援事業】

	事業名	主催機関	期間	事業内容
43	『花伝説』公演	Multicultural Sonic Evolution, Inc.	2010.04.23 ~ 2010.04.25	日本の宇宙航空研究開発機構(JAXA)が始めた『花伝説～日本のこころ～』に感化され始まったオリジナルのミュージカルシアター・プロジェクト。北村ゆい(作曲家)等が科学や環境、歴史、昔話などをテーマに4つのミュージカルの短編を発表。より多くの人に『花伝説』と日本の文化を伝えることを目的に上演。リンカーンセンター・クラーク小劇場(Lincoln Center:Clark Studio)及びクイーンズ植物園(Queens Botanical Garden)にて実施。同事業に対して後援名義を付与
44	第11回ニューヨーク国際七五三	ジャパン・ソサエティ(Japan Society)	2010.10.23 ~ 2010.10.24	毎年行われている神道国際学会による七五三の儀式・イベントに対して後援名義を付与。計456名(うち七五三対象の子供129名)が参加。希望者には着物のレンタルもあり、約1時間程の儀式を日本語と英語両方で実施。海外でも家族ぐるみで日本文化を楽しむ事と、国際的に育っていく日系の子供たちに、日本の伝統文化を楽しむ機会を提供
45	人間国宝三代徳田八十吉展『煌く技の美』	日本クラブ(Japan Club)	2011.01.26 ~ 2011.02.15	日本クラブ・ギャラリーにおける人間国宝、故・三代目徳田八十吉による九谷焼き25点の展示会に対して後援名義を付与

海外拠点

【その他】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
46	ニューヨーク・アニメ・フェスティバル (NYAF) への協力	ニューヨーク・アニメ・フェスティバル (New York Anime Festival)	2010.10.08 ~ 2010.10.10	ニューヨーク・アニメ・フェスティバルにおいて、ポップカルチャー外交の提唱者である櫻井孝昌、福岡俊弘 (週刊アスキー総編集長) 及び初音ミクの生みの親である伊藤博之 (クリプトン・フューチャー・メディア社長) の3名が参加するパネルの設定に協力。日本のポップカルチャーに関する講演、ボーカロイドに関するパネルディスカッション、さらには米国東海岸では初となる初音ミクのフィルム・ライブを実施

海外拠点

ロサンゼルス日本文化センター

合計額 111,113,770 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	歌舞伎写真展	ロサンゼルス	日米文化会館		2010.08.21 ~ 2010.08.22	ロサンゼルス日系コミュニティで著名な写真家、岡田信行が撮影した平成21年度国際交流基金海外公演（主催）事業「歌舞伎レクチャー・デモンストレーション米国中西部公演」の写真27点を、ロサンゼルス最大の日系イベントである「二世ウィーク」会場に展示

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
2	歌舞伎ルネッサンス『応挙の幽霊』	レドンドビーチ	レドンドビーチ・パフォーミングアーツ・センター	日本伝統芸能振興会	2010.11.13	国際交流基金本部が公演（助成・海外公演〔舞台芸術〕）プログラムで支援した、歌舞伎『応挙の幽霊』米国公演（英語字幕付）及びレクチャー・デモンストレーション（衣裳の着付け）の機会に、日本語学習者と日本語教師を無料招待する企画を実施

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
3	Fireside Colloquiumシリーズ「日本の扇子文化」	ロサンゼルス	ロサンゼルス日本文化センター		2010.08.04	扇子の専門家、石角完爾による日本の扇子の歴史、作り方についての講演。「扇子」を通して日本文化全般の美しさへの考え方、工芸品制作へのこだわりを紹介

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
4	図書館運営	2009.04.01 ~ 2010.03.31	ロサンゼルス日本文化センターに併設されている図書館の運営。全米における日本語教育支援のため、日本語教育専門図書館として教科書・教材を多く所蔵。一部、日本研究、日本文化・芸術に関する書籍も所蔵 ①所蔵資料合計： 11,620点 （内訳：書籍 9,541冊 視聴覚資料数 2,079点） ②利用者数（年間）： 511名 ③貸出点数（年間）： 1,550点 ④レファレンス件数（年間）： 166件 ⑤図書館用リーフレット作成： 2,000部

海外拠点

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
5	ウェブサイト運営	2009.04.01 ~ 2010.03.31	ロサンゼルス日本文化センターのウェブサイトを運営し、主催・共催事業の広報や報告、助成事業の募集、図書館や日本語教育分野における情報の発信、日本語能力試験の案内・申込受付を行った URL: http://www.jflalc.org/ アクセス件数(年間) : 72,958件 メールマガジン配信数(年間) : 10,056件

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
6	日本文化紹介	ロサンゼルス	日米文化会館 カリフォルニア大学ロサンゼルス校 ロイヤル・ティ	日米文化会館 カリフォルニア大学ロサンゼルス校テラス サキ日本文化センター	2011.01.02 ~ 2011.02.06	「伝統(芸能)」と「現代」のアプローチからの日本文化紹介事業。「伝統(芸能)」では、津軽三味線奏者マイク・ペニー(PENNY, Mike)によるパフォーマンス・演奏を実施。「現代」では、映画『武士の一分』『京都太秦物語』上映会と松竹プロデューサー山本一郎を招いたパネルディスカッション、特別講義を開催
7	南カリフォルニア日系企業協会(JBA)創立50周年記念事業	ロサンゼルス	JWマリオットホテル/LAライブ	南カリフォルニア日系企業協会(JBA)	2011.03.03	南カリフォルニア日系企業協会(JBA)の50周年を記念し、同協会が地域のコミュニティへの感謝を伝え、更に交流を促進するために開催した記念事業、日本文化紹介イベント「加古隆ピアノリサイタル」の経費の一部を負担

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
8	茶室レクチャーシリーズ 2010	サンタバーバラ植物園 (Santa Barbara Botanic Garden)	2010.04.10 ~ 2010.05.22	日本文化の紹介と理解促進を目的とした、茶道と日本庭園に関する3人の専門家による講演会。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
9	ベアテ・シロタ・ゴードン講演会と映画上映会	全米日系人博物館 (Japanese American National Museum)	2010.05.16	日本文化を理解し、日本を愛し、戦後日本の復興に貢献したベアテ・シロタ・ゴードン(SHIROTA GORDON, Beate)のドキュメンタリー映画の上映会と同氏を招いた講演会を通じ、海外の人からの目で日本人の生活や文化を紹介。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
10	上妻アンサンブル公演	米日カルチュラル・トレード・ネットワーク (U.S./Japan Cultural Trade Network)	2010.05.19	上妻宏光(あがつま・ひろみつ)の津軽三味線、野崎洋一のピアノ、ようそろ(はせ・みきたと岡田寛行による和太鼓のアンサンブル)公演。サンフランシスコ国際芸術祭のオープニングイベントとして実施。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
11	第16回大学対抗太鼓大会	爆発太鼓団 (Bakuhatsu Taiko Dan)	2010. 05. 29 ~ 2010. 05. 30	カリフォルニア地区の大学の太鼓クラブ14校が集まり、大学対抗の合同演奏会を開催。一般に開放した演奏会のほか、太鼓ワークショップや勉強会を実施。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
12	舞と朗読『平家物語』	全米大学婦人協会 (American Association of Japanese University Women)	2010. 06. 13	『平家物語』を題材にした総合的文化イベント。琵琶演奏 (川本旭鶴) と平家物語の朗読及び若柳久三、若柳久女、花柳春華の3名による日本舞踊の上演。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
13	フュージョン・フライデー	パシフィックアジア美術館 (Pacific Asia Museum)	2010. 06. 18	金曜の夜にパシフィックアジア美術館を開放し、若者層を対象に文化に触れてもらう交流イベント。6月は、「日本」をテーマに、鎧を着て写真撮影、日本酒のテイスティング、墨絵の展覧とワークショップ、日本食体験等の催しを実施。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
14	ジャクソン火祭り	ヴィスタ 360° (Vista 360°, Inc)	2010. 06. 18 ~ 2010. 06. 20	ワイオミング州ジャクソン市で開催される「ジャクソン火祭り」に、姉妹都市・富士吉田市出身の切り絵作家、百鬼丸 (山梨県公式文化大使) を招き、子どもたち向けのワークショップや作品の展覧会、手塚治虫作品『村正』の上映会等市民レベルの文化交流イベントを実施。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
15	第6回サクラメント日本映画祭	ユナイテッド・メソジスト教会 (United Methodist Church)	2010. 07. 09 ~ 2010. 07. 11	サクラメント市庁舎付近の劇場で行われる日本映画上映会。地域コミュニティのために2005年から開始され、サクラメントの日系社会・アジアコミュニティが大きく支援。最近の話題作品から、名作、若手監督作品、アジア系学生による自主制作映画等を幅広く上映。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
16	全米武道祭	シン・コヤマダ財団 (The Shin Koyamada Foundation)	2010. 07. 18	武道の観点からの文化紹介を行うイベント。日本観光促進ブースも設置。日本の伝統的な武道のほか、各国 (中国、韓国、イスラエル、ブラジル、インド) から武道家を招き、武道を通じた国際交流を行った。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
17	レンティキュラティス	南カリフォルニア建築大学 (Southern California Institute of Architecture)	2010. 07. 30 ~ 2010. 09. 12	阿部仁史 (建築家) による建築展覧会。リトル東京の日米文化会館内ノグチ・プラザに張り出し屋根を作るプロジェクトを仮定し、縮尺1/7の建築デザイン作品を展示して、日本の近・現代の建築デザインを紹介。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
18	Oracle & Enigma 公演	ハイウェイズ・パフォーマンス・スペース (Highways Performance Space)	2010. 08. 06 ~ 2010. 08. 21	舞踏家である桂勘のプロデュースによる『オラクル&エニグマ (Oracle & Enigma)』舞踏公演。Descent Performance Laboratory、Vangelina Theatre Dancersが共同で舞踏ダンスパフォーマンスを開催。会期中にワークショップも実施。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
19	七夕祭り	南加県人会協議会 (Nanka Kenjinkai Kyogikai)	2010. 08. 14 ~ 2010. 08. 22	ロサンゼルス・リトルトーキョーで開催される「二世ウィーク」の一環で、地元コミュニティが製作した200個の七夕飾りを全米日系人博物館前に飾り、仙台の七夕祭りを再現した展示イベント。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
20	ねぶた祭り 2010	二世ウィーク財団 (Nisei Week Foundation)	2010. 08. 15	ロサンゼルス・リトルトーキョーで開催される「二世ウィーク」のパレードに、青森からのねぶた祭りとはロサンゼルスで独自に発展してきたねぶたを組み合わせさせた跳人 (ダンサー) とお囃子 (ミュージック) のパフォーマンスを実施。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
21	童謡ロサンゼルス・コンサート	日本語学園協同システム (Japanese Language School United System)	2010. 09. 11	日本全国各地でスクールコンサートを開催し、3,000校以上の巡回教育公演を行っている童謡歌手、大庭照子をゲストに迎えたイベント。ロサンゼルスの子供達やコーラスグループと共演した一般市民向けコンサート。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
22	オフサイト・ダンス・プロジェクト	ポートランド・コンテンポラリー・アート研究所 (Portland Institute for Contemporary Art : PICA)	2010. 09. 17 ~ 2010. 09. 18	現代パフォーマンスイベント <i>Time-Based Art Festival</i> に、日本から振付家・ダンサーの鈴木ユキオと山下残の2名を招き、エズラ・ディキンソン (DICKINSON, Ezra : シアトル在住ダンサー) と共演。ポートランド市内数カ所の路上で、ダンスパフォーマンスを披露。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
23	ソノマ・カウンティ太鼓15周年公演	ソノマ・カウンティ太鼓 (Sonoma County Taiko)	2010. 10. 02	北カリフォルニア地域における代表的な太鼓グループ4団体 Ensohza, Taiko Ren, Tenten Taiko, Sonoma County Taiko による共同記念公演。伝統的なものから現代的なアレンジの太鼓パフォーマンスまでを披露。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
24	タイコ・アンリッシュド	ポートランド太鼓 (Portland Taiko)	2010. 10. 02 ~ 2010. 10. 03	北米和太鼓の師と称される田中誠一を招き、ポートランド太鼓との合同公演を実施。あわせて子供向け公演と太鼓の歴史についてのレクチャーを開催。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
25	写し絵シンポジウムと展覧会	ハワイ日米協会 (Japan-America Society of Hawaii)	2010. 10. 12 ~ 2010. 10. 13	舞台芸能写し絵に関するシンポジウムと展覧会をハワイ大学ジョン・ヤング美術館にて開催。シンポジウムでは、日本美術の紹介、西洋美術との違いや独自性について、意見交換を実施。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
26	古典の日 (歌舞伎レクチャー・デモンストレーション)	アラスカ大学アンカレッジ校 (University of Alaska Anchorage)	2010. 10. 24	初の外国籍松竹歌舞伎役者である中村鷹京と藤間豊宏を招き、歌舞伎の紹介と実演「京人形」を行う文化イベント。アラスカ大学の日本語学部が中心となり、日本語学習者と一般米国人を対象に、日本文化理解促進を目的として実施。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
27	シンボリック・エンバイロメント	ハワイ大学マノア校 (University of Hawaii Manoa)	2010. 11. 07 ~ 2010. 11. 19	ハワイ大学マノア校に田甫律子（マサチューセッツ工科大学准教授）と保科豊巳（東京藝術大学助教授）を招き、それぞれの作品制作、講演会及び展覧会を実施。同校において毎年実施している、招待芸術家との文化交流プログラム。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
28	インターナショナル・フィルム・フェスティバル	オレゴン州立大学外国語文学部 (Department of Foreign Languages and Literatures, Oregon State University)	2010. 11. 08 ~ 2010. 11. 12	オレゴン州立大学の外国語文学部で教えられている各言語の映画作品を上映し、外国語を学ぶ学生の文化理解の促進及び地元コミュニティへの文化紹介を行なう国際映画祭。対象国は、フランス、ドイツ、スペイン、中国、日本の5カ国。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
29	『UTSUTSU:現』公演	米国阿波踊り連合会 (American Awaodori Dance Association)	2010. 11. 19 ~ 2010. 11. 28	日本人俳優による、時代劇を現代風アレンジした演劇『UTSUTSU:現』公演。日本でも5回公演を行なった作品の英語版。本格的な舞台殺陣演出も含まれた舞台。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
30	『シップ・オブ・ドリーム：咸臨丸』公演	ダンカンダンス メアリー佐野 スタジオ (Mary Sano Studio of Duncan Dancing)	2010. 12. 02 ~ 2010. 12. 05	咸臨丸の来航150周年を記念して創作されたダンスシアター作品『シップ・オブ・ドリーム：咸臨丸』の公演。米国でイサドラ・ダンカン (DUNCAN, Isadora) が確立し、日本舞踊の影響も受けている、ダンカン・ダンスというモダンダンスを用いた作品。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
31	日（茨城）米高校野球親善試合	日米教育サポートセンター (Japanese Educational Resource Center)	2010. 12. 27 ~ 2010. 12. 28	茨城県高校野球連盟から選抜された18人の選手と、米国の高校野球チームの親善試合を通し、高校野球コーチの技術面、精神面での指導技術の交流、選手らの親善交流を実施。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
32	お正月イン・リトル東京	南加日系商工会議所 (Japanese Chamber of Commerce Founda- tion)	2011. 01. 01	リトル東京にて日本の伝統的な新年の雰囲気を再現するイベント。ロサンゼルス市警ヘリコプターの祝賀飛行、鏡開き、獅子舞、餅つき、書初め、着物ショー、折り紙体験、日本食屋台が立ち並び、ステージでは空手演舞や太鼓演奏を実施。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
33	ミュージカル『日本の民話の旅』公演	オデッセイ中学校 (Odyssey Middle School)	2011. 01. 09	サンフランシスコ地区の中学校にて地元コミュニティ向けに開催されたミュージカル公演。台詞の大半は英語だが、一部日本語も交えて上演。演目は日本の民話『舌切り雀』『石切』等。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
34	新年お花祭り	ハワイ・ジャパニーズ・カル チュラル・センター (Japanese Cultural Center of Hawaii)	2011. 01. 09	1993年以来、ハワイ日系コミュニティを中心に開催される、正月イベント。太鼓や踊りなどのパフォーマンスから、フード・ブース、クラフト・ブースまで、多種多様な文化紹介・体験イベントを実施。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
35	『99年の愛』上映会	日米文化会館 (Japanese American Cultural and Community Center)	2011.01.09 ~ 2011.01.16	TBS開局60周年記念特別テレビドラマ『99年の愛—JAPANESE-AMERICANS』の無料上映会。初日は十二竜也プロデューサーの挨拶と記者会見を実施。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
36	『ブルーベアー』公演	パーセヴェランス劇場 (Perseverance Theatre)	2011.01.14 ~ 2011.02.06	アラスカの大自然に魅せられ、96年に熊の事故により死去した写真家、星野道夫に関する作品『ブルーベアー』の舞台公演。星野とガイドのリン・スクーラー (SCHOOLER, Lynn) との友情、星野の自然への情熱を描いた作品。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
37	玉井康成独舞『頑固者』	ボディ・ウェザー・ラボラトリー (Body Weather Laboratory)	2011.02.18 ~ 2011.02.20	舞踏グループ「舞塾」のメンバーであり、独舞を中心に公演を行っている舞踏家、玉井康成を招いての公演とワークショップを開催。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
38	津軽三味線コンサート	ニューメキシコ・ジャパニーズ・アメリカン・シチズンリーグ (New Mexico Japanese American Citizens League)	2011.02.23	マイク・ペニー (PENNY, Mike) とケヴィン・メッツ (METZ, Kevin) の米国人津軽三味線奏者による日本の伝統音楽とコンテンポラリー音楽の津軽三味線コンサート。津軽民謡からベンチャーズまで津軽三味線を使って幅広い音楽を演奏。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
39	スーパー・タイコ・コンサート	曹禅寺 (Sozenji Buddhist Temple)	2011.03.05	元「鼓童」のメンバー、ヒダノ修一を始めとする実力派3名の日本の伝統音楽家を日本から招いて行なう、地元ロサンゼルス太鼓グループとのコラボレーション公演。日米文化会館前のノグチプラザに屋外劇場を設置して開催。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
40	歌舞伎と日本舞踊：歌舞伎の基本を理解する	オーロラ日本語奨学金基金 (Aurora Japanese Language Scholarship Foundation)	2011.03.12	初の外国籍歌舞伎役者である中村鴈京による歌舞伎の歴史や鑑賞の仕方等の基本的な知識のレクチャー及び日本舞踊体験レッスン。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
41	能と狂言デモンストレーションとワークショップ	パシフィック大学 (Pacific University)	2011.03.17	京都(観世流) KashuJukuの片山伸吾と狂言茂山流の狂言師によるパシフィック大学の学生及び地元コミュニティ向けの能と狂言のデモンストレーションとワークショップ。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成
42	日本文化祭	ブライトウォーター・スクール (Bright Water School)	2011.03.25	小・中学校一環教育の私立学校における日本文化祭。コミュニティも参加できる日本文化イベントであり、地元の太鼓グループによる、太鼓コンサート+ワークショップを実施。ロサンゼルス日本文化センターは開催経費の一部を助成

海外拠点

【その他】

	事業名	関連機関	期間	事業内容
43	サンディエゴ日本文化コミュニティー・デイ	在ロサンゼルス総領事館 日本政府観光局（JNTO）ロサンゼルス事務所	2010. 06. 26	海上自衛隊の練習艦隊がサンディエゴ港に寄港する機会を捉え、サンディエゴで行なわれた日米安全保障条約改定50周年記念行事において、伝統文化、武道、食を始め様々な日本文化を総合的に紹介。ロサンゼルス日本文化センターは在ロサンゼルス総領事館、日本政府観光局と合同で、各機関の事業紹介、情報提供を実施
44	アニメ・エキスポ 2010	在ロサンゼルス総領事館 日本貿易振興機構（JETRO）ロサンゼルス事務所 日本政府観光局（JNTO）ロサンゼルス事務所	2010. 07. 01 ～ 2010. 07. 04	2010年で19回目を迎える北米最大規模のアニメをテーマとしたイベント「アニメ・エキスポ」において、ロサンゼルス日本文化センターは、在ロサンゼルス総領事館、日本貿易振興機構、日本政府観光局と合同で、日本を紹介するブースで各機関の事業紹介、情報提供を実施
45	ジャパン・ビジネス・レセプション	在ロサンゼルス総領事館	2010. 11. 17	トランス商工会議所と南カリフォルニア日系企業協会が主催する日米のビジネス関係者の交流イベント。ロサンゼルス日本文化センターは、在ロサンゼルス総領事館ほか日本政府関連機関と合同で、日本を紹介するブースにて各機関の事業紹介、情報提供を実施

海外拠点

メキシコ日本文化センター

合計額 29,239,391 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	写真展「旅」	トルーカ メキシコ・シ ティ ハラッパ	モデロ科学産 業博物館 メキシコ市立 写真アーカイ ブ美術館 ベラクルス州 立大学付属ラ モン・アル バ・デ・ラ・ カナル ギャラ リー	モデロ科学産 業博物館 メキシコ市立 写真アーカイ ブ美術館 ベラクルス州 立大学付属ラ モン・アル バ・デ・ラ・ カナル ギャラ リー 東京都写真美 術館	2010.10.01 ~ 2011.03.27	「日本メキシコ交流400周年」記念事業の一環として東京都 写真美術館と国際交流基金により実施した海外企画展。尾仲 浩二、百瀬俊哉、石川直樹、さわひらき、百々武、内藤さゆ りの6名の写真家による「旅」をテーマにした170点の写真で 構成。藤村里美（東京都写真美術館キュレーター）、尾仲、 さわによる講演会「日本の旅写真の系譜」（2010.10.02 ト ルーカ市モデロ科学産業博物館）も併せて実施。来場者数 35,248名
2	Kami-Robo展	メキシコ・シ ティ	メキシコ国立 自治大学付属 チョボ美術館	メキシコ国立 自治大学付属 チョボ美術館 メキシコ国立 自治大学	2010.12.08 ~ 2011.03.21	安居智博（造形師／カミロボ作家）の制作したKami-Robo （紙ロボ）の展示。Kami-Roboは、互いに戦わせて遊ぶため に作られた身長15cm～20cm程度のロボットファイター。201 体展示し、若年層を中心に6,202名が入場。オープニングに はプロレスラーとともに安居も参加し挨拶を行った

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
3	上野淳子・ギャレット・ピアノ公演	メキシコ・シ ティ プエブラ	オリン・ジョ リストゥリ文 化センター エ ルミロ・ノベ ロ・ホール ラス・アメリ カス大学プエ ブラ校芸術講 堂	オリン・ジョ リストゥリ文 化センター ラス・アメリ カス大学プエ ブラ校	2010.09.29 ~ 2010.09.30	米国在住の日本人ピアニストによるコンサート。「東洋と西 洋の出会いーピアノで巡る世界の旅」をタイトルに山田耕作 『荒城の月』とG.F.ヘンデル『シャコンヌ・ト長調 (G229)』を対比して演奏、他8曲。来場者数合計120名。 国際交流基金ニューヨーク日本文化センターの在米日本文化 専門家中南米派遣事業の一環としてキューバ、エルサルバド ル及びメキシコを巡回

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
4	寄席公演	メキシコ・シ ティ	日墨協会階上 サロン 日本メキシコ 学院講堂	日墨協会 日本メキシコ 学院	2010. 11. 06 ～ 2010. 11. 07	三笑亭茶楽による落語『船徳』、やなぎ南玉（なんぎょく）による曲独楽、柳家小蝠（こふく）、昔昔亭A太郎・由美子による寄席の踊りと音楽（囃子）を紹介。日系人、日本語を学習している子どもとその両親など来場者250名が大いに笑い楽しむ

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
5	アニメ・マンガ講演会	ハラッパ メキシコ・シ ティ	ヘスタル・デ ザイン大学 国立芸術セン ター	ヘスタル・デ ザイン大学 国立芸術セン ター	2010. 04. 26 ～ 2010. 05. 09	「日本メキシコ交流400周年」記念事業の一環として正木基（目黒区美術館学芸員）による日本のアニメの歴史、末房志野（首都大学東京准教授）によるイラストレーションから見たマンガに関する講演、さらに小泉真理子（京都精華大学マンガ学部講師）によるビジネス、マーケティング面から見たマンガに関する講演を実施。日本の文化・社会に関する理解を深めてもらう機会を提供
6	日本食レクチャー・デモンストレーション	メキシコ・シ ティ	クラウストゥ ロ・デ・ソー ル・フアナ大 学 駐メキシコ大 使公邸 日墨協会	クラウストゥ ロ・デ・ソー ル・フアナ大 学 在メキシコ大 使館 日墨協会	2010. 09. 24 ～ 2010. 09. 30	「日本メキシコ交流400周年」記念事業の一環として遠藤十士夫（宮内庁御用達萬屋調理師会会長）、遠藤とも子（料理研究所青山クラブ調理師）、葛西恒太（佳遊亭調理師）による日本の食をテーマとした講演「日本の伝統的『食』へのアプローチ」、懐石料理の盛り付けデモンストレーション、聴衆による試食、質疑応答を実施。メキシコで得られる食材を使用し調理した懐石料理を紹介。クラウストゥロ・デ・ソール・フアナ大学では午前と午後2回、駐メキシコ大使公邸、日墨協会では各1回ずつ計4回実施し、200名が参加

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
7	日本映画祭「大島渚監督特集」	メキシコ・シ ティ	メキシコ国立 シネマテーク	メキシコ国立 シネマテーク	2011. 03. 11 ～ 2011. 03. 13	大島渚（映画監督）による『愛と希望の街』『青春残酷物語』『太陽の墓場』『儀式』の4作品を上映。東日本大震災の発生により、3日間で中止。3日間で702名が入場

海外拠点

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
8	図書館運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本の文化芸術に対する理解を深めること、日本語学習に役立つこと、日本研究のための基礎的資料を提供することの3つを目的とする図書館を運営 ①所蔵資料合計： 10,510点 (内訳：日本語資料 6,067冊、外国語資料 3,519冊、視聴覚資料 924点) ②利用者数(年間)： 3,339人 ③貸出点数(年間)： 8,149点 ④レファレンス件数(年間)： 1,164件

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
9	ウェブサイト運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	メキシコ日本文化センターを紹介するウェブサイトの運営。各種事業案内、日本のアート等を主にスペイン語で紹介 URL: http://www.fjmex.org/ アクセス件数(年間)：187,255件

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
10	メキシコ友好国フェア2010 日本文化紹介ワークショップ	メキシコ・シティ	レフォルマ大通り	メキシコ市 在メキシコ大使館	2010.05.14 ~ 2010.05.30	「日本メキシコ交流400周年」記念事業の一環としてメキシコ市の呼びかけに応える形で、各国大使館や文化機関、関係団体がテント参加した文化フェスティバルに参加。メキシコ・シティ最大の目抜き通りであるレフォルマ大通りに参加約50カ国のテントが立ち並んだ。日本からは、大使館、日墨協会などとともに、メキシコ日本文化センターも参加し、5月16日、23日、30日の3日間にわたって、折り紙、書道、ふろしきラッピング、墨絵の4種類のワークショップを全12回実施。560名以上が参加

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
11	室伏鴻 舞踏公演	ガフカ舞踏カンパニー(Gajuca Butoh AC)	2010.05.23 ~ 2010.05.26	室伏鴻(舞踏家)による舞踏公演。同氏のソロ作品 <i>Quick Silver</i> 公演と、同氏とファン・ホセ・オラバリエッタ(OLAVARRIETTA, Juan Jose: 舞踏家)の2名によるデュオ作品 <i>MUSICA</i> 公演の2公演。ワークショップ「舞踏のテクニクについて」も併せて開催。メキシコ日本文化センターは、制作費を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
12	路上演劇祭 Japan in 浜松2010 (第3回)	プログラマ・デ・テアトロ・カジェヘロ (Programa de Teatro Callejero I.A.P.)	2010.05.23 ~ 2010.05.26	多文化共生、多様な演劇のありようの提示をテーマとする路上演劇フェスティバル。 1992年、里美のぞみ (マイム・アーティスト) とギジェルモ・ディアス (DIAS Guillermo: メキシコの路上演劇プログラム主宰者) との出会いから18年にわたる交流を経て3回目の開催が実現したもの。演劇公演、ワークショップ、講演を実施。メキシコ日本文化センターは、コレア・ロドリゴ (COREA Rodrigo: 役者・演劇祭公演) の日本・メキシコ間往復航空賃を助成
13	ショート・ショート・フィルム・フェスティバル・メキシコ・2010	ショート・ショート・フィルム・フェスティバル・メヒコ (Short Shorts Film Festival México 2010)	2010.09.02 ~ 2010.09.12	2006年に始まったメキシコにおけるショート・ショート・フィルム・フェスティバルの5回目の開催。今回初めてメキシコ国立シネマテークの協力を得て実施。来場者は2万名。メキシコ日本文化センターは、短編映画上映料の一部を助成
14	舞踏グループ・ガフカ (Gajuca) メキシコ国内ツアー	ガフカ舞踏カンパニー (Gajuca Butoh AC)	2010.09.30 ~ 2010.11.29	「日本とメキシコの結びつき」をテーマに、舞台公演26回、ワークショップ18回、写真展9回を含む舞踏関連複合企画。メキシコ国内8都市で1万2千名が入場。開催都市はメキシコ・シティ、アカプルコ、モレリア、シュカレット、グアナフアト、タパチュエラ、サン・クリストバル・デ・ラス・カサス、トクストゥラ・グティエレス。メキシコ日本文化センターは、広報資料作成費を助成
15	「ここからここへ」展	ベラクルス州立大学造形美術研究所	2010.11.10 ~ 2010.12.10	矢作隆一 (メキシコ在住アーティスト) によるインスタレーション展示。メキシコ料理に欠かすことのできないトウガラシを用いた波紋状の床面作品とその制作風景を収録した動画上映。ベラクルス州立大学造形美術研究所で実施。メキシコ日本文化センターは、材料費、アーティストの滞在費、交通費を助成
16	「アルファ崩壊」展	ティファナ文化センター (Centro Cultural Tijuana)	2010.11.19 ~ 2011.02.16	竹田信平 (メキシコ在住アーティスト) の企画・制作に基づく原子爆弾のもたらす悲劇をテーマとした展覧会。ガブリエル・マルティネス (MARTINEZ, Gabriel: メキシコ人建築家) との合作による大型インスタレーションを展示。メキシコ日本文化センターは、材料費の一部を助成
17	日本の舞台芸能 (テレビ番組制作)	チャンネル22 (Cana 122)	2010.12.04 ~ 2010.12.11	非営利テレビ局チャンネル22による、日本の舞台芸能 (オペラ、舞踏、ピアノ演奏、琴・尺八とタンブッコの演奏) を取り上げた2番組「魂の鏡、MUSICA」と「モーツァルトのピアノ・コンサート、鶴のたそがれ」の制作。メキシコ日本文化センターは、製作費の一部を助成
18	Bios 2010 400年400のカメ	手工芸発展基金 (Fundación para el Desarrollo de Artesanas)	2010.12.10 ~ 2011.03.10	メキシコ・カメ・センターのリニューアル・オープンを機に開催する、ウミガメの保護と、自然環境の保護に関する教育を目的とした展示事業。自然界でのカメと、人間による影響下でのカメの一生をそれぞれ展示する部屋に、「折り紙のカメ」と「書」を展示。メキシコ日本文化センターは、製作費の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
19	「クリスタル・ジャングル」展	メキシコ国立自治大学チョポ美術館(Museo Universitario del Chopo)	2011.02.09 ~ 2011.05.18	メキシコ在住の日本人、日系人アーティストの作品によるグループ展。西沢ルイス(NISHIZAWA, Luis)、高橋清、中谷カルロス(NAKATANI, Carlos)ほか15名の作家による作品展示。メキシコ日本文化センターは、参加アーティストの交通費と滞在費の一部を助成
20	剣道講習会	メキシコ剣道連盟(Federación Mexicana de Kendo A.C.)	2011.02.14 ~ 2011.02.28	メキシコ・シティ及びプエブラ市における剣道講習会。日本から、山中茂樹(埼玉剣道協会範士8段)、小澤博(東京理科大学8段)を講師として招き、技術のみならず日本の世界観をも紹介。メキシコ日本文化センターは、1名分の航空賃を助成
21	日本研究国際シンポジウム「日本メキシコ交流の端緒」	エル・コレヒオ・デ・メヒコ(El Colegio de México)	2011.03.15 ~ 2011.03.20	「日本メキシコ交流400周年」を機に、エル・コレヒオ・デ・メヒコにより企画された国際シンポジウム。「徳川時代におけるメキシコ(ヌエボ・エスパーニャ)と日本の初めての接触」。スペインからアジアにおけるイベリアを専門とする歴史学者フアン・ヒル(GIL, Juan:セビリア大学教授)を招いて開催。メキシコ日本文化センターは、航空賃を助成
22	三上寛公演	メキシコ・シティ歴史地区フェスティバル(Festival de Mexico)	2011.03.18	メキシコ・シティ歴史地区フェスティバルの一環であるフェスティバル・アウラル2011に三上寛(フォークシンガー)を招き、ブルースとノイズのフュージョン音楽の公演を実施。メキシコ日本文化センターは、航空賃を助成

海外拠点

サンパウロ日本文化センター

合計額 191,608,603 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	折り紙によるカーニバル展	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター	折紙研究会 (Grupo de Estudos de Origami)	2010.07.27 ~ 2010.08.10	ブラジルのサンバ・カーニバルを全て折り紙で再現した長さ19メートルの作品、金色の大仏及び432羽の連鶴からなる日本とブラジルの国旗(全て折り紙で制作)の展示を行い、折り紙の持つ多様性を紹介
2	文化パネル巡回展示	マリンガ	マリンガ文化体育協会	マリンガ文化体育協会 (Associação Cultural e Esportiva de Maringá)	2011.03.10 ~ 2011.03.15	パラナ州マリンガ市において行われた日本文化祭りにおけるサンパウロ日本文化センター所有の展示パネル『浮世絵展』の巡回展示。展示にあわせ、浮世絵の研究者をサンパウロから派遣し、解説を加えながらの展示案内も実施

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
3	尺八公演	ポルト・アレグレ	リオ・グランジ・ド・スル・カソリック大学建築学部	リオ・グランジ・ド・スル・カソリック大学建築学部 (Faculdade de Arquitetura e Urbanismo da PUCRS) 在ポルトアレグレ出張駐在官事務所	2010.04.28	ポルト・アレグレで開催される「パラレルニッポン現代日本建築展」のオープニング式典の機会をとらえ、サンパウロ市在住の尺八奏者を同市に派遣し、地方都市では鑑賞する機会の少ない伝統的な邦楽公演を実施
4	語り手公演「太陽が昇る所からの昔話」	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター		2010.05.13	サンパウロで行われた国際語り手フェスティバル「ボカ・ド・セウ」の参加者、日系ベルギー人パスカル・グラン(GUERLAIN, Pascal)による日本昔話の語り公演(ストーリーテリング)を実施
5	「オペラ・ナ・マラ」公演	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター		2010.05.14	世界の童話を紹介するブラジル児童劇グループ「オペラ・ナ・マラ」(「トランク・オペラ(Trancu Opera)」)による『七夕』『浦島太郎』『笠地蔵』など、日本の童話や民話を題材とした児童向けの公演を実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
6	沖縄太鼓公演	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター		2010. 11. 16	15人編成の沖縄太鼓グループ Ryukyu Koku Matsuri Daiko Brasilによるエイサー・ショーを実施。琉球太鼓の歴史や衣装、楽器、エイサーの由来について、解説を加えながら公演を実施
7	「オペラ・ナ・マラ」紙芝居	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター		2010. 11. 18	世界の童話を紹介するブラジル児童劇グループ「オペラ・ナ・マラ」(「トランク・オペラ(Trancu Opera)」)による紙芝居。独自のアダプテーションで、ブラジル風にアレンジされた一味違った紙芝居を実演。演目は『たべられたやまんば』
8	マリオ・デ・アンドラーデ図書館邦楽公演 (民衆と音楽)	サンパウロ	サンパウロ市立マリオ・デ・アンドラーデ図書館	サンパウロ市立マリオ・デ・アンドラーデ図書館(Biblioteca Mário de Andrade)	2011. 02. 19	ブラジル第2の蔵書数を誇るサンパウロ市立マリオ・デ・アンドラーデ図書館の大規模リフォーム完成に伴い行われた、サンパウロ市在住移民の子孫と関係のある国々の文化を取り上げた記念事業を共催。日本文化事業として、尺八、箏、ギター、チェロによる邦楽と洋楽のフュージョンによる公演を実施。また日系移民のブラジル社会への貢献をテーマに座談会を実施

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
9	日本映画講座「西欧における日本映画—『羅生門』から『おくりびと』まで」	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター		2010. 05. 26 ~ 2010. 05. 28	マルセラ・カニゾ(CANIZO, Marcela: 日本映画研究者)による3日連続の日本映画講座。西欧の主要国際映画祭で受賞した作品を中心に日本映画史を振り返りつつ、近代から現代までの日本映画を紹介
10	食文化講演会「日本の伝統料理」	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター		2010. 06. 02	日本の伝統料理や郷土料理について複数の本を執筆しているサンパウロ在住のヤスモト・シズコ(YASUMOTO, Shizuko)による講演会。日本の伝統料理をテーマに地域性やレシピについて一般向けに紹介
11	カンボグランデ市日本文化週間における能公演・ワークショップ	カンボグランデ	カンボグランデ日伯文化体育協会	カンボグランデ日伯体育文化協会(Associação Esportiva E Cultural Nipo-Brasileria De Campo Grand) 在サンパウロ総領事館	2010. 06. 19	南マトグロソ州カンボグランデ市で行われた日本文化週間(10. 06. 16~06. 19)において、日本の伝統芸能、能を紹介するため、サンパウロ市在住の能研究者ナガイ・アンジェラ(NAGAI, Angela: 元国際交流基金フェロー)を派遣し、能の公演及びワークショップを実施
12	文化講座「アマゾン旅行記・食材探求」	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター		2010. 06. 30	小池信也(和食レストラン「藍染」オーナーシェフ)による、アマゾン地域の食材を使用した和風仕立て料理の方法に関する講演会を実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
13	講演会「小津安二郎監督作品」	サンパウロ	ブラジル銀行文化センター	ブラジル銀行文化センター (Centro Cultural Banco do Brasil)	2010. 07. 16	小津安二郎（映画監督）作品に造詣の深いカルロス・アルベルト・カリウ（CARIL, Carlos Alberto : サンパウロ市文化局長）による小津監督作品についての講演会を実施
14	折り紙ワークショップ	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター		2010. 07. 27 ～ 2010. 07. 30	折り紙ワークショップのほか、簡単な色紙の折り方や世界で発表されている作品や出版物、日本の折り紙専門家等について紹介
15	日本食海外普及功労者表彰記念講演会	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター	日本貿易振興機構（JETRO）サンパウロ事務所 在サンパウロ総領事館	2010. 08. 12	農林水産省が実施する2010年日本食海外普及功労者表彰を受賞した岩崎透（東山農場社長）による講演会。日本の食文化や食材等の紹介、普及に取り組んできた自身の経験を踏まえた受賞記念講演を実施
16	切り紙、折り紙、生花、マンガのワークショップ	サンパウロ	アニエンビー展示パビリオン	日伯文化連盟（Aliança Cultural Brasil-Japão）	2010. 08. 12 ～ 2010. 08. 22	サンパウロ国際図書ビエンナーレ実施期間（10. 08. 12～10. 08. 22）中、同ビエンナーレに出展した国際交流基金ブース内において、切り紙、折り紙、生花、マンガなど展示図書に関連した日本文化イベント（ワークショップ）を実施
17	日系アメリカ人ジャーナリスト講演会 <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	サンパウロ ベレン トメアス ブラジル	サンパウロ大学日本文化研究所 汎アマゾン日伯協会 トメアス文化農業振興協会 ブラジル大学	サンパウロ大学（Universidade de São Paulo） 汎アマゾン日伯協会（Associacio Pan-Amazonia Nipo-Brasileira） ブラジル大学（Universidade de Brasilia）	2010. 08. 19 ～ 2010. 08. 27	シアトル在住の日系アメリカ人ジャーナリスト、ロリ・マツカワ（MATSUKAWA, Lori : シアトル・キングテレビ・アンカー）による講演会をサンパウロ、ベレン、トメアス、ブラジルで実施。米国における少数派ジャーナリストの歩みとアジア系アメリカ人ジャーナリスト協会の活動を紹介
18	食文化講演会「和菓子」	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター		2010. 08. 31	マキブチ・クリスティーナ（MAKIBUCHI, Cristina : ケーキ職人）による「和菓子」の講演会。和菓子の作成過程を映像で紹介するとともに、講演者が日本で経験した菓子作りに関する講演及び抹茶を使ったケーキの試食会を実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
19	サンパウロ大学客員教授による巡回講演会	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター	サンパウロ大学 (Universidade de São Paulo)	2010. 09. 08	国際交流基金が「日本研究機関支援〔米州〕」プログラムによりサンパウロ大学に客員教授として派遣した新美哲彦（ノートルダム清心女子学院大学准教授）による講演会。同教授の専門である『源氏物語』に関する講演を、一般市民向けに実施
20	講演会「陶芸・登り窯」	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター	クーニャ市陶芸協会 (Instituto Cultural da Cerâmica de Cunha)	2010. 09. 22 ～ 2010. 09. 24	南米で有数の陶芸・登り窯の町として知られるクーニャから招いた日系陶芸家、末永貴美子による連続講演会。登り窯の特徴などを多数のスライドや陶器を用いて紹介。陶芸に関する文化映画も上映
21	講演会「日本とブラジルのパッケージ・デザイン」	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター		2010. 09. 29	ブラジルと日本のパッケージ・デザインの比較を試みる講演会を実施。講師のナリタ・マリオ (NARITA, Mário) は、日本パッケージデザイン協会主催の研修会に参加経験があり、ブラジルでも「ガラナ」等数々のパッケージデザインを手掛けるパッケージ・デザイナー
22	「日本の熱い血」映画特集講演会	サンパウロ	シネマテカ (Cinematca)	シネマテカ (Cinematca)	2010. 10. 05	ブラジルで著名なカルロス・ヘイシェンバッハ (REICHENBACH, Carlos : 映画監督) による小津安二郎 (映画監督) 作品についての講演会を実施
23	箏ワークショップ・コンサート	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター	ブラジル日本研究協会 (Associação Brasil-Japão de Pesquisadores)	2010. 10. 08	西陽子 (箏演奏家) によるワークショップ及びコンサート。ワークショップはサンパウロ在住の箏演奏家を対象に実践的な内容で実施。コンサートは一般市民を対象として実施
24	日本のゲーム産業に関する講演会	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター		2010. 10. 19	日本のポップカルチャー紹介の一環として、1970年代から現在まで、日本のゲーム文化・産業が西洋文化へ与えてきた影響についての講演会を実施。欧米諸国やブラジルにおける日本ゲームの需要とその歴史的変遷を探る内容。講師はアドリアナ・ケイ・サトウ (SATO, Adriana Kei : アニエンビ・モルンビ (Anhembi Morumbi) 総合大学ゲームデザイン学科教授 / ゲーム・コンテンツ・プロデューサー)

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
25	講演会「和文化・風呂敷の美」	サンパウロ サンパウロ マリンガ リオ・デ・ジャネイロ	サンパウロ日本文化センター ヨーロッパデザインスクール マリンガショッピングセンター	ドウ・クルトゥラウ (Dô Cultural) 在サンパウロ総領事館 マリンガ市役所観光局 (Secretaria de turismo prefeitura de Maringá) マリンガ日本公園 (Maringá Parque do Japao) マリンガ日本文化スポーツ協会 (Associação Cultural e Esportiva de Maringá) 在リオデジャネイロ広報文化センター	2010. 11. 04 ~ 2010. 11. 09	山田悦子（京都和文化研究所「むす美」アートディレクター）による講演会。第2回学生のための国際ふるしきデザインコンテスト応募作品が展示されている中で、「和文化・風呂敷の美」をテーマにした風呂敷の歴史と日本の伝統文化、現代における風呂敷の活用等について講演会を実施
26	日本庭園に関する講演会	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター		2010. 11. 17	サンパウロ日本文化センターが出版助成を行った『日本庭園 (Jardim Japonês)』(カマレオン出版)の著者、サルキス・カロウスチアン (KALOUSTIAN, Sarkis) 及び日本建築にみられる独特の「間」(空間)について研究している岡野道子(サンパウロ連邦大学助教授)による講演会を実施
27	切り紙ワークショップ	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター		2010. 12. 15 ~ 2010. 12. 17	サンパウロ在住のウエズ・ナオミ (UEZU, Naomi : 切り紙専門家)による、少人数を対象とした切り紙についてのワークショップを3回実施。同時開催中の「パラレルニッポン現代日本建築展」でも展示されている茶谷正洋(折り紙建築専門家)の作品を紹介し、折り紙の奥行きも併せて紹介

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
28	狂言ブラジル巡回ワークショップ	リオデジャネイロ クリチバ サンパウロ	カイシャ文化センター グアイーラ劇場 ガゼタ劇場	カイシャ文化センター (CAIXA Cultural) 在リオデジャネイロ総領事館 クリチバ日伯文化援護協会 (Bunkyo de Curitiba) 在クリチバ総領事館 パラナ連邦大学 (Universidade Federal do Paraná) ガゼタ劇場 (Teatro Gazeta) 在サンパウロ総領事館 サンパウロ大学 (Universidade de São Paulo)	2011.02.21 ~ 2011.03.03	茂山茂(大蔵流狂言師)を始め計4名の狂言師を招へいし、リオデジャネイロ、クリチバ、サンパウロの3都市で演劇学科の学生を中心とする舞台関係者等に対してワークショップを実施。また、一般市民対象のレクチャー・デモンストレーションを各地で実施

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
29	いつでもシネマ	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター		2010.09.16 ~ 2010.10.30	隔週木曜日(午後3時)と土曜日(午後3時)に、ブラジル・フィルムライブラリー所蔵作品の上映会を実施。家族をテーマにした4作品を上映。上映作品は『ALWAYS 三丁目の夕日』(山崎貴、2005)『ALWAYS 続・三丁目の夕日』(山崎貴、2007)、『お引越し』(相米慎二、1993)、『家族』(山田洋次、1970)

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
30	日本映画上映会	サンパウロ	シネマテカ (Cinematca)	シネマテカ (Cinematca)	2011.01.12 ~ 2011.02.06	共催機関であるシネマテカ(Cinematca)より上映希望のあった日本映画5作品を各3回(計15回)上映。上映作品は『煙突が見える場所』(五所平之助、1953)、『神々の深き欲望』(今村昌平、1968)、『地獄門』(衣笠貞之助、1953)、『祇園囃子』(溝口健二、1953)、『あの夏、一番静かな海』(北野武、1991)
31	日本映画上映会	サンパウロ	サンパウロ大学内シアター	サンパウロ大学 (Universidade de São Paulo)	2011.02.14 ~ 2011.02.18	サンパウロ大学内シアターで実施される「家族」をテーマとした映画特集において、同シアターより上映希望のあった作品、『晩春』(小津安二郎、1949)を計3回上映
32	日本映画上映会	サンパウロ	サンパウロ市文化センター	サンパウロ市文化センター (Centro Cultural São Paulo)	2011.02.15 ~ 2011.02.27	サンパウロ市文化センターが企画する「都会」をテーマとした映画特集において、同センターより上映希望のあった日本映画2作品、『ALWAYS 三丁目の夕日』(山崎貴、2005)、『ALWAYS 続・三丁目の夕日』(山崎貴、2007)を上映

【図書館運営】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
33	図書館運営				2010.04.01 ~ 2011.03.31	ブラジルにおいて日本文化を広く普及させるため、図書館における閲覧、貸し出し、各種レファレンスサービスのほか、文化芸術事業など国際交流基金事業の展開に合わせた所蔵資料の展示を実施。蔵書としては、日本文化・社会を広く紹介する資料、日本語学習や日本研究活動をサポートするための参考文献を中心に収集 ①所蔵資料合計： 19,784点(視聴覚資料数を含む) ②利用者数(年間)： 11,621名 ③貸出点数(年間)： 21,660点 ④レファレンス件数(年間)： 261件 ⑤図書館用リーフレット作成： 1,000部
34	紙芝居読み聞かせ(上半期)	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター	サンパウロ日本人学校PTA	2010.05.08 ~ 2010.09.11	紙芝居ボランティア制度を導入し、毎月1回、日本語とポルトガル語による紙芝居の読み聞かせを実施(毎回計4回の読み聞かせを実施) 第1回14:00~(日本語)、第2回14:30~(ポルトガル語) 第3回15:00~(日本語)、第4回15:30~(ポルトガル語)
35	紙芝居読み聞かせ(下半期)	サンパウロ	サンパウロ日本文化センター	サンパウロ日本人学校	2010.10.01 ~ 2011.03.31	毎月1回、日本語とポルトガル語で計4回紙芝居の読み聞かせを実施。また、近隣の小学校や他団体が実施する日本文化イベントでも出張紙芝居を実施。演目は『一寸法師』、『かさ地蔵』、『ねずみのすもう』など、計6作品

海外拠点

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
36	ウェブサイト運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ウェブサイトを通じてサンパウロ日本文化センターの事業、図書館ほか各種日本文化関連情報を紹介。ウェブサイト使用言語は、ポルトガル語 URL : http://www.fjisp.org.br/ アクセス件数(年間) : 406,004件

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
37	ボツカツ市日本文化祭「TOMODATI」	ボツカツ	ボツカツ市近代美術館 ボツカツ市立劇場	国際協力機構(JICA) サンパウロ州立大学(Universidade Estadual Paulista)ボツカツ校 ボツカツ市(Prefeitura Municipal de Botucatu) ボツカツ市日本文化協会(Associação Botucatuense de Cultura Japonesa) 在サンパウロ総領事館	2010.05.21 ~ 2010.05.23	ボツカツ市で行われた日本文化祭りのオープニングイベントで、シェン・ヒベイロ(RIBEIRO, Shen : 尺八奏者)及び山本ユカ(日系オペラ歌手)がボツカツ市交響楽団と共演し、日本楽曲を紹介。また、マンガをテーマとした講演会や文化パネルの展示(「京都写真展」及び「浮世絵展」)を実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
38	マリンガ市日本文化週間	マリンガ	マリンガ市 日本文化協会 ほか	カリウ・アダジ 劇場 (Teatro Calil Haddad) マリンガ市 (Prefeitura Municipal de Maringá) マリンガ市 日本文化協会 (Associação Maringá de Cultura Japonesa) 在クリチバ総領 事館	2010.06.16 ~ 2010.06.22	マリンガ市内の日本公園(2008年移民百周年を記念し造成)、マリンガ市日本文化協会、カリウ・アダジ劇場(Teatro Calil Haddad)等各所で、尺八演奏会、生け花、茶道、折り紙の展示・ワークショップ、ミス・コンテスト、武道演武、記念夕食会など多彩な催しが行われた。サンパウロ日本文化センターは、日系ファッション・スタイリストや陶芸専門家、和食専門家をサンパウロから派遣し、ファッションショー、陶芸ワークショップ、日本食講座を実施
39	第13回ジャパン・フェスティバル	サンパウロ	イミгранテ ス見本市会場	ブラジル日本 都道府県人会 連合会 (Federação das Associações de Provincias do Japão no Brasil) 在サンパウロ総 領事館	2010.07.16 ~ 2010.07.18	在サンパウロ総領事館と共同で、ジャパン・フェスティバルの敷地内にブースを設置。ファッションをテーマに風呂敷の展示及びバッグやポーチ、スカーフなどのアクセサリとしての風呂敷の使用方法についてデモンストレーションを実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
40	京料理紹介事業	サンパウロ	アニエン ビー・モルン ビー大学ビ ラ・オリンピ アキャンパス	ヤマト商社 (Yamato Comercial Ltda)	2011. 02. 12 ～ 2011. 02. 25	特定非営利活動法人日本料理アカデミーに所属している2名の老舗料亭シェフ、高橋拓児(木乃婦)、高橋義弘(瓢亭)をブラジルに招へいし、料理学校で京料理のレクチャー・デモンストレーションや大使公邸での政府要人を招いた京料理披露、総領事公邸でのマスコミ関係者等を招いた京料理披露を実施
		サンパウロ	サンパウロ日 本文化セン ター	在サンパウロ 総領事館		
		サンパウロ	在サンパウロ 総領事公邸	在ブラジル大使 館		
		ブラジリア	在ブラジル大 使館	ブラジル日本 文化福祉協会 (Sociedade Brasileira de Cultura Japonesa e de Assistência Social)		
41	ベネズエラ日本文化週間	カラカス (ベネズエラ)	コープバンカ 文化センター コンサート ホール	在ベネズエラ大 使館	2011. 02. 15 ～ 2011. 02. 17	シェン・ヒベイロ (RIBEIRO, Shen: 尺八奏者)、北原民江 (箏・三味線奏者)、ガブリエル・レヴィ (LEVY, Gabriel: アコーディオン奏者) によるアンサンブルをベネズエラ、ボリビアに巡回派遣。ベネズエラでは、ベネズエラ日本文化週間に参加。尺八や三味線、箏など、日本の伝統楽器による日本楽曲の演奏やアコーディオンとのコラボレーションを実施
42	サンタクルス・ジャパNDER	サンタクルス (ボリビア)	サンタクルス 市文化会館	在サンタクルス 出張駐在官事務 所	2011. 02. 17 ～ 2011. 02. 20	シェン・ヒベイロ (RIBEIRO, Shen: 尺八奏者)、北原民江 (箏・三味線奏者)、ガブリエル・レヴィ (LEVY, Gabriel: アコーディオン奏者) によるアンサンブルをベネズエラ、ボリビアに巡回派遣。ボリビアでは、サンタクルス・ジャパNDERに参加。尺八や三味線、箏など、日本の伝統楽器による日本楽曲の演奏やアコーディオンとのコラボレーションを実施
43	陶芸家アーティスト・イン・レジデ ンス	サンパウロ	サンパウロ大 学 (Universidade de São Paulo) サンパウロ州 立公園 (Palacio do Horto Florestal)		2011. 03. 07 ～ 2011. 03. 31	日本の陶芸家、請関敏之 (うけせき・としゆき) を招へいし、ブラジルの「陶芸の日」(5月29日)の時期にクーニャ市の美術館で展示するための作品制作の他、同市の陶芸家への指導を実施。サンパウロ大学で開催された国際陶芸シンポジウム(11. 03. 22～03. 25)に唯一の日本人陶芸家として参加。またサンパウロ州文化局が実施した陶芸展・ワークショップ(11. 03. 26～27)にも参加

海外拠点

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
44	ラテンアメリカにおける日本研究アカデミックネットワーク確立・強化プロジェクト支援	ブラジル日本研究学会 (Associação Brasileira de Estudos Japoneses)	2010.04.01 ~ 2010.04.30	ブラジルの日本研究者に、メキシコ、アルゼンチン、チリ、コロンビアから4名の日本研究者を加え、それぞれの研究活動についての情報・意見交換の他、研究者同士のネットワーク構築を目指したプロジェクトに対し、サンパウロ日本文化センターは、参加者の旅費・滞在費の一部を支援
45	『日本の庭園』出版助成	K出版社(K Editora Comércio de papéis Ltda ME)	2010.04.01 ~ 2010.04.30	サルキス・カロウスチアン(KALOUSTIAN, Sarkis: ブラジル人建築家)が文部省留学生時代に研究した京都の庭園を建築家の視点で撮影した400枚にのぼる写真と解説文で紹介する日本庭園に関する書籍の出版経費を助成
46	日本研究図書出版助成	Annablume出版社(Annablume Editora)	2010.07.08 ~ 2011.03.31	身体芸術・記号学が専門のクリスチーネ・グライナー(GREINER, Christine: サンパウロ・カトリック大学東洋研究所所長)が編者となり、日本のイメージを形成する様々な文化的要素を、ブラジル国内の複数の日本研究者と日本の研究者がそれぞれの視点から分析した学術書『日本のイメージ』を刊行。サンパウロ日本文化センターは印刷経費の一部を助成
47	世界コスプレサミット2010 (World Cosplay Summit 2010)	JBC出版社(Editora JBC)	2010.07.17	毎年世界各国からコスプレヤーが集い愛知県で決勝大会が行われる世界コスプレサミットのブラジル大会への運営資金を一部助成。広報協力も行ったほか、サンパウロ日本文化センター所長が審査員として参加
48	サンパウロ大学客員教授による巡回講演	サンパウロ大学日本文化研究所 (Centro de Estudos Japoneses da Universidade de São Paulo)	2010.08.16 ~ 2010.08.30	国際交流基金が「日本研究機関支援〔米州〕」プログラムによりサンパウロ大学に客員教授として派遣した新美哲彦(ノートルダム清心女子学院大学准教授)をパラナ連邦大学、ブラジリア大学、リオデジャネイロ連邦大学に派遣し、「絵で受け継がれる源氏物語」をテーマに講演を実施。サンパウロ日本文化センターは、同氏の旅費及び講演通訳経費の一部を助成
49	フロリアノポリス日本文化週間	ニッポ・カタリネンセ協会 (Associação Nipo-Catarinense)	2010.08.25	サンタカタリーナ州フロリアノポリス市で行われた日本文化週間(10.8.20~10.8.28)において風呂敷デモンストラーション・ワークショップを実施するため、サンパウロ在住のソフィア・カマタニ(KAMATANI, Sofia: 風呂敷専門家)の派遣を支援
50	サンパウロ大学鈴木梯一図書館蔵書目録カタログ化助成	サンパウロ大学 (Universidade de São Paulo)	2010.11.01 ~ 2011.03.31	サンパウロ大学日本文化研究所にある鈴木貞一図書館所蔵の日本研究関連書籍(4万5千冊)を電子カタログ化し、サンパウロ大学中央図書館の検索システムに登録する作業を行うための人件費の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
51	サンパウロ大学国際セミナー「社会・グループ・個人による異文化間対話」	サンパウロ大学高等研究院 (Instituto de Estudos Avançados da Universidade de São Paulo)	2010. 11. 26	増大する国際移動・異文化間対話の中で構築される新たな生活世界・アイデンティティについて異なる専門分野の研究者が多角的に討論することを目的として、サンパウロ大学附属高等研究院が主催した国際セミナーの開催経費を一部助成。日本からは丹野准（首都大学東京教授）が参加
52	日系文芸賞(助成)	ブラジル日本文化福祉協会 (Sociedade Brasileira de Cultura Japonesa e de Assistência Social)	2010. 11. 27 ~ 2010. 12. 15	ブラジル日本文化福祉協会が主催する第40回日系文芸賞は、日系コロニアから日本語文学、ポルトガル語文学、マンガの各部門で作品を募り、優秀作品を決定する事業。サンパウロ日本文化センターは、運営経費の一部を助成
53	日本理解ドキュメンタリー作品「ブロードバンド・マンガ」英語版製作	Brasil Video Ltda	2010. 12. 27 ~ 2011. 03. 31	日本のアニメーション・コンテンツの世界への広がり、日本のアニメーション・コンテンツ産業の現状と課題を描いたドキュメンタリー作品 <i>MangáBandaLarga</i> (ブロードバンド・マンガ) (国際交流基金助成映像作品) の英語版製作に対して助成。同作品の英語版はYouTubeで無料公開されるとともに、ハイデルベルク大学(ドイツ)で行われたフルブライト・アカデミー映画祭に出品
54	「マワカ」結成15周年記念公演	Dô Cultural	2011. 01. 15 ~ 2011. 01. 16	民族音楽集団「マワカ」の結成15周年記念コンサートにおいて、北原民江（琴・三味線奏者）、和太鼓グループの木下節夫太鼓団との共演により、『ソーラン節』『安里屋ゆんた』『蛸こい』など和楽器との共演及び日本の楽曲を披露。サンパウロ日本文化センターは、公演謝金、プログラム印刷費の一部を助成
55	コスプレ・イン・リオ・ショー	リオデジャネイロ州立大学 (Universidade do Estado do Rio de Janeiro)	2011. 02. 20	ブラジル全国からコスプレイヤーを募って行われたコスプレコンテスト、「コスプレ・イン・リオ・ショー」に対し、サンパウロ日本文化センターは、サンパウロからの審査員3名の渡航費及び宿泊費に及び、広報費の一部を助成
56	ペルナンブコ連邦大学日本研究講演会	ブラジル日本研究学会 (Associação Brasileira de Estudos Japoneses)	2011. 03. 18	昨今の日本文化や日本語への関心の高まりを背景に、日本研究センターの設置構想が持たれているペルナンブコ連邦大学(レシフェ市)において、同大学の日本語学習者を対象に、「日本の言葉と日本の国際関係」をテーマに、ブラジル文学の日本人像、俳句や、主として石油産業における日伯経済関係に関する学術セミナーを実施。サンパウロ日本文化センターは研究者の旅費の一部を助成。日本研究関連の学術イベントが限られている、地方での日本研究促進に寄与
57	精進料理イベント	ブラジル日本文化福祉協会 和食普及委員会 (Comissão de Divulgação da Gastronomia Japonesa da Sociedade Brasileira de Cultura Japonesa e de Assistência Social)	2011. 03. 20 ~ 2011. 04. 03	棚橋俊夫(精進料理専門家)をブラジルに招き、ベレンにおいて精進料理のワークショップを実施するとともにトメアスにおいてアマゾン野菜と精進料理の交流をテーマに講演会を実施。サンパウロ日本文化センターは専門家の旅費や滞在費の一部を助成

海外拠点

【会場提供】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
58	日韓アーティスト合同展「トロピカルの魅惑」	日本韓国交流美術展実行委員会 (Comitê Executivo da Exposição de Encanto Tropical)	2010. 04. 16 ~ 2010. 05. 07	ブラジルに縁のある日系人、韓国人アーティスト12名の合同展。主催は同展実行委員会、環境・文化研究センター。会期中には現代詩の朗読、煎茶デモンストレーション、文化映画の上映も実施。サンパウロ日本文化センターは会場を提供して支援

【文化備品・視聴覚資料貸出】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
59	アニメDVD貸出	在サンタクルス出張駐在官事務所（ボリビア）	2010. 08. 25	ボリビア国サンタクルス市で開催された日本週間のためにサンタクルス出張駐在官事務所に対してサンパウロ日本文化センター所蔵のアニメDVD、手塚治虫原作『メトロポリス』『キャプテン翼』『ポケモン3』を貸与。日本週間イベントのひとつとしてアニメDVD上映会実施に協力

【その他】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
60	第8回ブラジル日本研究国際学会参加	ブラジリア大学 (Universidade de Brasília)	2010. 04. 01 ~ 2010. 04. 30	ブラジリア大学主催の第8回ブラジル日本研究国際学会及び大使公邸での同大学外務大臣表賞彰式に出席。学会ではサンパウロ日本文化センター作成の「日本研究オンライン」パンフレットも配布。今後の日本研究事業活性化に向けての関係者とのネットワーク構築・意見交換・情報収集
61	「善のすき焼き」プロジェクトへの協力	「善のすき焼き」プロジェクト 実行委員会 (Comissão Executiva do Projeto “Sukiyaki do Bem”)	2010. 06. 26	「善のすき焼き」は、事業発案者であるサンパウロ在住の本間之子(ほんま・ひでこ：陶芸家)らが制作した器に、当地有名シェフによるすき焼きが盛られ提供される、福祉団体への支援を目的としたチャリティ夕食会。同事業の実施に関し広報協力を行ったほか、参加者に対して日本文化への理解を深めてもらうため、和太鼓ショーを実施
62	紙芝居デモンストレーション	ペルス教育センター (Centro de Educação Unificada : CEU)	2010. 08. 27	サンパウロ日本文化センター日本語講師をサンパウロ市ペルス地区の貧しい子供たちへの教育を支援する教育センター (Centro de Educação Unificada : CEU) に派遣し、小学生に対して紙芝居を紹介。紙芝居『たべられたやまんば』をポルトガル語で上演
63	ラテンアメリカ・アジア・アフリカ研究学会 (ALADAA) 日本研究者との意見交換	ラテンアメリカ・アジア・アフリカ研究学会 (ALADAA)	2011. 03. 22 ~ 2011. 03. 25	ラテンアメリカの日本研究を幅広くカバーするラテンアメリカ・アジア・アフリカ研究学会 (Asociación Latinoamericana de Estudios de Asia y Africa : ALADAA) の研究総会にサンパウロ日本文化センター職員が出席し、関係者とのネットワーク構築・意見交換や今後の日本研究事業活性化に向けて情報収集を実施

海外拠点

ロンドン日本文化センター

合計額 135,476,126 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	文化備品セット運営	ロンドン	ウォリントン女子高校 (Wallington High School for Girls)		2010.05.01 ~ 2010.05.19	写真パネルセット『日本の世界遺産』を貸し出し、展覧会を実施

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
2	日本の現代戯曲リーディング/ 『Sisters』『ブラインドタッチ』 (<i>Japanese Play Readings: Double Bill: Sisters and Blind Touch</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター		2011.03.14 ~ 2011.03.25	近年、日本で発表された劇作のうち、これまで紹介されていない作品、また英国の観客から共通理解が得られる内容の作品2作を選び、それぞれ英国の演出家・俳優を起用して英語でドラマリーディングを実施。 長塚圭史作『Sisters』(11.03.15)、坂手洋二作『ブラインドタッチ』(11.03.25) 長塚、坂手両劇作家による簡単な解説トークならびに質疑応答のセッションを設けた。また、長塚圭史(劇作家/演出家)によるアーティスト・トーク(11.03.14)を関連事業として実施
3	廣田丈自和太鼓グループ イスラエル派遣 <在外日本文化専門家 第三国間派遣事業>	ハイファ (イスラエル)	ティコティン日本美術館	在イスラエル大使館	2010.05.26 ~ 2010.05.31	イスラエルのハイファにあるティコティン日本美術館の50周年グランド・オープニングにあわせて英国在住の廣田丈自太鼓グループによる太鼓公演を実施、英国から同グループ所属の3名の演奏者を派遣

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
4	現場で活躍する日本人キュレーターによる報告会 (<i>Curator Talk: Contemporary Art in Japan</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター	ブリティッシュ・カウンシル(British Council)	2010.05.11	ブリティッシュ・カウンシルと共催で、ブリティッシュ・カウンシルのキュレーター英国視察プログラムで訪英した日本の美術館学芸員やフリーランス・キュレーター8名による活動報告会を実施
5	東俊行によるアーティスト・トーク (<i>Artist Talk: Nihonga and the Recent Site-specific Works of Toshiyuki Higashi</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター		2010.05.26	東俊行(日本画家)によるアーティスト・トーク。日本画の技法を画像や自身の作品を見せながら説明するとともに、同氏が手がけた日本の寺院の天井画(天然木への描画)の制作方法などを紹介

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
6	「歌舞伎を聞く：黒御簾音楽の調べ」 (<i>Hearing Kabuki: Sound of Kuromisu Music</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター		2010. 06. 05	歌舞伎の黒御簾音楽の専門家で、サドラーズウェルズで行なわれた市川海老蔵歌舞伎公演に同行した三代目望月太左久を講演者に迎え、歌舞伎の音響効果として重要な役割を果たしながら、一般にはほとんど知られていない黒御簾音楽について、映像、解説、実際の楽器演奏を通して紹介を行った。デイビッド・ヒューズ (Dr. HUGHES, David: ロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS) 講師) の解説付
7	1910年日英博覧会：100年後の回顧 (<i>The Japan-British Exhibition of 1910: A Historical Re-Assessment 100 Years On</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター		2010. 06. 16	イアン・ニッシュ (Prof. NISH, Ian: ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス名誉教授) による日英博覧会に関する概説、宮武公夫 (北海道大学教授) によるアイヌ人の「展示」に関するプレゼンテーション及びメリ・アリチ (Dr. ARICHI, Meri: ロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS) シニア・ティーチング・フェロー) による日本美術に関するプレゼンテーションを実施。引き続き、ジャネット・ハンター (Prof. HUNTER, Janet: ロンドンスクールオブエコノミクス教授) と渡辺俊夫 (ロンドン芸術大学教授) を交えたディスカッションを行った。チェアー・パーソンはアヤコ・堀田-リスター (Dr. HOTTA-LISTER, Ayako)
8	ドナルドキーン講演会「カーメンブラッカーと日本」 (<i>Carmen Blacker and Japan by Professor Donald Keene</i>)	ロンドン	大英博物館 セイNZベリー日本芸術研究所 シアター	セイNZベリー日本芸術研究所 ジャパン・ソサエティ 大英博物館 全日本空輸株式会社 (ANA)	2010. 06. 22	ドナルド・キーン (コロンビア大学名誉教授) を招き、2009年7月13日に逝去したケンブリッジ大学東洋学部教授で日本研究者・民俗学者の故カーメン・ブラッカーと日本のかかわりに関する講演会を開催。セイNZベリー日本芸術研究所、ジャパン・ソサエティ、大英博物館及び全日本空輸株式会社 (ANA) と共催により実施。あわせて、ドナルド・キーン教授と在英日本研究者及び日英交流団体支援機関関係者との意見交換の場を設ける
9	劇場を越えた日本の演劇活動の状況を巡る報告会 (<i>New Stages: Approaches to Performing Arts Projects Beyond the Theatre: Recent Examples from Japan</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター	ブリティッシュ・カウンシル (British Council)	2010. 07. 12	従来の劇場空間を使わない演劇活動につき、日本から現場の責任者より事例を交えて紹介してもらいセミナーを実施。プレゼンターとして参加したのは、丸岡ひろみ (国際舞台芸術交流センター: PARC)、山浦日紗子 (高知県立美術館)、加藤弓奈 (急な坂スタジオ) の3名。司会は、ブレンダン・グリッグス (GRIGGS, Brendan: ブリティッシュ・カウンシル舞台芸術部長)
10	前川知大による劇作家トーク (<i>A Sense of Wonder: Playwright Tomohiro Maekawa in Conversation</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター		2010. 08. 03	ロンドンのロイヤルコートシアター (Royal Court Theatre) が主宰する若手劇作家の国際ワークショップ (International Playwriting Residencies) に参加した前川知大 (劇作家/劇団イキウメ主宰者) を招へいし、前川の作品紹介を動画上映と同シアターのスタッフとの対話を通して行うと同時に、日本の若手作家の活動状況や日本の現代演劇事情を紹介

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
11	セミナー「演劇や劇場は子供たちに居場所を提供できるのか？」 (How Can Drama & Theatre Offer a Place for Children and Young People?)	ロンドン	ロンドン日本文化センター	アクション・フォー・チルドレンズアート (An Action for Children's Arts (ACA)) シアター・フォー・オーディエンス (Theatre for Young Audiences (UK Centre for ASSITEJ))	2010. 09. 08	「児童・青少年演劇を通しての子供たちの居場所作り」をテーマに、日本より、小林由利子（東京都市大学教授）、下山久（キジムナーフェスタ・ディレクター）、高尾隆（東京学芸大学准教授）を招へいし、英国の児童・青少年演劇専門家を対象としたミニシンポジウムを実施。また会場を替えて、関連ワークショップ（09.09）を開催
12	精進料理についての講演会 (Shojin Ryori - Cuisine of the Spirit)	ロンドン	ロンドン日本文化センター	カルチャー・プロジェクト (Cultural Project)	2010. 09. 16	棚橋俊夫（精進料理家）が、精進料理の定義や歴史、現代における精進料理の必要性などを画像を用いて説明。また精進料理の基本といえる胡麻擦りの実演や実際に使われる野菜の種類などの紹介も行い、講演後には、同氏が調理した精進料理3品の試食会も開催
13	川内倫子アーティスト・トーク (Artist Talk: Awe in the Everyday- Rinko Kawauchi in Conversation)	ロンドン	ロンドン日本文化センター	フォトワークス (Photoworks)	2010. 10. 04	若者を中心に国内外で多数の支持者を得ている川内倫子（写真家）を招へいし、作品紹介を兼ねたアーティスト・トークをセシル・デイビス（DAVIES, Cecil：フォトワークス）との対談形式で実施
14	折元立身アーティスト・トーク (Artist Talk: Bread Man Walking- Tatsumi Orimoto in Conversation)	ロンドン	ロンドン日本文化センター	Aファウンデーション (A Foundation)	2010. 10. 15	パフォーマンス・アーティストとして日本の国内外で活躍する折元立身（美術作家）を招へいし、折元の業績や作品に対する思想を紹介するアーティスト・トークを対談形式にて実施。対談相手は、マーク・ウォーフ（WARF, Mark：A Foundationディレクター）。また折元がミニパフォーマンスも実演
15	ジェームズ・カーカップ：日本での生活がいかに世界的名声を博す詩人・作家である同氏の人生や仕事に影響を与えたか (James Kirkup in Japan: How living in Japan influenced the life and works of the internationally renowned poet and writer, James Kirkup)	ロンドン	ロンドン日本文化センター		2010. 10. 26	ジェームズ・カーカップコレクションのアーキビスト・キュレーターであり、カーカップの長年の友人であるドロシー・フリート（FLEET, Dorothy）及び彼の生まれ故郷にあるサウスシールズ図書館のアン・シャープ（SHARP, Ann）、サウスシールズ博物館のアダム・ベル（BELL, Adam）が、映像や詩を織り交ぜてカーカップの生涯を紹介
16	風呂敷講習会 (Furoshiki - The Japanese Way of Wrapping)	ロンドン	ロンドン日本文化センター	日本協会（ロンドン）	2010. 11. 02	風呂敷の包み方についての実践的なワークショップ。講師は小山祥明。大きさも模様もさまざまな風呂敷を複数枚使用し、ワインの包み方からリサイクルできる買い物袋まで、風呂敷の多様性につき解説を加えながらワークショップを実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
17	「古代日本の音と色」 (<i>The Sounds and Colours of Ancient Japan</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター	インディゴローズ (Indigo Rose)	2010. 11. 15	平城京遷都1300年を記念し、村上太胤(薬師寺執事長)による声明の実演、ならびに吉岡幸雄(染色家)による奈良時代の染色についての講演会を実施
18	大石暁規トーク (<i>Small Pictures Big Imagination: Akinori Oishi Talk</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター	アバタイ・ダンディー大学 (Institute of Arts, University of Abertay, Dundee)	2010. 11. 17	今年度のシリーズ(アーティスト・トーク)の一環として、デジタルメディアからグラフィックアートまで幅広く手がける大石暁規(アーティスト)を招へいし、自身の作風や作品制作に対する姿勢などを画像・動画などを使って解説してもらう講演会を実施。講演後に、キース・ウィットル(WHITTLE, Keith: セントラル・セイントマーティン大学研究員)とのミニ対談も実施
19	日本陶芸についての学習会 (<i>Japanese Pottery : Study Day</i>)	アビリスウィス	アビリスウィス・アーツセンター (Aberystwyth Arts Centre)	アビリスウィス大学 (Aberystwyth University)	2010. 11. 25	国際交流基金主催巡回展『現代日本の陶磁器』展の関連事業として、大学の学生や専門家を対象とした日本の陶芸に関する1日学習会(特別講演会)を実施。講演者は、ニコル・ルマニエール(ROUSEMANIERE, Nicole: 日本の陶芸専門家)や日本滞在の経験があるジェニファー・リー(LEE, Jennifer: 陶芸家)など
20	国際交流基金フェロー・レクチャー・シリーズ第1回: 現代日本の住居における物質的文化について (<i>Japan Foundation Fellows Lecture Series I The Japanese House: Material Culture in the Modern Home Book Launch Dr. DANIELS, Inge</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター	はせがわ酒店 (Hasegawa Saketen)	2010. 12. 01	国際交流基金フェロー・レクチャー・シリーズの第1回目。インゲ・ダニエルズ(Dr. DANIELS, Inge: オックスフォード大学社会文化人類学研究所講師)が講師となり、「日本の住居」についての研究成果を発表。今回は特に <i>The Japanese House</i> (Berg Publishers)の出版にあわせた出版記念講演会として開催
21	国際交流基金フェロー・レクチャー・シリーズ第2回: なぜ春画を学ぶのか。日本のエロティックアートの隠れた重要性について (<i>Japan Foundation Fellows Lecture Series II Why Study Shunga? - The Hidden Importance of Japanese Erotic Art</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター		2011. 01. 25	国際交流基金フェロー・レクチャー・シリーズの第2回目。アンドリュー・ガーストル(GERSTLE, Andrew: ロンドン大学東洋アフリカ学院(SOAS)教授)が講師となり、「春画」についての研究成果を発表。ディスカッサントは、ティモシー・クラーク(CLARK, Timothy: 大英博物館日本セクション長)
22	日本映画を復興させた監督特集映画上映会プレトーク (<i>Back to the Future: Japanese Cinema Since the Mid-90s: Preview Talk by Jasper Sharp</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター		2011. 01. 27	国際交流基金主催映画上映会に先立ち、映画祭のアドバイザーを務める英国の日本映画専門家ジャスパー・シャープ(SHARP, Jasper)を招いて、同映画上映会のラインナップやテーマを紹介する講演会を実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
23	日本のファッションについての講演 (<i>Japan/ Fashion - A Talk by Akiko Fukai</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター		2011. 03. 08	英国バービカンギャラリーで2011年2月まで開催されていた日本の現代ファッション展のキュレーター、深井晃子（京都服飾文化研究財団理事）を招へいし、日本の現代ファッションについて、根底をなす美意識や文化的土壌を含めた概説的な講演を行った。アリソン・モロニー（MOLONEY, Alison : プリティッシュ・カウンシルのファッションアドバイザー）との対談ならびに参加者を交えての質疑応答を実施
24	国際交流基金フェロー・レクチャー・シリーズ第3回：「ミセスワタナベ」再考 (<i>Japan Foundation Fellows Lecture Series III - Rethinking Mrs Watanabe: changes and constraints in the relationship between Japanese women and accounting / finance under the influence of globalisation by Dr. Naoko Komori</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター		2011. 03. 11	国際交流基金フェロー・レクチャー・シリーズの第3回目。ナオコ・コモリ（シェフィールド大学）が講師となり、日本の家庭及び監査法人における女性の役割に関し、歴史的な変化について研究成果を発表。ディスカッサントは、ジョゼフィーヌ・モルトビー（MALTBY, Josephine : ヨーク大学教授）

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
25	図書館運営	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	日本語教育関係資料を中心に収集する図書館を運営 ①所蔵資料合計： 約8,500点（視聴覚資料数を含む） ②利用者数（年間）： 約1,437名 ③貸出点数（年間）： 約1,439点 ④レファレンス件数（年間）： 787件

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
26	ウェブサイト運営	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	ロンドン日本文化センターの各種事業案内、公募事業案内、活動紹介等を行うウェブサイトを運営。使用言語は英語 URL : http://www.jpof.org.uk/ アクセス件数(年間) : 188,695件 メールマガジン配信数(年間) : 45,457件
27	日本映画紹介ウェブサイトの立ち上げ	2010. 12. 01 ~ 2011. 01. 15	毎年実施している国際交流基金英国主催巡回上映会の広報を第一目的として、同事業専用のウェブサイトを立ち上げた。サイトには、英国における日本映画上映情報を随時告知できるページも含まれている。制作費にはグレートブリテン・ササカワ・ファウンデーションからの助成金も充当 URL: http://www.jpof-film.org.uk/

海外拠点

【その他】

	事業名	期間	事業内容
28	英国日本研究調査 2010	2010. 05. 01 ~ 2011. 03. 31	前回調査(2007年)から3年が経過し、学習者数(学部・大学院生)等機関への調査のアップデートを行い、日本語・日本研究学科生へのアンケート調査を試行的に実施。20を超える研究機関から回答を得、学生へのアンケートは260名以上の回答を得た。調査結果はウェブサイトにて公開

【本部事業受入】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
29	日本の現代演劇に関する講演会 (<i>Explosion of Energy : Japanese Contemporary Theatre from the 1980s to the Present and the Future</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター		2010. 05. 25	扇田昭彦(演劇評論家)による、日本の現代演劇を考察する講演会。動画などを用いて、1980年代から現代にいたるまでの日本の現代演劇を紹介。参加者数88名
30	日本ゼロ年以降の新しい舞台芸術の傾向についての講演会(<i>Beyond Boundaries: Japanese Performing Arts for a New Generation</i>)	ロンドン	ロンドン日本文化センター		2011. 02. 01	佐々木敦(批評家)による、日本ゼロ年(2000年)以降の新しいパフォーマンスシーンを紹介する講演会を実施。参加者数62名

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
31	日研・知的事業助成: <i>Biographical Portraits, Volume VII</i>	グローバル・オリエンタル	2009. 10. 01 ~ 2010. 08. 31	日英交流に関係のあった人物に焦点をあてて紹介する、同シリーズの第7巻 <i>Britain and Japan: Biographical Portraits, Volume VII (Global Oriental)</i> の出版。同事業の実施に関し、ロンドン日本文化センターは、出版経費の一部を助成
32	伊豆蔵明彦展ならびにワークショップ(<i>Akihiko Izukura-Life in Colours</i>)	ノッティンガム・トレント大学 (Nottingham Trent University)	2010. 04. 22 ~ 2010. 05. 14	テキスタイル学科で有名なノッティンガム・トレント大学にて伊豆蔵明彦(染色家/テキスタイル作家)の展覧会と自然染色に関する講義とワークショップを実施。ロンドン日本文化センターは、広報費の一部を助成
33	公演『カッティング・ザ・コード』(<i>Cutting the Code</i>)	フライング・アイ・パフォーマンスカンパニー (Flying Eye Performance Company)	2010. 04. 26 ~ 2011. 02. 26	英国で活躍する木村さち(舞台芸術アーティスト)が、自身の異文化体験を元に書き上げた戯曲を使い、木村さち本人の主演にて公演を行った。ロンドン日本文化センターは、リハーサル会場の会場費及び広報費の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
34	エジンバラにおける落語公演 (<i>Rakugo in Edinburgh</i>)	スコットランド日本協会	2010. 05. 18 ~ 2010. 05. 20	エジンバラ大学及びスコッティッシュ・ストーリーテリング・センターにて、桂米團治（落語家）の英語落語公演をそれぞれ1回ずつ実施。一般市民、大学関係者ならびに文化人など合計330名が参加。ロンドン日本文化センターは、同氏の航空運賃の一部を助成
35	日本研究者旅費支援プログラム： Dr. Roger Levermore		2010. 05. 29 ~ 2010. 06. 05	対象者：ロジャー・レヴァルモア（Dr. LEVERMORE, Roger） 所属機関：リバプール大学マネジメント・スクール講師 研究テーマ：Responsible business by Japanese multi-nationals operating in South Africa: A case study of foru saka-based corporations ロンドン日本文化センターは、調査研究のための訪日旅費の一部を助成
36	日研・知的事業助成： <i>East Asian Capitalism</i>	ノッティンガム大学	2010. 06. 03 ~ 2010. 06. 04	ノッティンガム大学及びロンドン・スクール・オブ・エコノミクスの主催する、2日間に及ぶ「東アジアにおける資本主義」に関する知的交流会議。英国、日本をはじめ、シンガポール等を含めた複数の国から23名の専門家が参加。同事業の実施に関し、ロンドン日本文化センターは、参加者の旅費の一部を助成
37	グループ展 <i>Persistence Vision</i>	ファクト（FACT）	2010. 06. 18 ~ 2010. 08. 10	デジタルメディアを専門とするリバプールのアーツセンター、ファクトにてグループ展を実施し、日本から渡辺水季（現代美術作家）が招へいされ作品を発表。動員数は約14,000人。ロンドン日本文化センターは、招へい作家の旅費ならびに謝金の一部を助成
38	『奈良時代における仏教の色』 (<i>The Colour in Buddhism in the Nara period</i>)	インディゴ・ローズ	2010. 07. 14 ~ 2010. 11. 19	平城京遷都1300年を記念し、村上太胤（薬師寺執事長）による声明の実演、並びに吉岡幸雄（染色家）による奈良時代の染色についての講演会やワークショップを、大英博物館及びイーストアングリア大学で実施。ロンドン日本文化センターは、招へい専門家の宿泊費の一部を助成
39	『岡本敦生』展 (<i>Faraway Mountain: Atsuo Okamoto</i>)	コーン・エクスチェンジ・ギャラリー (Corn Exchange Gallery)	2010. 07. 30 ~ 2010. 09. 30	エジンバラ・フェスティバルにあわせ、エジンバラのコーン・エクスチェンジ・ギャラリーにて、岡本敦生（彫刻家）の個展を開催。ロンドン日本文化センターは、作品輸送費の一部を助成
40	出田郷 アーティスト・レジデンシーと展覧会	ワークワース・ファーム (Wirkworth Farm)	2010. 08. 15 ~ 2010. 09. 26	ダービー地方の芸術フェスティバル「ワークワース・フェスティバル」に出田郷（美術作家）が招へいされ、レジデンシーと小規模ながら2週間の作品発表を行い、約6,500名を動員。ロンドン日本文化センターは、出田郷の宿泊費の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
41	日研・知的事業助成： <i>Japanese Media Studies</i>	セインズベリー日本藝術研究所 (Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures)	2010.09.16 ～ 2010.09.19	セインズベリー日本藝術研究所がNHK放送文化研究所及びドイツイ日本研究所の協力を得て開催するワークショップ。英・独・日から15名の研究者が参加し、日本のメディア文化について、視聴者の高齢化、ラジオ・テレビの視聴率、アニメやテレビシリーズの言語分析などの様々な分野で国際的な比較を行う研究発表を行った。同事業の実施に関し、ロンドン日本文化センターは、参加者の旅費の一部を助成
42	<i>TAPS: Improvisation with Paul Burwell</i>	マッツ・ギャラリー (Matts Gallery)	2010.09.17 ～ 2010.09.19	英国のミュージシャン、ポール・バーウェル(BURWELL, Paul)の多彩な活動を振り返る3日間のイベントに、日本から福原隆造(舞踏家)が参加し、バーウェルの映像にあわせた即興パフォーマンスを行った。ロンドン日本文化センターは、福原隆造の旅費ならびに謝金の一部を助成
43	リバプール・ビエンナーレ企画展 阿部幸子展 (<i>Participation of Sachiko Abe in Liverpool Biennial 2010</i>)	リバプール・ビエンナーレ (Liverpool Biennial)	2010.09.18 ～ 2010.11.28	リバプールで開催される大型国際展リバプール・ビエンナーレの企画展のひとつに、阿部幸子が招へいされ、作品展示の他、ライブパフォーマンスも行い、会期中に14,000名を動員。ロンドン日本文化センターは、作品輸送費と図録制作費の一部を助成
44	喜多川歌麿展(<i>Kitagawa Utamaro</i>)	アイコン・ギャラリー (Ikon Gallery)	2010.09.22 ～ 2010.11.14	大英博物館所蔵の喜多川歌麿作の浮世絵を、現代美術を専門とするアイコン・ギャラリーにて展示し、14,956名の観客を集めた。ロンドン日本文化センターは、展覧会図録制作費の一部を助成
45	日本研究者旅費支援プログラム：Nao Fujita		2010.10.04 ～ 2010.12.22	対象者：ナオ・フジタ (FUJITA, Nao) 所属機関：ケンブリッジ大学開発心理学博士課程 研究テーマ： <i>Cross-cultural research on children's social and cognitive development in Japan and the UK</i> ロンドン日本文化センターは、調査研究のための訪日旅費の一部を助成
46	スーパーソニック・フェスティバル(<i>Supersonic Festival</i>)	カプセルUK	2010.10.22 ～ 2010.10.24	バーミンガムで毎年実施される音楽祭に、日本からケーケー・ヌル (KK Null：演奏者) が招へいされ、公演を実施。ロンドン日本文化センターは、ケーケー・ヌルの旅費の一部を助成
47	日本研究者旅費支援プログラム： Dr. Ornella Corazza		2010.10.25 ～ 2010.10.30	対象者：オーネッラ・コラッツァ (Dr. CORAZZA, Ornella) 所属機関：ロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS) 研究員 研究テーマ： <i>Can Japanese philosophy of mind and body contribute to the scientific study of consciousness? Research plan and documentary work</i> ロンドン日本文化センターは、調査研究のための訪日旅費の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
48	日研・知的事業助成： <i>Cultural Typhoons: Cultural and Information Studies in Japan</i>	グラスゴー大学	2010. 10. 28 ～ 2010. 10. 30	グラスゴー大学が主催するカルチュラル・スタディーズに関する東京大学との知的交流会議。吉見俊哉（東京大学教授）の発表は、 <i>Mapping Urban Visualities in Postwar Japan: Socio-spatial Formation of Movie Theatre and Street TV in Tokyo: 1945-65</i> 。同事業の実施に関し、ロンドン日本文化センターは、参加者の旅費の一部を助成
49	日本研究者旅費支援プログラム：Thomas Eaton		2010. 10. 29 ～ 2010. 12. 23	対象者：トーマス・イートン（EATON, Thomas） 所属機関：フリーランス 研究テーマ： <i>The Imaginary War Theatre of Shuji Terayama</i> ロンドン日本文化センターは、調査研究のための訪日旅費の一部を助成
50	風呂敷ワークショップ (<i>From 2D- to 3D-Arts of Japanese Wrapping Cloth, Furoshiki</i>)	英国日本協会 (The Japan Society)	2010. 11. 01 ～ 2010. 11. 05	ロンドン周辺の小学校（6カ所）やロンドンのバービカンセンターなどで風呂敷の多様性を示す包み方の講習会を実施。ロンドン日本文化センターは、専門家、小山祥明（宮井株式会社企画開発室）の渡航費の一部を助成
51	『浦島太郎』 (<i>Urashima Taro</i>)	ローグ28シアター (Rogue 28 Theatre)	2010. 11. 01 ～ 2010. 12. 01	英国の劇団が『浦島太郎』を原案としたパペット・シアターを制作。地方数カ所を巡業し、公演とパペットワークショップを行った。ロンドン日本文化センターは、パペット制作費の一部を助成
52	大石暁規展	アバタイ・ダンディー大学 (Institute of Arts, University of Abertay, Dundee)	2010. 11. 11 ～ 2011. 01. 28	スコットランドの地方都市ダンディーに所在するアバタイ・ダンディー大学にて開催されるデジタル芸術フェスティバル、「NEoN10」で大石暁規（アーティスト）の個展を開催。大石が招へいされてシンポジウムに参加。ロンドン日本文化センターは、大石暁規の渡航費の一部を助成
53	日本研究者旅費支援プログラム： Dr. Columba Peoples		2010. 12. 03 ～ 2010. 12. 17	対象者：コランバ・ピープルズ（Dr. PEOPLES, Columba） 所属機関：ブリストル大学社会・政治・国際学研究科講師 研究テーマ： <i>Space for Peaceful Purposes? Japan's Space Policy in a Global Context</i> ロンドン日本文化センターは、調査研究のための訪日旅費の一部を助成
54	「鈴木友昌展」 (<i>Tomoaki Suzuki</i>)	タウンナー (Towner)	2010. 12. 11 ～ 2011. 02. 27	英国南部の地方都市イーストボーンの公立美術館タウンナーにて、英国在住の鈴木友昌（現代作家）の個展を開催し、会期中に約13,000名を動員。ロンドン日本文化センターは、作品の輸送費の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
55	日本研究者旅費支援プログラム： Dr. Christopher Howard		2011. 01. 14 ～ 2011. 01. 29	対象者：クリストファー・ハワード (Dr. HOWARD, Christopher) 所属機関：ロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS) ティーチング・フェロー 研究テーマ：Japanese and Chinese (PRC) cinematic connections in the post-Occupation period ロンドン日本文化センターは、調査研究のための訪日旅費の一部を助成
56	日研・知的事業助成：Documenting Religion: A festival of Films about Shugendo, in memory of Dr. Carmen Blacker	ロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS)	2011. 03. 24 ～ 2011. 03. 25	ロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS) が主催する修験道に関する、2日間にわたるドキュメンタリーフィルムの上映会及び知的交流会議。北村皆雄の作品ほか、計3作品を上映。延べ120名程度が参加。同事業の実施に関し、ロンドン日本文化センターは、参加者の旅費の一部を助成

【後援事業】

	事業名	主催機関	期間	事業内容
57	Okinawa Day 2010	ロンドン沖縄三線会・英国沖縄県人会	2010. 06. 26	沖縄音楽の演奏、エイサー演舞等、多面的に沖縄を紹介するイベントに対してロンドン日本文化センターは、後援名義を付与して支援
58	Taste the East	パーフェクトエンプロイメント	2010. 07. 09 ～ 2010. 07. 10	日本を中心とした東アジア諸国の食文化及びゲイの文化の紹介を行うイベントに対してロンドン日本文化センターは、後援名義を付与して支援
59	Hyper Japan	クロスメディア	2010. 10. 01 ～ 2010. 10. 03	日本のポップカルチャー及び日本食を紹介するイベントに対してロンドン日本文化センターは、後援名義を付与して支援
60	日英セミナー兼第3回日英ローカルリンク会議	財団法人自治体国際化協会ロンドン事務所	2011. 03. 04	地方自治体をはじめとする英国及び日経各機関担当者を招へいし、日英間の都市間交流の今後のあり方を探る財団法人自治体国際化協会が主催するセミナーに対してロンドン日本文化センターは、後援名義を付与して支援

【会場提供】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
61	Meet the Kuramoto (Sake brewers) for sake tasting in London	はせがわ酒店 (Hasegawa Saketen)	2010. 09. 15	日本酒の紹介及びテイastingをするイベントに対してロンドン日本文化センターの会場を提供。日本酒の蔵元30社以上が参加

海外拠点

マドリード日本文化センター

合計額 38,156,814 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	切り絵展示会	マドリード	バルベルデ・ギャラリー (Espacio Valverde)	バルベルデ・ギャラリー (Espacio Valverde)	2010.11.24 ~ 2010.12.10	マドリード市内のバルベルデ・ギャラリーと共催して、久保修（切り絵作家）の作品20点を紹介する展示会を実施。日本の風景を題材にした作品だけでなく、約25年前にスペイン滞在中に制作した作品も展示

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
2	AGA-SHIO 公演	マドリード	ライブハウス サラ・クラモレス (Sala Clamores)	マドリード日本人会 (Asociación de la Comunidad Japonesa de Madrid)	2010.06.13	マドリード市内のライブハウス（ジャズ・バー）サラ・クラモレス（Sala Clamores）において、三味線とピアノという文化背景の異なる楽器が生み出す新たな音楽を披露するコンサートを実施。スペイン人、日本人約100名が鑑賞

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
3	レナード衛藤Blendrumsスペイン公演	マドリード	白夜祭特設ステージ、オスカー・ルーム・メイトホテル	カサ・アジア (Casa Asia)	2010. 09. 09 ~ 2010. 09. 27	レナード衛藤（和太鼓奏者）が、様々なジャンルのミュージシャン、ダンサーとコラボレーションを行うプロジェクトであるBlendrumsを招へいして巡回公演を実施。今回の構成は、和太鼓、タップダンス(Suji)、サックス(Yukarie)で、スペイン国内7都市にてコンサート8回、ワークショップ1回を実施。 マドリード市が実施する大型文化事業「白夜祭」において、カサ・アジアと共同で設置した特設ステージでアジア音楽紹介イベントのメインプレイヤーを務め、更にカサ・アジアが毎年バルセロナで開催する「フェスティバル・アジア」にも出演。これら2フェスティバルだけで4,000名を動員したほか、各巡回地においても多くの観客から熱狂的に迎えられた
		バルセロナ	フェスティバルアジア特設ステージ			
		アルコベンダス	アルコベンダス市劇場	アルコベンダス市 (Ayuntamiento de Alcobendas)		
		バレンシア	バレンシア大学	バレンシア大学 (Universidad de Valencia)		
		バジャドリード	バジャドリード大学	バジャドリード大学 (Universidad Valladolid)		
		サラマンカ	サラマンカ大学	サラマンカ大学日西センター (Centro Cultural Hispano Japonés, Universidad de Salamanca)		
		サラゴサ	サラゴサCAI財団	サラゴサCAI財団 (Fundación CAI Zaragoza)		

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
4	「炎太鼓」スペイン公演	マドリード ムルシア ムルシア	マドリード 芸術サークル (Círculo de Bellas Artes) Novotelホテル 会場 ムルシア大学 講堂	マドリード芸 術サークル (Círculo de Bellas Artes) ムルシア・サロ ン・デ・マンガ 協会 (Salón de Manga de Murcia) デルクス中世 フェスティバ ル (Festival Medieval D'elx)	2010. 10. 19 ~ 2010. 10. 27	女性のみで構成される和太鼓グループ「炎太鼓」が「エル チェ中世フェスティバル」のメイン招待アーティストとして 招へいされた機会を捉え、フェスティバル終了後にマドリー ド日本文化センター主催の公演を各地で行った。まずスペ イン南部ムルシア市で開催される「サロン・デ・マンガ」の記者 会見の場で演奏を行い、公演の広報を行うと共に、プレス の「サロン」への関心惹起に貢献。続いてイベントとして ムルシア大学講堂でも公演。その後マドリード芸術サークル で3年ぶりの公演を2日連続で実施。観客から熱狂的に迎えら れた。世界各国の優れた音楽を受け入れている芸術サークル 関係者からも「これまで実施した中で最も素晴らしいもの のひとつ」との絶賛を受けた。マドリードでは、現地の和太鼓 グループへの指導ワークショップも実施
5	三楽亭竜楽スペイン語落語口演会	マドリード	マドリード日 本文化セン ター大教室	マドリード日 本人会 (Asociación de la Comunidad Japonesa de Madrid)	2010. 11. 02	マドリード日本文化センターでスペイン人向けのスペイン語 による落語口演を実施。初めに落語の歴史、特徴、小物の使 い方等のレクチャーを行った後、実演。マドリード日本人会 の協力により、寄席の雰囲気味わえるよう教室内に高座を 設置。落語口演は基本的に日本語で、要所要所にスペイン語 を入れる形で行われたが、演者の熱演によって随所に笑いが 起こり、言葉が完全にはわからなくても落語の魅力が十分に 伝わっていることが判った
6	マドリード観光見本市における からくり人形実演	バルセロナ ビルバオ マドリード マドリード	カサ・アジア ビルバオパン ツェルキ人形 劇保存セン ター	カサ・アジア (Casa Asia) ビルバオパン ツェルキ人形 劇保存セン ター (Centro de las Artes de los Titeres de Bilbao, Pantze rki)	2011. 01. 18 ~ 2011. 01. 25	マドリードにおいて毎年1月に開催される国際観光見本市 (FITUR)において、半屋春光 (からくり人形師/スタジオ ぎえもん主宰) を招へいし、茶運び人形、段返り人形、品玉 人形などのからくり人形実演を実施。オープニング初日には ソフィア王妃の公式訪問があり、王妃の前で実演。各巡回地 で、からくり人形の歴史や構造について詳細に解説する講演 会を行い好評を博した。 からくり人形そのものに対する関心も大きかったが、むしろ それ以上に、からくり人形がもともと南蛮渡来の機械類に端 を発しており、スペインやポルトガルと深い縁があるという 専門家の説明に、非常に好意的な反応があった

海外拠点

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
7	日本研究講演会（6月）	マドリード	カサ・アジア マドリード (Casa Asia Madrid)	カサ・アジア マドリード (Casa Asia Madrid) スペイン日本 研究者協会 (Grupo de investigación japón y españa: relaciones a través del arte)	2010.06.24 ~ 2010.07.01	季節ごとにメインテーマひとつといくつかのサブテーマを決め、各サブテーマごとに数名の研究者が各自のテーマに基づく講演を実施。講師の中に少なくとも1名は若手研究者を入れ、若手の育成の場を提供。エレナ・バルレス(Elena Barlés : サラゴサ大学美術史学科教授)、ダビッド・アルマサン(Davia Almazan Almazán : サラゴサ大学美術史学科教授)の2名の講師が、それぞれ「日本におけるイベリアの世紀」、「現代スペインの文化と芸術における日本の魅力」と題する講演を実施
8	日本研究講演会（秋）	マドリード	カサ・アジア マドリード (Casa Asia Madrid) マドリード 日本文化センター マドリード 芸術サークル (Círculo de Bellas Artes)	カサ・アジア マドリード (Casa Asia Madrid) スペイン日本 研究者協会 (Grupo de investigación japón y españa: relaciones a través del arte)	2010.11.16 ~ 2010.12.02	季節ごとにメインテーマひとつとサブテーマを3つ決め、各サブテーマごとに3名ずつの研究者が各自のテーマに基づく講演を実施。秋は「日本古典文化の誕生」をメインテーマに、3名の日本研究者がそれぞれ平安時代を中心に、建築、女流文学、思想をサブテーマに講演。また秋の特別セッションとして三島由紀夫没後40周年を記念したラウンドテーブルを開催 ①「日本古典文化の誕生」：フェルナンド・ガルシア・グティエレス (Fernando García Gutiérrez : 元セビーリヤ大学教授) ②「平安時代の文学におけるジェンダー」：高木香世子 (マドリード自治大学助教授) ③「日本古典文化の美意識」：フェデリコ・ランサコ (Federico Lanzaco : 元マドリード自治大学教授) 特別セッション：三島由紀夫ラウンドテーブル：カルロス・ルビオ (コンプルテンセ大学教授) (モデレーター)

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
9	日本研究講演会（冬）	マドリード	マドリード 日本文化センター	カサ・アジア マドリード (Casa Asia Madrid) スペイン日本 研究者協会 (Grupo de investigación japón y español a través del arte)	2011.02.16 ~ 2011.03.31	通常、季節ごとにメインテーマひとつとサブテーマを3つ決め、各サブテーマごとに3名ずつの研究者が各自のテーマに基づいて講演を実施。今期（冬）については、特に「侍の時代」（鎌倉・室町から戦国時代）、「江戸時代の都市・大衆文化」とメインテーマを2つ定め、それぞれ3名の日本研究者が講演会を実施。また、スペインにおける日本研究の草分けである「7人の侍」（日本研究パイオニア世代の通称）を招き、その筆頭格であるランサコ教授の功績を中心にスペインの日本研究の軌跡をたどる日本研究ラウンドテーブルをカサ・アジアとの共催で実施 【メインテーマ1】「侍の時代」 ①「平家物語」：カルロス・ルビオ（Carlos Rubio：コンプルテンセ大学教授） ②「禅と日本の文化・芸術」：ハビエル・ビジャルバ（Javier Villarba：サラマンカ大学講師） ③「武者絵」：ピラルル・カバーニャス（Pilar Cabañas：コンプルテンセ大学教授） 【日本研究ラウンド・テーブル】 ーフェデリコ・ランサコの功績を中心にー 【メインテーマ2】「江戸時代の都市・大衆文化」 ①「浮世絵」：エレナ・バルレス（Elene Barlés：サラゴサ大学教授） ②「歌舞伎と文楽」フェルナンド・シッド（Fernando Cid：バジャドリード大学講師） ③「義太夫節」アナマリア・アラルコン（Ana Maria Alarcon：サラゴサ大学博士課程）
10	にぎり寿司レクチャー・デモンストラーション	バルセロナ バルセロナ マドリード マドリード マドリード リスボン（ポルトガル）	フェスティバル・アジア やしま キッチンクラブ マドリード 日本文化センター	カサ・アジア (Casa Asia) 在スペイン大使館 在ポルトガル大使館	2010.09.21 ~ 2010.10.01	風戸正義（さかえ寿司店主／全国すし商生活衛生同業組合連合会渉外副委員長）、高橋秀彰（都寿司）を招へいし、にぎり寿司がもっている「生ものをおいしく安全に食するために発達してきた文化」としての側面を紹介するセミナー及び試食会を実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
11	駒形克己ワークショップ・講演会	バルセロナ ビルバオ マドリード	Tantagora Alhondiga Bilbao ABCミュージアム	タンタゴラ (Tantagora) アロンディガ・ビルバオ (Alhondiga Bilbao) ABCミュージアム (Museo ABC)	2011. 02. 18 ~ 2011. 02. 25	駒形克己（造本作家／デザイナー）を招へいし、絵本の制作に関する講演会・デモンストレーションを実施。初期から現在にいたる作品についての紹介や、子供の成長に伴う描画スタイルの変化・発展などについて説明。また、講演会の一部としてイラストのデモンストレーションも行った
12	日本研究巡回講演会	バレンシア バルセロナ マドリード マドリード	バレンシア大学 (Universidad de Valencia) ポンペウ・ファブラ大学 (Universidad Pompeu Fabra) マドリード自治大学 (Universidad Autónoma de Madrid) マドリード・コンプルテンセ大学 (Universidad de Complutense de Madrid)	バレンシア大学 (Universidad de Valencia) ポンペウ・ファブラ大学 (Universidad Pompeu Fabra) 在バルセロナ総領事館 マドリード自治大学 (Universidad Autónoma de Madrid) マドリード・コンプルテンセ大学 (Universidad de Complutense de Madrid) 在スペイン大使館	2011. 03. 06 ~ 2011. 03. 13	スペインにおいては社会科学分野の日本研究の蓄積が乏しいため、若手研究者や学生に社会科学分野の専門家の知見に触れる機会を提供するため、大学巡回講演会を実施。第1回目は白石昌也（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）を招へいし、「アジア太平洋における地域協力の展開と日本—アジア太平洋地域主義とFTAの展開」をテーマに、各大学で講演を行った

海外拠点

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
13	日本映画定期上映会 (6月)	マドリード	Cine Golem Pequeño Cine Estudio	マドリード実験映画祭事務局 (Semana de Cine Experimental de Madrid) シネ・ゴレム (Cine Golem)	2010.06.08 ~ 2010.06.16	1カ月に2本、新しい映画と古典映画を1本ずつ共通のテーマ設定に基づいて選定し、日本映画研究者ロレンソ・トーレス (Lorenzo Torres: ファン・カルロス国王大学教授) による事前講演会と組み合わせて、日本映画と日本文化を理解する糸口を提供。6月上映作品は、『空気人形』(是枝裕和、2009) 及び『雨月物語』(溝口健二、1953)
14	日本映画定期上映会 (7月)	バルセロナ マドリード	フランチェスカ・ボンメソン財団 Pequeño Cine Estudio	 マドリード実験映画祭事務局 (Semana de Cine Experimental de Madrid)	2010.07.07 ~ 2010.07.27	1カ月に2本、新しい映画と古典映画を1本ずつ共通のテーマ設定に基づいて選定し、日本映画研究者ロレンソ・トーレス (Lorenzo Torres: ファン・カルロス国王大学教授) の講演会と組み合わせ、日本映画と日本文化を理解する糸口を提供。7月上映作品は、『弾丸ランナー』(SABU、1996) 及び『恋も忘れて』(清水宏、1937)
15	日本映画定期上映会 (9月~12月)	マドリード	Ateneo de Madrid	マドリード実験映画祭事務局 (Semana de Cine Experimental de Madrid)	2010.09.08 ~ 2010.12.08	1カ月に2本、新しい映画と古典映画を1本ずつ共通のテーマ設定に基づいて選定し、日本映画研究者ロレンソ・トーレス (Lorenzo Torres: ファン・カルロス国王大学教授) の講演会と組み合わせて、日本映画と日本文化を理解する糸口を提供 9月上映作品 『菊次郎の夏』(北野武、1999) 『朧夜の女』(五所平之助、1936) 10月上映作品 『ソナチネ』(北野武、1993) 『東京流れ者』(鈴木清順、1966) 11月上映作品 『沙羅双樹』(河瀬直美、2003) 『東京物語』(小津安二郎、1953) 12月上映作品 『まあだだよ』(黒澤明、1993) 『二十四の瞳』(木下恵介、1954)

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
16	日本映画定期上映会 (1月～3月)	マドリード	Ateneo de Madrid	マドリード実験映画祭事務局 (Semana de Cine Experimental de Madrid)	2011. 01. 12 ～ 2011. 03. 09	1カ月に2本、新しい映画と古典映画を1本ずつ共通のテーマ設定に基づいて選定し、日本映画研究者ロレンソ・トーレス (Lorenzo Torres: ファン・カルロス国王大学教授) の講演会と組み合わせて、日本映画と日本文化を理解する糸口を提供 1月上映作品 『Cure』 (黒沢清、1997) 『鬼婆』 (新藤兼人、1964) 2月上映作品 『Love Letter』 (岩井俊二、1995) 『秋津温泉』 (吉田喜重、1962) 3月上映作品 『2/Duo』 (諏訪敦弘、1997) 『狂った果実』 (中平康、1956)
17	白夜祭日本映画上映会 <i>La Noche en Blanco 2010</i>	マドリード	マドリード日本文化センター	マドリード市 (Ayuntamieto de Madrid)	2010. 09. 11	マドリード市が重点事業のひとつとして実施する文化イベント「白夜祭」に参加し、マドリード日本文化センター1階多目的ホールにおいて、SFアニメ『スカイ・クロラ』 (押井守) 『新世紀エヴァンゲリオン』 (庵野秀明) の2作品を上映
18	第20回マドリード実験映画祭 日本映画上映会 <i>20 Semana de Cine Experimental de Madrid Retrospectiva Takashi Shimizu</i>	マドリード	マドリード日本文化センター	マドリード実験映画祭事務局 (Semana de Cine Experimental de Madrid)	2010. 11. 19 ～ 2010. 12. 08	例年11月に開催されるマドリード実験映画祭において、同映画祭事務局との共催により日本映画特集を実施。本年度はJホラーの旗手、清水崇監督の5作品、『呪怨』 (2002) 『呪怨2』 (2003) 『稀人』 (2004) 『The JUON/呪怨』 (2004) 『呪怨パンドミック』 (2006) を上映

【日本語教育】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
19	カサ・アジアによる日本語講座	マドリード	マドリード日本文化センター	カサ・アジアマドリード (Casa Asia Madrid)	2010. 09. 13 ～ 2011. 04. 13	カサ・アジア・マドリードセンターが実施する日本語講座、「みんなの日本語」初級1及び初級2 (受講者数延べ11名) に対して教室を提供し協力
20	日本語弁論大会	マドリード	マドリード日本文化センター	日西文化協会TORA (Asociacion Cultural Hispano-Japonesa TORA)	2011. 01. 14	日西文化協会“TORA”が主催する日本語弁論大会にマドリード日本文化センター所長が審査員として参加

海外拠点

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
21	図書館運営	2010.09.01 ~ 2011.03.31	日本語教育関係図書と現代日本のポップカルチャー(マンガやアニメなど)を主たる蔵書とする図書館を9月初めに開館。日本語教師や日本文化に関心を持つ一般市民が閲覧可能 ①所蔵資料合計：約8,500点(視聴覚資料を含む) ②利用者数(年間)：400名 ③貸出点数(年間)：165点 ④レファレンス件数(年間)：50件

【出版・広報】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
22	ウェブサイト運営				2010.04.01 ~ 2011.03.31	マドリード日本文化センターの概要(成り立ち、所在地、連絡先)の他、活動について4つの柱に分け解説。①文化芸術事業、②日本語普及事業、③日本研究事業、④助成金情報。また、過去に実施をしたイベント、他の団体による日本文化関係イベント、リンク集、ニューズレターの情報も掲載 URL: http://www.fundacionjapon.es/ アクセス件数(年間)：78,246件
23	「増村保造監督特集」映画週間における広報	マドリード	マドリード芸術サークル	マドリード芸術サークル(Círculo de Bellas Artes)	2010.10.28 ~ 2010.11.07	国際交流基金本部の「海外日本映画祭(主催)」事業として増村保造(映画監督)作品18本の特集上映をマドリード芸術サークル付属映画館にて実施するに当たり、広報および作品理解の一助とするべく、上映日程及び各作品を解説したプログラム3,000部を作成、配布
24	「日本の熱い血」映画週間における広報	マドリード	マドリード芸術サークル	マドリード芸術サークル(Círculo de Bellas Artes)	2011.03.17 ~ 2011.03.27	国際交流基金本部の「海外日本映画祭(主催)」事業として「日本の熱い血」特集上映をマドリード芸術サークル付属映画館にて実施するに当たり、広報及び作品理解の一助とするべく、上映日程及び各作品を解説したプログラム3,000部を作成、配布

【教室事業】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
25	生け花教室	マドリード	マドリード日本文化センター	カサ・アジア(Casa Asia)	2011.03.21 ~ 2011.06.06	カサ・アジアが主催する生け花教室に対し、マドリード日本文化センターの地階教室を提供

海外拠点

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
26	マドリード日本文化センター開所式	マドリード	マドリード 日本文化センター	マドリード市 (Ayuntamiento de Madrid)	2010. 04. 16	スペイン外務省、マドリード市、カサ・アジア、日西財団等の関係者を招き、マドリード日本文化センターの開所式を実施
27	サラゴサ日本文化週間	サラゴサ	サラゴサ大学	サラゴサ大学 (Universidad de Zaragoza) ト랄バ財団 (Fundación Torralba)	2011. 03. 07 ~ 2011. 03. 24	サラゴサ大学が毎年開催する日本週間において、「日本の神話とヒーローたち」というコンセプトのもと、スペイン各地から集った日本研究者による講演会、コンサート、映画上映会等を実施。また、同文化週間開始後に発生した東日本大震災の被災者のため、サラゴサ大学が主体となって募金活動も行い、募金箱を設置したほか、募金先情報を記したチラシの配布等を実施

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
28	日本研究小規模助成	バルセロナ自治大学 (Universidad Autónoma de Barcelona)	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 13	小浜裕久(静岡県立大学国際関係学部教授/同大学院国際関係学系研究科教授)を講師に、東アジア研究学士課程(翻訳・通訳学科)を有するバルセロナ自治大学において「第二次世界大戦後の日本経済(Economía Japonesa. Desarrollo dinámico después de la II Guerra Mundial y las dos décadas perdidas)」と題する講演会を実施する事業に対して、マドリード日本文化センターは、講師の交通費、宿泊費の一部を助成
29	文化芸術小規模助成	①文学祭慈善トラストLtd. (Festival of Literature Charitable Trust Ltd.) ②スペイン生け花協会 (Asociación de Ikebana en España) ③マドリッド池坊生け花協会 (Association of IKENOBO IKEBANA in Madrid) ④ファン・ゲーム・アソシエーション (Asociacion Fun Games) ⑤バレンシア大学 (Universidad de Valencia)	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	マドリード日本文化センターは、スペイン国内の非営利団体が実施する日本文化紹介事業に対して、以下の小規模助成を実施 ①セゴビアにおける文学祭 <i>Hay Festival</i> に日本人建築家を講師として招へい(10年09月)。同講師の交通費、宿泊費の一部を助成 ②マドリードにおける生け花、水石、草もの、苔玉展示会(10年05月)に対し講師謝金の一部を助成 ③マドリードにおける生け花・書道展(10年10月)に対し講師謝金の一部を助成 ④サロン・デ・マンガ・ムルシア(10年11月)実施に当たり、講師謝金の一部を助成 ⑤バレンシアにおける剣道レクチャー(11年02月)の実施に当たり、講師謝金の一部を助成

海外拠点

【後援事業】

	事業名	主催機関	期間	事業内容
30	<i>Nihon Jaia</i> (ニホン・ハイヤ)	バスク・アジア研究協会 (EuskadiAsia)	2010. 11. 13 ~ 2010. 11. 14	バスク・アジア研究協会が主催する日本文化紹介イベントに後援名義を付与
31	茶道デモンストレーション	アンダルシア日本文化普及研究協会 (ADEC JAP-AN)	2010. 11. 16 ~ 2010. 11. 17	ADEC JAP-AN主催による茶道デモンストレーション・レクチャー事業に後援名義を付与
32	第3回スペイン水石コンクール	スペイン水石協会 (Asociación Española de Suiseki) アルコベンダス市 (Ayuntamiento de Alcobendas)	2010. 12. 04 ~ 2010. 12. 05	スペイン水石協会とアルコベンダス市が主催する水石コンクールに後援名義を付与。本コンクールではスペイン国内外の水石創作者が出品し、その技を競う。オープニング式典にマドリッド日本文化センター所長が出席
33	日本のための千羽鶴 (<i>Mil grullas para Japón</i>)	カサ・アジア (Casa Asia) 日西協議財団 (Fundación Consejo España Japón)	2011. 03. 24 ~ 2011. 03. 26	「日本のための千羽鶴」と称して、東日本大震災からの復興を祈って千羽鶴を作り、募金を募るイベントに対し、会場を提供して協力。また、バルセロナ、アビレス、ビルバオ、ムルシアにおいては後援名義を付与して支援
34	<i>Manga: Del cuadro flotante a vineta japonesa</i> 出版発表会 (マンガ：浮世絵から日本の漫画のコマまで)	カサ・アジア (Casa Asia)	2011. 03. 25	カサ・アジアが主催するホセ・サンティアゴ・アンドレス・イグレスィアス (マンガ研究者) の新刊書 <i>Manga: Del cuadro flotante a vineta japonesa</i> の出版発表会に後援名義を付与すると共に、広報にも協力。 本書は浮世絵から現代漫画までの歴史、漫画の定義・特徴、ジャンル、アニメ、世界市場における「マンガ」、それが社会に与える影響等について解説したもの

ブダペスト日本文化センター

合計額 39,154,988 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	巡回展『現代日本の陶磁器』	ケチケメート デブレツェン	国際陶芸スタジオ (International Ceramic Studio) メッジェシ美術館 (Medgyessy Museum)	国際陶芸スタジオ (International Ceramic Studio) メッジェシ美術館 (Medgyessy Museum)	2010.06.03 ~ 2010.09.12	ケチケメート市及びデブレツェン市において、現代日本の代表的な陶磁器作品を紹介する展覧会を実施。2都市合計1,630名が来館

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
2	文化講演会『日本の陶芸』	ブダペスト	ブダペスト日本文化センター		2010.05.21	ケチケメート市及びデブレツェン市で開催した巡回展『現代日本の陶磁器』に先駆け、ハンガリー語・日本語の通訳・翻訳家であり陶芸家でもあるマルトニ・エーヴァ (MARTONYI Éva) を講師に迎え、日本の陶芸に関する講演会を実施
3	文化講演会『日本のファッション』	ブダペスト	ブダペスト日本文化センター		2010.06.04	元・文部科学省国費留学生で、日本の現代文化に詳しい応用美術の専門家トート・ヴァシャルヘイ・レーカ (TÓTH Vasarhely Réka) を講師に迎え、現代日本のファッションに関する講演会を実施
4	「中東欧における日本の伝統演劇講座」	ブカレスト (ルーマニア)	UNESCO Chair of International Theatre Institute (UNESCO Chair-ITI) スタジオ	UNESCO Chair of International Theatre Institute (UNESCO Chair-ITI) 桐朋学園芸術短期大学	2010.10.25 ~ 2010.12.04	ルーマニアのUNESCO Chair-ITI及び日本の桐朋学園芸術短期大学との共催で、「能・狂言」「舞踏」「日本舞踊・歌舞伎」の各分野で日本から善竹十郎(狂言師/桐朋学園芸術短大・帝京平成大学講師)、加賀谷早苗(舞踏家)、藤間藤三郎(日本舞踊家)を招へい、41日間計280時間にわたり、ルーマニア及びポーランドの若手・実力派俳優・演劇人10名を対象にした集中レクチャーを実施。それぞれの講座最終日には、演劇または舞台芸術関係者を招いた一般公開のデモンストラーションを実施
5	現代日本社会に関する講演会 <i>Roadside Japan!</i>	ブダペスト	マイ・マノハンガリー写真美術館 (Mai Mano Hungarian House of Photography)	マイ・マノハンガリー写真美術館 (Mai Mano Hungarian House of Photography)	2010.10.26	写真集 <i>TOKYO STYLE</i> 他、現代日本社会において見過ごされがちな人々や文化に注目した作品で有名な都築響一(写真家)による現代日本社会に関する講演会を実施。ケルン日本文化会館企画によるドイツ・ハンガリー巡回講演の一部

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
6	クラスナホルカイの世界	ブダペスト	ゲーテ・インスティテュート ブダペスト支部	ゲーテ・インスティテュート ブダペスト支部	2010. 10. 27	元・国際交流基金フェローで、日本を舞台にした著作もあるハンガリーの著名な作家クラスナホルカイ・ラースロー(KRASZNAHORKAI László)と同氏作品の各国語翻訳者たちによるシンポジウムを実施。ゲーテ・インスティテュート・ブダペスト支部との共催。日本からは早稲田みか(大阪大学教授)がビデオインタビューで参加
7	文化交流使による能楽ワークショップ	ブダペスト カポシュヴァール	メルリン劇場 カポシュヴァール大学	メルリン劇場 カポシュヴァール大学	2011. 03. 28 ~ 2011. 04. 07	平成22年度文化庁文化交流使である津村禮次郎(能楽師)が、ハンガリーの学生・若手ダンサー向けに、延べ10日間のワークショップを実施

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
8	日本映画上映会	ブダペスト	ウルクモズ ゴー映画館	ハンガリー国立フィルム アーカイブ	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	『ウォーターボーイズ』(矢口史靖、2001)、『雨あがる』(小泉堯史、2000)等、欧州フィルム・ライブラリーの16mmフィルムを利用し、市民向けの定例映画上映会をブダペスト市内の映画館で19回実施。1,154名が参加

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
9	図書館運営	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	ブダペスト日本文化センターに併設された図書館において、主に日本語学習、日本研究をサポートする書籍を中心とした図書収集、公開及び貸出、レファレンス等の図書館運営業務を実施 ①所蔵資料合計：約11,000点(うち視聴覚資料：約100点) ②利用者数(年間)：6,637名 ③貸出点数(年間)：4,939点 ④レファレンス件数(年間)：104件

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
10	ウェブサイト運営	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	ブダペスト日本文化センター・ウェブサイト(ハンガリー語、日本語、英語で閲覧可能)を整備、拡充し、幅広い分野、年齢層を対象に事業の広報を実施 URL：http://www.jfbp.org.hu アクセス件数(年間)：39,798件
11	ニューズレター『ENGAWA』発行	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	ブダペスト日本文化センターが行う事業の報告や案内を掲載したニューズレターを発行し、ハンガリー国内の関係機関に配布 発行部数(年間)：500部

海外拠点

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
12	中央市場日本の日	ブダペスト	中央市場	JapHun メディアアート社	2010.07.08 ~ 2010.07.10	ブダペスト市最大の市場である中央市場にて、日系企業や日本食レストランのブース出展、武道や太鼓等のパフォーマンス、日本に関するクイズ等の日本文化紹介事業を3日間にわたって実施
13	ハンガリー俳句コンテスト	ブダペスト	ハンガリー文化財団		2010.09.01 ~ 2010.11.30	ハンガリー市民(高校生から成人まで)を対象に、ハンガリー語による俳句を募集。3名の審査員(詩人、日本文学研究者)による審査を経て、優秀者を表彰。コンテストへの応募者を招待して行われた表彰式では、黛まどか(俳人/文化庁文化交流使)による講演会を実施
14	フェローOBカンファレンス	ブダペスト	ゲーテ・インスティテュート ブダペスト支部		2011.02.18	中・東欧諸国出身の過去15年間の国際交流基金日本研究フェローOBに対するフォローアップ事業として、6名のフェロー(オーストリア、ブルガリア、チェコ、ポーランド、ルーマニア、ハンガリーより各1名)をブダペストに招へいして、「ボローニャ・プロセスによる高等教育制度の変容と中・東欧の日本研究の将来」と題したシンポジウムを実施

【本部事業受入】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
15	第17回ブダペスト国際図書展	ブダペスト	ミレナーリシュ	ハンガリー出版・書籍販売業協会 (Hungarian Publishers' and Booksellers' Association)	2010.04.22 ~ 2010.04.25	ハンガリー最大規模の国際図書展に日本ブースを出展し、日本の最新図書・雑誌を紹介。合わせて俳句講演会や折り紙デモンストレーションを実施
16	東欧巡回映画祭	ブダペスト	ウルクモズゴ映画館	ハンガリー国立フィルムアーカイブ	2010.09.06 ~ 2010.09.12	国際交流基金本部フィルムライブラリー所蔵の35mmフィルムを利用して、『雁』(豊田四郎、1953)、『忍ぶ川』(熊井啓、1972)等、1950年~2000年代に制作された日本映画7作品を上映
17	浮世絵レクチャー・デモンストレーション	ブダペスト ペーチ	ハンガリー国立美術大学 ペーチ文化会館		2010.10.12 ~ 2010.10.13	安達以乍牟(アダチ伝統木版画技術保存財団理事長)、堀本長志(摺り師)、川合千春(摺り師)の浮世絵専門家3名による、レクチャー付きの浮世絵木版画作成工程実演を実施(ブダペスト市とペーチ市で各1回)。ブダペスト市のハンガリー国立美術大学では、学生を対象としたワークショップを実施
18	黒澤明生誕100周年記念映画上映会	ブダペスト	ウルクモズゴ映画館	ハンガリー国立フィルムアーカイブ	2010.11.11 ~ 2010.11.17	黒澤明監督の生誕100年を記念し、セルビア、ハンガリー、スロバキアを巡回する特集映画祭を実施。ハンガリーでは、『生きる』(1952)『天国と地獄』(1963)等7作品をブダペスト市内の映画館で上映

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
19	キャラクター大国、ニッポン展	ブダペスト	ハンガリー貿易観光博物館	ハンガリー貿易観光博物館	2011.01.14 ~ 2011.02.14	ハンガリー貿易観光博物館にて、日本の戦後のポップカルチャーにおけるキャラクターを紹介する本部巡回展「キャラクター大国、ニッポン」展を実施

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
20	欧州剣道選手権 太鼓デモンストレーション	トリススポーツ文化協会 (TORII Kulturális és Sportszolgálatató)	2010.04.10 ~ 2010.04.11	デブレツェン市で開催された欧州剣道選手権大会にあわせて行われた日本文化紹介イベントでの和太鼓公演に対し、公演制作費の一部を助成
21	国際レースフェスティバルにおける日本の着物展	ハラシュレース財団 (Halas Lace Foundation)	2010.04.23 ~ 2010.05.09	ハンガリーの伝統的なレース編み工芸で有名な地方都市キシュクンハラシュで行われた日本の着物展(及び着付け・いけばなデモンストレーション)に対し、広報経費の一部を助成
22	モハーチにおける陶芸展と日本文化紹介	ジュニア文化財団 (Junior Art Foundation)	2010.05.03 ~ 2010.05.31	ハンガリー南部の地方都市モハーチ市で行われた、日本在住のハンガリー人陶芸家アグネシュ・フス (HUSZ Agnes) の陶芸展及び日本人生け花作家鈴木ひろ子によるデモンストレーションに対し、2名の旅費の一部を助成
23	ブダペスト市13区 「日本文化の週末」	ブダペスト市13区文化非営利会社 (The Cultural Non-profit Ltd. of the 13th district of Budapest)	2010.05.07 ~ 2010.05.09	ブダペスト市13区の文化センター主催の日本文化イベント内で実施された、演劇公演『日本の漁師たち』に対し、広報経費の一部を助成
24	ハンガリー語による芥川龍之介『羅生門』公演	ゲレチェスタジオ (Geracse Stúdió Bt.)	2010.06.01 ~ 2010.06.15	ハンガリー人の若手演劇集団により翻案された芥川龍之介『羅生門』の公演に対し、制作費及び広報経費の一部を助成
25	ペーチ折り紙フェスティバル	貿易・金融・ケータリング事業従事者のための文化財団 (Cultural Foundation of Trader, Financial and Catering Workers)	2010.07.01 ~ 2010.08.31	2010年欧州文化首都となったペーチ市で開催された国際折り紙フェスティバルに対して、通訳経費及び設営経費の一部を負担
26	ミシュコルツにおける盆栽フェスティバル	ミシュコルツ市 青少年の家 (Ifjúsági és Szabadó Ház)	2010.09.11 ~ 2010.09.12	ミシュコルツ市で行われた国際的な盆栽展示会(及び折り紙、いけばな等のワークショップ)に対し、参加者の宿泊費の一部を助成
27	ソンバトヘイ 子供の着物展	ハンガリー・日本友好協会ソンバトヘイ支部 (Magyar-Japán Baráti Társaság-Szomnathely)	2010.09.30 ~ 2010.10.30	ソンバトヘイ市のハンガリー日本友好協会主催による子供の着物展覧会に対し、展示経費と広報費の一部を支援
28	EDITダンス映画フェスティバル	ワークショップ財団 (Workshop Foundation)	2010.10.08 ~ 2010.10.10	ダンス映画フェスティバルを主催するハンガリーの財団に対し、飯名尚人(映像作家/演出家)のブダペスト招へい旅費を支援

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
29	ヴェスプレーム日本の日	ヴェスプレーム県ハンガリー・日本友好協会 (Veszprém Megyei Magyar-Japán Baráti Társaság)	2010. 10. 09 ~ 2010. 10. 10	ハンガリー西部のヴェスプレーム県にあるハンガリー・日本友好協会が主催した「日本の日」イベントに対し、出演者宿泊費の一部を助成
30	クラクフ・マンガセンターにおける日本文化連続講演会	日本美術技術博物館マンガセンター (The Manggha Centre of Japanese Art and Technology)	2010. 11. 03 ~ 2011. 01. 26	「日本の過去と現在の文化における人形」と題し、クラクフの日本美術技術博物館マンガセンター(ポーランド)で実施される連続講演会(全12回)に対し、講師南畷宏(女子美術大学教授)等12名の旅費、謝金及び通訳経費の一部を助成
31	「俳句誌出版」	ナプクート出版社 (Napkút Publishing House)	2011. 01. 01 ~ 2011. 03. 31	ハンガリー語による俳句雑誌の出版事業に関し、印刷経費の一部を助成
32	「ポーランド能公演」	ワルシャワ演劇研究所 (Zbigniew Raszewski Theatre Institute in Warsaw)	2011. 02. 17 ~ 2011. 02. 19	ワルシャワ国立劇場(ポーランド)での鍔仙会(てっせんかい)による新作能「調律師-ショパンの能」公演(ショパン生誕200周年記念公演)に対し、出演者旅費の一部を助成
33	「ソンバトヘイ大学 日本の日」	アタル太鼓協会 (Ataru Útő segyesület)	2011. 02. 26	西ハンガリー・ソンバトヘイ大学で開催された「日本の日」に関し、講演会講師の旅費及び広報経費の一部を助成

【文化備品・視聴覚資料貸出】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
34	ブダペスト日本文化センター所蔵巡回展示セットの貸出し	オーブダ文化センター ブダペスト市13区文化センター 在スロベニア大使館	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	ブダペスト日本文化センターが所蔵する6種類の展示セット(写真パネル4セット(『日本建築展』『京都展』『日本人の日常生活展』『日本の世界遺産展』)及び『凧・独楽展』『日本人形展』)を、希望する外部団体に貸し出し、巡回展を実施

海外拠点

モスクワ日本文化センター

合計額 43,350,385 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	写真パネル巡回展「京都写真展」	モスクワ	ロシア国立外国文献図書館 3階展示ホール	ロシア国立外国文献図書館 (The All-Russia State Library for Foreign Literature)	2010.03.23 ~ 2010.04.11	モスクワ日本文化センター所蔵の文化備品、京都の写真パネル・セットによる巡回展示を実施
2	写真パネル巡回展「京都写真展」	ドミートロフ カザン オレンブルク	ドミートロフ市中央図書館 映画館「タタルキノ」 オレンブルク国立大学	ドミートロフ市中央図書館 (Dmitrov Central Regional Library) タタール日本文化情報センター「サクラ」 (Tatar-Japan Culture and Information Center «Sakura») オレンブルク国立大学 (Orenburg State University)	2010.04.14 ~ 2010.11.07	モスクワ日本文化センター所蔵の文化備品、京都の写真パネル・セットによる巡回展示を実施

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
3	落語会	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010.05.12	三遊亭楽麻呂(落語家)の私的なモスクワ訪問の機会を捉え、一般市民を対象に、ロシア語逐次通訳を挟んだ落語会を実施。演目は『まんじゅうこわい』など

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
4	オペラ『おなつ』公演	モスクワ	ヤウザ会館	モスクワ国立音楽院附属日露音楽文化センター (Russian-Japanese Center of Musical Culture attached to Moscow State Conservatory)	2011. 02. 07	モスクワ国立音楽院附属日露音楽文化センターと共催で、塚本一成作のオペラ『おなつ』を上演

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
5	日本文化出前講座 (第1四半期)	モスクワ ドミートロフ	初・中等教育機関等(計6機関)		2010. 04. 01 ~ 2010. 05. 14	将来を担う子供たちに日本文化に親しむ機会を提供し、親日家の育成を目指すため、初・中等教育機関の応募に基づき、各学校で出前講座を実施 10. 04. 01 第838番学校で「伝統の遊び (けんだま、お手玉、おはじき、あやとり等)」 10. 04. 07 第1573番学校で「茶道」 10. 04. 08 国立ファッション大学付属カレッジで「墨絵」 10. 04. 14 ドミートロフ市立中央図書館で「書道」 10. 04. 23 国立芸術教育センター「真珠」で「着付け」 10. 05. 14 第1784番陸軍幼年学校で「伝統の遊び (けんだま、お手玉、おはじき、あやとり等)」
6	夏休み特別企画・日本文化体験講座	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 07. 06 ~ 2010. 07. 10	風呂敷講座、香道講座、日本の伝統の遊び (けんだま、お手玉、おはじき、だるまおとし、あやとり等) 講座、俳句講座を実施
7	林英哲和太鼓ワークショップ	モスクワ	ストラスノイ劇場	モスクワ国立音楽院 (Moscow State Conservatory) ロシア演劇人同盟 (Theatre Union of Russian Federation) ストラスノイ劇場 (Strastnoy Theatre)	2010. 08. 26	海外でも著名で、日本の和太鼓界をリードしてきた、林英哲による一般市民を対象とした和太鼓ワークショップを実施。翌日に開催された国際交流基金助成事業「文京区区民オーケストラ公演」で同氏は飛天遊をオーケストラと共演して絶賛を博し、当地テレビ局がワークショップとコンサートの双方を取材して放映

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
8	国際シンポジウム「オリエンタリズムとオキシデンタリズム：文化の言語と記録の言語」	モスクワ	大統領付属ロシア国家行政アカデミー	ロシア文化研究所 (Russian Institute for Cultural Research) ロシア文化省 (Ministry of Culture of the Russian Federation) 大統領付属ロシア国家行政アカデミー (Russian Academy of State Service under the President of the Russian Federation)	2010. 09. 23 ~ 2010. 09. 25	ロシア、日本、米国など10カ国から約90名の研究者が参加して、オリエンタリズムとオキシデンタリズムをめぐり、その歴史、文化的背景、グローバル時代における文化理解の展望を議論。日本からは渡辺俊夫（ロンドン芸術大学トランスナショナル・アート研究所所長）、稲賀繁美（国際日本文化研究所教授）、生田美智子（大阪大学）、鈴木桂子（立命館大学）の4名が参加
9	「日本の伝統人形芝居」ワークショップ&レクチャー	モスクワ	モスクワ人形劇場	モスクワ人形劇場 (Moscow Puppet Theatre)	2010. 09. 27	日本の伝統人形芝居を継承する3劇団、八王子車人形西川古柳座（東京・車人形）、西畑人形芝居朝日若輝一座（香川・棒遣い）、あやつり人形劇団みのむし（兵庫・糸繰り人形）による演劇・人形劇関係者を対象としたワークショップ・レクチャーを実施。3つの伝統人形の遣い方の説明のほか、人形体験、人形劇（車人形（一人遣い）「日高川入相花王／雨田堤より渡しの場の段」、西畑人形芝居（棒遣い）「岩見重太郎大蛇退治」、糸あやつり人形劇団みのむし（糸繰り人形）「獅子舞」「鷺娘」）の演技も披露
10	日本文化出前講座（第2四半期、第3四半期）	モスクワ	初・中等教育機関等(10機関)		2010. 09. 30 ~ 2010. 12. 14	将来を担う子供たちに日本文化に親しむ機会を提供し、親日家の育成を目指すため、初・中等教育機関の応募に基づき、各学校で出前講座を実施 10. 09. 30 第1920番学校（折り紙） 10. 10. 06 第1370番学校（茶道） 10. 10. 07 第2030番教育センター（書道） 10. 10. 12 医療センター学校「Vita」（伝統の遊び：けんだま、お手玉、おはじき、だるまおとし、あやとりなど） 10. 10. 19 第1119番学校（生け花） 10. 10. 20 第1359番学校（伝統の遊び：けんだま、お手玉、おはじき、だるまおとし、あやとりなど） 10. 10. 21 第825番教育センター（伝統の遊び：けんだま、お手玉、おはじき、だるまおとし、あやとりなど） 10. 10. 27 第1682番教育センター（墨絵） 10. 10. 28 第1136番学校（伝統の遊び：けんだま、お手玉、おはじき、だるまおとし、あやとりなど） 10. 12. 14 第1358番学校（書道）

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
11	若手研究者ジャパンレポート	モスクワ	モスクワ大学 附属アジア・ アフリカ諸国 大学 モスクワ日本 文化センター	ロシア日本研究 者協会 (The Association of Japa- nologists)	2010. 10. 09 ~ 2010. 10. 10	<p>若手研究者の研究発表会を実施し、24名が研究成果を発表。研究内容は『JAPAN REPORT—日本、ロシアにおける受容』（2011年、ナタリス出版社）として出版</p> <p>研究発表者及びテーマ（一部抜粋）： ステパン・ロジン（RODIN, Stepan：ロシア国立人文大学） 「8世紀の日本における追悼詩及び伝記ジャンル」 ドミートリー・ラキン（RAKIN, Dmitry：実用東洋学大学） 「徳川時代後半の刑罰システム分類」 エレーナ・レペホヴァ（LEPEKHOVA, Elena：ロシア科学アカデミー東洋学研究所） 「日本の新興宗教の活動の特徴と海外における天台宗：類似と相違」 アレクサンドラ・ブリキナ（BURYKINA, Aleksandra：モスクワ国立大学） 「能における仏教」 アンナ・ナイムシナ（NAIMUSHINA, Anna：イルクーツク国立大学） 「ロシアにおけるアニメの歴史」 アンナ・ニキチ・クリリチェフスカヤ（NIKICH-KRILICHEVSKAYA, Anna：モスクワ国立大学アジア・アフリカ諸国大学） 「文化プロセスとしての漫画」 エカテリーナ・ブリト（BRIT, Ekaterina：ノボシビルスク国立工科大学） 「日本のソフトパワーの実現問題」 アンナ・カガネツ（KAGANETS, Anna：モスクワ国立国際関係大学） 「日本のエコビジネス—ロシアへの教訓」 アンナ・リシツィナ（LISITSYNA, Anna：モスクワ国立大学アジア・アフリカ諸国大学） 「日本無声映画の特徴。1920年から1930年にかけての大衆文化における江戸時代と明治維新の受容」 オリガ・メルクシェヴァ（MERKUSHEVA, Olga：モスクワ国立大学） 「日本の朝鮮人—移民の地理的、歴史的、社会的アスペクト」 オリガ・ザベレジュナヤ（ZABEREZHNYAYA, Olga：サンクトペテルブルク国立大学） 「宗長手記における日常スケッチ」 ナタリア・ペトレンコ（PETRENKO, Natalia：モスクワ国立大学アジア・アフリカ諸国大学） 「鈴木光司、作品イメージとロシアの伝統及び受容との関係について」など</p>

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
12	若手研究者ジャパンレポート	サンクト・ペテルブルク	サンクトペテルブルク国立大学東洋学部学生クラブ No.1	サンクトペテルブルク国立大学東洋学部 (Saint Petersburg State University, Faculty of Eastern)	2010. 11. 24 ~ 2010. 11. 25	<p>サンクトペテルブルク及びモスクワの様々な大学及び研究機関の若手日本研究者23名が「日本史」、「国際関係における日本の経済、政治、社会」及び「日本文化、文学と言語学の問題」の3分野で研究成果を発表し、討議を行うと共に、論文集『サンクトペテルブルク若手日本研究者会議』（2010年、ギベリオン出版社）を発行（200部）。在サンクトペテルブルク総領事館が後援。</p> <p>会議冒頭の総会では、ロシア日本研究の権威、リュビン・ヴィクトル（RYBIN, Victor：サンクトペテルブルク国立大学日本研究学科長）及びバース・イリーナ（BASS, Irina：サンクトペテルブルク国立文化芸術大学外国語学科長）が、それぞれ「サンクトペテルブルクにおける日本語教育の歴史」、「日本における文書の言語学」をテーマに講演</p> <p>研究発表者及びテーマ（一部抜粋）： アンナ・ベルトヴァ（BERTOVA, Anna：サンクトペテルブルク国立大学） 「日本における現地のキリスト教宣教師としての無教会。内村鑑三の活動」 ディアナ・キクナゼ（KIKNADZE, Diana：ロシア科学アカデミー東洋学研究所） 「民衆のイメージにおける修道僧」 アルチョム・クリモフ（KLIMOV, Artyom：サンクトペテルブルク国立大学） 「松田伝十郎、日本のサハリン研究者」 ユリア・クリャチキナ（KRYACHKINA, Yulia：サンクトペテルブルク国立大学） 「2008年以降の日本外交におけるロシア」 アリサ・ノヴィク（NOVIK, Alisa：サンクトペテルブルク国立文化芸術大学） 「現代日本社会の社会精神問題としてのニート」 アンナ・オシキナ（OSIKINA, Anna：ロシア国立人文大学） 「貝原益軒と福沢諭吉：婦人教育に対する新旧視点」 ヴィクトリア・チホミロヴァ（TIKHOMIROVA, Viktoria：サンクトペテルブルク国立経済財政大学） 「日本ブランドデザインにおける日本の民族的特徴の発現」 ヴァルヴァラ・フィルソヴァ（FIRSOVA, Varvara：ロシア科学アカデミー人類学・民族学博物館） 「日本における南アジアディアスポラ形成」 アナスタシア・ボリソヴァ（BORISOVA, Anastasia：モスクワ大学アジア・アフリカ諸国大学） 「聖詠経の慣用句と日本の形容語枕詞：意味相違の問題」 アクシーニャ・ゾリナ（ZORINA, Aksiniya：東洋研究所） 「日本庭園」 エレーナ・リボヴァ（LIBOVA, Elena：サンクトペテルブルク国立経済財政大学） 「日本独特の経済。系列、財閥、終身雇用制度を例として」など</p>

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
13	児童フェスティバル「本物の日本」	モスクワ	第147番児童図書館	モジヤイスキー障害児社会支援センター (Social Services Center for Children with limited possibility “Mozhaisky”) 第147番児童図書館 (Children’s Library No. 147) 露日協会モスクワ支部 (Moscow Branch of the Society “Russia-Japan”)	2010. 12. 10	「露日協会モスクワ支部」の提案により、モスクワに滞在中の日本人留学生の協力を得て、モジヤイスキー障害児社会支援センターの児童を対象に、折り紙、生け花、伝統の遊び(あやとり、けんだま)のワークショップと日本に関するクイズ大会を実施
14	日本の美	モスクワ	ロシア国立外国文献図書館大ホール	池坊流全ロシア・CIS支部 (Ikebana Ikenobo Branch in Russia and CIS Countries) 草月流モスクワ支部 (Sogetsu School of Ikebana, Moscow Branch)	2010. 12. 14	生け花、池坊流全ロシア・CIS支部と草月流モスクワ支部が合同で生け花デモンストレーションを実施。モスクワにある日本文化団体(生け花、茶道等)が、2008年より合同で事業を実施。普段は独立して活動している日本の文化団体が合同でイベントを実施することにより、偏ることなく、広く日本文化を紹介。生け花のみならず、墨絵、茶道、小物作り等も紹介
15	日本文化デー	モスクワ	ベリヤーエヴォ・ギャラリー	ベリヤーエヴォ・ギャラリー (Gallery Belyaev)	2010. 12. 17	冒頭に、モスクワの劇場で活躍する折田智水(俳優)による日本舞踊と着付けのデモンストレーションを行った後、ゾーヤ・チャシヒナ(CHASHCHIKHINA, Zoya: 折り紙)、石嶋かおり(書道)、加藤啓子(押し花)のワークショップを実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
16	押し花ワークショップ	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2011. 02. 03	加藤啓子（押し花作家）を講師に迎えて、日本で独自に発展した押し花技術のワークショップを実施
17	日本文化出前講座（第4四半期）	モスクワ及びドミートロフ	初・中等教育機関等（計12機関）		2011. 02. 09 ～ 2011. 03. 16	将来を担う子供たちに日本文化に親しむ機会を提供し、親道家の育成を目指すため、初・中等教育機関の応募に基づき、以下の学校（計12校）で出前講座を実施 11. 02. 09 第1359番学校（書道） 11. 02. 12 第797番学校（書道） 11. 02. 16 第29番学校（伝統の遊び：けんだま、お手玉、おはじき、だるまおとし、あやとりなど） 11. 02. 18 第1051番学校（伝統の遊び：けんだま、お手玉、おはじき、だるまおとし、あやとりなど） 11. 02. 19 音楽コーラス学校「喜び」（伝統の遊び：けんだま、お手玉、おはじき、だるまおとし、あやとりなど） 11. 02. 24 第1881番学校（折り紙） 11. 03. 01 第1349番学校（着付け） 11. 03. 02 第1989番学校（生け花） 11. 03. 03 第1883番学校（生け花） 11. 03. 09 第5番学校（書道） 11. 03. 10 ドミートロフ市立図書館（茶道） 11. 03. 16 第1397番学校（生け花）
18	日本映画講座	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2011. 02. 10 ～ 2011. 03. 03	一般市民を対象に、日本映画に関する理解を深めてもらうため、映画専門家、ナウム・クレイマン（KLEIMAN, Naum：国立中央映画博物館館長）と日本文化専門家、ヴィクトル・マズーリック（MAZURIK, Viktor：モスクワ国立大学アジア・アフリカ諸国大学准教授）によるディスカッションを実施。以下の作品を取り上げた 11. 02. 10 『羅生門』（黒澤明、1950） 11. 03. 03 『父ありき』（小津安二郎、1942） 11. 03. 17 に予定していた3回目は、東日本大震災のため中止
19	エカテリンプルク講演会	エカテリンプルク	ゲルツェン記念中央市立図書館	露日協会エカテリンプルク支部（Ekaterinburg Branch of the Society“Russia-Japan”）	2011. 02. 20 ～ 2011. 02. 21	『源氏物語』の翻訳で著名な、タチヤーナ・ソコロヴァ＝デリューシナ（SOKOLOVA-DELUSINA, Tatiana：日本文学研究者／日本語教師）をエカテリンプルクに派遣して、一般市民を対象に、以下をテーマに講演会を実施 11. 02. 20 「源氏物語」 11. 02. 21 「日本の詩歌」
20	日本経済講座	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2011. 03. 10 ～ 2011. 03. 24	日本経済専門家、エレナ・レオンチエヴァ（LEONTIEVA, Elena：ロシア科学アカデミー世界経済国際関係研究所主任研究員）を講師に迎え、日本経済を専門とする若手研究者及び日本経済に関心を持つ若手日本研究者を対象に、以下のテーマで、3回連続のセミナーを実施 第1回「日本と世界における2008年～2009年の経済危機」 第2回「2008年～2009年の日本経済危機の結果－政治危機と政権交代」 第3回「世界経済における日本の立場の変化－今後10年間の見通し」

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
21	ノボシビルスク講演会	ノボシビルスク	シベリア国際関係・地域研究大学	シベリア北海道センター (Municipal Culture Center “Siberia - Hokkaido”)	2011. 03. 18 ~ 2011. 03. 20	楯岡求美 (神戸大学准教授) をノボシビルスクに派遣して、「第3回シベリア日本研究・日本語教育シンポジウム」にて、以下のテーマで講演会を実施 11. 03. 18 「日本の広告」 11. 03. 20 「最近の日本の舞台作品・映画」
22	日本文学翻訳者・出版社会議	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2011. 03. 21	日本文学翻訳者及び日本関連書籍の出版社 (東洋文学、フォルトゥナ・エル、ギペリオン、ナウカなど10社が参加) を招き、シンポジウムを実施。アレクサンドル・メシェリャコフ (MESHCHERYAKOV, Aleksandr : ロシア国立人文大学教授) の司会により、沼野充義 (東京大学教授) による日本文学の海外での翻訳状況に関する報告、ドミートリー・ラゴージン (RAGOZIN, Dmitry : 翻訳家) による、ロシアにおける日本文学の翻訳状況に関する報告の後、ロシアにおける日本文学の翻訳出版の問題点とその解決方法について議論
23	能レクチャー・デモンストレーション	モスクワ	国立演劇大学	国立演劇大学 (The Russian University of Theatre of Arts)	2011. 03. 25	津村禮次郎 (能楽師)、酒井はな (バレリーナ)、佐藤健作 (太鼓演奏家) 等による能の話 (能面や装束の紹介その他)、『融 (とおる)』『屋島』『土蜘蛛』、能舞『井筒』、ダンス『ひかり、肖像』等、古典から現代までの能作品に関するレクチャー・デモンストレーションを実施

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
24	日本映画上映会 (第1四半期)	モスクワ	国立東洋美術館 レクチャーホール	国立東洋美術館 (The State Museum of Oriental Art) 国立中央映画博物館 (ムゼイ・キノ : The State Central Cinema Museum)	2010. 04. 05 ~ 2010. 06. 07	在ロシア大使館所蔵のロシア語フィルム・ライブラリーから、一般市民を対象に、幅広く日本映画を紹介するため、以下の作品を上映 10. 04. 05 『三文役者』 (新藤兼人、2000) 10. 04. 19 『学校』 (山田洋次、1993) 10. 05. 17 『ソナチネ』 (北野武、1993) 10. 06. 07 『潮騒』 (谷口千吉、1954)
25	現代日本映画上映会 (第1四半期)	モスクワ	ロシア国立外国文献図書館 大ホール		2010. 05. 26 ~ 2010. 06. 30	一般市民を対象に、現代日本映画を紹介するため、以下の作品を上映 10. 05. 26 『世界はときどき美しい』 (御法川修、2007) 10. 06. 30 『長州ファイブ』 (五十嵐匠、2006)

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
26	ドキュメンタリー映画上映会	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 08. 10 ~ 2010. 08. 13	「能」のライブ録画 (DVD) 作品を4日間連続で上映 10. 08. 10 『蠟燭能 第一夜 鉄輪』 (2004) 10. 08. 11 『蠟燭能 第二夜 紅葉狩 鬼揃』 (2004) 10. 08. 12 『雪の蠟燭能 第一夜 大般若』 (2006) 10. 08. 13 『雪の蠟燭能 第二夜 邯鄲』 (2006)
27	現代日本映画上映会 (第2四半期)	モスクワ	ロシア国立外国文献図書館大ホール		2010. 09. 24	一般市民を対象に、現代日本映画を紹介するため『いつか読書する日』 (緒方明、2005) を上映
28	ウミヒコ ヤマヒコ マイヒコ ~ 田中泯ダンスロード in インドネシア ~	モスクワ	ロシア国立外国文献図書館大ホール		2010. 10. 15	日本の代表的な舞踏家でロシアでも著名な田中泯 (舞踊家) が2004年10月から12月までインドネシアを旅した際の記録映画を特別上映
29	黒澤明監督映画上映会	モスクワ	全ロシア国立映画大学	全ロシア国立映画大学 (All-Russian State University of Cinematography)	2010. 10. 26	全ロシア国立映画大学主催の第30回国際学生フェスティバルで行われる黒澤特集の一環として、在ロシア大使館ロシア語フィルム・ライブラリー所蔵の『椿三十郎』 (1962)、『天国と地獄』 (1963) を上映
30	現代日本映画上映会 (第3四半期)	モスクワ	ロシア国立外国文献図書館大ホール		2010. 10. 29 ~ 2010. 11. 26	一般市民を対象に、現代日本映画を紹介するため、以下を上映 10. 10. 29 『アヒルと鴨のコインロッカー』 (中村義洋、2006) 10. 11. 26 『鏡心』 (石井聰互、2005)
31	日本映画上映会 (第3~第4四半期)	モスクワ	国立東洋美術館レクチャーホール	国立東洋美術館 (The State Museum of Oriental Art) 国立中央映画博物館 (ムゼイ・キノ:The State Central Cinema Museum)	2010. 12. 21 ~ 2011. 03. 08	在ロシア大使館所蔵のロシア語フィルム・ライブラリーから、以下の作品を上映 10. 12. 12 『15才 学校4』 (山田洋次、2000) 11. 01. 11 『どこまでもいこう』 (塩田明彦、1999) 11. 01. 18 『NAGISA』 (小沼勝、2000) 11. 02. 08 『森の学校』 (西垣吉春、2002) 11. 02. 15 『ごめん』 (富樫森、2002) 11. 03. 08 『がんばっていきまっしょい』 (磯村一路、1998) 11. 03. 15と03. 29の上映会は、東日本大震災の影響で中止
32	黒澤明監督『夢』上映会	モスクワ	ロシア国立外国文献図書館大ホール		2010. 12. 24	黒澤明 (映画監督) 『夢』 (DVD版) を上映
33	現代日本映画上映会 (第4四半期)	モスクワ	ロシア国立外国文献図書館大ホール		2011. 01. 28 ~ 2011. 02. 25	一般市民を対象に、現代日本映画を紹介するため、以下の作品を上映 11. 01. 28 『ウィニングパス』 (中田新一、2004) 11. 02. 25 『遠くの空に消えた』 (行定勲、2007) 3月の上映会は、東日本大震災の影響で中止

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
34	無声映画コンサート（日本映画上映会）	モスクワ	ロシア国立外国文献図書館大ホール		2011. 02. 16	一般市民を対象に、「日本無声映画名作館」より『江戸怪賊傳 影法師』（二川文太郎、1925）を、ロシア語字幕つきで上映。ロシア人音楽家、マラル・ヤクシエヴァ（YAKSHIEVA, Maral：ピアノ）の演奏とアントン・ヤホントフ（YAKHONTOV, Anton：コンピューター）による電子音楽の伴奏をつけて上映
35	映画上映会（ロシア映画人同盟）	モスクワ	ロシア映画人同盟ドム・キノ	ロシア映画人同盟（The Union of Cinematographers of the Russian Federation）	2011. 03. 02 ～ 2011. 03. 03	在ロシア大使館ロシア語フィルム・ライブラリーの所蔵作品から、三島由紀夫原作の以下の2作品を上映 11. 03. 02 『春の雪』（行定勲、2005） 11. 03. 03 『炎上』（市川崑、1958）

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
36	図書館運営	2010. 04. 01 ～ 2011. 03. 31	日本語及び日本文化全般に関心を持つ幅広い層のロシア人の利用を想定した集書を行い、利用に供している ①所蔵資料合計： 8,846点 （内訳：図書6,974冊、視聴覚資料数936点） ②利用者数（年間）： 3,183名 ③貸出点数（年間）： 1,885点 ④レファレンス件数（年間）： 1,242件

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
37	ウェブサイト運営	2010. 04. 01 ～ 2011. 03. 31	モスクワ日本文化センターの実施事業の広報、図書館情報、日本語事業情報、国際交流基金助成プログラム、Japanese Book Newsのロシア語訳などを掲載 URL: http://www.jpfmw.ru/ アクセス件数（年間）： 133,517件

【教室事業】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
38	日本文学セミナー（第1四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 04. 02 ～ 2010. 06. 25	『源氏物語』の翻訳で著名な、タチヤーナ・ソコロヴァ＝デリューシナ（SOKOLOVA-DELUSINA, Tatiana：日本文学研究者／日本語教師）を講師に迎え、『伊勢物語』、『枕草子』、『古事記』などの古典から、太宰治、芥川龍之介、夏目漱石などの近・現代作家など、さまざまな文学テキストを講読

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
39	将棋講座（第1四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 04. 03 ～ 2010. 06. 26	棋士連盟から講師イーゴリ・シネリコフ（SINELKOV, Igor）を迎え、毎週土曜日に将棋講座を実施
40	折り紙講座（第1四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 04. 03 ～ 2010. 06. 26	モスクワの子供折り紙センターより講師ゾーヤ・チャシヒナ（CHASHCHIKHINA, Zoya）を招き、毎週土曜日に折り紙講座を実施
41	茶道講座（第1四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 04. 06 ～ 2010. 06. 15	モスクワにある表千家のエカテリーナ・ミーニナ（MININA, Ekaterina）、裏千家のアナスタシア・クドリャショヴァ（KUDRYASHOVA, Anastasia）講師が茶道講座を実施 表千家：毎月第1・3火曜日 裏千家：毎月第1・3日曜日
42	生け花講座（第1四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 04. 07 ～ 2010. 06. 23	生け花の各流派の講師、草月のタチヤーナ・リモナエヴァ（LIMONAEVA, Tatiana）、池坊のナジェジュダ・クズネツォヴァ（KUZNETSOVA, Nadezhda）が生け花講座を実施 草月：毎月第1・4水曜日 池坊：毎月第2・3木曜日
43	日本理解講座（第1四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター ロシア国立外国文献図書館 楕円形ホール		2010. 04. 21 ～ 2010. 06. 16	日本文化の研究者・専門家などによる、以下の講座を実施 10. 04. 21 「現代歌舞伎のスーパースター：女形坂東玉三郎」 講師：ニーナ・アナーリナ（ANARINA, Nina：芸術学博士） 10. 05. 19 「日本の学校教育システムの印象。教師の家庭での一日」 講師：ヴィクトリア・オスタペンコ（OSTAPENKO, Victoria：第1535番学校副校長） 10. 05. 25 「芭蕉と西行の俳句について」 講師：山田みどり（生け花池坊流） 10. 06. 16 「北野武の映画について」 講師：アントン・ドーリン（DOLIN, Anton：映画ジャーナリスト）
44	書道講座（第1四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 04. 28 ～ 2010. 06. 23	モスクワ在住の石嶋かおり（書道師範）による、書道講座を実施。初心者を対象に、1クラス5回のコースを2クラス開講
45	卒業記念合同イベント	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 06. 05	折り紙、生け花、茶道、書道、将棋の各講座の講師と生徒が、デモンストレーション、ワークショップを実施するとともに、日本語講座参加者による日本語コンテスト、書道講座参加者による書道コンテスト、将棋大会、カラオケ大会を実施
46	日本の歌講座（第2四半期）	モスクワ	第1535番リセ		2010. 07. 01 ～ 2010. 09. 27	モスクワ在住の曾又ひとみ（オペラ歌手）を講師に、日本の歌講座を実施
47	墨絵講座（第2四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 07. 13 ～ 2010. 07. 17	夏休み特別企画として、日本の墨絵コンクールに入賞経験のあるオリガ・セリヴァノヴァ（SELVANOVA, Olga）を講師に迎え、全5回の墨絵講座を実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
48	小物講座	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010.07.20 ~ 2010.07.24	夏休み特別企画として、全5回の小物講座を実施。桜模様の鞆キーホルダー、菊のブローチ、小さいマスコット、アクセサリー入れ、楕形ブローチを作成
49	生け花講座（第2四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010.09.01 ~ 2010.09.23	生け花の各流派の講師、草月のタチヤーナ・リモナエヴァ（LIMONAEVA, Tatiana）、池坊のナジェジュダ・クズネツォヴァ（KUZNETSOVA, Nadezhda）が生け花講座を実施 草月：毎月第1・4水曜日 池坊：毎月第2・3木曜日
50	日本文学セミナー（第2四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010.09.03 ~ 2010.09.24	『源氏物語』の翻訳で著名な、タチヤーナ・ソコロヴァ=デリューシナ（SOKOLOVA-DELUSINA, Tatiana：日本文学研究者／日本語教師）を講師に迎え、『伊勢物語』、『枕草子』、『古事記』などの古典から、太宰治、芥川龍之介、夏目漱石などの近・現代作家など、さまざまな文学テキストを講読
51	日本理解講座（第2四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010.09.04 ~ 2010.09.22	日本文化の研究者・専門家などによる、以下の講座を実施 10.09.04「トルストイと日本」デイヴィス・ふみ子（作家／翻訳家） 10.09.22「日本の演歌・歌謡曲とロシア民謡」森谷理沙（音楽研究者）
52	将棋講座（第2四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010.09.04 ~ 2010.09.25	棋士連盟から講師イーゴリ・シネリコフ（SINELKOV, Igor）を迎え、毎週土曜日に将棋講座を実施
53	折り紙講座（第2四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010.09.04 ~ 2010.09.25	モスクワの子供折り紙センターより講師ゾーヤ・チャシヒナ（CHASHCHIKHINA, Zoya）を招き、毎週土曜日に折り紙講座を実施
54	茶道講座（第2四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010.09.07 ~ 2010.09.21	モスクワにある表千家のエカテリーナ・ミーニナ（MININA, Ekaterina）、裏千家のアナスタシア・クドリャショヴァ（KUDRYASHOVA, Anastasia）講師が茶道講座を実施 表千家：毎月第1・3火曜日 裏千家：毎月第1・3日曜日
55	書道講座（第2四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010.09.15 ~ 2010.09.29	モスクワ在住の石嶋かおり（書道師範）による、書道講座を実施。初心者を対象に、1クラス5回のコースを2クラス開講 第1回目：10.09.15 第2回目：10.09.29
56	日本文学セミナー（第3四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010.10.01 ~ 2010.12.24	『源氏物語』の翻訳で著名な、タチヤーナ・ソコロヴァ=デリューシナ（SOKOLOVA-DELUSINA, Tatiana：日本文学研究者／日本語教師）を講師に迎え、『伊勢物語』、『枕草子』、『古事記』などの古典から、太宰治、芥川龍之介、夏目漱石などの近・現代作家など、さまざまな文学テキストを講読
57	将棋講座（第3四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010.10.02 ~ 2010.12.25	棋士連盟から講師イーゴリ・シネリコフ（SINELKOV, Igor）を迎え、毎週土曜日に将棋講座を実施

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
58	折り紙講座（第3四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 10. 02 ～ 2010. 12. 25	モスクワの子供折り紙センターより講師ゾーヤ・チャシヒナ（CHASHCHIKHINA, Zoya）を1名招いて、毎週土曜日に折り紙講座を実施
59	日本の歌講座（第3四半期）	モスクワ	第1535番リセ		2010. 10. 04 ～ 2010. 12. 20	モスクワ在住の曾又ひとみ（オペラ歌手）を講師に、日本の歌講座を実施
60	茶道講座（第3四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 10. 05 ～ 2010. 12. 21	モスクワにある表千家のエカテリーナ・ミーニナ（MININA, Ekaterina）、裏千家のアナスタシア・クドリャシヨヴァ（KUDRYASHOVA, Anastasia）講師が茶道講座を実施 表千家：毎月第1・3火曜日 裏千家：毎月第1・3日曜日
61	生け花講座（第3四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 10. 06 ～ 2010. 12. 22	生け花の各流派の講師、草月のタチヤーナ・リモナエヴァ（LIMONAEVA, Tatiana）、池坊のナジェジュダ・クズネツォヴァ（KUZNETSOVA, Nadezhda）が生け花講座を実施 草月：毎月第1・4水曜日 池坊：毎月第2・3木曜日
62	書道講座（第3四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 10. 13 ～ 2010. 11. 10	モスクワ在住の石嶋かおり（書道師範）による、書道講座を実施。初心者を対象に、1クラス5回のコースを2クラス開講。第2四半期に引き続き実施 第3回目：10. 10. 13 第4回目：10. 10. 27 第5回目：10. 11. 10
63	墨絵講座（第3四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 10. 13 ～ 2010. 12. 08	日本の墨絵コンクールに入賞経験のあるオリガ・セリヴァノヴァ（SELVANOVA, Olga）を講師に迎え、夏休み特別企画として好評であった墨絵講座を再び全5回実施
64	日本理解講座（第3四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2010. 10. 20 ～ 2010. 12. 22	日本文化の研究者・専門家などによる、以下の講座を実施 10. 10. 20 「長野 伝統と現代」 講師：オレーシャ・ベッソノワ（BESSONOVA, Olesya：モスクワ大学アジア・アフリカ諸国大学講師） 10. 11. 24 「日本文化に反映された自然」 講師：アレクサンドル・メシュリャコフ（MESHCHERYAKOV, Aleksandr：ロシア国立人文大学教授） 10. 12. 08 「日本の革新と日露協力」 講師：今村朗（在ロシア大使館公使） 10. 12. 16 「博報財団 第3回海外児童日本体験プログラム」 講師：オクサナ・バジュリキナ（BAZYULKINA, Oxana：日本語教師） 10. 12. 22 「日本の広告：過去と現在」 講師：楯岡求美（神戸大学准教授）

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
65	日本理解講座（第4四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2011.01.08 ～ 2011.03.02	日本文化の研究者・専門家などによる、以下の講座を実施 11.01.08「もうひとつのジャポニズム 伊勢型紙とモダンデザイン」 講師：生田ゆき（三重県立美術館学芸員） 11.02.17「ロシアの東洋学者ニコライ・ネフスキー—琉球文化研究者」 講師：エヴゲニー・バクシェエフ（BAKSHEEV, Evgeny：文化学博士） 11.03.02「俳句からみた日本」 講師：扇千恵（大阪大学非常勤講師／同志社大学非常勤講師）
66	茶道講座（第4四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2011.01.11 ～ 2011.03.15	モスクワにある表千家のエカテリーナ・ミーニナ（MININA, Ekaterina）、裏千家のアナスタシア・クドリャショヴァ（KUDRYASHOVA, Anastasia）講師が茶道講座を実施 表千家：毎月第1・3火曜日 裏千家：毎月第1・3日曜日
67	生け花講座（第4四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2011.01.13 ～ 2011.03.30	生け花の各流派の講師、草月のタチヤーナ・リモナエヴァ（LIMONAEVA, Tatiana）、池坊のナジェジュダ・クズネットソヴァ（KUZNETSOVA, Nadezhda）が生け花講座を実施 草月：毎月第1・4水曜日 池坊：毎月第2・3木曜日
68	日本文学セミナー（第4四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2011.01.14 ～ 2011.03.25	『源氏物語』の翻訳で著名な、タチヤーナ・ソコロヴァ＝デリューシナ（SOKOLOVA-DELUSINA, Tatiana：日本文学研究者／日本語教師）を講師に迎え、『伊勢物語』、『枕草子』、『古事記』などの古典から、太宰治、芥川龍之介、夏目漱石などの近・現代作家など、さまざまな文学テキストを講読
69	将棋講座（第4四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2011.01.15 ～ 2011.03.26	棋士連盟から講師イーゴリ・シネリコフ（SINELKOV, Igor）を迎え、毎週土曜日に将棋講座を実施
70	折り紙講座（第4四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2011.01.15 ～ 2011.03.26	モスクワの子供折り紙センターより講師ゾーヤ・チャシヒナ（CHASHCHIKHINA, Zoya）を招き、毎週土曜日に折り紙講座を実施
71	日本の歌講座（第4四半期）	モスクワ	第1535番リセ		2011.01.24 ～ 2011.03.28	モスクワ在住の曾又ひとみ（オペラ歌手）を講師に、日本の歌講座を実施
72	書道講座（第4四半期）	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2011.02.02 ～ 2011.03.16	モスクワ在住の石嶋かおり（書道師範）による書道講座を実施。初心者を対象に、1クラス5回のコースを2クラス開講 1回目：11.02.02 2回目：11.02.16 3回目：11.03.02 4回目：11.03.16 5回目：都合により中止

海外拠点

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
73	第3回全ロシア俳句コンクール	モスクワ	ロシア国立外国文献図書館 楕円形ホール	ハイクメナ (Haikumena)	2010. 06. 15 ～ 2010. 12. 11	ハイクメナ(Haikumena)と共催でWebサイト上で俳句を募集(10. 06. 15～10. 09. 30)。3,100句の応募があり、応募作品の中から、編集者が第1次選考を行いサイトに掲載し、一般からの人気投票を実施。最終的に、審査員によって、俳句の部と川柳の部それぞれ10句の優秀作品と20句の入賞作品を選考。またそれぞれの部で2句ずつサイトの人気投票で選ばれた読者賞を決定し、表彰(10. 12. 11表彰式)。俳句コンクールの入賞作品は、2011年第1四半期に(『全ロシア俳句コンクール作品集1998～2010』I. B. ベールイ出版社、2011)として出版
74	子供絵画コンクール	モスクワ	モスクワ日本文化センター	民話雑誌 (Jurnal ckazok)	2010. 08. 01 ～ 2010. 12. 31	月刊で各国の民話を紹介している民話雑誌(Jurnal ckazok)と共催し、モスクワ日本文化センターのウェブサイト及び『民話雑誌』8月号にて、高校生以下を対象に絵画を募集。ロシア国内のみならず、ベラルーシ、ウクライナ、イスラエルなどの海外の子供たちからも応募があり、予想を大幅に超え応募総数は3,366点。リュドミラ・ブルンツォヴァ(PRUNTSOVA, Lyudmila: 民話雑誌編集長)及びエレナ・ドロノヴァ(DRONOVA, Elena: イラストレーター)に審査を依頼し、入賞作品414点を決定。入賞作品、応募作品は『民話雑誌』誌上で公表しただけでなく、全作品を、モスクワ日本文化センターのウェブサイトに掲載。ギャラリー「リストック」で作品展も実施(11. 05. 25～11. 06. 24)
75	第2回日本大使杯将棋大会	モスクワ	モスクワ日本文化センター	棋士連盟(The Union of Players of Japanese Chess “Shogi”) 在ロシア大使館	2010. 10. 16 ～ 2010. 10. 17	初級者も含めた将棋大会を2日間にわたって実施。初級者もレーティングを得られるように、経験者と対戦。全体の1位から3位、そして、初級者第1位、女性第1位を決定。大使杯受賞者はアレクサンドル・レヴィト(LEVIT, Aleksandr: 技師)
76	国際交流基金フェロー交流会	モスクワ	モスクワ日本文化センター		2011. 03. 20	国際交流基金の元・フェローを招いて交流会を実施。交流会では、国際交流基金本部事業日本研究フェローシップ・フェロー交流会における記念講演実施のため派遣された沼野充義(東京大学教授)による記念講演「春樹VSカラマーズフー現代日本文学における偉大なロシア文学の影一」を実施。参加者は20名

海外拠点

カイロ日本文化センター

合計額 36,785,599 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	カイロ・ビエンナーレ奈良美智特別展	カイロ	EL BAB GALLERY	エジプト文化省	2010.12.12 ~ 2011.02.12	第12回カイロ・ビエンナーレの特別招待アーティストとして日本の奈良美智が指名され、開会式への作家派遣及び同氏の絵画と彫刻の特別展を実施

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
2	AGA-SHIO公演	カイロ	カイロオペラハウス小ホール	カイロオペラハウス	2010.06.08	上妻宏光（津軽三味線奏者）と元オルケスタ・デ・ラ・ルスの塩谷哲（ピアニスト）のデュオ・コンサートをカイロ・オペラハウスにて実施

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
3	アレキサンドリア凧ワークショップ	アレクサンドリア	イスアーフ公園	アレキサンドリア図書館	2010.06.04	毎年夏にアレキサンドリア図書館が行っている子供向けフェスティバルにカイロ日本文化センタースタッフが参加、凧や折り紙、オセロを通じて日本文化を紹介。アレキサンドリア図書館が手配したエジプト人ボランティアと協力して日本文化紹介を行ったところ、参加した子供たちだけでなくボランティア・スタッフも折り紙や凧作りを覚え、日本文化に興味を抱く相乗効果もあった
4	第2回JENオープンサロン「文化としてのヒロシマ」講演会	カイロ	在エジプト大使館多目的ホール	在エジプト大使館	2010.10.17	日本・エジプト間の文化交流促進を目的とした有志の団体Japan Egypt Network (JEN)が開催する公開イベントの第2回目。外務省外国報道関係者招へいプログラムで広島を視察したアムル・ガラール (Amr Galal: アフパール紙記者) 及び、カイロの民間文化施設として主要な役割を果たしているEl Sawy Culturewheel創設者のムハンマド・エルサウィー (Mohamed El Sawy) による講演会を実施。日本語学習者による意見発表、エジプト風刺漫画家協会メンバーによるヒロシマをテーマにした風刺漫画展を組み合わせ、ヒロシマを自身の問題として考えてもらう機会を提供
5	日本映画祭Hiroshima関連事業 田邊雅章特別授業	カイロ	Shorouk School	Shorouk School	2010.10.20	映像制作者であり、被爆体験者でもある田邊雅章が、カイロ市内の私立学校シュルーク・スクールにて特別授業を実施。対象は同校の中学・高校生約30名で、同氏制作のDVDを鑑賞した後、質疑応答形式で核兵器の恐ろしさ、平和の大切さについて考える機会を提供
6	日本映画祭Hiroshima関連事業 田邊雅章特別講演会	カイロ	El Sawy Culturewheel	El Sawy Culturewheel	2010.10.22	映像制作者であり、被爆体験者でもある田邊雅章の作品上映及び講演を、カイロの民間文化施設 El Sawy Culturewheelにて実施。約200名が参加。広く一般の参加者に核兵器の恐ろしさ、平和な世界の実現について考える機会を提供。講演の後、アニメ映画『はだしのゲン』を上映

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
7	講演会「日本の宗教」	カイロ	カイロ日本文化センター図書館		2010. 11. 07	今井雅晴（筑波大学名誉教授／アインシャムス大学客員教授）による日本の宗教に関する概説講演会（日本語、アラビア語逐次通訳付）を実施。同教授の専門は日本中世思想史。カイロ大学やカイロ日本文化センター日本語講座の学習者等、会場の図書館スペースが満席となる約70名が参加、分かりやすい説明に参加者より高い満足度を得られた
8	第4回JENオープンサロン「日本の食文化」講演会	カイロ	在エジプト大使館多目的ホール	在エジプト大使館	2010. 11. 25	日本・エジプト間の文化交流促進を目的とした有志の団体 Japan Egypt Network (JEN) が開催する公開イベントの第4回目。国際交流基金本部の「日本文化紹介派遣(主催)」事業の一環としてシリアとエジプトを巡回。藤田貴子(和食料理人)他が、駐エジプト大使公邸料理人と共に、エジプト人ジャーナリストらを対象に、寿司等の日本の食文化に関するレクチャー・デモンストレーションを実施。120名を超えるエジプト人が参加

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
9	図書館運営	2010. 04. 01 ～ 2011. 03. 31	<p>日本に関心のある人々にとって魅力的な図書館を目指し、英語・アラビア語の日本文化紹介図書、日本語学習者向けの教材、日本研究者向けの人文・社会科学関係の専門書及び一般向けの雑誌等、幅広く現代日本文化関連書籍を集書し提供する図書館を運営。週5日間開館（金・土曜日休館）</p> <p>①所蔵資料合計： 3,614点 （内訳： 和書1,705冊、洋書1,300冊、視聴覚資料数609点）</p> <p>②利用者数（年間）： 4,206名 ③貸出点数（年間）： 660点 ④レファレンス件数（年間）： 40件</p>

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
10	ウェブサイト運営	2010. 04. 01 ～ 2011. 03. 31	<p>カイロ日本文化センターのウェブサイトを定期更新し、イベント情報の広報、講座の募集などを掲載</p> <p>URL: http://jfcairo.org/ アクセス件数（年間）： 89,823件</p>

海外拠点

	事業名	期間	事業内容
11	ニューズレター発行	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ニューズレター <i>Waves</i> 第13号の発行。3,000部。英語・アラビア語併記で、エジプトのみならず在外公館を通じてアラビア語圏全体に発信。第13号は、カイロ日本文化センターで実施している囲碁教室の案内と併せ、将棋や双六など、日本のボードゲームを紹介、また『基礎日本語学習辞典』アラビア語版の発行やモロッコにおける日本語教育事情等の特集

【教室事業】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
12	囲碁講座（平成22年度前期）	カイロ	カイロ日本文化センター 図書館		2010.04.01 ~ 2010.07.29	毎月第1・第3木曜日18時から20時、カイロ日本文化センター図書館にて基会所形式で開催。参加者がルールを覚え自立するまでの間は、囲碁の指導経験のある在留邦人が講師としてボランティアでルール・基本的なうちかたを指導
13	生け花講座（初級：第20回、21回、 中級：第22回、23回）	カイロ	カイロ日本文化センター 図書館		2010.04.12 ~ 2011.03.14	年間初級2回（10.04.12~05.17、10.05.31~06.28）、中級2回（10.10.11~11.08、10.01.17~11.03.14：革命のため一時休講）の4コースを実施。各コースは、期間中毎週月曜日の18時から19時、全5回。講師は、エジプト在住の町田一甫（町田一枝：未生流中山文甫会）
14	折り紙講座	カイロ	El Sawy Culturewheel	El Sawy Culturewheel	2010.07.07 ~ 2011.03.29	一般成人向けの折り紙教室をカイロの民間文化施設であるEl Sawy Culturewheelのアクティビティ・コースの1つとして実施。山折りや谷折りの基本から始め、多少複雑な作品を折れるまで、1回2時間の計3回コースとして、年間2回、（7月と3月）、各回約30名を対象に実施。参加者の高い満足度と折り紙への継続的な関心を得た

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
15	秋のお茶会	カイロ	カイロ日本文化センター3階 A教室	カイロ茶道 同好会	2010.10.26	在留邦人夫人を中心とするカイロ茶道同好会と共催でお茶会を実施（例年秋と春の2回実施しているが、本年度については2011年1月のエジプト革命を受け、春のお茶会は中止）。カイロ大学、アインシャムス大学、カイロ日本文化センター日本語講座の学習者、カイロ駐在外国大使館関係者など、招待客84名が参加し、お点前を見学・体験

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
16	全エジプト美術論文発表シンポジウム	アシュート大学 (Assiut University)	2010.11.01 ~ 2010.11.03	エジプト文化省とアシュート大学が主催する全エジプト美術論文発表会議に対し、伊部京子（和紙アーティスト）を審査員として招へいするための国際航空賃の一部を助成

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
17	津島佑子著『光の領分』演劇公演	ライティング・グループ (Lighting Group)	2010. 11. 21	アレキサンドリアを拠点に活躍する演出家、シェリフ・ハムディ (Sherif Hamdy) がエジプトを舞台に戯曲化した津島佑子の小説『光の領分』の演劇公演に対して経費の一部を助成

海外拠点

ベトナム日本文化交流センター

合計額 50,233,716 円

(1) 主催・共催事業

【展示】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	CAMAMOTO <i>On Each Milestone</i> 展	ハノイ	ベトナム日本文化交流センター展示ホール		2010.07.23 ~ 2010.08.03	2009年にトーキョーワンダーサイトに滞在していたホアン・ズオン・カム (Hoang Duong Cam:アーティスト) と山本高之 (ヴィジュアル・アーティスト) により結成されたアート・ユニット「CAMAMOTO」による新作展示。ベトナムを南から北上しながら、架空の双子を演じる二人をロードムービー風に撮影した短編ビデオを制作し、上映するとともに、オープニングではパフォーマンスを行った
2	YuRiEコスプレ写真展&パフォーマンス (Active Expo 2010参加)	ハノイ	ベトナム日本文化交流センター展示ホール ハノイ児童宮 野外広場	Vietnam Social Media Corporation (VSMC) 在ベトナム大使館 Animation & Comic Community (ACC)	2010.09.11 ~ 2010.09.23 2010.09.12	世界コスプレサミット2009優勝者及び日本代表経験者の日本人コスプレイヤー、因幡☆優里、愛華しぐまを招へいし、コスプレ写真とビデオ作品の展示を行うとともに、Active Expo 2010 において、コスプレ大会の審査員を務め、コスプレパフォーマンスを披露。また、同イベントに国際交流基金ブースを設置し、日本の玩具、雑誌、折り紙、癒し系ロボット『パロ』等日本文化を紹介。Expo来場者数は、延べ1万人

【公演】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
3	いいむろなおき『マイムの時間』公演	ハノイ フエ	青年劇場 ロイヤルシアター	青年劇場 フエ・フェスティバル・センター	2010.06.02 ~ 2010.06.07	数々の賞を受賞し、その実力とオリジナリティに定評のあるいいむろなおき (マイム俳優) のソロ公演及びワークショップをハノイ (ハノイ遷都千年記念行事の一環) 及びフエ (フエ・フェスティバルへの協力事業) で実施
4	桂歌蔵・英語落語公演		ハノイ国家大学人文社会科学大学E棟8階ホール ベトナム軽音楽舞踊劇場		2010.10.19 ~ 2010.10.20	桂歌蔵 (落語家) が、①英語落語、②ベトナム語字幕付日本語落語を披露。『時そば』『権助魚 (ごんすげごかな)』など古典落語を上演したほか、創作落語として、『寿限無』ラップバージョン、『頭山』ロックバージョンのビデオを上映

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
5	斎賀みつき <i>feat. JUST</i> トーク & ミニライブ	ハノイ	国立映画センター		2011. 01. 14	日本アニメーション映画祭関連事業として、2010年の声優アワードで海外ファン賞を受賞した斎賀みつき（声優）によるトーク & ミニライブを実施。トークでは、声優の仕事の魅力について語るとともに、ミニライブでは、西岡和哉（作曲家）とユニットを組み、「斎賀みつき <i>feat. JUST</i> 」としてオリジナル曲「ASK」等を披露

【講演・シンポジウム】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
6	いけばな紹介事業（第1回）	ハノイ	ベトナム女性博物館	文化庁（日本）	2010. 09. 14 ～ 2010. 09. 21	平成22年度文化庁文化交流使、佐々木康人（池坊講師／華道家）によるいけばなワークショップ及びレクチャー・デモンストレーションを計12回実施
7	いけばな紹介事業（第2回）	ダナン ハノイ ハノイ	東アジア大学 国立映画センター1階ロビー 文廟	文化庁（日本）	2010. 10. 31 ～ 2010. 11. 14	平成22年度文化庁文化交流使、佐々木康人（池坊講師／華道家）によるいけばなレクチャー・デモンストレーションのダナンにおける実施、ハノイでは日本映画祭（ベトナム日本文化交流センター主催事業）会場におけるいけばな作品展示ならびに文廟における献花式を実施
8	ふろしき紹介事業	ハノイ フエ ホイアン ダナン	ベトナム日本文化交流センター ヴィエットドゥック高校 ハノイ大学 フエ外国語大学 フエ文化スポーツセンター ファンチャウチン大学 ホイアン文化スポーツセンター ダナン外国語大学 ダナン外務局	ふろしき研究会（日本）	2011. 03. 01 ～ 2011. 03. 14	日本から半田博子と山本陽子の2名の専門家を招へいし、ベトナムの北部、中部、南部の5都市で、ふろしき紹介のワークショップを計28回実施。ハノイでは、学生のためのふろしき国際デザインコンテストの最優秀賞受賞者ファン・カイン・チャン（Phan Khanh Trang：フエ芸術大学）等の記者発表とふろしき展示会を同時開催。伝統的及び現代的な包み方を披露しふろしきの魅力を紹介。またエコプロダクトとしての関心を高めるとともに、ベトナム人がデザインした現地製作のふろしきを配布

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
		ホーチミン	ホーチミン人文社会科学大学 チュンヴオン高校 ホンバン大学 レクイドン高校 外国語情報大学 ホーチミン師範大学 ヴァンヒエン大学 マリーキュリー高校			
9	小野正嗣講演会	ハノイ フエ ホーチミン	ベトナム社会科学学院 ベトナム文学院 フエ作家協会 フォンナム・カフェ 土曜カフェ ホーチミン市人文社会科学大学	フエ作家協会	2011. 03. 08 ～ 2011. 03. 12	小野正嗣（作家）を招へいし、「現代日本の小説～村上春樹を手がかりにして」と題する講演会を実施するとともに、ベトナムの作家、日本研究者、評論家を中心とする有識者との意見交換会を実施。意見交換会では、同氏の代表作『にぎやかな湾に背負われた船』をベトナム語に翻訳し、参考資料として配布

海外拠点

【映画】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
10	第1回ベトナム国際映画祭	ハノイ	国立映画センター プラティナム・シネプレックス メガスター	ベトナム文化・スポーツ・観光省 ベトナム・メディア・コーポレーション	2010. 10. 17 ～ 2010. 10. 21	ベトナム文化スポーツ観光省主催の第1回ベトナム国際映画祭に対し、アニメ映画『サマーウォーズ』（細田守、2009）、『時をかける少女』（2006）の出品協力を行うとともに、コンペティション部門出品作品『ハナミズキ』（2010）の監督、土井裕泰（どい・のぶひろ）の招へいに協力
11	映画『ノルウェイの森』試写会	ハノイ	メガスター	ギャラクシー・スタジオ	2010. 12. 22	村上春樹原作、トラン・アン・ユン(Tran Anh Hung)監督、松山ケンイチ主演の映画『ノルウェイの森』の試写会をプレス記者及び映画関係者、文化人等を対象に行うとともに、同監督によるティーチインを実施
12	日本アニメーション映画祭～発見！日本アニメーションの魅力～	ハノイ	国立映画センター	文化庁	2011. 01. 12 ～ 2011. 01. 16	『カラフル』（原恵一、2010）、『REDLINE』（小池健、2010）、『千と千尋の神隠し』（宮崎駿、2001）など、2000年以降に製作された話題作8本をベトナム語字幕付で上映するとともに、原恵一、片渕須直、アミノテツロの3名の監督、丸山正雄（マッドハウス・プロデューサー）を招へいし、舞台挨拶及びアニメ関係者との意見交換を実施

【図書館運営】

	事業名	期間	事業内容
13	図書館運営	2010. 04. 01 ～ 2011. 03. 31	現代日本を紹介する書籍（社会科学、人文学、芸術、日本語教育等）、雑誌、新聞、マンガ（ベトナム語翻訳版）を開架方式で配架し、図書館サービスを提供 ①所蔵資料合計：2,038点（内訳：図書1,949冊、DVD89点） ②利用者数（年間）：4,165名 ③貸出点数（年間）：1,441点 ④レファレンス件数（年間）：34件

【出版・広報】

	事業名	期間	事業内容
14	ウェブサイト運営	2010. 04. 01 ～ 2011. 03. 31	ベトナム日本文化交流センターの文化・芸術、日本語、日本研究・知的交流の各種イベント、事業案内のほか、文化人に対するインタビューや告知記事をベトナム語、日本語、英語で掲載 URL：http://jpf.org.vn/ アクセス件数（年間）：102,610件

海外拠点

	事業名	期間	事業内容
15	若手・中堅ベトナム人文化人招へい・記者報告会	2010.04.08	平成21年度に実施した「ベトナム中央文学芸術協会連合会グループ」（文学、映画、音楽、舞台、アニメ、建築、ジャーナリズムで活躍する若手・中堅文化人11名を日本に招へい（10.03.28～04.07））。一行の帰国直後にプレス向けに会見を行ったほかベトナム人と日本人との懇談会を実施

【その他】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
16	ホイアン日本祭2010	ホイアン	ホイアン市 旧市街各地	ホイアン市 在ベトナム大使館 国際協力機構（JICA） 堺市 昭和女子大学	2010.08.21 ～ 2010.08.22	ホイアン市主催第8回ホイアン日本祭において、各関係機関の文化紹介イベントのコーディネートを行うとともに、浴衣着付、癒し系ロボット『パロ』の展示、折り紙、茶道、琴公演の各ブースを設置し、野外ステージでは大阪府堺市の子ども獅子舞及び島根県大田市の石見神楽の公演を実施

【本部事業受入】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
17	巡回展「未来への回路ー日本の新世代アーティスト」展	ハノイ フエ ホーチミン	エキシビジョン・ハウス「29ハン・バイ」 フエ市ホーチミン博物館 ホーチミン市労働文化会館	エキシビジョン・ハウス「29ハン・バイ」 フエ市ホーチミン博物館 フエ市友好協会連盟 ホーチミン市労働文化会館 在ホーチミン総領事館	2010.05.14 ～ 2010.07.24	東芋、明和電機、須田悦弘など、気鋭の若手日本人アーティスト11組の作品42点をハノイ、フエ、ホーチミンの3都市で展示し、日本の現代アート的一端を紹介
18	「世界一の癒しロボット『パロ』とロボットセラピー」レクチャー・デモンストレーション	ハノイ	ハノイ工科大学		2010.09.29	癒し効果のあるロボット「パロ」の開発者である柴田崇徳（産業技術総合研究所）を招へいし、「パロ」に関するレクチャー・デモンストレーションを実施。また「パロ」をホイアン日本祭2010、Active Expo 2010 においても紹介

海外拠点

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
19	日本映画祭2010～千年祭を祝して～	ニャチャン ハイフォン ハノイ ホーチミン	ホアン・ホア・タム10シネマ 5月1日シネマ 国立映画センター BHDスターシネマ	ハイフォン市 外交局 在ホーチミン 総領事館 BHD社	2010. 10. 08 ～ 2010. 11. 10	平安時代を舞台にした名作『山椒大夫』、『羅生門』、『時』に関わる近年の話題作『夕風の街、桜の国』、『トニー滝谷』、『秒速5センチメートル』、『ハッピーフライト』、『明日の記憶』、『下妻物語』を選定し上映（ベトナム語吹替版）。ハノイでは、連携事業として、佐々木康人（池坊華道会／文化庁文化交流使）による「いけばな」展を国立映画センターのロビーにて開催
20	かりん&カルテット現代邦楽公演	ハノイ	青年劇場 ベトナム音楽院		2010. 12. 08 ～ 2010. 12. 09	かりん(25絃箏)、小濱明人(尺八)、石塚まみ(ピアノ)、アキーラ・サンライズ(パーカッション)のカルテットが、かりんのオリジナル曲を中心に演奏するとともに、一部ヴァネッサ・ヴォー (Vanessa Vo : 16絃箏)、トゥ・フエン (Thu Huyen : チェオ歌手) を客演に迎え、ベトナムの伝統曲をかりん&カルテットの編曲にて競演。また、ベトナム音楽院の学生を対象に、ワークショップを実施
21	大学生のための日本研究基礎文献セミナー	ハノイ フエ ホーチミン	ベトナム国家大学附属人文社会科学大学 フエ外国語大学 ホーチミン市人文社会科学大学		2011. 02. 25 ～ 2011. 02. 28	栗田淳子(国際交流基金JFIC Library主任司書)を招へいし、日本を知るための基礎情報の在り処やポータルサイト、論文検索のためのデータベース・サイトをスライド資料を使って紹介。各サイトの使い方を具体的に手順を追って説明。また各都市とも、受入機関の教授(講師)が、ベトナムでの日本研究の状況、ベトナム語文献の紹介等を実施

(2) 助成・協力事業

【助成事業】

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
22	IN: ACT - International Performing Arts Event	ニャーサン・スタジオ	2010. 08. 09 ～ 2010. 08. 14	ニャーサン・スタジオ主催の国際パフォーマンスアート事業「IN: ACT」に対し、その経費の一部を助成。タイ、ミャンマー等アジアを中心に世界各国から10名（日本からは福島佳奈）が参加。ベトナム人パフォーマーと意見交換を行い、フィールドツアーを行うとともに、米粒を全身に浴びるパフォーマンス等各自のパフォーマンスを披露した

海外拠点

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
23	国際シンポジウム「ベトナム・日本戦略パートナーシップ構築：内容及び道のり」	ベトナム社会科学学院	2010. 11. 03 ～ 2010. 11. 04	ベトナム社会科学学院主催の国際シンポジウムに対し、経費の一部を助成。「政治・外交」「経済協力」「文化交流」「科学・教育」「安全保障」のテーマのもと、日・越の専門家・研究者により二国間関係の現状と課題に関して討議
24	もったいないフェア 7	3R Club	2011. 03. 27	ゴミのReduce、Reuse、Recycleを推進する非営利団体3R Clubが主催し、環境問題を考え、3R運動を紹介する「もったいないフェア」に対し、経費の一部を助成。学生を中心とした参加者によるフリーマーケット、エコ、環境に関わるステージパフォーマンス等を実施

【後援事業】

	事業名	主催機関	期間	事業内容
25	NASIC北澤カップ日本語スピーチコンテスト	財団法人学生サポートセンター(NASIC)	2010. 08. 24	ハノイの大学生を対象に開催された日本語スピーチコンテスト(第4回)に対して後援名義を付与

【会場提供】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
26	茶道体験教室	茶道クラブ「竹葉」	2010. 04. 01 ～ 2011. 03. 31	ベトナム人で構成される茶道クラブ「竹葉」(藪内流)が隔週土曜日の午後に茶道教室を開くにあたり、会場を提供
27	児童によるピアノ演奏会	児童によるピアノ演奏会実行委員会	2010. 06. 13	チャン・ハー・ミー(Tran Ha My:ピアニスト)、黒田鈴奈(ピアニスト)が、ベトナムのポピュラーソングをピアノで演奏したほか、日・越双方の小・中学生が日本と西洋の名曲を演奏
28	「東遊運動におけるファン・ボイ・チャウと浅羽佐喜太郎の交流」パネル展	静岡県袋井市浅羽ベトナム会	2010. 11. 09 ～ 2010. 11. 15	「2010ベトナム・袋井交流事業」(ファン・ボイ・チャウと浅羽佐喜太郎記念/国際交流基金本部「市民青少年交流(助成)」プログラムによる事業)の一環として「東遊運動におけるファン・ボイ・チャウと浅羽佐喜太郎の交流」パネル展をハノイで実施するにあたり、展覧会場としてベトナム日本文化交流センターを提供

海外拠点

【その他】

	事業名	対象機関	期間	事業内容
29	福岡・ジャパンフェア	財団法人福岡県国際交流センター ハノイ市 ベトナム航空 在ベトナム大使館 福岡県	2010.08.10 ～ 2010.08.13	福岡県の文化・物産を紹介する福岡ジャパンフェアの会場において、①浴衣着付、②茶道、③折り紙の各ブースを設置し、来場者に日本文化体験の機会を提供